

文学部 比較文化学科 (2012年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
		1年			
	家族を問う 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	3
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	4
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	5
		1年			
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	6
		2年			
	家族の再生 閉講	2学期	2	2	
		2年			
	文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	7
		2年			
言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	8	
	2年				
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	9	
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	10	
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	11	
	1年				
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	12	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	13
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	14
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	15
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	19
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	20
		1年			
	自己管理論 河津 慶太	2学期	1	2	21
		1年			
	キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	22
		1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	23
		1年			
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	24	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	25	
	2年				
大学論・学問論 閉講	1学期	1	2		
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	26	
	1年				
社会調査 叶堂 隆三	2学期	1	2	27	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	統計を読む・統計をつくる	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール)	1学期	1	1	28
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー)	1学期	1	1	29
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス)	1学期	1	1	30
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	31
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	32
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	33
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)	1学期	1	1	34
	加倉井 美智子	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	35
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	36
	黒田 次郎	1年			
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)	2学期	1	1	37	
黒田 次郎	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	38	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	39	
鯨 吉夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	40	
鯨 吉夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	41	
磯貝 浩久	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	42
		1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I 伊野 憲治 他	1学期	1	2	43
		1年			
	教養基礎演習I 日高 京子	1学期	1	2	44
		1年			
	教養基礎演習I 小林 道彦	1学期	1	2	45
		1年			
	教養基礎演習I 神原 ゆうこ	1学期	1	2	46
		1年			
	教養基礎演習I 徳永 政夫	1学期	1	2	47
		1年			
	教養基礎演習I 稲月 正	1学期	1	2	48
		1年			
	教養基礎演習I 廣川 祐司	1学期	1	2	49
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	50
		1年			
教養基礎演習I 伊原木 大祐	1学期	1	2	51	
	1年				
教養基礎演習I 二宮 正人	1学期	1	2	52	
	1年				
教養基礎演習I 高西 敏正	1学期	1	2	53	
	1年				
教養基礎演習II 伊野 憲治 他	2学期	1	2	54	
	1年				
教養基礎演習II 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	55	
	1年				
教養基礎演習II 日高 京子	2学期	1	2	56	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II	2学期	1	2	57
	小林 道彦	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	58
	神原 ゆうこ	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	59
	徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	60
	廣川 祐司	1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー)	1学期	1	2	61
	戸蒔 仁司	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	62
	伊原木 大祐	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	63
	高西 敏正	1年			
	教養演習AI	1学期	2	2	64
	徳永 政夫 他	2年			
	教養演習AI	1学期	2	2	65
	伊野 憲治 他	2年			
	教養演習AI	1学期	2	2	66
日高 京子	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	67	
小林 道彦	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	68	
神原 ゆうこ	2年				
教養演習AI (防衛セミナー)	1学期	2	2	69	
戸蒔 仁司	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	70	
稲月 正	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	71	
伊原木 大祐	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AII 伊野 憲治 他	2学期	2	2	72
		2年			
	教養演習AII 徳永 政夫 他	2学期	2	2	73
		2年			
	教養演習AII 日高 京子	2学期	2	2	74
		2年			
	教養演習AII 小林 道彦	2学期	2	2	75
		2年			
	教養演習AII 神原 ゆうこ	2学期	2	2	76
		2年			
	教養演習AII (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	77
		2年			
	教養演習AII 伊原木 大祐	2学期	2	2	78
		2年			
	教養演習AII 二宮 正人	2学期	2	2	79
		2年			
	教養演習BI 伊野 憲治 他	1学期	3	2	80
		3年			
教養演習BI 徳永 政夫 他	1学期	3	2	81	
	3年				
教養演習BI 日高 京子	1学期	3	2	82	
	3年				
教養演習BI 小林 道彦	1学期	3	2	83	
	3年				
教養演習BI 神原 ゆうこ	1学期	3	2	84	
	3年				
教養演習BI (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	85	
	3年				
教養演習BI 稲月 正	1学期	3	2	86	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ 伊原木 大祐	1学期	3	2	87
		3年			
	教養演習BⅡ 徳永 政夫 他	2学期	3	2	88
		3年			
	教養演習BⅡ 伊野 憲治 他	2学期	3	2	89
		3年			
	教養演習BⅡ 日高 京子	2学期	3	2	90
		3年			
	教養演習BⅡ 小林 道彦	2学期	3	2	91
		3年			
	教養演習BⅡ 神原 ゆうこ	2学期	3	2	92
		3年			
	教養演習BⅡ(防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	93
		3年			
教養演習BⅡ 伊原木 大祐	2学期	3	2	94	
	3年				
教養演習BⅡ 二宮 正人	2学期	3	2	95	
	3年				
プロジェクト演習Ⅰ 見館 好隆	2学期	2	2	96	
	2年				
プロジェクト演習Ⅱ 見館 好隆	1学期	3	2	97	
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	98
		1年			
	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	99
		1年			
地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	100	
	1年				
自然史へのいざない 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	101	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	102
		1年			
	現代人のこころ 松尾 太加志 他	1学期	1	2	103
		1年			
	現代人のこころ 森永 今日子	1学期	1	2	104
		1年			
	数のたのしみ 閉講	集中	1	2	
		1年			
	私たちと宗教 関 一敏	2学期	1	2	105
		1年			
	思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	106
		1年			
	ものがたりと人間 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	107
		1年			
	言語とコミュニケーション 漆原 朗子 他	2学期	1	2	108
		1年			
	芸術と人間 花田 伸一	2学期	1	2	109
	1年				
文学を読む 岩本 真理子 他	2学期	1	2	110	
	1年				
戦争と人間 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	111	
	1年				
民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	112	
	1年				
人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	113	
	1年				



科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ジェンダー論 カ武 由美	1学期	1	2	114
	1年				
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	115
	1年				
	共生の作法 二宮 正人 他	1学期	1	2	116
	1年				
	北九州学 日高 京子	2学期	1	2	117
	1年				
	市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	118
	1年				
	企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	119
	1年				
	つながりの人間学 坂本 毅啓	1学期	1	2	120
	1年				
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	121
	1年				
現代社会の諸問題 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	122	
1年					
現代の国際情勢 下野 寿子 他	1学期	1	2	123	
1年					
国際社会論 休講	1学期	1	2		
1年					
国際紛争と国連 二宮 正人	1学期	1	2	124	
1年					
民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	125	
1年					
開発と統治 三宅 博之 他	2学期	1	2	126	
1年					
グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	127	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	128
		1年			
	国際社会と日本 金 鳳珍	2学期	1	2	129
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	130
		1年			
	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	131
		1年			
	そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	132
		1年			
	戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	133
		1年			
	都市と農村の生活文化史 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	ものと人間の歴史 中野 博文 他	1学期	1	2	134
		1年			
人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	135	
	1年				
教養特講I 休講	2学期	1	2		
	1年				
教養特講II ( ホスピタリティ論 ) 西澤 健次 他	2学期	1	2	136	
	1年				
教養特講III 休講	2学期	1	2		
	1年				
教養特講IV 休講	2学期	1	2		
	1年				
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	137
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	138
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	139
		1年			
	社会学 稲月 正	1学期	1	2	140
		1年			
	人文地理学 外戸保 大介	2学期	1	2	141
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	142
		1年			
地誌学 外戸保 大介	1学期	1	2	143	
	1年				
日本国憲法 植木 淳	2学期	1	2	144	
	1年				
倫理学 清水 満	2学期	1	2	145	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	146
		1年			
	データ処理 棚次 奎介	1学期	1	2	147
		比1 - 2			
	データ処理 棚次 奎介	1学期	1	2	148
		比1 - 1			
	データ処理 岩田 一男	1学期	1	2	149
		比1 - 3			
	データ処理 浅羽 修丈	2学期		2	150
		再履			
情報表現 浅羽 修丈	2学期	2	2	151	
	2年				
情報表現 中尾 泰士	2学期	2	2	152	
	2年				
情報表現 棚次 奎介	2学期	2	2	153	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	154
		2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (比1-A) 石田 由希	1学期	1	1	155
		比1-A			
	英語I (比1-B) 下條 かおり	1学期	1	1	156
		比1-B			
	英語I (比1-C) 野上 良子	1学期	1	1	157
		比1-C			
	英語I (比1-D) 船方 浩子	1学期	1	1	158
		比1-D			
	英語II (比1-A) ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	159
		比1-A			
	英語II (比1-B) 下條 かおり	2学期	1	1	160
		比1-B			
	英語II (比1-C) 野上 良子	2学期	1	1	161
		比1-C			
	英語II (比1-D) 船方 浩子	2学期	1	1	162
		比1-D			
	英語III (比1-A) リズ・クレシーニ	1学期	1	1	163
		比1-A			
	英語III (比1-B) デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	164
		比1-B			
英語III (比1-C) クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	165	
	比1-C				
英語III (比1-D) ホセ・クルーズ	1学期	1	1	166	
	比1-D				
英語IV (比1-A) リズ・クレシーニ	2学期	1	1	167	
	比1-A				
英語IV (比1-B) デビッド・アダム・ストット	2学期	1	1	168	
	比1-B				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語IV (比1 - C) クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	169
		比1 - C			
	英語IV (比1 - D) 永末 康介	2学期	1	1	170
		比1 - D			
	英語V (比2 - A) ダンカン・ウォトリイ	1学期	2	1	171
		比2 - A			
	英語V (比2 - B) 杉山 智子	1学期	2	1	172
		比2 - B			
	英語V (比2 - C) 伊藤 晃	1学期	2	1	173
		比2 - C			
	英語V (比2 - D) 安丸 雅子	1学期	2	1	174
		比2 - D			
	英語VI (比2 - A) 安丸 雅子	2学期	2	1	175
		比2 - A			
	英語VI (比2 - B) 伊藤 晃	2学期	2	1	176
		比2 - B			
	英語VI (比2 - C) 杉山 智子	2学期	2	1	177
		比2 - C			
英語VI (比2 - D) 薬師寺 元子	2学期	2	1	178	
	比2 - D				
英語VII (比2 - A) ダニー・ミン	1学期	2	1	179	
	比2 - A				
英語VII (比2 - B) ホセ・クルーズ	1学期	2	1	180	
	比2 - B				
英語VII (比2 - C) ポール・ガラフ・スティール	1学期	2	1	181	
	比2 - C				
英語VII (比2 - D) 船方 浩子	1学期	2	1	182	
	比2 - D				
英語VIII (比2 - A) ダニー・ミン	2学期	2	1	183	
	比2 - A				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VIII (比2 - B) ホセ・クルーズ	2学期	2	1	184
	比2 - B				
	英語VIII (比2 - C) ポール・ガラフ・スティール	2学期	2	1	185
	比2 - C				
	英語VIII (比2 - D) ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	1	186
	比2 - D				
	英語IX (比人3年) 渡邊 嘉則	1学期	3	1	187
	比人3年				
	英語X (比人3年) 渡邊 嘉則	2学期	3	1	188
	比人3年				
	英語XI (比人3年) デビット・ニール・マクレラン	1学期	3	1	189
	比人3年				
英語XII (比人3年) デビット・ニール・マクレラン	2学期	3	1	190	
比人3年					
■第二外国語	中国語I 板谷 秀子	1学期	1	1	191
	比1年				
	中国語I 正野 留加	1学期	1	1	192
	比1年				
	中国語II 板谷 秀子	2学期	1	1	193
	比1年				
	中国語II 正野 留加	2学期	1	1	194
	比1年				
	中国語III 王 占華	1学期	1	1	195
	比1年				
	中国語III 王 妮	1学期	1	1	196
	比1年				
中国語IV 王 占華	2学期	1	1	197	
比1年					
中国語IV 王 妮	2学期	1	1	198	
比1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語V 正野 留加	1学期	2	1	199
		比2年			
	中国語VI 正野 留加	2学期	2	1	200
		比2年			
	中国語VII 王 妮	1学期	2	1	201
		比2年			
	中国語VIII 王 妮	2学期	2	1	202
		比2年			
	上級中国語I 唐 雋	1学期	3	1	203
		英国済営比人3年			
	上級中国語II 唐 雋	2学期	3	1	204
		英国済営比人3年			
	上級中国語III 王 占華	1学期	3	1	205
		英国済営比人3年			
	上級中国語IV 王 占華	2学期	3	1	206
		英国済営比人3年			
	朝鮮語I チャン ユンヒャン	1学期	1	1	207
		比1年			
	朝鮮語I 金 光子	1学期	1	1	208
		比1年			
朝鮮語II チャン ユンヒャン	2学期	1	1	209	
	比1年				
朝鮮語II 金 光子	2学期	1	1	210	
	比1年				
朝鮮語III チャン ユンヒャン	1学期	1	1	211	
	比1年				
朝鮮語III 金 貞淑	1学期	1	1	212	
	比1年				
朝鮮語IV チャン ユンヒャン	2学期	1	1	213	
	比1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語Ⅳ 金 貞淑	2学期	1	1	214
		比1年			
	朝鮮語Ⅴ チャン ユンヒャン	1学期	2	1	215
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語Ⅵ チャン ユンヒャン	2学期	2	1	216
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語Ⅶ チャン ユンヒャン	1学期	2	1	217
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語Ⅷ チャン ユンヒャン	2学期	2	1	218
		済営比人律政群2年			
	上級朝鮮語Ⅰ 金 貞淑	1学期	3	1	219
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語Ⅱ 金 貞淑	2学期	3	1	220
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語Ⅲ 金 貞愛	1学期	3	1	221
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語Ⅳ 金 貞愛	2学期	3	1	222
		英中国済営比人3年			
	ロシア語Ⅰ 芳之内 雄二	1学期	1	1	223
		済営比人1年			
ロシア語Ⅱ 芳之内 雄二	2学期	1	1	224	
	済営比人1年				
ロシア語Ⅲ ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	225	
	済営比人1年				
ロシア語Ⅳ ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	226	
	済営比人1年				
ロシア語Ⅴ 芳之内 雄二	1学期	2	1	227	
	済営比人律政2年				
ロシア語Ⅵ 芳之内 雄二	2学期	2	1	228	
	済営比人律政2年				



科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語VII ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	229
		済営比人律政2年			
	ロシア語VIII ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	230
		済営比人律政2年			
	ドイツ語I 山下 哲雄	1学期	1	1	231
		比1年			
	ドイツ語II 山下 哲雄	2学期	1	1	232
		比1年			
	ドイツ語III 岩本 真理子	1学期	1	1	233
		比1年			
	ドイツ語IV 岩本 真理子	2学期	1	1	234
		比1年			
	ドイツ語V 山下 哲雄	1学期	2	1	235
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VI 山下 哲雄	2学期	2	1	236
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VII 山下 哲雄	1学期	2	1	237
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VIII 山下 哲雄	2学期	2	1	238
		済営比人律政2年			
フランス語I 坂田 由紀	1学期	1	1	239	
	比1年				
フランス語II 坂田 由紀	2学期	1	1	240	
	比1年				
フランス語III ドゥラボード・ブランシュ	1学期	1	1	241	
	比1年				
フランス語IV ドゥラボード・ブランシュ	2学期	1	1	242	
	比1年				
フランス語V 坂田 由紀	1学期	2	1	243	
	済営比人律政2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語VI 坂田 由紀	2学期	2	1	244
		済営比人律政2年			
	フランス語VII ドゥラボード・ブランシュ	1学期	2	1	245
		済営比人律政2年			
	フランス語VIII ドゥラボード・ブランシュ	2学期	2	1	246
		済営比人律政2年			
	スペイン語I 辻 光博	1学期	1	1	247
		比人1年			
	スペイン語II 辻 光博	2学期	1	1	248
		比人1年			
	スペイン語III 岡住 正秀	1学期	1	1	249
		比人1年			
	スペイン語IV 岡住 正秀	2学期	1	1	250
		比人1年			
スペイン語V 辻 光博	1学期	2	1	251	
	済営比人律政2年				
スペイン語VI 辻 光博	2学期	2	1	252	
	済営比人律政2年				
スペイン語VII 辻 博子	1学期	2	1	253	
	済営比人律政2年				
スペイン語VIII 辻 博子	2学期	2	1	254	
	済営比人律政2年				
■留学生特別科目	日本語A 清水 順子 木曜2限(月曜2限とペア)	1学期(ペア)	1	2	255
		留学生1年			
	日本語A 清水 順子 木曜3限(月曜3限とペア)	1学期(ペア)	1	2	256
		留学生1年			
	日本語A 中山 亜紀子 月曜2限(木曜2限とペア)	1学期(ペア)	1	2	257
		留学生1年			
	日本語A 中山 亜紀子 月曜3限(木曜3限とペア)	1学期(ペア)	1	2	258
		留学生1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語 B 清水 順子 金曜 2 限 (火曜 2 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	259
	留学生 1 年				
	日本語 B 清水 順子 金曜 3 限 (火曜 3 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	260
	留学生 1 年				
	日本語 B 小林 浩明 火曜 3 限 (金曜 3 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	261
	留学生 1 年				
	日本語 B 小林 浩明 火曜 2 限 (金曜 2 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	262
	留学生 1 年				
	日本語 C 清水 順子 木曜 3 限 (月曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	263
	留学生 1 年				
	日本語 C 清水 順子 木曜 2 限 (月曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	264
	留学生 1 年				
	日本語 C 清水 順子 月曜 3 限 (木曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	265
	留学生 1 年				
	日本語 C 清水 順子 月曜 2 限 (木曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	266
	留学生 1 年				
	日本語 D 清水 順子 金曜 2 限 (火曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	267
	留学生 1 年				
	日本語 D 清水 順子 金曜 3 限 (火曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	268
	留学生 1 年				
日本語 D 小林 浩明 火曜 3 限 (金曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	269	
留学生 1 年					
日本語 D 小林 浩明 火曜 2 限 (金曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	270	
留学生 1 年					
日本事情 (人文) A 清水 順子	1 学期	1	2	271	
留学生 1 年					
日本事情 (人文) B 家根橋 伸子	2 学期	1	2	272	
留学生 1 年					
日本事情 (社会) A 山崎 勇治	1 学期	1	2	273	
留学生 1 年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本事情(社会)B 山崎 勇治	2学期	1	2	274
		留学生1年			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(領域系)科目	比較宗教・思想 福島 勲	2学期	2	2	275
		2年			
	比較歴史・文化 寺田 由美	2学期	2	2	276
		2年			
	比較日本文学 休講	2学期	2	2	
		2年			
	比較日本古典文学 渡瀬 淳子	2学期	2	2	277
		2年			
	比較ドイツ文学 岩本 真理子	2学期	2	2	278
		2年			
	比較美術 五月女 晴恵	1学期	2	2	279
		2年			
	比較民族学 成末 繁郎	1学期	2	2	280
		2年			
	比較表象文化 真鍋 昌賢	1学期	2	2	281
		2年			
	比較映像・文化 前田 譲治	1学期	2	2	282
		2年			
	比較社会意識 濱野 健	2学期	2	2	283
		2年			
	比較社会文化	1学期	2	2	284
		2年			
	比較中国思想 鄧 紅	2学期	2	2	285
		2年			
	比較ジェンダー論 カ武 由美	2学期	2	2	286
		2年			
	日米文化比較 十時 康	2学期	2	2	287
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(領域系)科目	日英文化比較 高山 智樹	1学期	2	2	288
	2年				
	日仏文化比較 福島 勲	2学期	2	2	289
	2年				
	日中文化比較 馬 叢慧	1学期	2	2	290
	2年				
	近現代美術 花田 伸一	1学期	2	2	291
	2年				
	文化人類学 竹川 大介	2学期	2	2	292
	2年				
	情報社会論 明間 肇	集中	2	2	293
	2年				
消費社会論 休講	1学期	2	2		
2年					
■比較文化(地域系)科目	日本文学概論(古典) 河北 靖	1学期	1	2	294
	1年				
	日本文学概論(近現代) 馬場 美佳 他	2学期	1	2	295
	1年				
	日本語学概論I 堀尾 香代子	1学期	1	2	296
	1年				
	日本語学概論II 堀尾 香代子	2学期	1	2	297
	1年				
	日本の宗教文化 佐藤 真人	1学期	2	2	298
	2年				
	日本の歴史と社会 八百 啓介	1学期	2	2	299
	2年				
日本の芸能文化 佐藤 真人	2学期	2	2	300	
2年					
日本の生活文化 八百 啓介	2学期	2	2	301	
2年					

文学部 比較文化学科 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	日本文学史(古典) 渡瀬 淳子	1学期	2	2	302
		2年			
	日本文学史(近現代) 河内 重雄	2学期	2	2	303
		2年			
	日本の大衆文化 真鍋 昌賢	2学期	2	2	304
		2年			
	日本の古典文学I 渡瀬 淳子	1学期	2	2	305
		2年			
	日本の古典文学II 河北 靖	2学期	2	2	306
		2年			
	日本の近代文学 馬場 美佳	1学期	2	2	307
		2年			
	日本の現代文学 赤塚 正幸	1学期	2	2	308
		2年			
	日本の美術 五月女 晴恵	1学期	2	2	309
		2年			
	日本の宗教と美術 五月女 晴恵	2学期	2	2	310
		2年			
日本の都市文化 内山 一幸	2学期	2	2	311	
	2年				
日本語の文法 堀尾 香代子	2学期	2	2	312	
	2年				
日本語表現法I 秦 恭子	1学期	2	2	313	
	2年				
日本語表現法II 秦 恭子	2学期	2	2	314	
	2年				
日本語音声学I 矢野 準	1学期	2	2	315	
	2年				
日本語音声学II 矢野 準	2学期	2	2	316	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	漢文学 檀崎 洋一郎	1学期	2	2	317
		2年			
	日本の近代思想 内山 一幸	1学期	2	2	318
		2年			
	アメリカ文学概論 前田 譲治	2学期	1	2	319
		1年			
	イギリス文学概論 田部井 世志子	2学期	1	2	320
		1年			
	アメリカの現代文学 新村 昭雄	2学期	2	2	321
		2年			
	アメリカの18-19世紀文学 新村 昭雄	2学期	2	2	322
		2年			
	アメリカの大衆文化 前田 譲治	2学期	2	2	323
		2年			
	アメリカの歴史と文化 前田 譲治	1学期	2	2	324
		2年			
	アメリカの歴史と社会 寺田 由美	1学期	2	2	325
	2年				
アメリカ文化論 ダニエル・ストラック	2学期	2	2	326	
	2年				
アメリカの生活文化 寺田 由美 他	1学期	2	2	327	
	2年				
イギリスの現代文学 田部井 世志子	1学期	2	2	328	
	2年				
イギリスの18-19世紀文学 高本 孝子	2学期	2	2	329	
	2年				
イギリスの大衆文化 高山 智樹	2学期	2	2	330	
	2年				
イギリスの歴史と文化 高山 智樹	1学期	2	2	331	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	イギリスの歴史と社会 久木 尚志	1学期	2	2	332
		2年			
	イギリス文化論 アダム・ヘイルズ	2学期	2	2	333
		2年			
	環大西洋の社会史 寺田 由美	2学期	2	2	334
		2年			
	西洋美術史 貞包 博幸	1学期	2	2	335
		2年			
	西洋美術史 貞包 博幸	1学期	2	2	336
		2年			
	フランス文学 福島 勲	1学期	2	2	337
		2年			
	ドイツ文化論 岩本 真理子	1学期	2	2	338
		2年			
	スペインの歴史と文化 岡住 正秀	1学期	2	2	339
		2年			
	近現代の南欧世界 岡住 正秀	2学期	2	2	340
	2年				
ロシアの歴史と社会 芳之内 雄二	1学期	2	2	341	
	2年				
北ユーラシアの民族と社会 芳之内 雄二	2学期	2	2	342	
	2年				
英語学概論 北峯 裕士	1学期	2	2	343	
	2年				
英語音声学 山内 ひさ子	2学期	2	2	344	
	2年 英米優先クラス				
英語音声学 山内 ひさ子	2学期	2	2	345	
	2年 国比優先クラス				
英語史 松崎 徹	2学期	2	2	346	
	2年				



科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	英文法I 廣田 恵美	1学期	2	2	347
		2年			
	英文法I 廣田 恵美	1学期	2	2	348
		2年			
	英文法II 廣田 恵美	2学期	2	2	349
		2年			
英文法II 廣田 恵美	2学期	2	2	350	
	2年				
異文化間コミュニケーション概論 山崎 和夫	2学期	2	2	351	
	2年				
社会言語学 平野 圭子	2学期	2	2	352	
	2年				
■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文1 アンデリュー・ジッツマン	1学期	1	1	353
		1 - a			
	英会話・英作文1 アンデリュー・ジッツマン	1学期	1	1	354
		1 - b			
	英会話・英作文1 デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	1	1	355
		1 - c			
	英会話・英作文1 ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	356
		1 - d			
	英会話・英作文1 ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	357
		1 - e			
英会話・英作文1 アンデリュー・ジッツマン	1学期	1	1	358	
	1 - f				
英会話・英作文1 ホセ・クルーズ	1学期	1	1	359	
	1 - g				
英会話・英作文1 ホセ・クルーズ	1学期	1	1	360	
	1 - h				
英会話・英作文2 アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	361	
	1 - a				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文2 アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	362
		1 - b			
	英会話・英作文2 デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	1	1	363
		1 - c			
	英会話・英作文2 ポール・ガラフ・スティール	2学期	1	1	364
		1 - d			
	英会話・英作文2 ポール・ガラフ・スティール	2学期	1	1	365
		1 - e			
	英会話・英作文2 アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	366
		1 - f			
	英会話・英作文2 ホセ・クルーズ	2学期	1	1	367
		1 - g			
	英会話・英作文2 ホセ・クルーズ	2学期	1	1	368
		1 - h			
	英会話・英作文3 ドロークス ダニエル	1学期	2	1	369
		AES 1			
	英会話・英作文3 クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	370
		AES 2			
	英会話・英作文3 ポール・ガラフ・スティール	1学期	2	1	371
		2 - a			
英会話・英作文3 クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	372	
	2 - b				
英会話・英作文3 ホセ・クルーズ	1学期	2	1	373	
	2 - c				
英会話・英作文3 ホセ・クルーズ	1学期	2	1	374	
	2 - d				
英会話・英作文4 ドロークス ダニエル	2学期	2	1	375	
	AES 1				
英会話・英作文4 クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	376	
	AES 2				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文 4 ポール・ガラフ・スティール	2学期	2	1	377
		2 - a			
	英会話・英作文 4 クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	378
		2 - b			
	英会話・英作文 4 ホセ・クルーズ	2学期	2	1	379
		2 - c			
	英会話・英作文 4 ホセ・クルーズ	2学期	2	1	380
		2 - d			
	英会話・英作文 5 ドロークス ダニエル	1学期	2	1	381
		AES 1			
	英会話・英作文 5 クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	382
		AES 2			
	英会話・英作文 6 ドロークス ダニエル	2学期	2	1	383
		AES 1			
	英会話・英作文 6 クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	384
		AES 2			
	英会話・英作文 7 三宅 啓子	1学期	3	1	385
		3年			
	英会話・英作文 7 デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	3	1	386
		3年			
英会話・英作文 7 ポール・ガラフ・スティール	1学期	3	1	387	
	3年				
英会話・英作文 7 クリストファー・オサリバン	1学期	3	1	388	
	A E S				
英会話・英作文 8 三宅 啓子	2学期	3	1	389	
	3年				
英会話・英作文 8 デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	3	1	390	
	3年				
英会話・英作文 8 ポール・ガラフ・スティール	2学期	3	1	391	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文 8 クリストファー・オサリバン	2学期	3	1	AES 392
	上級英語I アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	3年 393
	上級英語II アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	3年 394
	アメリカ文化講読 生田 和也	1学期	1	2	1年(1-2、1-3) 395
	アメリカ文化講読 新村 昭雄	2学期	1	2	1年(1-1) 396
	イギリス文化講読 石井有希子	1学期	1	2	1年(1-1、1-3) 397
	イギリス文化講読 生田 和也	2学期	1	2	1年(1-2) 398
	日本文化英文講読 生田 和也	1学期	1	2	1年 399
	日本文化英文講読 田部井 世志子	2学期	1	2	1年 400
	日本の文献講読 馬場 美佳	1学期	1	2	1年 401
日本の古典文学講読 河北 靖	1学期	1	2	1年 402	
フランス文化講読 福島 勲	1学期	3	2	3年 403	
ドイツ文化講読 岩本 真理子	2学期	3	2	3年 404	
スペイン文化講読 岡住 正秀	2学期	3	2	3年 405	
ロシア文化講読 芳之内 雄二	1学期	3	2	3年 406	

文学部 比較文化学科 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習A - 1 (比較ドイツ文化)	1学期	3	2	407
	岩本 真理子	3年			
	演習A - 1 (日本文化)	1学期	3	2	408
	五月女 晴恵	3年			
	演習A - 1 (日本文化)	1学期	3	2	409
	八百 啓介	3年			
	演習A - 1 (日本文化)	1学期	3	2	410
	佐藤 真人	3年			
	演習A - 1 (メディア文化)	1学期	3	2	411
	真鍋 昌賢	3年			
	演習A - 1 (日本古典文学)	1学期	3	2	
	閉講	3年			
	演習A - 1 (日本古典文学)	1学期	3	2	412
	渡瀬 淳子	3年			
	演習A - 1 (日本近代文学)	1学期	3	2	
	閉講	3年			
	演習A - 1 (日本近代文学)	1学期	3	2	413
	馬場 美佳	3年			
	演習A - 1 (日本語学)	1学期	3	2	414
堀尾 香代子	3年				
演習A - 1 (日本語教育学)	1学期	3	2	415	
小林 浩明	3年				
演習A - 1 (英米文学)	1学期	3	2	416	
田部井 世志子	3年				
演習A - 1 (アメリカ文学)	1学期	3	2	417	
前田 譲治	3年				
演習A - 1 (イギリス文化)	1学期	3	2	418	
高山 智樹	3年				
演習A - 1 (フランス文化)	1学期	3	2	419	
福島 勲	3年				

文学部 比較文化学科 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習A - 1 (アメリカ文化)	1学期	3	2	420
	寺田 由美	3年			
	演習A - 1 (スペイン史)	1学期	3	2	421
	岡住 正秀	3年			
	演習A - 1 (ロシア文化)	1学期	3	2	422
	芳之内 雄二	3年			
	演習A - 2 (比較ドイツ文化)	2学期	3	2	423
	岩本 真理子	3年			
	演習A - 2 (日本文化)	2学期	3	2	424
	五月女 晴恵	3年			
	演習A - 2 (日本文化)	2学期	3	2	425
	八百 啓介	3年			
	演習A - 2 (日本文化)	2学期	3	2	426
	佐藤 真人	3年			
	演習A - 2 (メディア文化)	2学期	3	2	427
	真鍋 昌賢	3年			
	演習A - 2 (日本古典文学)	2学期	3	2	428
	閉講	3年			
演習A - 2 (日本古典文学)	2学期	3	2	428	
渡瀬 淳子	3年				
演習A - 2 (日本近代文学)	2学期	3	2	429	
閉講	3年				
演習A - 2 (日本近代文学)	2学期	3	2	429	
馬場 美佳	3年				
演習A - 2 (日本語学)	2学期	3	2	430	
堀尾 香代子	3年				
演習A - 2 (日本語教育学)	2学期	3	2	431	
小林 浩明	3年				
演習A - 2 (英米文学)	2学期	3	2	432	
田部井 世志子	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習A - 2 (アメリカ文学)	2学期	3	2	433
	前田 謙治	3年			
	演習A - 2 (イギリス文化)	2学期	3	2	434
	高山 智樹	3年			
	演習A - 2 (フランス文化)	2学期	3	2	435
	福島 勲	3年			
	演習A - 2 (アメリカ文化)	2学期	3	2	436
	寺田 由美	3年			
	演習A - 2 (スペイン史)	2学期	3	2	437
	岡住 正秀	3年			
	演習A - 2 (ロシア文化)	2学期	3	2	438
	芳之内 雄二	3年			
	演習B - 1	1学期	4	2	439
	岩本 真理子	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	440
	高山 智樹	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	441
	五月女 晴恵	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	442
	八百 啓介	4年			
演習B - 1	1学期	4	2	443	
佐藤 真人	4年				
演習B - 1	1学期	4	2	444	
真鍋 昌賢	4年				
演習B - 1	1学期	4	2	445	
河北 靖	4年				
演習B - 1	1学期	4	2	446	
園田 豊	4年				
演習B - 1	1学期	4	2	446	
赤塚 正幸	4年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B - 1	1学期	4	2	447
	馬場 美佳	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	448
	堀尾 香代子	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	449
	小林 浩明	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	
	閉講	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	450
	田部井 世志子	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	451
	前田 譲治	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	452
	福島 勲	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	453
	寺田 由美	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	454
	岡住 正秀	4年			
	演習B - 1	1学期	4	2	455
	芳之内 雄二	4年			
演習B - 2	2学期	4	2	456	
岩本 真理子	4年				
演習B - 2	2学期	4	2	457	
高山 智樹	4年				
演習B - 2	2学期	4	2	458	
五月女 晴恵	4年				
演習B - 2	2学期	4	2	459	
八百 啓介	4年				
演習B - 2	2学期	4	2	460	
佐藤 真人	4年				



科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B - 2 真鍋 昌賢	2学期	4	2	461
		4年			
	演習B - 2 河北 靖	2学期	4	2	462
		4年			
	演習B - 2 園田 豊	2学期	4	2	
		4年			
	演習B - 2 赤塚 正幸	2学期	4	2	463
		4年			
	演習B - 2 馬場 美佳	2学期	4	2	464
		4年			
	演習B - 2 堀尾 香代子	2学期	4	2	465
		4年			
	演習B - 2 小林 浩明	2学期	4	2	466
		4年			
	演習B - 2 閉講	2学期	4	2	
		4年			
	演習B - 2 田部井 世志子	2学期	4	2	467
	4年				
演習B - 2 前田 譲治	2学期	4	2	468	
	4年				
演習B - 2 福島 勲	2学期	4	2	469	
	4年				
演習B - 2 寺田 由美	2学期	4	2	470	
	4年				
演習B - 2 岡住 正秀	2学期	4	2	471	
	4年				
演習B - 2 芳之内 雄二	2学期	4	2	472	
	4年				
■専門基礎教育科目 ■入門科目	比較文化入門1(日本) 比較文化学科教員	1学期	1	2	473
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■専門基礎教育科目 ■入門科目	比較文化入門2 (欧米)	2学期	1	2	474	
	寺田 由美	1年				
■概論科目	日本文化概論	1学期	1	2	475	
	古相 正美	1年				
	欧米文化概論	2学期	1	2	476	
	岩本 真理子 他	1年				
	比較文学概論	1学期	1	2	477	
	田部井 世志子	1年				
	メディア文化概論	1学期	1	2	478	
	真鍋 昌賢	1年				
	文化交流史	2学期	1	2	479	
	八百 啓介	1年				
	世界の文化遺産	1学期	1	2	480	
	岡住 正秀	1年				
	■自由科目	書道	1学期 (ペア)	2	2	481
		大森 アユミ	2年			
日本語教育学I		1学期	2	2	482	
小林 浩明		2年				
日本語教育学II		2学期	2	2	483	
小林 浩明		2年				
生涯学習学		1学期	2	2	484	
恒吉 紀寿		2年				
博物館概論		1学期	2	2	485	
永尾 正剛		2年				
博物館資料論	1学期	2	2	486		
永尾 正剛	2年					
日本語教授法I	1学期	3	2	487		
家根橋 伸子	3年					
日本語教授法II	2学期	3	2	488		
小林 浩明	3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	日本語教育学演習I 矢野 花織	1学期	3	2	489
	3年				
	日本語教育学演習II 清水 順子	2学期	3	2	490
	3年				
	日本語教育実習 小林 浩明	1学期	4	1	491
	4年				
	日本語教育実習 小林 浩明	2学期	4	1	492
	4年				
	博物館実習I 真鍋 昌賢 他	2学期(ペア)	3	1	493
	3年				
	博物館実習II 真鍋 昌賢 他	1学期(ペア)	4	2	494
	4年				
	博物館経営論 永尾 正剛	2学期	2	2	495
	2年				
博物館情報・メディア論 花田 伸一	2学期	2	2	496	
2年					
博物館展示論 八百 啓介	2学期	2	2	497	
2年					
博物館資料保存論 八百 啓介	1学期	2	2	498	
2年					
博物館教育論 梶原 宏之	1学期	2	2	499	
2年					
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	500
	1年				
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	501
	1年				
発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	502	
2年					
教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	503	
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■教職に関する科目 ■必修科目	英語科教育法 A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	英語科教育法 A	1学期	2	2	504
	森 千鶴	2年			
	英語科教育法 B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	英語科教育法 B	2学期	2	2	505
	森 千鶴	2年			
	国語科教育法 A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	国語科教育法 B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	道徳教育の研究	2学期	2	2	506
	黒田 耕司	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	507
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	1学期	2	2	508
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	509
	大塚 一徳	2年			
教育実習 1	2学期	3	2	510	
黒田 耕司 他	3年				
教育実習 2	1学期	4	2	511	
恒吉 紀寿 他	4年				
教育相談	1学期	2	2	512	
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	513	
楠 凡之	2年				
英語科教育法 C	1学期	2	2	514	
クレイグ・ランバート	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	英語科教育法D 伊藤 健一	2学期	2	2	515
		2年			
	国語科教育法C 秦 恭子	1学期	2	2	516
		2年			
国語科教育法D 秦 恭子	2学期	2	2	517	
	2年				
	教職実践演習(中・高) 休講	2学期	4	2	
		4年			
■選択科目	教育心理学 五十嵐 亮	2学期	2	2	518
		2年			
	教育実習3 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	519
		4年			
	教育法規 休講	2学期	3	2	
		3年			
	障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	520
		2年			
	教育社会学 見玉 弥生	1学期	2	2	521
		2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	522
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	2学期	1	2	523
		1年			
	家族を問う 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	524
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	525
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	526
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	527
		1年			
	可能性としての歴史 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	家族の再生 閉講		2	2	
	2年				
文化と政治 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
言語と認知 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
共生社会論 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
戦争と平和 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	528	
	1年				
共同体と身体 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	529
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII	2学期	1	2		
	休講	1年				
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2		
	休講	1年				
	フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2		
	休講	1年				
	自己管理論		1	2		
	休講	1年				
	キャリア・デザイン	(昼のみ開講)		1	2	
			1年			
	コミュニケーションと思考法	(昼のみ開講)	2学期	1	2	
			1年			
	プロフェッショナルの仕事	(昼のみ開講)	1学期	2	2	
			2年			
	大学論・学問論	閉講		1	2	
		1年				
法律の読み方	休講		1	2		
		1年				
社会調査	山本 努	2学期	1	2	530	
		1年				
統計を読む・統計をつくる	閉講		1	2		
		1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	徳永 政夫	1学期	1	1	531	
		1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	休講	2学期	1	1		
		1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I		1	2		
	(昼のみ開講)	1年				
	教養基礎演習II		1	2		
	(昼のみ開講)	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ (昼のみ開講)		2	2	2年
	教養演習AⅡ (昼のみ開講)		2	2	2年
	教養演習BⅠ (昼のみ開講)		3	2	3年
	教養演習BⅡ (昼のみ開講)	2学期	3	2	3年
	プロジェクト演習Ⅰ (昼のみ開講)		2	2	2年
	プロジェクト演習Ⅱ (昼のみ開講)		3	2	3年
■テーマ科目	自然学のまなざし (昼のみ開講)	2学期	1	2	1年
	動物のみかた (昼のみ開講)		1	2	1年
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	1年
	自然史へのいざない (昼のみ開講)		1	2	1年
	くらしと化学 (昼のみ開講)	1学期	1	2	1年
現代人のこころ 休講	1学期	1	2	1年	
数のたのしみ 閉講		1	2	1年	
私たちと宗教 (昼のみ開講)		1	2	1年	
思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	1年	

532

533



科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ものがたりと人間		1	2	
	閉講	1年			
	文化と表象		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	言語とコミュニケーション		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	芸術と人間		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	文学を読む	2学期	1	2	534
	馬場 美佳 他	1年			
	戦争と人間		1	2	
	閉講	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民主主義とは何か	1学期	1	2	535
	中道 壽一	1年			
	人権論	1学期	1	2	536
	柳井 美枝	1年			
	ジェンダー論	1学期	1	2	537
	カ武 由美	1年			
障がい学	2学期	1	2		
休講	1年				
共生の作法	1学期	1	2		
(昼のみ開講)	1年				
北九州学		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
市民活動論	2学期	1	2	538	
西田 心平	1年				
企業と社会	1学期	1	2	539	
山岡 敏秀	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	つなぐりの人間学	1学期	1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	現代社会と倫理	1学期	1	2	
	休講	1年			
	現代社会の諸問題		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	現代の国際情勢	1学期	1	2	540
	下野 寿子 他	1年			
	国際社会論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	国際紛争と国連	2学期	1	2	541
	二宮 正人	1年			
	民族・エスニシティ問題	1学期	1	2	
	休講	1年			
	開発と統治	2学期	1	2	542
	三宅 博之 他	1年			
	グローバル化する経済		1	2	
	休講	1年			
	テロリズム論		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
国際社会と日本		1	2		
休講	1年				
歴史の読み方I	1学期	1	2	543	
小林 道彦	1年				
歴史の読み方II	1学期	1	2		
休講	1年				
そのとき世界は		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
戦後の日本経済		1	2		
(昼のみ開講)	1年				

文学部 比較文化学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	都市と農村の生活文化史 閉講	1学期	1	2	544
		1年			
	ものと人間の歴史 (昼のみ開講)		1	2	544
		1年			
	人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	544
		1年			
	教養特講I (昼のみ開講)		1	2	544
		1年			
	教養特講II (昼のみ開講)		1	2	544
		1年			
教養特講III (昼のみ開講)		1	2	544	
	1年				
教養特講IV (昼のみ開講)		1	2	544	
	1年				
■教職関連科目	日本史 休講	2学期	1	2	545
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	545
		1年			
	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	546
		1年			
	社会学 休講	1学期	1	2	546
		1年			
	人文地理学 休講	2学期	1	2	546
		1年			
土地地理学 休講	1学期	1	2	546	
	1年				
地誌学 外 护保 大介	1学期	1	2	547	
	1年				
日本国憲法 休講	2学期	1	2	547	
	1年				

文学部 比較文化学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	倫理学 (昼のみ開講)	2学期	1	2	
		1年			
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	548
		1年			
	データ処理 中尾 泰士	2学期	1	2	549
		再履・夜間主コース			
	データ処理 廣渡 栄寿	1学期	1	2	550
		群・再履・夜間主コース			
	情報表現 中尾 泰士	1学期	2	2	551
		2年			
	プログラミング基礎 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (比人夜1年) 杉山 智子	1学期	1	1	552
		比人夜1年			
	英語II (比人夜1年) 杉山 智子	2学期	1	1	553
		比人夜1年			
	英語III (比人夜1年) クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	554
		比人夜1年			
	英語IV (比人夜1年) クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	555
		比人夜1年			
	英語V (比人夜2年) 伊藤 晃	1学期	2	1	556
		比人夜2年			
英語VI (比人夜2年) 伊藤 晃	2学期	2	1	557	
	比人夜2年				
英語VII (比人夜2年) ダニー・ミン	1学期	2	1	558	
	比人夜2年				
英語VIII (比人夜2年) ダニー・ミン	2学期	2	1	559	
	比人夜2年				
■第二外国語	中国語I 一木 達彦	1学期	1	1	560
		英比人夜1年			

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語II	一木 達彦	2学期	1	1	561
	英比人夜 1年					
	中国語III	王 占華	1学期	1	1	562
	英比人夜 1年					
	中国語IV	王 占華	2学期	1	1	563
	英比人夜 1年					
	朝鮮語I	金 光子	1学期	1	1	564
	英比人夜 1年					
	朝鮮語II	金 光子	2学期	1	1	565
	英比人夜 1年					
	朝鮮語III	金 光子	1学期	1	1	566
	英比人夜 1年					
	朝鮮語IV	金 光子	2学期	1	1	567
	英比人夜 1年					
	ロシア語I	芳之内 雄二	1学期	1	1	568
	英比人夜 1年					
	ロシア語II	芳之内 雄二	2学期	1	1	569
	英比人夜 1年					
	ロシア語III	芳之内 雄二	1学期	1	1	570
	英比人夜 1年					
ロシア語IV	芳之内 雄二	2学期	1	1	571	
英比人夜 1年						
ドイツ語I	山下 哲雄	1学期	1	1	572	
比人夜 1年						
ドイツ語II	山下 哲雄	2学期	1	1	573	
比人夜 1年						
ドイツ語III	山下 哲雄	1学期	1	1	574	
比人夜 1年						
ドイツ語IV	山下 哲雄	2学期	1	1	575	
比人夜 1年						

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語I	福島 勲	1学期	1	1	576
				比人夜 1年		
	フランス語II	福島 勲	2学期	1	1	577
				比人夜 1年		
	フランス語III	福島 勲	1学期	1	1	578
				比人夜 1年		
	フランス語IV	福島 勲	2学期	1	1	579
				比人夜 1年		
	スペイン語I	岡住 正秀	1学期	1	1	580
				英比人夜 1年		
	スペイン語II	岡住 正秀	2学期	1	1	581
				英比人夜 1年		
	スペイン語III	岡住 正秀	1学期	1	1	582
				英比人夜 1年		
	スペイン語IV	岡住 正秀	2学期	1	1	583
				英比人夜 1年		
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(領域系)科目	比較民族学	休講	1学期	2	2	
				2年		
	比較表象文化	休講	2学期	2	2	
				2年		
	比較映像・文化	休講	1学期	2	2	
				2年		
	比較社会意識	休講	2学期	2	2	
				2年		
	比較社会文化	休講	1学期	2	2	
				2年		
比較ジェンダー論	休講	2学期	2	2		
			2年			
日米文化比較	休講	2学期	2	2		
			2年			

文学部 比較文化学科 ( 2012年度入学生 )

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(領域系)科目	日英文化比較	1学期	2	2		
	休講	2年				
	日仏文化比較		2	2		
	休講	2年				
	日中文化比較	1学期	2	2		
	休講	2年				
	情報社会論	集中	2	2		
	昼のみ開講	2年				
	消費社会論	1学期	2	2	584	
		2年				
	■比較文化(地域系)科目	日本文学概論(古典)	1学期	1	2	
		休講	1年			
日本文学概論(近現代)		2学期	1	2		
休講		1年				
日本語学概論I		1学期	1	2		
休講		1年				
日本語学概論II		2学期	1	2		
休講		1年				
日本の宗教文化		2学期	2	2		
休講		2年				
日本の歴史と社会		2学期	2	2		
休講		2年				
日本の芸能文化		1学期	2	2		
休講		2年				
日本の生活文化		2学期	2	2		
休講		2年				
日本文学史(古典)	1学期	2	2			
休講	2年					
日本文学史(近現代)	2学期	2	2			
休講	2年					

文学部 比較文化学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	日本の大衆文化	2学期	1	2	1年	
	休講					
	日本の古典文学I	1学期	2	2	2年	
	休講					
	日本の古典文学II	2学期	2	2	2年	
	休講					
	日本の近代文学	1学期	2	2	2年	
	休講					
	日本の現代文学	1学期	2	2	2年	
	休講					
	日本の美術	1学期	2	2	2年	
	休講					
	日本の宗教と美術	2学期	2	2	2年	
	休講					
	日本の都市文化	2学期	2	2	2年	
	休講					
	日本語の文法			2	2	2年
	休講					
	日本語表現法I	1学期	2	2	2年	
	休講					
日本語表現法II	2学期	2	2	2年		
休講						
日本語音声学I	1学期	2	2	2年		
休講						
日本語音声学II	2学期	2	2	2年		
休講						
漢文学	1学期	2	2	2年		
休講						
日本の近代思想	1学期	2	2	2年		
休講						



文学部 比較文化学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	アメリカ文学概論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	イギリス文学概論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	アメリカの現代文学	2学期	2	2	
	休講	2年			
	アメリカの18-19世紀文学	2学期	2	2	
	休講	2年			
	アメリカの大衆文化	2学期	1	2	
	休講	1年			
	アメリカの歴史と文化	1学期	2	2	
	休講	2年			
	アメリカの歴史と社会	1学期	2	2	
	休講	2年			
	アメリカ文化論	2学期	2	2	
	休講	2年			
	アメリカの生活文化	1学期	2	2	
	休講	2年			
	イギリスの現代文学	1学期	2	2	
	休講	2年			
イギリスの18-19世紀文学	2学期	2	2		
休講	2年				
イギリスの大衆文化	2学期	2	2		
休講	2年				
イギリスの歴史と文化	1学期	2	2		
休講	2年				
イギリスの歴史と社会	1学期	2	2		
休講	2年				
イギリス文化論	2学期	2	2		
休講	2年				

文学部 比較文化学科 ( 2012年度入学生 )

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	環大西洋の社会史	2学期	2	2	
	休講	2年			
	西洋美術史	1学期	2	2	
	休講	2年			
	フランス文学	1学期	2	2	
	休講	2年			
	ドイツ文化論	1学期	2	2	
	休講	2年			
	スペインの歴史と文化	1学期	2	2	
	休講	2年			
	近現代の南欧世界	2学期	2	2	
	休講	2年			
	ロシアの歴史と社会	1学期	2	2	
	休講	2年			
	北ユーラシアの民族と社会	2学期	2	2	
	休講	2年			
	英語学概論	1学期	2	2	
	休講	2年			
	英語音声学 (H20のみ読替えなし)	2学期	2	2	
	休講	2年			
英語音声学	1学期	2	2		
休講	2年				
英語史	2学期	2	2		
休講	2年				
英文法I	1学期	2	2		
休講	2年				
英文法II	2学期	2	2		
休講	2年				
異文化間コミュニケーション概論	2学期	2	2		
休講	2年				

文学部 比較文化学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	社会言語学		2	2	
	休講	2年			
■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文1	1学期	1	1	
	休講	1年			
	英会話・英作文2	2学期	1	1	
	休講	1年			
	英会話・英作文3	1学期	2	1	585
	アンデリユー・ジッツマン	2年			
	英会話・英作文4	2学期	2	1	586
	アンデリユー・ジッツマン	2年			
	英会話・英作文5	1学期	2	1	
	休講	2年			
	英会話・英作文6	2学期	2	1	
	休講	2年			
	英会話・英作文7	1学期	3	1	
	休講	3年			
	英会話・英作文8	2学期	3	1	
	休講	3年			
■演習・卒論科目	演習A-1	1学期	3	2	
	休講	3年			
	演習A-2	2学期	3	2	
	休講	3年			
	演習B-1(日本)	1学期	4	2	587
	岩本 真理子	4年			
	演習B-1(欧米)	1学期	4	2	588
	岩本 真理子	4年			
	演習B-2(日本)	2学期	4	2	589
	岩本 真理子	4年			
演習B-2(欧米)	2学期	4	2	590	
岩本 真理子	4年				

文学部 比較文化学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	卒業論文	1・2学期(ペア)	4	6		
	休講	4年				
■専門基礎教育科目 ■入門科目	比較文化入門1(日本)	1学期	1	2		
	休講	1年				
	比較文化入門2(欧米)	2学期	1	2		
	休講	1年				
■概論科目	日本文化概論	1学期	1	2		
	休講	1年				
	欧米文化概論	2学期	1	2		
	休講	1年				
	メディア文化概論	1学期	1	2		
	休講	1年				
	文化交流史	2学期	1	2		
	休講	1年				
	世界の文化遺産	1学期	1	2		
	休講	1年				
	■自由科目	書道	1学期(ペア)	2	2	
		休講	2年			
日本語教育学I		1学期	2	2		
休講		2年				
日本語教育学II		2学期	2	2		
休講		2年				
生涯学習学		1学期	2	2	591	
恒吉 紀寿		2年				
博物館概論		1学期	2	2		
休講		2年				
博物館資料論	1学期	2	2			
休講	2年					
日本語教授法I	1学期	3	2			
休講	3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	日本語教授法II	2学期	3	2	
	休講	3年			
	日本語教育学演習I	1学期	3	2	
	休講	3年			
	日本語教育学演習II	2学期	3	2	
	休講	3年			
	日本語教育実習	1学期	4	1	
	休講	4年			
	日本語教育実習	2学期	4	1	
	休講	4年			
	博物館実習I	2学期(ヘア)	3	1	
	休講	3年			
	博物館実習II	1学期(ヘア)	4	2	
	休講	4年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論	1学期	1	2	592
	黒田 耕司	1年			
	教育原理	2学期	1	2	593
	見玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	594
	税田 慶昭	2年			
	教育制度	1学期	3	2	595
	見玉 弥生	3年			
	英語科教育法A	1学期	2	2	596
	森 千鶴	2年			
	英語科教育法B	2学期	2	2	597
森 千鶴	2年				
国語科教育法A	1学期	2	2		
休講	2年				
国語科教育法B	2学期	2	2		
休講	2年				

文学部 比較文化学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	道徳教育の研究 黒田 耕司	2学期	2	2	598
		2年			
	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	599
		2年			
	教育方法学 黒田 耕司	1学期	2	2	600
		2年			
	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	601
		2年			
	教育実習 1 黒田 耕司	2学期	3	2	602
		3年			
	教育実習 2 恒吉 紀寿	1学期	4	2	603
		4年			
	教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	604
		2年			
	生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	605
		2年			
英語科教育法C 休講	1学期	2	2		
	2年				
英語科教育法D 休講	2学期	2	2		
	2年				
国語科教育法C 休講	1学期	2	2		
	2年				
国語科教育法D 休講	2学期	2	2		
	2年				
教職実践演習(中・高) 楠 凡之 他	2学期	4	2	606	
	4年				
■選択科目	教育心理学 五十嵐 亮	2学期	2	2	607
		2年			
	教育実習 3 恒吉 紀寿	1学期	4	2	608
		4年			

文学部 比較文化学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	教育法規	2学期	3	2	609
	見玉 弥生	3年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
	休講	2年			
	教育社会学	1学期	2	2	
	休講	2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論	1学期	2	2	610
	弓野 勝族	2年			

# 歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から1970年代までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説します。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新【木戸孝允】【大久保利通】【西郷隆盛】
- 第3回 明治憲法と自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【桂太郎】
- 第8回 憲政の常道【浜口雄幸】【田中義一】
- 第9回 満州事変【関東軍】
- 第10回 日中戦争【軍部】【近衛文麿】
- 第11回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第12回 敗戦と戦後改革【マッカーサー】【吉田茂】
- 第13回 55年体制と日米安保【吉田茂】【鳩山一郎】【岸信介】
- 第14回 高度経済成長【池田勇人】【佐藤栄作】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。

本講義は、A文化とB文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 家族は普遍的な概念か？

第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える

第4回 近代家族 / 伝統的家族？

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと文化

第7回 伝統について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間試験

第II部 文化と世界観

第10回 現代社会における儀礼の役割

第11回 不幸への対処と文化

第12回 宗教紛争と日常の中の宗教

第13回 中間試験の講評 / 呪術・占いとリスク社会① 呪術とは

第14回 呪術・占いとリスク社会② 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。  
※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・ 中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

## キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

# ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

## 教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『児玉源太郎』など。適宜、講義の中で指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

## 履修上の注意 /Remarks

相当量の板書をするので、ノートはこまめにとること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 文化と政治【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の対立がしばしば政治的な問題となり、その解決のために異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半はグローバルな現代社会が抱える具体的な問題に注目しつつ、その思想的な背景について講義を行う。文化に関する外国の問題は解説をうのみにしてしまいがちであるが、前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

## 教科書 /Textbooks

以下の参考文献を各人の興味にあわせて読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかりとる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 岩竹美加子 1996 『民俗学の政治性』 未来社
- ウルリヒ・ベック 2010 『世界リスク社会論』 ちくま学芸文庫
- 関根政美 2000 『多文化主義社会の到来』 朝日選書
- 陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社
- デヴッド・ヘルド 2002 『グローバル化とは何か』 法律文化社
- 本多俊和ほか 2011 『グローバリゼーションの人類学』 放送大学教育振興会
- 吉田憲司 1999 『文化の「発見」』 岩波書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

- 第I部 文化を知ることの政治性
- 第2回 文化を「知っている」とはどういうことか？
- 第3回 ナショナリズムと文化
- 第4回 先住民・少数民族の文化に関して
- 第5回 異文化を知ることの歴史①「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第6回 異文化を知ることの歴史②植民地主義
- 第7回 中立・公平は可能か？
- 第8回 中間試験

- 第II部 現代社会と文化に関する問題
- 第9回 グローバリゼーションの時代と人の移動
- 第10回 共生のための政治①：多文化主義とは
- 第11回 共生のための政治②：多文化主義の限界
- 第12回 中間テストの講評 / 自己決定とはどういうことか？
- 第13回 近代・ポスト近代という時代の認識
- 第14回 「わからないもの / こと」を取り巻く政治①グローバルな危機への対応
- 第15回 「わからないもの / こと」を取り巻く政治②リスク社会 講義のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%  
そのほか講義中に課した提出物にすばらしいものがあれば評価に加える。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておくこと。

## 文化と政治 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

- ・ 中間試験を無断欠席した学生は、評価割合をこえて厳しく減点することもあります。
- ・ 出席しただけでは評価しません。講義にはほとんど出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席しただけで安心せず、理解することを心がけてください。わからないことについての質問は歓迎します。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目「異文化理解の基礎（旧カリ：人間と文化）」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。
- ・ 履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何もありません。講義で自分が学んだと思うことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解することが大切です。国際時事問題に興味ある意欲的な学生の受講を歓迎します。

### キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義



# 言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師  
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター  
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

## 教科書 /Textbooks

配布資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ: 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% × 5 = 80%  
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

\* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

## 履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫っていききたい。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 戦争と平和【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

## 教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障とは何か(1)
- 第3回 安全保障とは何か(2)
- 第4回 戦争概論
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争、近代戦争
- 第7回 両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
- 第8回 戦争の変質(勢力均衡、アメリカ的戦争観)
- 第9回 原爆の開発過程
- 第10回 原爆の完成と投下
- 第11回 核兵器の種類と威力
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」「防衛セミナー」などを受講しておくこと、さらに深く理解できる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(成績評価法・授業上の注意など)
- 2回 歴史的概説【市民革命と産業革命】
- 3回 近代とはいかなる時代だったのか(1)【形式合理性】
- 4回 近代とはいかなる時代だったのか(2)【官僚制】
- 5回 近代とはいかなる時代だったのか(3)【工場労働】
- 6回 近代とはいかなる時代だったのか(4)【物象化】
- 7回 近代とはいかなる時代だったのか(5)【啓蒙の逆説】
- 8回 生活世界論のはじまり(1)【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2)【フッサールの科学批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語に対しては断固とした措置をとる。甚だしい場合には退席を命じる。

内容としては1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかしながら、学期末に実施する試験はかなり難度の高いものである。とりわけ「高校世界史」を学習していない者が本授業の単位を取得するには、人一倍の努力と学習意欲が要求されることになるだろう。

## キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

# 共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを思想的な観点から考察する。継続的な受講により、生活世界と自己とのつながりが以前よりもはっきりと理解できるようになるだろう。また本授業は、古代から近代にかけての哲学的身体論の基本パターンを体系的に学べるようプログラムされている。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献は授業時にそのつど指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 日本的身体のイメージ 1 【九鬼周造】
- 3回 日本的身体のイメージ 2 【溝口健二】
- 4回 近代哲学における心身二元論の成立
- 5回 古代ギリシャの身体観 1 【プラトンからホメロスへ】
- 6回 古代ギリシャの身体観 2 【『オイディプス王』】
- 7回 古代ギリシャの身体観 3 【通時的総括】
- 8回 キリスト教共同体と身体
- 9回 ドイツ表現主義と身体
- 10回 現代社会と身体の規律 1 【『メトロポリス』】
- 11回 現代社会と身体の規律 2 【シユレーバー】
- 12回 現代社会と身体の規律 3 【ヒトラー】
- 13回 現代社会と身体の規律 4 【オーウェル】
- 14回 現代社会と身体の規律 5 【『1984年』】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

テスト方式・時間の詳細は初回の授業で説明する。この説明を聞かなかった場合に生じる不利益はすべて受講者本人の自己責任とする。

## キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 権力 規律と監視

# メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1. 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2. 現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3. 卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

## 教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房  
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
  - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
  - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
  - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤労性と劣等感】
  - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
  - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】  
 同一性の視点から ・遊びと人生  
 配偶者の選択 ・病いと人生
  - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー -】
  - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
  - 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法  
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1. 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。(自己管理) 2. 現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる(思考判断) 3. 卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる(生涯学習)。以上の到達を目標とする。

## 教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック、うつや不安との付き合い方【あるがまま・とらわれ】
- 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
- 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
- 11回～12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、DV防止、人権文化について。【人権・平和】
- 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。  
キャリアプラン 【仕事】【遊び】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

## 教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション



# フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目  
 教養教育科目  
 スキル科目  
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義・演習  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

## 教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。  
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)  
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

## 教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

# フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

## 教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

# フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目  
 教養教育科目  
 スキル科目  
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

## 教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

## 教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

# 自己管理論 【昼】

担当者名 河津 慶太 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

大学生のほとんどがあてはまる青年期は、自我意識が高まる時期であり、精神の動揺も著しくなる。加えて、生活環境も大きく変化する。そのような状況下で、自己決定に基づいた健康的で自立した生活をおくることは容易ではない。そのためには、学生一人一人が自己管理の能力を身に付けていく必要がある。この授業では、各分野のプロフェッショナルの実体験や知識を学ぶことで、自己管理についての正しい知識と自己管理に対する意識を高め、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりを目指す。

## 教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 自己管理I 総論【心理学】：青年期の心と身体に関する問題を総論する。
- 第2回 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか。被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
- 第3回 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
- 第4回 自己管理II 体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
- 第5回 考えるということ【心理学】：「考えることの出来る人間」を目指して、人の「思考」について学ぶ
- 第6回 コミュニケーション【心理学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
- 第7回 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のため薬について学ぶ
- 第8回 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
- 第9回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
- 第10回 自己管理III 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
- 第11回 障害とノーマライゼーション【作業療法士】：障がい者の地域福祉、関係法、ケアマネジメントの基本理念、自立生活を支援するための資源、サービス、情報などを身近な事例として紹介する。
- 第12回 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ
- 第13回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
- 第14回 目標設定【心理学】：日常生活のさまざまな場面に応用できる目標設定理論について学ぶ
- 第15回 自己管理IV まとめ【心理学】：小試験(選択、記述)、ポイントの復習などで総合的に理解を深める

## 成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回のミニレポート：60% ②小試験：40% ①と②の総合点で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布するレジュメをよく読みこんでおくこと

## 履修上の注意 /Remarks

- 1 一回目の総論で「自己管理論のプログラム」を配布する。
- 2 外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室禁止する。私語厳禁。
- 3 毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- 4 欠席した場合は、自己管理論用欠席届を提出する。
- 6 最終回の「自己管理IV まとめ」では小試験をおこなうので、必ず出席する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、自分の学びたい学問や、自分が将来したいことをみつけるというよりは、そのための基礎、基盤を培うためのものです。基礎がちゃんとしていない家は建てても歪んでしまいますが、それは人間も一緒です。みなさんもこの授業でしっかりと基礎、基盤をかためて社会に出ていく準備を整えましょう!!

## キーワード /Keywords

# キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

# キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
スキル科目  
キャリア・スキル

## キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動



# キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また将来のために有意義な大学生活を営むために、

- ①アイデンティティを獲得するために、自分について深く知る
- ②働くこと、つまり様々な業界や企業、そして働き方などを知る
- ③多様な人々と協働する力を身に付けるために、初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④社会で働く上でお互いが気持ちよく活動するための最低限の倫理感、社会人マナーを身につける
- ⑤将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間したいと思います。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア(社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 自分を知る① (一皮むける経験、身の丈を超えた経験、経験学習、ライフライン)
- 4回 地域活動に挑戦する (地域活動を経験した先輩とのディスカッション)※先輩登壇
- 5回 社会人としての倫理やマナー①(傾聴、多様性理解)
- 6回 自分を知る② (働く価値観や仕事へのこだわり、セルフアセスメントの実施)
- 7回 働くということ (仕事を考える視点、仕事のやりがい)※社会人ゲストを予定
- 8回 社会人としての倫理やマナー②(アサーショントレーニング)
- 9回 知ろう!使おう!労働法 (雇用形態と生涯賃金、ブラック企業、知るべき労働法)
- 10回 業界&企業研究 (業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法)
- 11回 社会人としての倫理やマナー③(ダイアログ、ワールドカフェ)
- 12回 就職活動を知る (就職活動を体験した先輩とのディスカッション)※内定者登壇
- 13回 大学生活を面白くする (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 14回 まとめ&発表 (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...90% 最終回のレポート...10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※毎回、来週の課題が提示されますので準備してください。
- ※自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

## 履修上の注意 /Remarks

- ※真鍋先生の「キャリアデザイン」と合わせて、全8コマあります。グループワークの運営上、1コマ150名以内になりたいと思います。その場合には履修者調整をしますので、必ず第1回の授業は出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員 ( mitate@kitakyu-u.ac.jp ) までメールで連絡をしてください。
- ※本授業は必修ではありませんが、将来の進路のために大学生活をどう営むかを考える、主に1年生向けの授業です。真鍋先生の「キャリアデザイン」か本講義いずれかを履修することをお勧めします。
- ※毎回、授業開始直後にグループワークがあります。よって、遅刻すると他のメンバーに迷惑がかかりますので注意してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

## キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

# コミュニケーションと思考法【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
スキル科目  
キャリア・スキル

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

## 教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール】
- 2回 コミュニケーション実践1
- 3回 コミュニケーション実践2
- 4回 コミュニケーション実践3
- 5回 コミュニケーション実践4
- 6回 コミュニケーション実践5
- 7回 コミュニケーション実践6
- 8回 コミュニケーション実践7
- 9回 コミュニケーション実践8
- 10回 コミュニケーション実践9
- 11回 コミュニケーション実践10
- 12回 コミュニケーション実践11
- 13回 コミュニケーション実践12
- 14回 コミュニケーション実践13
- 15回 まとめ 【授業のまとめ、総括】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

## 履修上の注意 /Remarks

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

# プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実 ③将来の進路の手掛かりやヒント ④大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

- 1.所属企業団体の概要とご自身の仕事内容  
( ①企業団体の概要、②ご自身の仕事内容、仕事のやりがい、③仕事をする上で大切なこと )、
- 2.ご自身の学生時代  
( ①大学時代に打ちこんできたこと、気づいたこと、②現在の所属企業団体を選んだ理由 )、
- 3.今の仕事に繋がっている学生時代  
( ①自分を飛躍的に成長させた一皮むけた仕事体験、②その原動力の一つとなった、学生時代の経験 )、
- 4.学生へのメッセージ  
( 学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス )

<進め方> 講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果> 将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることが出来ます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。

以下は過去の実績です。

<2012年度> 北九州市役所、朝日新聞社、フリーアナウンサー長崎真友子氏、日本放送協会、ベネッセコーポレーション、ナフコ、日本生命、スターフライヤー、コクヨ、TOTO、ショーワグローブ、ジェイアイエヌ ( JiNS )、山口銀行 ( 北九州銀行 )、アイ・ケイ・ケイ  
 <2011年度> マイナビ、スターフライヤー、東芝ロジスティクス、北九州市役所、ナフコ、アイ・ケイ・ケイ、ベネッセコーポレーション、日本生命、西日本高速道路 ( NEXCO西日本 )、デンソー九州、山口銀行 ( 北九州銀行 )、ジェイアイエヌ ( JiNS )、フリーアナウンサー長崎真友子氏

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。  
 以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...90% 最終回のレポート...10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講演者が所属する企業・団体および仕事について必ず予習をしてください。予習するポイントはその都度指示します。

# プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
スキル科目  
キャリア・スキル

## 履修上の注意 /Remarks

※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員 (mitate@kitakyu-u.ac.jp) までメールで連絡をしてください。  
※1年次に「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。  
※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。  
※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の7項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁 ( マナーモードでバッグの中に ) ③脱帽 ④飲食禁止 ⑤私語厳禁 ⑥居眠り厳禁 ⑦講演者の方への感謝の気持ちを忘れない  
※授業終了後、キャリアセンターにて座談会を開催する場合があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

## キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生生活、アイデンティティ

# 法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。到達目標は次の通りです。

- ・ 法律の世界に共通する諸概念や基本的な考え方を理解することができるようになっていただきます。
- ・ 講義で紹介する法制度の内容、社会における運用状況を知り、法律問題解決の仕方を理解できるようになっていただきます。
- ・ 法律が私たちの社会生活における基盤となっており、法律を学ぶことを通じて私たちが社会生活を円滑に営むための不可欠の素養を身につけることができることを知っていただきます。

## 教科書 /Textbooks

毎回、レジユメ、資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じてその都度紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の存在形式】【法源】【罪刑法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 判例の読み方 【判例】【先例】【認定事実】【判決理由】
- 7回 民事判例を読む①【判例研究の方法】【判例部分の抽出】【判例研究の目的】
- 8回 民事判例を読む②【判例評価の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 9回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 10回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 11回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 12回 民法の視点から社会を読む②【人工生殖】【親子関係】【相続権】
- 13回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】  
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 14回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'13』信山社(1,000円)をお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 叶堂 隆三 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

社会調査は、私たちの社会生活がどのような状況にあるのかを把握する有効な方法の一つです。さらに、この社会調査を実施する技法である社会調査法は、アンケート等の調査票を用いて多くの人から情報を得ることで正確な情報把握を志向する量的社会調査と興味深い少数の事例に深く取り組むことを通して新しい社会傾向や社会の多様性を理解しようとする質的社会調査の二つに区別することができます。そして、20世紀以降、実は、こうした社会調査法は社会状況の把握のための学術的関心を越えて、市場調査や選挙予想等さまざまな状況の理解に応用されています。

本授業では、この社会調査法のうち質的社会調査法に焦点を当てて、現代社会の様々な状況・事象への関心のテーマ化、こうした関心を究明するための方法、究明した結果をどのように人に伝えるか、について学習していきます。

## 教科書 /Textbooks

谷富夫・山本務編『よくわかる質的社会調査プロセス編』ミネルヴァ書房、2010年

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

谷富夫・芦田徹郎編『よくわかる質的調査技法編』ミネルヴァ書房、2009年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

社会のどのような状況を理解したいのかという社会的関心を究明していくプロセスに沿って、以下のように授業を進めていくことにする。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 質的社会調査の方法と意義
- 第3回 名著に学ぶ質的社会調査
- 第4回 質的社会調査概説3
- 第5回 問いを立てる
- 第6回 先行研究に学ぶ
- 第7回 技法を選ぶ
- 第8回 フィールドに入る
- 第9回 フィールドワークを楽しむ
- 第10回 フィールドノートを作成する
- 第11回 インタビューを記録する
- 第12回 インタビュー記録を利用する
- 第13回 ビジュアルな資料を利用する
- 第14回 報告書を作成する
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポートや作成物等(50%)、授業時間外の課題の提出(50%)等による平常点によって評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

質的社会調査法に関して、一連のプロセスに沿って進めますので欠席しないようにして下さい。また、授業中及び授業時間外の課題を必ず提出してください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( ソフトボール ) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

**授業の概要 /Course Description**

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。  
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

**教科書 /Textbooks**

なし

**参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )**

なし

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール(スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング(ウインドミル)
- 4回 バッティング(トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

**成績評価の方法 /Assessment Method**

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**

運動のできる服装とシューズを準備すること。

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**



# フィジカル・エクササイズI ( サッカー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( テニス ) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 ( 球出しによるフォアハンド練習 )
- 3回 ストロークの基礎練習 ( ラリーの中でのフォアハンド練習 )
- 4回 ストロークの基礎練習 ( 球出しによるバックハンド練習 )
- 5回 ストロークの基礎練習 ( ラリーの中でのバックハンド練習 )
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム ( 1 ) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム ( 2 ) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム ( 1 ) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム ( 2 ) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修についての諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 ( ヘアピンリターン )
- 8回 応用組み合わせ練習 ( ドロップリターン )
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( バレーボール ) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修についての諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 ( ヘアピンリターン )
- 8回 応用組み合わせ練習 ( ドロップリターン )
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズI ( 女性のスポーツ ) 【昼】

基盤教育科目  
 教養教育科目  
 スキル科目  
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

スポーツルール百科

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 受講上の注意 )
- 2回 バレーボール ( 1 ) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール ( 2 ) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン ( 1 ) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン ( 2 ) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 ( 1 ) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 ( 2 ) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール ( 1 ) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール ( 2 ) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス ( 1 ) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス ( 2 ) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 ( 1 ) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 ( 2 ) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 ( 3 ) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 ( 選択種目 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# フィジカル・エクササイズII ( バスケットボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
スキル科目  
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バレーボール ) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( サッカー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修についての諸注意 )
- 2回 サッカーの基本技術 ( リフティング ) の習得と試しのゲーム ( 1 )
- 3回 サッカーの基本技術 ( パス ) の習得と試しのゲーム ( 2 )
- 4回 サッカーの基本技術 ( シュート ) の習得と試しのゲーム ( 3 )
- 5回 サッカーの戦術 ( ディフェンス ) の説明
- 6回 サッカーの戦術 ( ディフェンス ) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 ( オフェンス ) の説明
- 8回 サッカーの戦術 ( オフェンス ) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 ( 1 ) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 ( 2 ) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 ( 3 ) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
 教養教育科目  
 スキル科目  
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修についての諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 ( ヘアピンリターン )
- 8回 応用組み合わせ練習 ( ドロップリターン )
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( サッカー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

**授業の概要 /Course Description**  
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

**教科書 /Textbooks**  
 適宜指示する。

**参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )**  
 適宜指示する。

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**  
 第1回～4回：事前学習  
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
 第11回・12回：活動報告  
 第13回・14回：振り返り学習  
 第15回：まとめ

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 演習における議論への参加度50%  
 活動への参加度50%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
 関連活動に関する文献学習。

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年（羊土社）  
高校生物およびIIの教科書または参考書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認（1）
- 3回 基本的事項の確認（2）
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備（1）
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備（2）
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験（学期内のいずれかの土曜日午後実施）
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション（1）
- 12回 個人によるプレゼンテーション（2）
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%（配布するカードに記入した内容で評価する）、発表 60%、期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

## キーワード /Keywords



# 教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%  
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。  
 毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

## 履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習Ⅱ」とセットで履修することを希望します。  
 この演習は2年生・3年生との合同演習です。  
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：  
本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、現代社会とまちづくり、職業に論じているテキスト『商店街はなぜ滅びるのか』の批判的読解を試みることを通して、レジユメの作りかた、論点の見つけ方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養う。後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

新雅史2012『商店街はなぜ滅びるのか：社会・政治・経済史から探る再生の道』光文社。  
北九州市出身の社会学者が執筆した新書です。地域社会や小売業の歴史に興味がなくとも読めますが、興味があればより楽しく読めます。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』 慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』 専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』 ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 レジユメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論 テキスト：『商店街はなぜ滅びるのか』
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマの見つけかた・レポートの書きかた
- 第9回 テーマの見つけかた・レポートの書きかた
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第15回 文章のブラッシュアップ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%  
(第14回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)  
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。したがって、第1回目の授業は必ず出席してください。
- ・教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。現代社会や地域社会に関する問題に興味のある学生の受講を歓迎します。

## キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

## 教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループディスカッション ( 1 )
- 2回 グループディスカッション ( 2 )
- 3回 グループディスカッション ( 3 )
- 4回 グループゲーム ( 1 )
- 5回 グループゲーム ( 2 )
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 人を理解すること
- 9回 集団で克服していくトレーニング
- 10回 キャンプのオリエンテーション ( 1 )
- 11回 キャンプのオリエンテーション ( 2 )
- 12回 キャンプのオリエンテーション ( 3 )
- 13回 キャンプのオリエンテーション ( 4 )
- 14回 キャンプのオリエンテーション ( 5 )
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する。  
 キャンプ実習は別途実習費 ( 約 4000円 ) かかりますので注意してください

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- ( 1 ) 社会学的なものの見方・考え方
- ( 2 ) 文献資料の調べ方
- ( 3 ) 質的社会調査の考え方とやり方
- ( 4 ) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

## 教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 情報収集の仕方(1) - 図書館の利用
- 第6回 情報収集の仕方(2) - Webサイトの利用
- 第7回 情報のまとめかた(3) - KJ法 - 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』
- 第8回 情報のまとめ方(4) KJ法(実習)
- 第9回 質的社会調査の考え方と方法(1)
- 第10回 質的社会調査の考え方と方法(2)
- 第11回 質的社会調査の考え方と方法(3)
- 第12回 質的社会調査の考え方と方法(4)
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 分析事例
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は、レジュメを準備すること。  
レジュメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジュメの作成方法については授業中に説明する)。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名  
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）の向上を目指す。

## 教科書 /Textbooks

富山和子（2001）『環境問題とは何か』PHP新書

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○大江正章（2008）『地域のカー・食・農・まちづくり』岩波新書  
その他、必要に応じて授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習法：レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%  
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジュメを精読してのぞむこと。

## 履修上の注意 /Remarks

原則として、後期に開講する「教養基礎演習II」とセットで履修すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

## キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジюме・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

# 教養基礎演習I ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2013年度入学生(新1年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。

【注意②】2012年度以前入学の新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習All(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。  
年度ごとに思想上の古典を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言（Aphorismen zur Lebensweisheit）」を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー（橋本文夫訳）『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円（税込）。  
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ガイダンス時に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス1（演習でのルール、成績評価法の説明）
- 2回 ガイダンス2（対象となるテキスト、著者の紹介）
- 3回 読解と議論1
- 4回 読解と議論2
- 5回 読解と議論3
- 6回 読解と議論4
- 7回 読解と議論5
- 8回 読解と議論6
- 9回 読解と議論7
- 10回 読解と議論8
- 11回 読解と議論9
- 12回 読解と議論10
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（議事録作成）...50%  
（3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望している者は、遅くとも第3回の授業までに上記のテキスト（578円）を購入しておく必要がある。

## 履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。調整に際しては、【本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を優先的に配慮したい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」（指定ページの読解、分からない単語の調査）と「復習」（授業議事録の作成）が必須となります。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！技術編」です。  
「映像情報および公式情報に基づくゲームの見直し作業」を通じて得られた知見をもとに、戦術理解の深化をキーワードに、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。  
作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めていってほしいと思います。

## 教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。  
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，受講者の確定
- 第2回 バレーボールとアナリストの役割，公式記録の見方
- 【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】
- 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）
- 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか
- 【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】
- 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）
- 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか
- 【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】
- 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。  
具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。  
ゼミへの参加...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。  
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

## 履修上の注意 /Remarks

最大で12人を予定しています。  
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

# 教養基礎演習I【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。  
あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

## キーワード /Keywords

バレーボール アナリスト データ分析 各スキル・エリアの記号化 スキル評価の基準

# 教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのか困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力（人間関係力）を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。  
また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思ひます。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配付

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは?
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

**授業の概要 /Course Description**  
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

**教科書 /Textbooks**  
 適宜指示する。

**参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )**  
 適宜指示する。

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**  
 第1回～4回：事前学習  
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
 第11回・12回：活動報告  
 第13回・14回：振り返り学習  
 第15回：まとめ

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 演習における議論への参加度50%  
 活動への参加度50%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
 関連活動に関する文献学習。

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

## 教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業開始時に説明します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定回スーツを着用しての受講となります。

## 履修上の注意 /Remarks

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。  
「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思っております。

## キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)  
高校生物およびIIの教科書または参考書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認(1)
- 3回 基本的事項の確認(2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備(1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備(2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション(1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション(2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み10%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表60%、期末レポート30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

## 教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～14回 各自の研究報告。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%  
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。  
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。  
この演習は2年生、3年生との合同演習です。  
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：  
教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行います。レポートが書けることと、内容の濃い (=評価される) レポートが書けることは違います。  
具体的には、教養基礎演習Iのレポートをもとに、受講者同士の問題関心に近いテキストをディスカッションを通して、各自のテーマをより掘り下げ、課題発見能力を養う。その成果を活かし、学期末にはまとまった分量の程度のレポートを書くことを目指す。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くとはどういう事か？今学期のテキストについて
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 報告会と演習のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言、その他の提出物など)50%  
レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。  
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とします。ですが、レポートは書けるけれど、いい(評価される?)レポートとはどんなものか意欲的に考えてみたい方は教養基礎演習IIのみ受講しても構いません。自分がどのようにものに興味関心があるか考えをまとめて第1回目の授業に来てください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くために、自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

# 教養基礎演習II 【昼】

## キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

## 教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 ( 1 )
- 6回 ブルークターン ( 2 )
- 7回 パラレルターン ( 3 )
- 8回 ウデルン ( 4 )
- 9回 学生自身によるスキー計画 ( 1 ) 場所
- 10回 学生自身によるスキー計画 ( 2 ) 期間
- 11回 学生自身によるスキー計画 ( 3 ) 金額
- 12回 学生自身によるスキー計画 ( 4 ) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成 ( 1 )
- 14回 スキープログラムの作成 ( 2 )
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。  
スキー実習は別途実習費が必要です。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名  
 /Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、調査やフィールドワークをするための基礎的な能力を身につけることを目的とする。環境問題やコミュニティ問題などの地域社会が抱える問題の多くは、1つの学問分野では解決することが困難な複合的要因によって発生している。そのため、その解決策を模索する際には、地域社会に出て実際に調査することが必要である。「他地域の事例から学ぶ」または「地域の人々から学ぶ」という学習方法・姿勢の習得を目指す。

## 教科書 /Textbooks

『成功する！「地方発ビジネス」の進め方』（島田晴雄＋N T Tデータ経営研究所 著） ¥1,600＋税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

宮本常一・安溪遊地（2008）『調査されるという迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回 テキストの輪読① 【生活に関するサービスで地域ビジネスを展開する】
- 第3回 テキストの輪読② 【自動車はもういらない！！地域交通サービスを考える】
- 第4回 テキストの輪読③ 【高齢化社会におけるコミュニティ・コンシェルジュ】
- 第5回 テキストの輪読④ 【成功する！！コミュニティ・ビジネス】
- 第6回 テキストの輪読⑤ 【地域資源を生かしたヘルスケアビジネス - 地域社会を健康に保つことが活性化に繋がる - 】
- 第7回 テキストの輪読⑥ 【コミュニティ・ビジネスの場としての商店街を考える】
- 第8回 テキストの輪読⑦ 【地域ブランドによるまちおこし】
- 第9回 テキストの輪読⑧ 【地域に住む！！という視点から考えるコミュニティ・ビジネス】
- 第10回 総合討論（北九州地域におけるコミュニティ・ビジネスの可能性を探る）
- 第11回 フィールドに出る前に身につけておく基礎知識について①
- 第12回 フィールドに出る前に身につけておく基礎知識について②
- 第13回 調査されるという迷惑について考える①
- 第14回 調査されるという迷惑について考える②
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題の達成度：50%  
 授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習とは、議論する時間・場である。そのため、議論するために必要な知識や資料は事前に各自で準備する必要があることを理解してほしい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者には1年次である程度、興味・関心のあるテーマを自分で見つけることを目指してほしい。春季休業中に実際に「地域社会」に出て調査を行うことが望ましい。

# 教養基礎演習II 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
教養演習科目

キーワード /Keywords

# 教養基礎演習II ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2012年度以前に入学したの新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

【注意②】新1年生(2013年度入学生)は、この科目と並行して「教養基礎演習I(防衛セミナー)」を履修した方が理解が増す。なお、「教養基礎演習I(防衛セミナー)」を履修せずに、この科目のみを履修しても、あまり利益はない。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス(戸蒔)

2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。

15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。  
年度ごとに思想上の古典を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言（Aphorismen zur Lebensweisheit）」を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー（橋本文夫訳）『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円（税込）。  
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ガイダンス時に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習と内容確認
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（議事録作成）...50%  
（3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、第2回の授業までに上記のテキスト（578円）を購入しておくこと。  
本演習は「教養基礎演習I（伊原木）」の続きにあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項として少なくともテキストの第四章「人の与える印象について」の前まで（全部で三章分）を自分で読み通しておくことが必要になる。

## 履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。調整に際しては、【本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を優先的に配慮したい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」（指定ページの読解、分からない単語の調査）と「復習」（授業議事録の作成）が必須となります。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

## キーワード /Keywords

# 教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。

また、学内と離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配付

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには ( 1 )
- 3回 自分自身を理解するためには ( 2 )
- 4回 自分自身を人に理解させるためには ( 1 )
- 5回 自分自身を人に理解させるためには ( 2 )
- 6回 身体活動を用いた自己表現 ( 1 )
- 7回 身体活動を用いた自己表現 ( 2 )
- 8回 身体活動を用いた自己表現 ( 3 )
- 9回 身体活動を用いた自己表現 ( 4 )
- 10回 身体活動を用いた自己表現 ( 5 )
- 11回 身体活動を用いた自己表現 ( 6 )
- 12回 スキー実習についての講義 ( 1 )
- 13回 スキー実習についての講義 ( 2 )
- 14回 スキー実習についての講義 ( 3 )
- 15回 スキー実習のふり返り

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。  
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養ってきたい。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。  
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。  
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画  
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
 第11回・12回：活動報告  
 第13回・14回：振り返り学習  
 第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%  
 活動への参加度50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○ 「文系のための生命科学 第2版」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年（羊土社）  
 高校生物およびIIの教科書または参考書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認（1）
- 3回 基本的事項の確認（2）
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備（1）
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備（2）
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験（学期内のいずれかの土曜日午後実施）
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション（1）
- 12回 個人によるプレゼンテーション（2）
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%（配布するカードに記入した内容で評価する）、発表 60%、期末レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

## キーワード /Keywords

# 教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%  
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

## 履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 AIII」とセットで履修することを希望します。  
 この演習は1年生、3年生との合同演習です。  
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A1 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

異文化の社会問題へのアプローチ法を考える：  
本演習では、漠然とヨーロッパの現代社会に関する問題や異文化に関する問題に興味があり、漠然と卒業論文などでそれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。  
本演習では、受講者の関心に応じて現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とする。専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

## 教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。  
(候補：石川真作ほか(編)『周縁から照射するEU社会』、高橋秀寿ほか(編)『東欧の20世紀』、森明子(編)『ヨーロッパ人類学』など)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、  
報告の無断欠席は厳しく減点します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められる。具体的な説明は第1回で行う。
- ・ テキストを読むだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回か第2回のいずれかに必ず出席してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ヨーロッパの現代社会や文化に関する問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのか、何をすればいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・ 担当者のほかの授業(教養基礎演習、人間と文化、文化と政治)を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

## キーワード /Keywords

現代社会、異文化、ヨーロッパ、

# 教養演習 AI ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2013年度入学生(新1年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。

【注意②】2012年度以前入学の新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習AI(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、その他は適宜指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

上記、注意①と注意②は必ず守ること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 AI 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- ( 1 ) 社会的なものの見方・考え方
- ( 2 ) 文献資料の調べ方
- ( 3 ) 質的調査の考え方とやり方
- ( 4 ) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

## 教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 情報収集の仕方(1) - 図書館の利用
- 第6回 情報収集の仕方(2) - Webサイトの利用
- 第7回 情報のまとめかた(3) - KJ法 - 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』
- 第8回 情報のまとめ方(4) KJ法(実習)
- 第9回 質的調査の考え方と方法(1)
- 第10回 質的調査の考え方と方法(2)
- 第11回 質的調査の考え方と方法(3)
- 第12回 質的調査の考え方と方法(4)
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 分析事例
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は、レジュメを準備すること。  
レジュメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジュメの作成方法については授業中に説明する)。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A1【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。  
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言 ( Aphorismen zur Lebensweisheit )」を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー (橋本文夫訳) 『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円 (税込)。  
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ガイダンス時に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス1 (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンス2 (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論1
- 4回 読解と議論2
- 5回 読解と議論3
- 6回 読解と議論4
- 7回 読解と議論5
- 8回 読解と議論6
- 9回 読解と議論7
- 10回 読解と議論8
- 11回 読解と議論9
- 12回 読解と議論10
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%  
(3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望している者は、遅くとも第三回の授業までに上記のテキスト (578円) を購入しておく必要がある。

## 履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際の優先基準は原則として以下のとおりである。  
(1) 同じ担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」、もしくはテーマ科目「思想と現代」を履修済みの者  
(2) 上記科目の試験で「A」以上の成績を収めている者  
(3) 本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

## キーワード /Keywords



# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。  
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画  
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
 第11回・12回：活動報告  
 第13回・14回：振り返り学習  
 第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%  
 活動への参加度50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。  
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(1) 体力測定
- 8回 健康増進プログラムの計画(2) 安全性と有効性
- 9回 健康増進プログラムの計画(3) プログラム作成
- 10回 健康増進プログラムの実施
- 11回 健康増進プログラムの評価
- 12回 スキー実習の計画(1) 野外活動の意義
- 13回 スキー実習の計画(2) 安全性と有効性
- 14回 スキー実習の計画(3) プログラム作成
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。  
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)  
高校生物およびIIの教科書または参考書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認(1)
- 3回 基本的事項の確認(2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備(1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備(2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション(1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション(2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み10%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表60%、期末レポート30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

## キーワード /Keywords

# 教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう(400字×20枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

## 教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2~14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%  
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論文未提出は「D」評価となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AI」とセットで履修することを希望します。  
AIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。  
この演習は1年生、3年生との合同演習です。  
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

問題関心を深めるために：

本演習では、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。ひとりで読んでもなかなか理解することが難しい現代社会または異文化に関する古典的な文献、または専門的ではあるけれどよく読まれている文献の輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。  
一学期は比較的具体的な対象のある文献を対象としたが、二学期はより抽象的な文献を読む。

## 教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて（1学期からの受講者を優先する）現代社会または異文化に関するテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

（候補：世界思想社社会学ベーシックシリーズ『自己・他者・関係』『政治・権力・公共性』から適宜。または、レベッカ・ソルニット『災害ユートピア』、竹沢尚一郎『社会とは何か』など）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 問題関心についての説明、テキストの選定
- 第2回 議論のしかたについて（講義）
- 第3回 問題関心共有ための導入：講義と議論
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、  
報告の無断欠席は厳しく減点します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められます。具体的な説明は第1回で行います。
- ・ 本演習は自分の問題関心を深めることが目的です。議論やレポート作成に主体的に取り組んでください。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、人間と文化、文化と政治）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。
- ・ 2学期からの出席も歓迎します。

## キーワード /Keywords

現代社会、文化

# 教養演習 AII ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意】2012年度以前入学の新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習AI(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。  
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言 ( Aphorismen zur Lebensweisheit )」を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー (橋本文夫訳) 『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円 (税込)。  
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ガイダンス時に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習と内容確認
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%  
(3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキスト (578円) を購入しておくこと。  
本演習は「教養演習 AI (伊原木)」の続きにあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項として少なくともテキストの第四章「人の与える印象について」の前まで (全部で三章分) を自分で読み通しておくことが必要になる。

## 履修上の注意 /Remarks

- 参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際の優先基準は原則として以下のとおりである。
- (1) 同じ担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」、もしくはテーマ科目「思想と現代」を履修済みの者
  - (2) 上記科目の試験で「A」以上の成績を収めている者
  - (3) 本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

## キーワード /Keywords

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。  
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。  
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

## 教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000\\_4\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書は、初回の授業時に、紹介します。  
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。  
ゼミへの参加...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。  
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

## 履修上の注意 /Remarks

①社会科教育法AまたはC、もしくは公民科教育法Aを受講していること、②社会科教育法BまたはD、もしくは公民科教育法Bを受講中であること、を受講の条件とします。  
なお最大でも10人程度を予定しています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

## キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】



# 教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

**授業の概要 /Course Description**  
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。  
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

**教科書 /Textbooks**  
 適宜指示する。

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
 適宜指示する。

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**  
 第1回～4回：事前学習・企画  
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
 第11回・12回：活動報告  
 第13回・14回：振り返り学習  
 第15回：まとめ

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 演習における議論への参加度20%  
 活動への参加度50%  
 活動報告書30%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
 関連活動に関する文献学習。

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。  
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていきたい。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。  
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年（羊土社）  
 高校生物およびIIの教科書または参考書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認（1）
- 3回 基本的事項の確認（2）
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備（1）
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備（2）
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験（学期内のいずれかの土曜日午後実施）
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション（1）
- 12回 個人によるプレゼンテーション（2）
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み10%（配布するカードに記入した内容で評価する）、発表60%、期末レポート30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

## キーワード /Keywords

# 教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

## 教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%  
無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

## 履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AI・AII」「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。  
AI・AIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。  
この演習は1年生、2年生との合同演習です。  
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習BI【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

異文化の社会問題へのアプローチ法を考える：

本演習では、漠然とヨーロッパの現代社会に関する問題や異文化に関する問題に興味があり、漠然と卒業論文などでそれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。

本演習では、受講者の関心に応じて現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とする。専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

## 教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

(候補：石川真作ほか(編)『周縁から照射するEU社会』、高橋秀寿ほか(編)『東欧の20世紀』、森明子(編)『ヨーロッパ人類学』など)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、  
報告の無断欠席は厳しく減点します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められる。具体的な説明は第1回で行う。
- ・テキストを読むだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・履修を希望する場合、第1回が第2回のいずれかに必ず出席してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ヨーロッパの現代社会や文化に関する問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのか、何をすればいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・担当者のほかの授業(教養基礎演習、人間と文化、文化と政治)を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

## キーワード /Keywords

現代社会、異文化、ヨーロッパ、

# 教養演習BI ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2013年度入学生(新1年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。

【注意②】2012年度以前入学の新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習AII(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、その他は適宜指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- ( 1 ) 社会学的なものの見方・考え方
- ( 2 ) 文献資料の調べ方
- ( 3 ) 質的社会調査の考え方とやり方
- ( 4 ) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

## 教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 情報収集の仕方(1) - 図書館の利用
- 第6回 情報収集の仕方(2) - Webサイトの利用
- 第7回 情報のまとめかた(3) - KJ法 - 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』
- 第8回 情報のまとめ方(4) KJ法(実習)
- 第9回 質的社会調査の考え方と方法(1)
- 第10回 質的社会調査の考え方と方法(2)
- 第11回 質的社会調査の考え方と方法(3)
- 第12回 質的社会調査の考え方と方法(4)
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 分析事例
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は、レジュメを準備すること。  
レジュメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジュメの作成方法については授業中に説明する)。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。  
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言 ( Aphorismen zur Lebensweisheit )」を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー (橋本文夫訳) 『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円 (税込)。  
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ガイダンス時に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス1 (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンス2 (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論1
- 4回 読解と議論2
- 5回 読解と議論3
- 6回 読解と議論4
- 7回 読解と議論5
- 8回 読解と議論6
- 9回 読解と議論7
- 10回 読解と議論8
- 11回 読解と議論9
- 12回 読解と議論10
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%  
(3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望している者は、第三回の授業までに上記のテキスト (578円) を購入しておく必要がある。

## 履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際の優先基準は原則として以下のとおりである。  
(1) 同じ担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」「共同体と身体」、もしくはテーマ科目「思想と現代」を履修済みの者  
(2) 上記科目いずれかの試験で「A」以上の成績を収めている者  
(3) 本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。1・2年生との合同演習になります。

## キーワード /Keywords

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことのない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいのかを見つける術について考えていく。  
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム ( 1 )
- 3 回コミュニケーションゲーム ( 2 )
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 ( 1 ) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 ( 2 ) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 ( 3 ) プログラム作成
- 10 回健康増進プログラムの実施
- 11 回健康増進プログラムの評価
- 12 回スキー実習の計画 ( 1 ) 野外活動の意義
- 13 回スキー実習の計画 ( 2 ) 安全性と有効性
- 14 回スキー実習の計画 ( 3 ) プログラム作成
- 15 回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。  
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 演習  
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。  
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画  
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。  
 第11回・12回：活動報告  
 第13回・14回：振り返り学習  
 第15回：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%  
 活動への参加度50%  
 活動報告書30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)  
高校生物およびIIの教科書または参考書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認(1)
- 3回 基本的事項の確認(2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備(1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備(2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション(1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション(2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

## キーワード /Keywords

# 教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

## 教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。  
第2回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%  
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AI・All」「教養演習BI」とセットで履修することを希望します。  
以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。  
この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

問題関心を深めるために：

本演習では、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。ひとりで読んでもなかなか理解することが難しい現代社会または異文化に関する古典的な文献、または専門的ではあるけれどよく読まれている文献の輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。  
一学期は比較的具体的な対象のある文献を対象としたが、二学期はより抽象的な文献を読む。

## 教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて（1学期からの受講者を優先する）現代社会または異文化に関するテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

（候補：世界思想社社会学ベーシックシリーズ『自己・他者・関係』『政治・権力・公共性』から適宜。または、レベッカ・ソルニット『災害ユートピア』、竹沢尚一郎『社会とは何か』など）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 問題関心についてのせつめい テキストの選定
- 第2回 議論のしかたについて（講義）
- 第3回 問題関心共有ための導入：講義と議論
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、  
報告の無断欠席は厳しく減点します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められます。具体的な説明は第1回で行います。
- ・ 本演習は自分の問題関心を深めることが目的です。議論やレポート作成に主体的に取り組んでください。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、人間と文化、文化と政治）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。
- ・ 2学期からの出席も歓迎します。

## キーワード /Keywords

現代社会、文化

# 教養演習BII ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意】この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っている能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、その他は適宜指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する者は、受講を強く勧める。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。  
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言 ( Aphorismen zur Lebensweisheit )」を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー (橋本文夫訳) 『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円 (税込)。  
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ガイダンス時に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習と内容確認
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 ( 予習・議論・発言の積極性 ) ...50% 課題 ( 議事録作成 ) ...50%  
( 3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。 )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキスト ( 578円 ) を購入しておくこと。  
本演習は「教養演習 B I ( 伊原木 )」の続きにあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項として少なくともテキストの第四章「人の与える印象について」の前まで ( 全部で三章分 ) を自身で読み通しておくことが必要になる。

## 履修上の注意 /Remarks

- 参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際の優先基準は原則として以下のとおりである。
- ( 1 ) 同じ担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」「共同体と身体」、もしくはテーマ科目「思想と現代」を履修済みの者
  - ( 2 ) 上記科目いずれかの試験で「A」以上の成績を収めている者
  - ( 3 ) 本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」 ( 指定ページの読解、分からない単語の調査 ) と「復習」 ( 授業議事録の作成 ) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。1・2年生との合同演習になります。



キーワード /Keywords

# 教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。  
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信満々で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。  
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

## 教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000\\_4\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書は、初回の授業時に、紹介します。  
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。  
ゼミへの参加...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。  
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

## 履修上の注意 /Remarks

①教育実習1を受講中であること、②社会科教育法ないしは公民科教育法をセットで受講していること、を受講の条件とします。  
なお最大でも10人程度を予定しています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

## キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

# プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 教室にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2012年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ、ギラヴァンツ応援プロジェクト

## 教科書 /Textbooks

特にありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特にありません。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

## 履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は2年次以上です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

## キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

# プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2011年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ、ギラヴァンツ応援プロジェクト

## 教科書 /Textbooks

特にありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特にありません。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

## 履修上の注意 /Remarks

※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

## キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

# 自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる

## 教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス  
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司  
「自然学の未来」黒田末寿

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
  - 第1講 「今西錦司と自然学」
  - 第2講 「私とあなたの自然学」
  - 第3講 「バックミンスターフラーと自然学」
  - 第4講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
  - 第5講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
  - 第6講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
  - 第7講 「風の谷のナウシカの自然学」
  - 第8講 「人の進化と自然学」
- 岩松
  - 第9講 人々はどのように自然に親しんできたか(旅と観光)
  - 第10講 人々はどのように自然を観てきたか(森林風景)
  - 第11講 人々はどのように自然を利用してきたか(木と竹の文化史)
  - 第12講 人々はどのように自然を利用していきけるか(竹産業と生態技術)
  - 第13講 人々はどのように自然の中で暮らしているか(木造民家の生活)
  - 第14講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか(中国・台湾との比較)
  - 第15講 第九講～第十四講のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
  - 講義で紹介するさまざまな活動に参加する・・・15%
  - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える・・・15%
  - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く・・・20%
- (岩松)
  - 小レポート...25% 試験...25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 自然学のまなざし【昼】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

## 履修上の注意 /Remarks

講義は教室の中だけでは終わりません。  
そんなつもりで受講して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。  
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

## キーワード /Keywords

人類学  
環境学  
フィールドワーク

# 動物のみかた 【昼】

担当者名 到津の森公園、文学部 竹川大介  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。  
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

## 教科書 /Textbooks

テキストなし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円  
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円  
田近英一著『地球環境46億年の大変動史』(化学同人), 1680円  
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめと演習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 90%, ミニレポート: 10%  
欠席の多い学生は減点する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

特になし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

## キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化



# 自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【】内はキーワード、（）内は担当学芸員名）。講義の順番は変更となる場合があります。北方キャンパスでの13回の講義のほか、北九州市立自然史・歴史博物館での講義および見学を予定しています。

- 1回 ガイダンス
- 2回 自然史博物館での講義および見学
- 3回 昆虫分類学の歴史（担当者未定）：【分類】【学名】【アリストテレス、リンネ、ビュフォン】
- 4回 化石が語る魚類の進化（藪本）：【魚類化石】
- 5回 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 6回 ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- 7回 鳥類の絶滅危機と生物多様性の保全（武石）：【絶滅危機】【生物多様性】
- 8回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
- 9回 サウジアラビアの自然と人と文化と（山根）：【アラビア半島】【人と自然と文化】
- 10回 岩石に見られる「大地の暗号」（森）：【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 11回 自然史博物館での講義および見学
- 12回 深海生物～その形と適応的意義～（下村）：【深海】
- 13回 アンモナイトの古生物学（御前）：【化石】【進化】【古生態】
- 14回 骨から知る脊椎動物進化（大橋）：【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業回数の3分の2以上の出席をもって成績評価の対象とします。2回の博物館見学は必須となります。授業への積極的な参加および見学レポート40%、期末レポート60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

## 履修上の注意 /Remarks

博物館見学は10月6日（日）と12月8日（日）を予定していますが、日程を変更する可能性もあります。授業スケジュールについての説明もありますので、第1回目の授業には必ず出席するとともに、掲示物に注意してください。博物館までの交通費および入館料は自己負担となります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# くらしと化学【昼】

担当者名 貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

化学物質と化学知識は生活に不可欠なものです。それらは生活を豊かにし、豊かな未来社会を展望するのに必要です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養としてだけでなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

まず基礎的な化学知識を正確に掴む必要があります。そのために、基礎的な化学知識と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心化学知識の理解を深め、それによる生活や環境に対する能力を高めることがこの授業のねらいである。

自然界の重要物質水と炭酸ガスと物質三態(気・液・固)、生活に必要な食品・薬、環境に重要な、放射能・地球温暖化に関連した事項に絞って解説をする。

## 教科書 /Textbooks

「身の回りから見た化学の基礎」 化学同人 芝原 寛泰、後藤 景子 著  
出版年月日：2009/11/02、 ISBN： 9784759812923 定価：本体1,800円＋税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著 (丸善) \2200、ISBN 978-4-621-08016-0
- 「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳 (丸善) \2200円、ISBN 978-4-621-04227-4
- 「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳 (新潮社)
- 「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著 (翔泳社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 1章 化学ってなんだ? - 物質と化学の関係
- 2 1章 化学ってなんだ? - 化学の基本事項(補足)
- 3 14, 8章 物質は自在に変わる - 気・液・固
- 4 5, 2章 水の化学、酸・塩基(真水・お酢・石けん水)
- 5 7章 料理の化学(3大栄養素)
- 6 0章(教科書補足)放射能って何だ - 放射能、原子力
- 7 0章(教科書補足)放射能って何だ - 放射性元素と自然界)
- 8 7章 料理の化学(3大栄養素)
- 9 6章(教科書補足)生活材料今昔物語 - プラスチックとその添加物質
- 10 4章 環境にやさしい洗濯を - 洗濯の化学
- 11 9章 化学の力で命を守る - 薬と副作用
- 12 6章(教科書補足)生活材料今昔物語 - プラスチックとその添加物質
- 13 10章 身の回りには石油製品がいっぱい! - 化石資源の化学
- 14 0章(教科書補足) - 二酸化炭素と温暖化の科学的仕組み、
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポート20%、期末試験80%で総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。  
テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。疑問点は質問して欲しい。

## 履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくが良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

## キーワード /Keywords

# 現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科, 中島 俊介 / 基盤教育センター  
齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

## 授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人の取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

## 教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する

# 現代人のこころ【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション  
心理学に対する誤解
- 第2回 心理学の研究法  
心理学は科学である。【実験】【観察】【調査】
- 第3回 著名な心理学研究  
人は命じられれば人を殺すのか？【ミルグラム実験】【スタンフォード監獄実験】【スモールワールド実験】
- 第4回 他分野との繋がり  
心理学者はノーベル賞を取れるのか？【行動経済学】【人間工学】【プロファイリング】
- 第5回 人間の発達の心理学  
人間の心理的な発達について学ぶ。主な発達理論の紹介と概念の説明。特に生涯発達の視点から人生を俯瞰する。【生涯発達】【エリクソンの発達論】
- 第6回 感情はコントロールできるか  
精神の働き、「知・情・意」のなかの「情」を取り上げる。日常問題となる感情のさまざまを上手にマネジメントできるかなどを考えたい。【感情の法則】【3大陰性感情】
- 第7回 幸せの人間関係を求めて  
私たちの悩みの多くは人間関係の悩みである。良好な人間関係を構築するためには何が大切か。どのようなスキルが望まれるかなどを学ぶ。【積極的傾聴法】【私メッセージ】
- 第8回 知覚の世界  
人はどのように外界世界を知覚しているのか。【錯視】【体制化】【興行き知覚】
- 第9回 記憶のしくみ  
人間の記憶の貯蔵のしくみ。【感覚記憶】【短期記憶】【長期記憶】
- 第10回 記憶の保持と変容  
どのようにすれば記憶しやすいのか。【処理水準】【スキーマ】【偽記憶】
- 第11回 学習のメカニズム  
条件づけによる学習のメカニズム。【古典的条件づけ】【オペラント条件づけ】
- 第12回 学習の生物学的制約  
生物であるために生じる学習の特別な形。【ガルシア効果】【刻印づけ】
- 第13回 社会的影響  
人の判断は社会からどのような影響を受けるのか。【同調】【規範】【説得】
- 第14回 コンピュータは心を持つか  
人と同じような知能や心を持つコンピュータやロボットは実現できるのか？【人工知能】【ロボット】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 50% 課題(レポート) ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とくにありません。

## 履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 現代人のこころ【昼】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

## 授業の概要 /Course Description

心理学というと、まずイメージされるのが「カウンセリング」というのが一般的です。カウンセリングは心理学の大切な一分野ですが、実は心理学のごく一部分に過ぎません。心理学は人間の一般的傾向（良い側面、悪い側面の両方）を、実験や調査などで客観的に把握し、日常生活や仕事などに応用することができる学問です。

人間は大きな可能性を持つとともに、弱くて不完全な存在です。それを受け入れ（自分についても他人についても）、問題が生じないように工夫をするために、心理学を活用してみましょう。そのためには、心理学の研究がどのように行われ、何が明らかにされているかという基礎的な理論を学び、考える力が必要です。自分の行動や気持ち（自分の中・誰かに対して・集団の中で）を振り返り、心理学の理論と照らし合わせて考えてみましょう。講義の大枠は暫定的に作っていますが、毎回終了時に感想や質問などのコメントを提出してもらい、それをもとに次回講義を展開していきます。

## 教科書 /Textbooks

資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 【心理学的に効果のあるガイダンス】 担当者の心理学や大学教育に対する考え方、講義の狙いや内容やルールとそれらの根拠を紹介し、良いコミュニケーション関係を作るための準備について心理学的に説明します。
- 2回 【人の心の一般的傾向と多様性】 心を理論で捉えるとはどういうことか？心をどうやって測定するか？について学びましょう
- 3回 【コミュニケーションを共有という概念から紐解く】 「わからない」「わかってもらえない」ということはなぜ起きるのか、なぜわかるのか？コミュニケーションを「共有」という概念から心理学的に紐解いてみましょう。
- 4回 【人から相談されてうまく答えられないという悩みに】 相談というコミュニケーションにはどんな機能や効果があるのか？そもそもどうして人に相談したくなるのか？相手の問題解決を支援し心を軽くするのに役立つヒントについて心理学の理論で考えていきましょう。
- 5回 【ネットワークの中の私】 私たちはたくさんの人とコミュニケーションし、支え合って暮らしています。そこから得られるもの、一方で人とのやり取りで感じるストレスについて、ソーシャルサポート理論から学び考えましょう。
- 6回 【自分らしさのなりたち】 「私って何？」という疑問に、心理学はどこまで答えられるのでしょうか。「自分らしさ」を性格理論で紐解いて、「血液型と性格は関係あるのか？」ということについて考えましょう。
- 7回 【今ここにある私はどうやって私になったか】 これまでの人生を振り返るワークを通じて、人が成長する過程と体験するもの、得られるもの、どうしても起きる苦しみについて、発達心理学の視点から学び考えましょう。
- 8回 【「やる気」がなげりや「その気」にさせる】 「やる気」はどこから来るのか？やる気がない時、やる気のない人にどんな工夫をして「その気」にさせるのか、動機づけ理論から学び考えてみましょう。
- 9回 【人は思い込み、とらわれる】 購入した商品の口コミを確認したことはありませんか？都合の良い情報ばかり集め、都合の悪い情報をシャットダウンしてしまう心について心理学の理論で学び考えてみましょう。
- 10回 【偏見はなぜ起きる？】 偏見は「ワカラナイ」ものから自分を守るために発生してしまいます。自分の中にある偏見に向き合って、なぜそれが生まれるのか、偏見解消に何が有効か心理学的に考えましょう。
- 11回 【心の揺らぎと痛み】 健やかな心とはどんな状態なのか？心が揺れるのはどんな時なのか？健やかな心を保つためにはどんな工夫ができるのかについて学び考えましょう。
- 12回 【集団の中の自分】 私たちは様々な集団に属し、それに大きな影響を受けて生活しています。自分の心や行動への集団の影響について、集団で話し合いをするとどんなことが起きるのか、実験を体験して集団の理論から考えてみましょう。
- 13回 【組織事故-なぜ起きるのか？どうやったら防げるのか？】 様々な産業組織での事故は、個人の問題だけでなく、人との関わりの中で発生します。事例分析を通じて、なぜ事故が起きるのか、防ぐためにはどうすれば良いのか、を心理学理論を使って考えましょう。
- 14回 【言いたいことを言えていますか？】 日常の対人関係において、言いたいことを言えなくて苦しくなったこと、「言えば良かった」と後悔したことはありませんか？言いたいことを言えない気持ち、どうやったらうまく言えるかについて、心理学的に学び考えましょう。
- 15回 まとめと振り返り

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 現代人のこころ【昼】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。  
評価は、試験の結果のみで行います。  
試験は、全て持ち込み可とします。  
講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)  
欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。  
その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。

## 履修上の注意 /Remarks

前年度単位取得率: 57% (受講者92名)  
S: 6名(7%) A: 22名(23%) B: 12名(13%) C: 19名(21%) D: 19名(21%) -: 14名(15%)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 関 一敏 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

宗教は、わたしたちの日常生活とかけはなれた存在ではない。それは日常の倫理や道徳を支え、わたしたちの生き方と死に方とを方向づける強い力をもっている。さらにまた、メディアの発達していない時代に宗教は文字文化の担い手であり、音楽や身体技法など、文化の貯蔵所やくわりをはたしていた。かつまた、20世紀から21世紀にかけて民族とともに宗教が紛争と葛藤の焦点となり、原理主義の高まりとともに各地でさまざまな政治問題を生んでいることは、日々報道されることである。

にもかかわらず、日本にあってわたしたちは宗教とのつきあいを苦手だと感じるのはなぜだろうか。この講義では、そうした現代日本人の感受性そのものをも視野におさめて、過去から現在にいたる「宗教的なもの」の根っこに迫ってみたい。

なお今年はトピックスごとに、諸宗教を横断的にとらえるところみをする。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』ちくま文庫  
堀一郎監修『宗教学辞典』東京大学出版

あとは講義の通りに適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに 宗教について考える、宗教を分類する
2. 神々の世界(日本) 起源神話、神を祀る神、異類婚姻譚
3. 神々の世界(世界) 渾沌と秩序、神の疲労、塔と洪水、石とイモ
4. あの世 地獄と天国、煉獄と金利、極楽浄土、六道輪廻
5. 苦と悪 悪霊、天使、魔女、神義論、四苦八苦
6. 出世間 修道院、荒野、出家とサンガ
7. 聖者と菩薩 殉教者、列聖、霊力、慈悲
8. 修行と戒律 身体、戒と律、聖地巡礼、体験
9. 願かけと祈り 念仏と題目、報恩、応答、祈願
10. 祭り 年中行事、通過儀礼、祝祭日
11. 声と文字 声の文化と文字の文化、聖典、賛美歌と声明
12. 物語 話法と話芸、伝説、昔話
13. 運命 予定説、宿命論、造悪論
14. 呪いと祝福 呪術、呪詛、病治し
15. まとめ 幸福の四象限、しあわせ、スカブラと笑い

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習よりも、講義の場で以下のことに力を注ぐこと。  
講義をよく聴く。  
配布資料をよく読む。  
資料をもとに、また講義や本をヒントに、自分で考える習慣をつける。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教的なものは、その周辺にカルト的集団やオカルト的現象を生むことがある。神秘的な力にはよい方向とよくない方向がともに備わっており、わたしたちにはそのよい方向を識別する目をやしなう必要がある。なによりも宗教に関する正確な知識を心がけるよう、また距離を置いた受けとめ方のレッスンをかさねるよう、意識的な努力を心がけたい。



## キーワード /Keywords

上記授業計画を参照のこと。

# 思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 9回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン】
- 11回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 12回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 13回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 14回 フェミニズムの思想(4)【クイア】
- 15回 全体総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末テスト... 50%  
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回に確認テスト(第3回~第6回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「いろいろ忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに來る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

## キーワード /Keywords

# 文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。  
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明や、イメージとしての〈日本〉について多様な角度から言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。  
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。さらに、後半では、テーマ研究として具体的なテーマに焦点をしばり、表象についての理解を深めていく。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 イメージとしての〈日本〉①
- 4回 イメージとしての〈日本〉②
- 5回 イメージとしての〈日本〉③
- 6回 【表象分析事始め】方法としての「比較」
- 7回 映画分析①
- 8回 映画分析②
- 9回 映画分析③
- 10回 映画分析④
- 11回 テーマ研究①
- 12回 テーマ研究②
- 13回 テーマ研究③
- 14回 テーマ研究④
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 20% 中間レポート・期末テスト ... 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、中間レポート・期末テストにおいて十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなののでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

## 教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 語用論(山崎)
- 第5回 ことばと文化(山崎)
- 第6回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第7回 会話の規則(平野)
- 第8回 日本語の方言(平野)
- 第9回 ことばのバリエーション(平野)
- 第10回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第11回 外部講師による講義(予定)
- 第12回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第13回 人と機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第14回 コミュニケーション力(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4  
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

\* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

現代美術を中心に国内外の芸術活動の事例を紹介します。  
それらを鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして解釈・応用できるよう、アート・リテラシーの向上を促します。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

今道友信『美について』(講談社現代新書)  
佐々木健一『美学への招待』(中公新書)  
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品の鑑賞とは 1
- 3回 作品の鑑賞とは 2
- 4回 引き算の美・足し算の美
- 5回 メディア×アート：浮世絵
- 6回 サブカルチャーと社会
- 7回 芸術作品に見るジェンダー
- 8回 作品のコンテキスト
- 9回 芸術のカ×権力×暴力
- 10回 芸術と宗教
- 11回 芸術とリアリティ：現実の不確かさ
- 12回 芸術と生活：限界芸術、民芸
- 13回 芸術と教育：ワークショップの事例
- 14回 芸術と地域：アートプロジェクトの事例
- 15回 北九州のアートシーン

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は変更する場合があります。  
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科  
田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科, 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科  
福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科  
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Class クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

### ◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

### ◎2013年のテーマ：「言葉の力」

文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるのでしょうか。たとえば文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高いものです。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ生まれ変わることもあります。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で各国言語で書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ① 言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ② 「言葉」の意味の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③ 修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

## 教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に各教員が指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・言語芸術の可能性
- 2回 岩本(文学部比較文化学科)
- 3回 岩本
- 4回 馬場(文学部比較文化学科)
- 5回 馬場
- 6回 田部井(文学部比較文化学科)
- 7回 田部井
- 8回 福島(文学部比較文化学科)
- 9回 福島
- 10回 伊藤(外国語学部英米学科)
- 11回 伊藤
- 12回 五月女(文学部比較文化学科)
- 13回 五月女
- 14回 木原(外国語学部英米学科)
- 15回 木原

(各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁します。

# 文学を読む【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①現代正義論に関する基礎的な知識を獲得したうえで、理解力・思考力を鍛える。
- ②現代社会における諸問題について、課題を発見し、分析したうえで解決する力を獲得する。
- ③修得した知識や思考力を自らのものとし、今後の社会実践の中でより深めていくことができるようにする。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房）
- 平井亮輔編『正義』（嵯峨野書院）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社）
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』（法律文化社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [ 第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法) ]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルティア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

## 履修上の注意 /Remarks



## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

## キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

# 民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

今年度は、「比較民主主義論」というテーマで講義を行います。

民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、まず、民主主義の理論の比較として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1938年と1968年における日独の青年の政治的位置の比較を行い、制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較します。そして、こうした比較を通じて見えてくる差異性（多様性）や共通性から、「新しい政治」について検討します。

## 教科書 /Textbooks

テキストはなし。  
基本的にレジュメを配布して講義します

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献としては、  
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、  
○J・リンズ他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、  
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、  
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）  
を挙げておきます。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。

- 第1回 はじめに・・・民主主義の3レベルについて
- 第2回 民主主義の理論の比較・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
- 第3回 参加民主主義論、共生の民主主義論
- 第4回 熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
- 第5回 民主主義理論の比較のまとめ
- 第6回 まとめのグループ討論、グループ発表
- 第7回 民主主義の運動（組織）の比較・1989年の東欧革命について
- 第8回 1968年の「青年の反乱」の日独比較
- 第9回 1938年の日独青少年交歓事業について
- 第10回 民主主義の運動の比較についてのまとめ・1938、68、89年の日独青年の政治的位置の比較について（グループ討論、グループ発表）
- 第11回 民主主義の制度の比較について・議院内閣制と大統領制
- 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
- 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
- 第14回 民主主義制度の比較のまとめ・首相公選制について
- 第15回 全体のまとめ・「新しい政治」について

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート	20%
定期試験	50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。

# 民主主義とは何か【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、講義のレジユメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらうという、「まとめ」を2回ほど行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

## キーワード /Keywords

講義を楽しむ

# 人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害していることがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

### 目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

## 教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）  
必要な参考書は授業時に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：急増する在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト・ミニレポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心をもち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁  
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を意識して授業に取り組んでほしい。

## キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

# ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）  
適宜、補足資料を配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）  
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）  
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー—戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学—村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー—映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ—アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー—家族を超えて—週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える—あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔—学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー—津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業—エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み—ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権—絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学—女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場—国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV—TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身に付けておく。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

# 障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor  
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科  
 今泉 恵子 / 法律学科, 植木 淳 / 法律学科  
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 岡 邦信 / 法律学科  
 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科  
 高橋 衛 / 法律学科, 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科  
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科  
 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科  
 山本 光英 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

## 授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ①法についての基本的な知識を獲得した上で、社会での共生に必要な理解力や思考力を鍛える。
- ②共生をめぐる現代社会の諸問題について、課題を発見しそれを分析したうえで解決する力を獲得する。
- ③修得した知識や思考力を自らのものとし、今後の社会実践の中でより深めていくことができるようにする。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、法と道徳について(重松)
- 第2回 障害のある人の権利 ~ 日本国憲法から(植木)
- 第3回 死刑制度の是非(中村)
- 第4回 契約について(契約の意義、種類、契約自由の原則等)(矢沢)
- 第5回 家族とは何か(小野)
- 第6回 規範意識とは何か(3銭の電気窃盗)(山本)
- 第7回 犯罪とは何か ~ 国家刑罰権をどのように制約するか(大杉)
- 第8回 商法とは何か(今泉)
- 第9回 企業形態と法(高橋)
- 第10回 民事少額訴訟とは何か(小池)
- 第11回 行政は「個人の権利」をもつか(福重)
- 第12回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう(津田)
- 第13回 雇用とは何か(雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了)(石田)
- 第14回 国際社会と日本(二宮)
- 第15回 まとめ(岡)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則としてレポートによる。

①受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群の中から、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。②レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは6000字以上とする。③レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。④授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# 共生の作法 【昼】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマについて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

## キーワード /Keywords

現代社会 共生 作法 ルール

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、行政・企業・NPO・マスコミ等の実務担当者を招へいし、様々な視点から北九州の環境を学習する。また、「環境首都検定」を受験し、市民の立場に立って環境に対する取り組みを幅広く学習する。さらに、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）を見学し、その体験を講義での学習につなげる。

この授業の主な到達目標は以下の通り。

- ① 環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
- ② 環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
- ③ 卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

北九州市環境首都検定公式テキスト

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～
- 3回 北九州における環境問題
- 4回 北九州における環境政策
- 5回 北九州の自然・生態系
- 6回 環境問題とソーシャルビジネス
- 7回 環境問題と市民の関わり
- 8～9回 環境関連施設見学①
- 10回 環境問題とジャーナリズムの役割
- 11～12回 環境関連施設見学②
- 13回 北九州の環境経済
- 14回 環境問題と企業の取り組み
- 15回 環境都市としての北九州

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業回数の3分の2以上の出席をもって成績評価の対象とする。環境首都検定受検および2回の施設見学参加は原則必須とする。環境首都検定の成績(40%)、施設見学および期末レポート(30%)、授業への参加度・授業中の課題など(30%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

環境首都検定は12月15日(日)、施設見学は①環境ミュージアム(12月1日(日))、②エコタウン(11月20日(水)午後)を予定しているが、変更の可能性もある。スケジュールに注意すること。環境ミュージアムおよび首都検定会場までの交通費は自己負担とする。定員は200名とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

## 教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
  - 2回 枠組みの設定
  - 3回 民衆行動の分析①
  - 4回 民衆行動の分析②
  - 5回 市民運動の分析
  - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
  - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
  - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
  - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
  - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
  - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
  - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
  - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
  - 14回 市民活動の現在
  - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、その後の日本は、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワン[日本の経営(温情主義的経営)]とも賞賛された。しかし、こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク=破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用 (= ライフタイム・コミットメントという英語の日本語訳、広義には職場共同体という感覚)・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液化して剥き出しの資本制経済の荒波(マーケット中心主義)にさらされている。日く、ワーキングプア(働いていても生活がいよいよ苦しい)・ネットカフェ難民(帰るべく家がない)・格差から貧困(経済的格差・貧困から意欲の格差が目される)・99%対1%、等々。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義(マーケット型資本主義)路線。すなわち「市場=マーケット」万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除(彼女/彼らはこれを退出という)された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである(例えば、退場をしたサッカー選手は、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない)。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される(社会統合機能)。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである(社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機)。

そうすると行き着くところ、社会(資本制経済あるいは資本家の生産社会)というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのように振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

## 教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書(白波佐和子『生き方の不平等』2010(○)等の最新の文献、②『私たちは"99%"だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房(2009年)(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家の生産様式)。【社会認識】
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語。【資本主義】【市民社会】
- 3回 市場とは。買い物物を反省しよう。日常的に観察される買い物物すなわち商品流通から、ふたつの人間類型が見いだされる。→「C(商品)-M(貨幣)-C(商品)」[私達]と「M(貨幣)-C(商品)-M(貨幣)」[資本家]。私達と資本家は、商品流通レベルでは平等。【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】
- 4回 商品流通(商品交換)の次元における私達→私達は平等である(等価交換と市民法)。【商品流通(商品交換)】【平等・自由】
- 5回 商品流通の次元における私達は平等であるのに、何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか。【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出=本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たる(M-C-M)での剰余価値の生産。資本家と労働者。【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生。英国のケース。【本源的蓄積過程】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉【剰余価値】【賃労働関係】
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生【剰余価値】【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】
- 10回 戦後資本主義の特性=恐慌と危機。ケインズ政策の登場。【恐慌】【危機】【ケインズ政策】
- 11回 セーフティネット装置のビルトインされた国家=福祉国家(混合経済)の登場。【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機。市場回帰志向の新自由主義の台頭。【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食。システム統合危機から社会統合危機へ。【危機】【統合】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

# 企業と社会 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻繁に聞きます。就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも観察対象であることを常に意識してもらいたい。

## キーワード /Keywords

【商品流通】 【資本家】 【労働者】 【市民社会】 【資本制経済】 【市民法】 【本源的蓄積過程】 【剰余価値】 【賃労働関係】 【福祉国家】 【ケインズ政策】 【新自由主義】 【システム統合】 【社会統合】 【生活世界】

# つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。  
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

レジメを配布します。  
講義時に適宜紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義時に適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス  
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①  
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②  
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術  
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①  
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②  
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③  
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④  
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50点) + 期末レポート試験(50点) = 合計100点評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

## つながりの人間学【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。地域活動に既に参加しているかどうか、受講中に参加するかは関係ありませんので、多くの方に履修していただきたいと考えています。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。この講義を通して、地域活動に興味を持った方は、第2学期開講の「サービスラーニング入門2」も受講してください。より深く地域活動とおして学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

### キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア形成

# 現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳) 昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』勁草書房、2011年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値(4)【自己意識】
- 7回 現代における人命の価値(5)【FLO】
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題(3)【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題(4)【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義(1)【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要と詳しい参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。  
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の期末試験は、持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となっている。それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が求められる。この方式に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

## キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 公平性



# 現代社会の諸問題【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

## 授業の概要 /Course Description

この授業は西日本新聞社による寄付講座である。毎回、新聞ジャーナリズムのさまざまな現場で活躍されている方からお話いただき、新聞と現代社会についての考察することを目指す。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

使用しない。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状と今後 (編集企画委員長)
- 第2回 ニュースを編集する / 見出しはこうして決まる (編集センターデスク)
- 第3回 政治を見る目 / 政権交代と現政権の行方 (編集委員)
- 第4回 地域とともに / 分権時代と地域紙 (都市圏総局長)
- 第5回 アジアを考える / 国際報道の現場から (国際部長)
- 第6回 裁判員制度と人権 / 事件報道の現場から (社会部総合デスク)
- 第7回 デジタルが紙か / デジタルメディアの行方 (コンテンツ事業局)
- 第8回 罪と更生 / キャンペーン報道の力 (社会部デスク)
- 第9回 被災地を歩く / 東日本大震災をどう伝えるか (社会部長)
- 第10回 原発と地域経済 / 経済記者の立ち位置 (経済部長)
- 第11回 スポーツ報道の世界 / 地域スポーツ紙が目指すもの (運動部デスク)
- 第12回 言葉を越える1枚 / 報道写真の力 (写真部記者)
- 第13回 北九州発の環境問題を考える / 地域ジャーナリズムの役割 (北九州本社記者)
- 第14回 文化と新聞 / 地域を見つめ育てる (文化部長)
- 第15回 新聞をデザインする / ビジュアル紙面とは (デザイン部デスク)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の2つをもとに総合的に評価する。
- (1) 毎回の感想(レポート提出の要件とする。)
  - (2) レポート(レポート提出は3回を予定している。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日々の新聞をよく読み、現代社会に対する感性を磨くこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 板谷 俊生 / 中国学科  
 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科  
 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科  
 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

## 授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を政治・経済・思想などを中心に考察する。近年、国際関係分野において注目されている諸理論・現象を紹介しながら講義を進める。

## 教科書 /Textbooks

各担当教員が適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

各担当教員が適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は複数の教員が各自の専門と関心からアジアと国際関係を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

※授業では出席をとることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野寿子「グローバル化の中の中国」
- 第3回 " "
- 第4回 尹明憲「北東アジアの経済事情」
- 第5回 " "
- 第6回 鄧紅「日中関係の過去、現在と未来」
- 第7回 " "
- 第8回 総田芳憲「日本の安全保障」
- 第9回 " "
- 第10回 山本直「アジアとヨーロッパ」
- 第11回 " "
- 第12回 板谷俊生「中国のノーベル文学賞作家」
- 第13回 横山宏章「東アジアの安全保障」
- 第14回 篠崎香織「東南アジア：『周縁』で形成される文明の新たなかたち」
- 第15回 " "

※都合により、講義の順番は変わることがある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートで評価する(100%)。  
 レポートの本数・形式など詳細については初回のオリエンテーションで指示する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜参考文献などを紹介するので自主的に読むこと。  
 平素から新聞や関連する本を読んで、授業内容への理解を深める努力をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類 (Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、Case Studyとしての事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

## 教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。  
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○  
その他の参考文献は、適宜、指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連を知る【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第3回 国際紛争を見る分析軸【DisputeとConflict】【紛争のPhase】
- 第4回 国連における紛争処理のメカニズム【国連憲章上の枠組み】
- 第5回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国【加盟国の地位の二重性】
- 第6回 国連による平和の創出【和平合意の形成】【勧告】【事務総長による周旋】
- 第7回 国連による平和の維持【国連平和維持活動(PKO)】
- 第8回 国連による平和の強制【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第9回 Case Study①: 湾岸戦争と国連【多国籍軍】
- 第10回 Case Study②: ソマリア問題と国連【平和執行型PKO】
- 第11回 Case Study③: リビア問題と国連【保護する責任】
- 第12回 国連による持続的平和の定着【和解】【国家再建】【平和構築】
- 第13回 Case Study④: アフガニスタン問題と国連【平和構築】
- 第14回 Case Study⑤: PKOと日本の国際平和協力【PKO協力法】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。  
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、予習を前提とした講義を展開します。  
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。  
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

## 履修上の注意 /Remarks

成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。  
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。  
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

## キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

# 民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは、新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて検討する。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと社会
- 2回 イギリスにおけるエスニシティ【連合王国】【ロンドン同時爆破事件】
- 3回 イギリスにおける文化摩擦【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
- 4回 イギリスにおける多文化主義の試み【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
- 5回 フランスにおけるエスニシティ【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 6回 フランスにおける文化摩擦【スカーフ問題】【ブルカ禁止法】
- 7回 フランスにおける同化主義と多文化主義【ライシテ】【共和国憲法】
- 8回 東南アジアと「エスニシティ論」
- 9回 「本物・本質」探し(1)ベトナムにおける民族の生成
- 10回 「本物・本質」探し(2)「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 11回 「独立か否か」(1)インドネシア・アチエの事例から
- 12回 「独立か否か」(2)フィリピン・ミンダナオの事例から
- 13回 「ニセモノ」のネイション(1)アンダーソンの「想像の共同体」
- 14回 「ニセモノ」のネイション(2)マレーシアの「民族の政治」
- 15回 授業の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国(ミャンマー、バングラデシュ、韓国、米国と日本が対象国)や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、ガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

その都度配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「開発と統治」をはじめるとあって 担当：三宅
- 第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 担当：伊野
- 第3回 民主化問題を考える視座(2) 担当：伊野
- 第4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめくって 【ミャンマー】 担当：伊野
- 第5回 もっと知りたいアジア-ソーシャルビジネスとユニクロ 【ソーシャルビジネス】  
担当：チョウドリ・三宅
- 第6回 お祭り騒ぎ・内戦模様の今年の総選挙を通して見たバングラデシュの政治活動  
【バングラデシュ】 担当：チョウドリ・三宅
- 第7回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】 担当：チョウドリ・三宅
- 第8回 NGOs活動とし叟社会のガバナンスの変化 【BRAC】 担当：チョウドリ・三宅
- 第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当：申
- 第10回 アメリカにおけるガバナンスと環境 【米国】 担当：申
- 第11回 エネルギー問題にみるガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当：申
- 第12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 担当：三宅
- 第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当：三宅
- 第14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク 【グループワーク】 担当：三宅
- 第15回 まとめ 担当：三宅

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

## キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 米国 子供会 グループワーク

# グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科  
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科  
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

## 授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

木暮太一 (2010) 『経済が世界—シンプルにつかめる本』 明日香出版社。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	シラバス詳細版配布、イントロダクション、概説	【グローバル化】
2回	自由貿易	【比較優位】 【貿易保護】
3回	自由貿易	【WTO】 【FTA】 【TPP】
4回	企業の海外進出と立地	【直接投資】
5回	企業の海外進出と立地	【人件費】 【為替レート】
6回	海外展開に関わる所有戦略	【合併】 【M&A】
7回	経営現地化の視点	【人事現地化】
8回	地場グローバル企業のケースI	【SCM】 【OEM】
9回	地場グローバル企業のケースII	【現地市場志向】
10回	グローバル化と途上国の成長・発展	【開発経済】 【労働移動】
11回	グローバル化と先進国の経済	【格差】 【ジニ係数】
12回	グローバル化と金融危機	【サブプライムローン危機】
13回	グローバル化と金融危機	【欧州危機】 【リーマンショック】
14回	産業・企業のグローバル展開 ( ケーススタディ )	
15回	まとめと総復習	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(ミニテストやレポートなど): およそ20%、学期末試験: およそ80%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。  
 テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史  
 テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粋主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場  
 国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ  
 オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ  
 オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米国同時多発テロ
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 国際社会と日本【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

近現代の国際社会、文化、政治、思想など諸分野の流れをポストコロニアリズムの議論を通じて捉えつつ、今なお継続する植民地主義とわれわれを支配している近代主義を批判的に省察する。

## 教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロニアリズム』作品社、2003、1800円

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○本橋哲也『ポストコロニアリズム』岩波新書、2005

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 毎回、レジユメを配り、その内容について説明する。
- 1回 テクストの紹介、授業のガイダンス
  - 2回 第IV部の総論、姜尚中論文 【今なぜ、ポストコロニアリズムなのか】
  - 3回 前回の補足
  - 4回 第II部の総論、本橋哲也論文【私たちに与るポストコロニアリズム】
  - 5回 第II部の近代、松葉祥一論文
  - 6回 第II部の性・文化、竹村・毛利論文
  - 7回 第II部の日本、小森陽一論文
  - 8回 第II部の第三世界、小倉英敬論文
  - 9回 第II部の国家、嚮田竜蔵論文
  - 10回 第IV部の1、朴一・村井寛志論文【問題提起】
  - 11回 第IV部の2、趙慶喜論文
  - 12回 第IV部の3、高橋哲哉論文
  - 13回 第IV部の4、野村・鄭暎恵論文
  - 14回 第II部とIV部の総括
  - 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

2~3回のレポート70%、授業への熱意30%.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習をしてくること。教科書に登場する概念、人物について自分で調べて見ること。

## 履修上の注意 /Remarks

思想、哲学に関心を寄せること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

近代の呪縛、近代主義、オリエンタリズム、ナショナリズム、植民地主義、二元思考、三元思考、公共性

# 歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

## 教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)  
佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)  
勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)  
イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)  
網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)  
門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)  
鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
  - 2回 『ラスト・サムライ』と武士道
  - 3回 武士道の成立
  - 4回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
  - 5回 『平家物語』を読む②騎馬戦と【言葉戦】
  - 6回 県名を読む①【国郡制】と【幕藩制】
  - 7回 県名を読む②県名と県庁所在地
  - 8回 県名を読む③戊辰戦争
  - 9回 「国語」とは何か?
  - 10回 『国語元年』(ビデオ)を読む(ビデオ)①方言とは何か?
  - 11回 『国語元年』(ビデオ)②標準語とは何か?
  - 12回 網野善彦と日本史の枠組み
  - 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
  - 14回 「桃太郎」と吉備王国
  - 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

受講生100名以上の場合には筆記試験100%、受講生100名以下の場合には授業レポート50%筆記試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

## 授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された見玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

## 教科書 /Textbooks

小林道彦『見玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房）。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山七土殉難事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 見玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

見玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

# そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科  
岩本 真理子 / 比較文化学科, 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科  
伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1980年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、東南アジア、ドイツ、中国、アメリカ（順序不同）、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示いたします。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODakシヨン(小林)
  - 第2・3・4回 日本(小林)【バブル経済】、【昭和の終焉】
  - 第5・6・7回 東南アジア(伊野)【ポルポト政権】
  - 第8・9回 ドイツ(岩本)【ベルリンの壁崩壊】【ドイツ統一】
  - 第10・11回 アメリカ(寺田)【レーガン政権】
  - 第12・13回 中国(下野)【天安門事件】
  - 第14・15回 ポーランド(スピルマン)【「連帯」運動】【ソ連崩壊】
- 以上、順序不同。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%  
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題をできるだけ平易に説明してゆきます。

## 教科書 /Textbooks

毎回用意するレジユメにしたがって授業を進めます。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 野口悠紀雄『戦後日本経済史』新潮選書、2008年
- 三橋規宏・内田茂男・池田吉紀『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞、2011年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目標・戦前と戦後
- 2回 戦後改革
- 3回 経済復興
- 4回 高度成長とそのメカニズム(1)投資と技術革新
- 5回 高度成長とそのメカニズム(2) 対外経済・政府の役割
- 6回 高度成長期の企業システム(1) 企業統治・労使関係
- 7回 高度成長期の企業システム(2) 企業間関係・企業の資金調達
- 8回 高度成長のもたらしたもの
- 9回 高度成長の終焉
- 10回 日本企業の国際競争力
- 11回 バブル経済
- 12回 長期不況と不良債権
- 13回 アジアの成長と日本経済
- 14回 金融危機と日本
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト・レポート25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習事項の復習をきちんとしておくこと

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

## 教科書 /Textbooks

使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり?【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーディズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 自動車と国家対立【貿易摩擦】
- 第12回 生産現場から見た自動車の歴史【自動車の構造】【生産工程】
- 第13回 自動車の開発1【電動化】【知能化】
- 第14回 自動車の開発2【電動化】【知能化】
- 第15回 授業のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% レポート30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

## 履修上の注意 /Remarks

近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

## キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

# 人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師  
新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。  
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。  
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。  
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。  
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

## 教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）  
口述講義（山崎）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
  - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
  - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
  - 第4回 サッチャーと民営化政策
  - 第5回 サッチャーとNHS改革
  - 第6回 サッチャーとビッグバン
  - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
  - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
  - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
  - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
  - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
  - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
  - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
  - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
  - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

\* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

# 人物と時代の歴史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科, 西澤 律子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

### 【授業の概要】

ホスピタリティという言葉は、昨今、日常用語として定着してきたが、実際にはサービスやおもてなしなどの言葉と同義に使われており、正しい理解を得ていないように思われる。現時点においては、ホスピタリティという言葉が先行して、その意味内容と思想の重要性が説明されていない。人と人との関係をさらに良いものへと変えていこうという考え方ないし思想は、営利団体や非営利団体を問わず、重要度を増しており、理論的側面においても実践面においても、十分に認識される必要がある。地方自治体と住民との関係、企業と顧客の関係といった「関係性」を深く考察し、良好な関係作りを模索することは、今後の社会の在り方において重要な示唆を与えてくれる。

### 【授業のねらい】

1. ホスピタリティという言葉が、いかに、サービスや、おもてなしなどの言葉と異なるか、歴史や言葉の起源を辿ることにより固有の意味内容を明らかにする。
2. 現時点において、ホスピタリティについてどのような議論や学説があるか、問題点を整理する。
3. 今後の社会生活において「ホスピタリティ」をどのように活かしていくべきか考察する。

### 【到達目標】

1. ホスピタリティに関する総合的知識を深める。
2. ホスピタリティの視点を持って広く社会生活や企業活動の問題を発見し、より深く分析し解決していく能力を身に付ける。
3. ホスピタリティの理論を学ぶことにより、以後の社会生活の中で実践していく。

## 教科書 /Textbooks

教科書はなし。  
 講義の際、レジュメを配布するので、各自保管すること。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 「ホスピタリティ・マネジメント原論」 服部勝人著 (丸善株式会社)  
 「ホスピタリティ原論」 山本哲士著 (文化科学高等研究院出版局)  
 「真実の瞬間」 ヤン・カールソン著 (ダイヤモンド社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概要 【ホスピタリティの領域】 【授業の進め方】 【学習目標】 【評価方法】
- 2回 ホスピタリティとは何か 【ホスピタリティの歴史と文化】 【西洋のホスピタリティ】 【おもてなし】
- 3回 ホスピタリティの基本 【ホスピタリティとサービスの語源と概念比較】 【ホスピタリティの思考】
- 4回 ホスピタリティと心理学【EQ】 【交流分析】
- 5回 ホスピタリティとマナー 【プロ意識】 【身だしなみ】 【人間関係】 【電話やメール】
- 6回 ホスピタリティとコミュニケーション 【聴き方の基本】 【効果的な話し方】 【言語と非言語】
- 7回 ホスピタリティとビジネス【顧客心理】 【クレーム対応】 【CS他】
- 8回 中間まとめ
- 9回 ホスピタリティ産業の現状 その1 【近年の航空事業の動向】
- 10回 ホスピタリティ産業の現状 その2 【接客現場】 【国際線業務】 【社員教育】
- 11回 ホスピタリティ産業の現状 その3 【宿泊産業におけるホスピタリティ】
- 12回 ホスピタリティと企業 その1 【職場環境】 【内部顧客】 【メンタルヘルス】
- 13回 ホスピタリティと企業 その2 【企業の社会的責任】 【企業の商品開発と社会貢献】
- 14回 ホスピタリティの意義と可能性 【知識とホスピタリティ】 【暗黙知と形式知】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の成績 70%  
 日頃の取り組み 10%  
 授業中に行うミニテストの提出 20%

## 教養特講II ( ホスピタリティ論 ) 【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

### 履修上の注意 /Remarks

特になし

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ホスピタリティの講座は、宿泊産業、旅行業などのホスピタリティ産業に関心がある学生はもちろんのこと、それ以外の業種を考えている学生にとっても、直接的に関わる内容が豊富に含まれています。ホスピタリティの発揮が求められる場合は、学生生活、就職活動、企業での活躍の場、社会生活等無限に広がっていることを知って下さい。講義全体を通して、ホスピタリティの感覚を自然に自分の中に取り込み実践できるように導きます。

### キーワード /Keywords

ホスピタリティ サービス おもてなし EQ 交流分析 暗黙知

# 日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』(講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた中世・近世初期の日朝関係
- 第8回 近世における日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 南洋群島と委任統治
- 第13回 「大日本帝国」の解体
- 第14回 「外国」になった沖縄
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
  - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
  - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
  - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
  - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
  - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
  - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
  - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
  - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
  - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
  - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
  - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
  - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
  - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
  - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%  
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 東洋史 【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジアの特異性について明らかにし、更には、それを通じて東アジアの今後の在り方を自らで模索出来る能力を養うことを目指す。  
一般的に中国の歴史といえば、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の諸民族を吸収・同化しつつ、変容を繰り返しているのである。また、近隣諸民族もその影響を受けつつ、オリジナルな国家形成を行っているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのような関わりは相互に密接なものを有しているといえよう。  
よって、ここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐による世界帝国の形成・衰退までを、中国のみに止まることなく、東アジアという包括的な視座に置き、各時代の政治・経済・外交・思想・文化等の多角的な方面から理解することを掲げる。

## 教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

堀敏一『中国通史 - 問題史としてみる - 』(講談社学術文庫 2000年 1260円)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方遊牧騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と近隣諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱以降における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度...20%・定期試験...80%  
双方向の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。  
特に、講師及び他の学生の集中力を削ぐ行為(私語・音楽を聴く等)は授業妨害とみなし、これを強く禁止すると共に、違反する者には厳しい措置を取る。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習としては、参考書として紹介しているものをあらかじめ読んでおく。  
復習としては、講義中に配布するプリントを見直しておく。

## 履修上の注意 /Remarks

出来れば高校において世界史B及び日本史Bを履修していることが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

先入観に振り回されず、  
今後の世界に大きな影響を与えることが確実な中国の歴史について学ぶことは必要であると同時に大変有益です。

## キーワード /Keywords

東アジア 中国 朝鮮 日本

# 社会学 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。また、現代社会における論争的なトピックを例に社会的分析を行う。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 社会的な考え方とは
- 第3回 社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
- 第4回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1：集合意識と行為
- 第5回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2：『自殺論』
- 第6回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバー1：理解社会学
- 第7回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー2：『プロテスタントイズムの倫理と資本主義の精神』
- 第8回 現代社会の解釈1 - 社会的格差と社会的排除1：どうなっているのか
- 第9回 現代社会の解釈2 - 社会的格差と社会的排除2：なぜそうなるのか
- 第10回 現代社会の解釈3 - 社会的格差と社会的排除3：どうすればよいのか
- 第11回 現代社会の解釈4 - グローバル化とエスニシティ1：どうなっているのか
- 第12回 現代社会の解釈5 - グローバル化とエスニシティ2：なぜそうなるのか
- 第13回 現代社会の解釈6 - グローバル化とエスニシティ3：どうすればよいのか
- 第14回 現代社会の解釈7 - ナショナリズムと排外主義
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

## 教科書 /Textbooks

竹中克行・大城直樹・梶田真・山村亜希 編(2009)『人文地理学』ミネルヴァ書房

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) イントロダクション
- (2) 人口からみる地域とその結びつき (テキスト1章)
- (3) 都市のなりたち (テキスト2章)
- (4) 都市社会の分断を読み解く (テキスト3章)
- (5) グローバル化する農業と農村の再編 (テキスト4章)
- (6) 集中する工場、分散する工場 (テキスト5章)
- (7) 情報化時代の流通システムと小売業 (テキスト6章)
- (8) 地理情報システムが開く新しい社会 (テキスト12章)
- (9) 地理学と公共政策 (テキスト13章)
- (10) 市民・住民運動を通じてとらえる環境問題 (テキスト14章)
- (11) 身近な地域の地誌 (北九州：工業都市の盛衰)
- (12) 身近な地域の地誌 (筑豊：産炭地と産業遺産)
- (13) 身近な地域の地誌 (福岡：広域中心都市)
- (14) 身近な地域の地誌 (下関：交通の変化と地域の変貌)
- (15) まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ( 80% )、日常の授業の取り組み ( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、教科書の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 土地地理学【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用した実習も行い、地理学的知見を高めることを目的とします。

この授業の主な到達目標は以下の通りです。

地域の分析・検討に役立つ地理学の基礎的な知識を習得する。

地域の地理学的分析に必要な基礎的技術を習得する。

習得した知識や技術をもとに、将来の社会実践のなかで、自らのキャリアアップや社会への貢献ができる。

## 教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 「地理的情報の分析手法」(菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著 古今書院)
- 「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
- 2回 地図の役割。【地図の能力】
- 3回 地図の歴史。
- 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
- 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
- 6回 地図記号と景観。【図式】
- 7回 山の地形を地形図から描くI (講義)。【等高線】
- 8回 山の地形を地形図から描くII (実習)。【地形】
- 9回 地図を利用して地表を計測する。【地形計測】
- 10回 地形図を利用して景観を読みとるI(実習)。海岸砂丘の環境と土地利用を読む。
- 11回 地形図を利用して景観を読みとるII(実習)。歴史景観を読む。
- 12回 空中写真の利用。【リモートセンシング】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、ヨーロッパ地域の地誌をテーマとして扱う。ヨーロッパ地域は、古くから世界の政治・経済・文化の中心地であり続けてきた。20世紀後半以降、アメリカや日本・中国をはじめとする東アジア地域の台頭に伴い、その立場には変化が見られているものの、現在でもなお世界に大きな影響力を有している地域の一つであるといえる。ヨーロッパの経済のみならず、政治・文化や自然環境をも含めた総合的な地誌の理解に努めてもらいたい。

## 教科書 /Textbooks

加賀美雅弘 編(2011)『世界地誌シリーズ3 EU』朝倉書店

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) イントロダクション
- (2) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性① - 地形・気候
- (3) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性② - 人種・民族、産業
- (4) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性③ - 人口、交通、国家群
- (5) 総論-統合に向かうヨーロッパの地域特性 (テキスト1章)
- (6) 自然環境と伝統的農業 (テキスト2章)
- (7) 工業地域の形成と発展 (テキスト3章)
- (8) 都市の形成と再生 (テキスト4章)
- (9) 観光地域と観光客流動 (テキスト5章)
- (10) 移民と社会問題 (テキスト6章)
- (11) 地域主義と民族集団 (テキスト7章)
- (12) 東ヨーロッパの農村の変化と特色 (テキスト8章)
- (13) EU市民の暮らし (テキスト9章)
- (14) 統合するヨーロッパと国境地域 (テキスト10章)
- (15) 世界のなかのEU (テキスト11章)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ( 80% )、日常の授業の取り組み ( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、教科書の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

## 教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない(第2版)』(青林書院・2011年)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリスト186・187号(有斐閣・2007年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権総論
- 第4回 人権各論①(人権享有主体)
- 第5回 人権各論②(幸福追求権)
- 第6回 人権各論③(平等原則)
- 第7回 人権各論④(信教の自由)
- 第8回 人権各論⑤(表現の自由)
- 第9回 統治機構①(国民主権)
- 第10回 統治機構②(権力分立)
- 第11回 統治機構③(日本の政治制度)
- 第12回 平和主義①(憲法9条の意義)
- 第13回 平和主義②(戦後日本の安全保障)
- 第14回 平和主義③(憲法9条と裁判所)
- 第15回 日本憲法史

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が確立することを意図している。

## 教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料を配付する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業担当者が必要に応じ、そのつど紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション 倫理学とは何か。
- 第2回 古代ギリシャの倫理(1) ソクラテスの倫理思想 【善と徳】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(2) プラトンの倫理思想 【国家と個人】
- 第4回 古代ギリシャの倫理(3) アリストテレスの倫理思想 【賢慮と公共性】
- 第5回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想 【愛と福音】
- 第6回 キリスト教の倫理(2) アウグスティヌスの倫理思想 【神の国と地上の千年王国】
- 第7回 キリスト教の倫理(3) ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
- 第8回 近代の倫理思想(1) ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(2) スピノザの倫理思想 【知的愛とマルティチュード】
- 第10回 近代の倫理思想(3) カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(4) フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(5) ヘーゲルの倫理思想 【国家と理性】
- 第13回 現代の倫理思想(1) ローレンスの倫理思想 【正義とリベラリズム】
- 第14回 現代の倫理思想(2) ハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む)40パーセント  
定期試験60パーセント

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布した資料を読み、自分なりの整理をしておく。授業中に問題を課すこともあるので、積極的に参加すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむづかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問をして下さい。

## キーワード /Keywords

# エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合い適応できる能力を身につけることを目指します。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 情報漏洩, 著作権問題】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト, 文字コード】
- 4回 コンピュータを構成するもの【CPU, メモリ, 記憶メディア, キーボード, マウス, ディスプレイ】
- 5回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション】
- 6回 電話網とインターネットの違い【回線, パケット, LAN, IPアドレス】
- 7回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 8回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 9回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 10回 自分を守るための知識【暗号化, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 11回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 12回 集合知の可能性とネットワークサービス【Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 13回 著作権をめぐる攻防【著作権, オープンソース, クリエイティブコモンズ】
- 14回 大規模データがもたらすもの【検索エンジン, データベース, データマイニング】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%  
日常の授業への取り組み ... 25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

## キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ

# データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」 日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,  
積極的な授業参加 ( タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む ) ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 ( キーボードで文字を入力する , マウス操作など ) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

## 履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

# データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,  
積極的な授業参加 ( タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む ) ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 ( キーボードで文字を入力する , マウス操作など ) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

## 履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

# データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 岩田 一男 / KAZUO IWATA / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,  
積極的な授業参加 ( タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む ) ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 ( キーボードで文字を入力する , マウス操作など ) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

## 履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

# データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 再履 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,  
積極的な授業参加 ( タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む ) ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 ( キーボードで文字を入力する , マウス操作など ) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

## 履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理



# 情報表現【昼】

担当者名  
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力をみがきます。具体的には、以下のような項目を身につけることができます：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の吟味
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指します。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現(ガイダンス)
- 2回 データの収集(検索エンジン, 情報の信頼性)
- 3回 データの加工(表計算の復習, グラフ, チャート)
- 4回 データの表現(レイアウト, デザイン)
- 5回 論理的な思考法の基礎1(課題発見)
- 6回 論理的な思考法の基礎2(原因分析, 解決手段検討)
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してください。

## 履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に限りがありますので、受講者数調整を実施します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問してください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

## キーワード /Keywords

プレゼンテーション, ロジカルシンキング, マルチメディア

# 情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力をみがきます。具体的には、以下のような項目を身につけることができます：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の吟味
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指します。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現(ガイダンス)
- 2回 データの収集(検索エンジン, 情報の信頼性)
- 3回 データの加工(表計算の復習, グラフ, チャート)
- 4回 データの表現(レイアウト, デザイン)
- 5回 論理的な思考法の基礎1(課題発見)
- 6回 論理的な思考法の基礎2(原因分析, 解決手段検討)
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してください。

## 履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に限りがありますので、受講者数調整を実施します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問してください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

## キーワード /Keywords

プレゼンテーション, ロジカルシンキング, マルチメディア

# 情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力をみがきます。具体的には、以下のような項目を身につけることができます：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の吟味
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指します。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現 (ガイダンス)
- 2回 データの収集 (検索エンジン, 情報の信頼性)
- 3回 データの加工 (表計算の復習, グラフ, チャート)
- 4回 データの表現 (レイアウト, デザイン)
- 5回 論理的な思考法の基礎 1 (課題発見)
- 6回 論理的な思考法の基礎 2 (原因分析, 解決手段検討)
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してください。

## 履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に限りがありますので、受講者数調整を実施します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問してください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

## キーワード /Keywords

プレゼンテーション, ロジカルシンキング, マルチメディア

# プログラミング基礎 【昼】

担当者名  
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書く必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトのマクロ機能を利用して、様々な表作成手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、VBAを用いたプログラムを自分で作成できるようになります。

## 教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラミングとは何か 1【VBA】、【マクロ】
- 2回 プログラミングとは何か 2【フローチャート】
- 3回 プログラミングとは何か 3【構造化プログラミング】
- 4回 VBAの基本構文【Visual Basic Editor】、【Sub】、【デバッグ】
- 5回 VBAを用いた表作成【Borders】、【幅と高さ設定】、【線種設定】、【色設定】
- 6回 メッセージボックスとインプットボックス【MsgBox】、【InputBox】
- 7回 シートとセルの操作【Worksheets】、【Cells】
- 8回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 9回 プログラムの構造 1：条件分岐構造【if 文】
- 10回 プログラムの構造 2：多重の条件分岐構造【if 文のネスト】
- 11回 プログラムの構造 3：ループ構造 1【for 文】
- 12回 プログラムの構造 4：ループ構造 2【while 文】
- 13回 プログラムの構造 5：多方向分岐構造【select 文】
- 14回 フォームの作成【フォーム】、【ボタン】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、積極的な授業参加... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作（タイピング等）をある程度経験しておくとう受講しやすくなります。

## 履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的な内容から解説します。

## キーワード /Keywords

プログラミング、VBA、マクロ、フローチャート

# 英語I ( 比 1 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。また、テキストと併せて洋画のDVDを使用し、TOEIC関連の語句・表現を学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

THE NEXT STAGE TO THE TOEIC® TEST: Intermediate 「CD-ROMで学習するTOEIC®テスト：中級編」ハーバート久代/伊藤佳世子/村上裕美/John C. Herbert著(金星堂、2011年)2205円。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Dining and Shopping [ 形容詞 ]
- 3回 Unit 2 Computers [ 動詞 ]
- 4回 Unit 3 Science and Technology [ 不定詞 ]
- 5回 Unit 4 Entertainment [ 強調、倒置 ]
- 6回 Unit 5 Advertisement [ 否定 ]
- 7回 Unit 6 Medicine [ 使役 ]
- 8回 Unit 7 Transportation [ 仮定法 ]
- 9回 Unit 8 Business Trips [ 分詞 ]
- 10回 Unit 9 Environment [ 助動詞 ]
- 11回 Unit 10 Office Work (1) [ 副詞 ]
- 12回 Unit 11 Economy [ 主語と動詞の一致 ]
- 13回 Unit 12 Industry [ 関係詞 ]
- 14回 Unit 13 Personnel [ 比較 ]
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(40%)と筆記試験(60%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。平常点と筆記試験の配点比率を変更する際は、事前に告知する。  
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次週扱うユニットの問題を解いてくること。  
テキストと辞書の持参。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語I ( 比 1 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of comparative cultures majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Students must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

## 教科書 /Textbooks

Martin Milner, World English 1 with student CD-ROM, Heinle Cengage Learning, 2010 (Textbook must be brought to the first class).

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Good dictionary: bilingual is preferable.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Meet people.
- 第2回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 第3回 Talk about people and occupations. Video Journal : Last of the Woman Divers
- 第4回 Talk about work and free time activities.
- 第5回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 第6回 Video Journal : Hula. Identify possessions
- 第7回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 第8回 Share special travel tips. Video Journal : Beagle Patrol
- 第9回 Talk about food. Order a meal.
- 第10回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 第11回 Video Journal : Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 第12回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 第13回 Discuss adventure holidays. Video Journal : Cheese-Rolling Races
- 第14回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 第15回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%  
Class work and assignments : 70%  
Final examination : 20%  
No credit will be given to students who are absent four or more times.  
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.  
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語I ( 比 1 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

英語検定試験の中でもTOEICは、数多くの企業・団体・学校で採用され、特に社会的ニーズが高い。授業ではTOEICの点数を伸ばすために編纂されたテキストを用い、リスニング、リーディング双方の英語の力を高めていく。

1979年のTOEICテスト導入以来今日まで、英語を必要とする場面、状況は多様化し、特にこの10年の間、インターネットの出現に象徴されるグローバル化が政治・経済・文化など様々な分野に影響を与え、その結果、必要とされる英語能力も変化してきた。この変化を背景に、問題の形式・内容・分量がMore Authentic (より実地的な) に変わってきている。この変化に対応したテキストを用いることで、リスニングは「的確に聞き取る力」、リーディングは「的確に読んですばやく理解する力」を養っていききたい。現実の場面で「機能し」「道具(ツール)」としての英語が運用できるように、TOEICのテキストを使って英語能力を伸ばしていきたい。

## 教科書 /Textbooks

- ① Conquering the TOEIC Test (『新TOEICテスト全パート完全征服ガイド』  
著者：河原真也他 出版社：朝日出版社 ( ¥2,000 )
- ② Interactive English Book for the TOEIC Test Book 2  
著者：Randy Nelms他 出版社：松柏社 ( ¥1,580 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

①のテキストはスクリプトつきである。このテキストの解法を読みエクササイズに答え、各パートの特徴を掴んでいく。次に、②のテキストで多くの問題を制限時間内で解いていくことで、限られた時間内で最大限の効果があげられるようにしていく。①のテキストの使い方は授業中に適宜指示をする。以下に記すLesson 1-15はテキスト②の内容である。

- <第1回> Lesson 1: Disaster (TOEIC Parts 1.5.7)
- <第2回> Lesson 2: Inspiring Women (TOEIC Parts 2.5.6)
- <第3回> Lesson 3: Fashion (TOEIC Parts 3.5)
- <第4回> Lesson 4: Politics (TOEIC Parts 4.5)
- <第5回> Lesson 5: Animals (TOEIC Parts 5.7)
- <第6回> Lesson 6: The Environment (TOEIC Parts 1.5.7)
- <第7回> Lesson 7: Social Issues (TOEIC Parts 2.5.6)
- <第8回> Lesson 8: Sports (TOEIC Parts 3.5)
- <第9回> Lesson 9: The Human Body (TOEIC Parts 4.5)
- <第10回> Lesson 10: Global Economy (TOEIC Parts 5.7)
- <第11回> Lesson 11: Space (TOEIC Parts 1.5.7)
- <第12回> Lesson 12: Food for Thought (TOEIC Parts 2.5.6)
- <第13回> Lesson 13: Globalization (TOEIC Parts 3.5)
- <第14回> Lesson 14: Seniority (TOEIC Parts 4.5)
- <第15回> Lesson 15: Gender and Society (TOEIC Parts 5.7)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20%、定期試験 80%  
出席することは前提であるため、出席点はないが、正当な理由無く欠席を5回以上した場合は、単位は与えない。  
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自宅では辞書をひき、付属CDを聴いて、予習は必ずやっておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

2冊のテキストを用いるので、しっかり予習をし集中して授業に臨むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 英語I ( 比 1 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。  
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

## 教科書 /Textbooks

“Welcome to the TOEIC Test” 『TOEICテストへようこそ』（北原良夫著）朝日出版社 ￥1,800+税

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Pre-test
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 Midterm Testおよび解説
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：70%、Midterm Test：10%、日常の授業への取り組み（小テスト、課題含む）：20%  
最終評価にはTOEICを受験したかどうか反映されるので、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語II ( 比 1 - A ) 【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名 /Instructor  
ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This course has been designed to develop English skills in way that improvement can be measured through higher levels of achievement in the TOEIC test. Additional aims include helping students identify and better manage their own learning. The course also aims to give students an opportunity to write about their own lives in a short English journal. Activities include homework completed before and checked in each lesson, listening and speaking, group discussion of example problems as well as the completion of many TOEIC practice examples provided with the core text.

## 教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 3 Goal 700 2nd edition  
Atsushi Mizumoto, Mark D. Stafford

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction  
Week 2 Unit 1  
Week 3 Unit 2  
Week 4 Unit 3  
Week 5 Unit 4  
Week 6 Unit 5  
Week 7 Unit 6  
Week 8 Mid-Semester Test  
Week 9 Mid-Semester test review  
Week 10 Unit 7  
Week 11 Unit 8  
Week 12 Unit 9  
Week 13 Unit 10  
Week 14 Unit 11  
Week 15 Unit 12

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Final Examination 40%  
Mid-Term examination 30%  
Journal 20%  
Class Participation 10%  
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Dictionary

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語II ( 比 1 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of comparative cultures majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Students must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

## 教科書 /Textbooks

Martin Milner, World English 1 with student CD-ROM, Heinle Cengage Learning, 2010 (Textbook must be brought to the first class).

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Good dictionary: bilingual is preferable.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Talk about past vacation trips. Exchange information about vacations.
- 第2回 Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 第3回 Video Journal : Machu Picchu. Talk about plans.
- 第4回 Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 第5回 Discuss the future. Video Journal : Solar Cooking.
- 第6回 Make comparisons. Explain preferences.
- 第7回 Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 第8回 Video Journal : Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 第9回 Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 第10回 Evaluate your lifestyle. Video Journal : The Science of Stress.
- 第11回 Talk about today's chores. Interview for a job.
- 第12回 Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 第13回 Video Journal : Spacewalk. Talk about managing your money.
- 第14回 Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 第15回 Preventing habitat destruction. Video Journal : Missing Snows of Kilimanjaro.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test : 10%  
Class work and assignments : 70%  
Final examination : 20%  
No credit will be given to students who are absent four or more times.  
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.  
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語II ( 比 1 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

前期にひきつづき、TOEICのテキストを用い、リスニング・リーディング双方の英語運用能力を高めていく。2006年5月から、TOEIC テストはより現実のコミュニケーションに近いMore Authentic (より実地的) な内容にリニューアルされた。このリニューアルされたTOEICテストに100%対応したテキストを用い、文法の理解、正確な読解や聞き取り、思考力など、一連の学習プロセスが相互に作用しあいながら、効果的・相乗的に英語力の向上をはかり、TOEICのスコアアップをねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

[New Version対応] TOEIC Test 総合レッスン (完全模試付)  
編者：今村洋美他 出版社：鶴見書店 (¥2,000)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### テーマ別トレーニング

- 〈第1回〉 Unit 1: Travel and Transportation [品詞]
- 〈第2回〉 Unit 2: Dining Out [時制]
- 〈第3回〉 Unit 3: Purchasing [to 不定詞]
- 〈第4回〉 Unit 4: Entertainment [動名詞]
- 〈第5回〉 Unit 5: Sports and Health [助動詞]
- 〈第6回〉 Unit 6: Housing and Corporate Property [知覚動詞]
- 〈第7回〉 Unit 7: Telephone, E-mail and Letters [使役動詞]
- 〈第8回〉 Unit 8: Personnel [関係代名詞/関係副詞]
- 〈第9回〉 Unit 9: Meetings and Conferences [分詞構文]
- 〈第10回〉 Unit 10: Finance and Budgeting [接続詞/副詞]
- 〈第11回〉 Unit 11: General Business and Offices [仮定法過去]
- 〈第12回〉 Unit 12: Manufacturing and Technology [仮定法過去完了]

### TOEIC Test模擬試験

- 〈第13回〉 模擬試験
- 〈第14回〉 模擬試験
- 〈第15回〉 復習・まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%、期末テスト80%  
出席することは前提であるため、出席点は加味しないが、正当な理由無く欠席を5回以上した場合は単位を与えない。  
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前期の授業でTOEICの問題形式や解法テクニックには十分慣れたと思うので、後期は、英文の構造を読み解いたり、文脈における語の意味を探ったり、と「思考力」を働かせることにも注意を向けてみましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

自宅では辞書をひき、付属CDをよく聴いて、しっかり予習して授業に臨むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語II ( 比 1 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。  
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力、コミュニケーション能力の向上を目標とする。

## 教科書 /Textbooks

“Essential Approach for the TOEIC Test” 『TOEICテストへのニューアプローチ』  
( 大須賀直子共著 ) 成美堂 ¥2,000 + 税

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Pre-test
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 Unit 7
- 9回 Unit 8
- 10回 Unit 9
- 11回 Unit 10
- 12回 Unit 11
- 13回 Unit 12
- 14回 Unit 13
- 15回 Unit 14、まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、課題含む）：30%  
ただし最終評価にはTOEICのスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語III ( 比 1 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor リズ・クレシーニ / Riz CRESCINI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This is an English Communication course. Focus will be on improving the four major English skills-speaking, listening, reading and writing. Various communication activities, individual/group work, and presentations will be used in class to facilitate the acquisition of these skills. Upon completion of this course, students should have increased confidence in their ability to speak and understand English and communicate more confidently in English with those around them.

## 教科書 /Textbooks

Interchange Book 2 with Audio CD (Third Edition) by Jack C. Richards (Cambridge University Press) as well as materials prepared by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week One: Course Introduction  
 Week Two: Unit 1 "A Time to Remember" People; childhood; memories  
 Week Three: Unit 1 "A Time to Remember" Practice and wrap up  
 Week Four: Unit 13 "Good Book, Terrible Movie!" Entertainment; movies and books; reactions and opinions  
 Week Five: Unit 13 "Good Book, Terrible Movie!" Practice and wrap up  
 Week Six: Unit 16 "What's Your Excuse?" Requests; excuses; invitations  
 Week Seven: Unit 16 "What's Your Excuse?" Practice and wrap-up  
 Week Eight: Midterm Review  
 Week Nine: Unit 5 "Going Places" Travel; vacations; plans  
 Week Ten: Unit 5 "Going Places" Practice and wrap-up  
 Week Eleven: Unit 11 "It's Really Worth Seeing!" Landmarks and monuments; world knowledge  
 Week Twelve: Unit 11 "It's Really Worth Seeing!" Practice and wrap-up  
 Week Thirteen: Unit 4 "I've Never Heard of That!" Food; recipes; instructions; cooking methods  
 Week Fourteen: Unit 8 "Let's Celebrate!" Holidays; festivals; customs; celebrations  
 Week Fifteen: Final Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation - 20%  
 Reports - 20%  
 Quizzes and Presentations - 20%  
 Final Exam - 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are expected to bring the following to class: 1) textbook 2) notebook 3) clear file or folder 4) electronic dictionary. In addition, READ English books to increase your vocabulary. Write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation whenever you can. WATCH English movies and LISTEN to English music in order to create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

## 履修上の注意 /Remarks

None

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English Communication class, so all students are expected to speak English as much as possible. Your instructor will do the same. The instructor will provide a fun, learning environment for the students. Thomas Jefferson once said, "Nothing can stop the man with the right mental attitude from achieving his goal; nothing on earth can help the man with the wrong mental attitude." Having the right attitude for learning English will help the student achieve the goals for this class.

## キーワード /Keywords

English communication

# 英語III ( 比 1 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

## 教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class English for Tourism 2, Cengage

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Orientation
- 2 回Asking for personal information.
- 3 回Giving directions
- 4 回Taking messages
- 5 回Ordering in restaurants
- 6 回Making recommendations
- 7 回Asking about preferences
- 8 回Offering alternatives
- 9 回Talking about schedules
- 1 0 回Complaining about problems
- 1 1 回Solving problems
- 1 2 回Travel itineraries
- 1 3 回Changing reservations
- 1 4 回Reacting to schedule changes
- 1 5 回Student Presentations

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy communicating in English. Good luck in 2013-14!

## キーワード /Keywords

トラベル英会話

# 英語III ( 比 1 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

**授業の概要 /Course Description**  
 This course will focus on reading and discussion. There will be a different topic every week. Each unit of the book will have vocabulary support, a main article, comprehension questions, some writing concerning advantages and disadvantages( critical thinking), and class discussion. Each unit will take one class to complete. The topics are varied and interesting and are liked by most students.

**教科書 /Textbooks**  
 Life Topics by T. Shimaoka and J. Berman (Nan'Un-Do)

**参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )**  
 Dictionary, (Jap-Eng, Eng-Jap)

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**

- 第 1 回 Course introduction, self-introduction, and expectations for the course.
- 第 2 回 Unit 1 The beauty of the seasons
- 第 3 回 The history of the hamburger
- 第 4 回 The importance of English
- 第 5 回 How the Internet evolved
- 第 6 回 Liquid candy
- 第 7 回 Travel in Japan
- 第 8 回 The secret of happiness
- 第 9 回 Shopping on the Internet
- 第 1 0 回 Do aliens and UFOs exist?
- 第 1 1 回 The happiest country in the world
- 第 1 2 回 Secondhand smoke
- 第 1 3 回 Review
- 第 1 4 回 Discussion
- 第 1 5 回 まとめ

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 Effort and Attitude 30% Exam 70%  
 Good attendance will be expected to earn this credit.

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
 Read the weekly article ahead of time

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**  
 Please do your best

**キーワード /Keywords**



# 英語III ( 比 1 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次  
単位 /Credits: 1単位  
学期 /Semester: 1学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 比 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

## 教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

No references

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.  
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

## 履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語Ⅳ ( 比 1 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor リズ・クレシーニ / Riz CRESCINI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This is an English Communication course. This course will build on the speaking, listening, reading and writing skills achieved in the previous semester course. Various communication activities, individual/group work, and presentations will be used in class to facilitate the acquisition of these skills.

## 教科書 /Textbooks

Interchange Book 2 with Audio Cd (Third Edition) by Jack C. Richards (Cambridge University Press) as well as materials prepared by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week One: Course Introduction and Review  
 Week Two: Unit 3 "Time for a Change!" Houses and apartments; lifestyle changes; wishes  
 Week Three: Unit 3 "Time for a Change!" Practice and wrap up  
 Week Four: Unit 6 "OK. No Problem!" Complaints; household chores; requests; excuses; apologies  
 Week Five: Unit 6 "OK. No Problem!" Practice and wrap up  
 Week Six: Unit 7 "What's This For?" Technology; instructions  
 Week Seven: Unit 7 "What's This For?" Practice and wrap up  
 Week Eight: Midterm Review  
 Week Nine: Unit 9 "Back to the Future" Life in the past, present, and future; changes and contrasts; consequences  
 Week Ten: Unit 9 "Back to the Future" Practice and wrap up  
 Week Eleven: Unit 15 "What Would You Do?" Money; hopes; predicaments; speculations  
 Week Twelve: Unit 15 "What Would You Do?" Practice and wrap up  
 Week Thirteen: Unit 10 "I Don't Like Workin on Weekends!" Abilities and skills; job preferences; personality traits; careers  
 Week Fourteen: Unit 10 "I Don't Like Workin on Weekends!" Practice and wrap up  
 Week Fifteen: Final Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation - 20%  
 Reports - 20%  
 Quizzes and Presentations - 20%  
 Final Exam - 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are expected to bring the following to class: 1) textbook 2) notebook 3) clear file or folder 4) electronic dictionary. In addition, READ English books to increase your vocabulary. Write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation whenever you can. WATCH English movies and LISTEN to English music in order to create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

## 履修上の注意 /Remarks

None

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English Communication class, so all students are expected to speak English as much as possible. Your instructor will do the same. The instructor will provide a fun, learning environment for the students. Thomas Jefferson once said, "Nothing can stop the man with the right mental attitude from achieving his goal; nothing on earth can help the man with the wrong mental attitude." Having the right attitude for learning English will help the student achieve the goals for this class.

## キーワード /Keywords

English communication

# 英語Ⅳ ( 比 1 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

## 教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class English for Tourism 2, Cengage

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Student Presentations – Summer Holidays
- 2 回 Checking in
- 3 回 Checking out
- 4 回 Immigration controls
- 5 回 Discussing prices and bargaining
- 6 回 Changing money
- 7 回 Extra charges
- 8 回 Recommending and giving travel advice
- 9 回 Fixing problems
- 1 0 回 Clarifying information
- 1 1 回 Claiming VAT refunds
- 1 2 回 Applying for visas
- 1 3 回 Phone reservations
- 1 4 回 Online reservations
- 1 5 回 Saying goodbye to guests and customers

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy communicating in English. Good luck in 2013-14!

## キーワード /Keywords

トラベル英会話

# 英語Ⅳ ( 比 1 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This course will focus on reading and discussion. There will be a different topic every week. Each unit of the book will have vocabulary support, a main article, comprehension questions, some writing concerning advantages and disadvantages( critical thinking), and class discussion. Each unit will take one class to complete. The topics are varied and interesting and are liked by most students.

## 教科書 /Textbooks

Life Topics by T. Shimaoka and J. Berman

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary (Jap-Eng, Eng-Jap)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 My summer holiday
- 第 2 回 Unit 12 Plastic surgery
- 第 3 回 What colors tell about you
- 第 4 回 Free music
- 第 5 回 Ghosts
- 第 6 回 Fast food and health
- 第 7 回 Artificial insemination
- 第 8 回 The dangers of credit cards
- 第 9 回 Young men: No girls, no money
- 第 1 0 回 Old media and new media
- 第 1 1 回 Women in college
- 第 1 2 回 Gene therapy
- 第 1 3 回 Review
- 第 1 4 回 Discussion
- 第 1 5 回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Effort and Attitude 30% Exam 70%  
Good attendance will be expected to earn this credit.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the weekly article ahead of time

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please do your best

## キーワード /Keywords

# 英語Ⅳ ( 比 1 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力定着のため、英語によるコミュニケーション力の基盤作りを目的とする授業を行う。加えて、英語圏の文化知識の理解も深めることを目指したい。講義全体のキーワードは「会話のための文法力」、「異文化理解」、「コミュニケーション力」です。

## 教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。  
その他、適宜プリントを用いる。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Pre-test
- 3回 Daily Life ( 1 )
- 4回 Daily Life ( 2 )
- 5回 Family Member
- 6回 Time Expression
- 7回 Place Expression ( 1 )
- 8回 Place Expression ( 2 )
- 9回 On the Telephone
- 10回 Student Housing
- 11回 Student Activities ( 1 )
- 12回 Student Activities ( 2 )
- 13回 Complaining
- 14回 Negotiations
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況 ( 小テストを含む)...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語V ( 比2 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor                      ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year      2年次      単位 /Credits      1単位      学期 /Semester      1学期      授業形態 /Class Format      講義      クラス /Class      比2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This course has been designed to help students develop their English skills in way that is reflected through progress to higher levels of achievement in the TOEIC test. Additional aims include helping students identify and better manage their own learning as well as giving students an opportunity to write about their own lives in a short English journal. Activities include homework completed before and checked in each lesson, listening and speaking, group discussion of example problems as well as the completion of many TOEIC practice examples provided with the core text.

## 教科書 /Textbooks

Tactics for TOEIC Listening and Reading  
 Grant Trew  
 OXFORD University Press

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction  
 Week 2 Unit 1  
 Week 3 Unit 2  
 Week 4 Unit 3  
 Week 5 Unit 4  
 Week 6 Unit 5  
 Week 7 Unit 6  
 Week 8 Mid-Semester Test  
 Week 9 Mid-Semester Test Feedback  
 Week 10 Unit 7  
 Week 11 Unit 8  
 Week 12 Unit 9  
 Week 13 Unit 10  
 Week 14 Unit 11  
 Week 15 Journal Review and Test Preparation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Journal 20%  
 End of Semester Test 40%  
 Mid-Semester Test 30%  
 Class Participation 10%  
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Journal Writing  
 Completion of assigned homework exercises

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Everybody can benefit from this course. Let's enjoy improving our English skills together!

キーワード /Keywords

# 英語V ( 比2 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 リスニング プレテスト
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット1
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット1
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット1
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット1
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット1
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット1
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット1
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット1
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット1
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット1
- 14回 リスニング ポストテスト
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 英語V ( 比2 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

## 教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 1 (Second Edition)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取組み ... 10%  
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語V ( 比2 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

## 教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1995

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 4回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 5回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 6回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 7回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 8回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 9回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 10回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 11回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 12回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Testと復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語VI ( 比2 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

## 教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1995

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 4回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 5回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 6回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 7回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 8回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 9回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 10回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 11回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 12回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Testと復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。  
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語VI ( 比2 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

## 教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取組み ... 10%  
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語VI ( 比2 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 リスニング プレテスト
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット1
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット1
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット1
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット1
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット1
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット1
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット1
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット1
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット1
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット1
- 14回 リスニング ポストテスト
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語VI ( 比2 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

### [授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト(10分)を毎回実施。教科書及び新公式問題集より出題
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Listening Section、Grammar Section、Reading Section の練習問題をやる。

### [授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。  
特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。  
また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

## 教科書 /Textbooks

『Best shot for the TOEIC Test』 著者：上條武、Braven Smillie ￥1,900  
出版社：金星堂 2012年2月発行

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

TOEICテスト新公式問題集 Vol.5 (発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Living Arrangements [ 自動詞、他動詞 ]
- 3回 Unit 2 Entertainment [ 時制 ]
- 4回 Unit 3 Traffic and Transportation [ 能動態、受動態 ]
- 5回 Unit 4 Travel [ 助動詞 ]
- 6回 Unit 5 Office Work [ 不定詞、動名詞 ]
- 7回 Unit 6 Marketing [ 現在分詞、過去分詞 ]
- 8回 Unit 7 Purchasing [ 類義語① ]
- 9回 Unit 8 Technology [ 長文穴埋め問題 ]
- 10回 Unit 9 Personnel [ 類義語② ]
- 11回 Unit 10 Finance and Money [ 関係詞① ]
- 13回 Unit 11 News media [ 関係詞② ]
- 12回 Unit 12 Press Release [ 接続詞、前置詞① ]
- 14回 Unit 13 Research [ 接続詞、前置詞② ]
- 15回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する)(20%)
- ③ 期末考査(60%)+TOEIC受験結果  
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典持参のこと。(電子辞書も可)

## 履修上の注意 /Remarks

発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。  
少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

# 英語VII ( 比2 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor                      ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 2年次                      単位                      1単位                      学期                      1学期                      授業形態                      講義                      クラス                      比2 - A  
/Year                      /Credits                      /Semester                      /Class Format                      /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

## 教科書 /Textbooks

『Conversations in class: new edition』 (2009) Richmond, S. and Vannieu, B., Alma Publishing ( アルマ出版 ) ¥2520

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無し

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 英語VII ( 比2 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次  
単位 /Credits: 1単位  
学期 /Semester: 1学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 比2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

## 教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

No references

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.  
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

## 履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語VII ( 比 2 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 比 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This course uses high-interest themes to intergrate speaking, grammar, accuracy and fluency. The underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication

## 教科書 /Textbooks

Interchange 3- third edition J.C Richards, J. Hull and S. Proctor Cambridge University Press

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

An English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Describing personalities, expressing likes and dislikes, agreeing and disagreeing
- 2 回 Writing a description of a best friend and listening for opinions
- 3 回 Talking about unusual careers, decribing jobs, discussing the pros and cons
- 4 回 Stress with compound nouns and writing about career advantages and disadvantages
- 5 回 Making unusual requests and indirect requests and requests with modals
- 6 回 Writing an informal e-mail request and unreleased consonants
- 7 回 Describing events is the past and writing a newspaper article
- 8 回 Talking about moving abroad and noun phrases containing relative clauses
- 9 回 Writing a tourist pamphlet and word stress in sentences
- 1 0 回 Describing problems and making complaints and describing problems with past participles
- 1 1 回 The passive in the present continuous and the present perfect and the reduction of auxiliary verbs
- 1 2 回 Writing a letter to the editor
- 1 3 回 Asking about preferences and discussing pros and cons, 'would rather' and 'would prefer'
- 1 4 回 Intionation in questions of choice
- 1 5 回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

20% peer journal 80% exam

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to write a peer journal with a partner in the class. They will write about 100 words about their weekly activities. The students will then exchange them and respond to what their partner has written.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語VII ( 比2 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。  
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力、コミュニケーション能力の向上を目標とする。

## 教科書 /Textbooks

“Essential Approach for the TOEIC Test” 『TOEICテストへのニューアプローチ』  
( 大須賀直子共著 ) 成美堂 ¥2,000 + 税

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Pre-test
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 Unit 7
- 9回 Unit 8
- 10回 Unit 9
- 11回 Unit 10
- 12回 Unit 11
- 13回 Unit 12
- 14回 Unit 13
- 15回 Unit 14、まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：70%、日常の授業への取り組み(小テスト、課題含む)：30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語VIII ( 比 2 - A ) 【昼】

担当者名 /Instructor                      ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year                      2年次                      単位 /Credits                      1単位                      学期 /Semester                      2学期                      授業形態 /Class Format                      講義                      クラス /Class                      比 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

## 教科書 /Textbooks

『Longman English Interactive Online, Level 2/American English Student Access』(2008) Rost, M., Pearson Education, ¥ 3500

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course and online resources
- 2回 Registering in the online course
- 3回 Greetings, occupations
- 4回 Introducing other people
- 5回 Food and restaurants
- 6回 Talking about one's weekend
- 7回 Talking about technology
- 8回 Talking about illness and health
- 9回 Giving directions
- 10回 Making plans
- 11回 Talking about shopping
- 12回 Talking about household chores
- 13回 Giving advice
- 14回 Talking about apartments and houses
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語VIII ( 比 2 - B ) 【昼】

担当者名 /Instructor                      ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次                      単位 1単位                      学期 2学期                      授業形態 講義                      クラス 比 2 - B  
/Year                      /Credits                      /Semester                      /Class Format                      /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.  
The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

## 教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

No references

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques
- Week 8 Control Techniques
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting
- Week 11 Charting
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.  
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

## 履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語VIII ( 比2 - C ) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ガラフ・ステイール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

**授業の概要 /Course Description**  
This course uses high interest themes to intergrate speaking, grammar, vocabulary, pronunciation, listening, reading and writing. There is a strong focus on both accuracy and fluency. The underlying philosophy of the course remains that language is best learned when it is used for meaningful communication

**教科書 /Textbooks**  
Interchange 3 third edition J.C Richards, J. Hull and S. Proctor

**参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )**  
An English dictionary

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1 回 Talking about things you need to have done
  - 2 回 Writing a letter of advise and sentence stress
  - 3 回 Talking about the future and things to be accomplished
  - 4 回 Writing a biography in relation to a famous person
  - 5 回 Describing rites of passage and turning points
  - 6 回 Writing a letter of apology and reduction of 'have' and 'been'
  - 7 回 Describing qualities for success, giving features and reasons
  - 8 回 Writing about a predicament with reference to personal experience
  - 9 回 Describing how something is done or made
  - 1 0 回 Stress in compound nouns and about a process
  - 1 1 回 Giving opinions for and against and recommendations
  - 1 2 回 Writing a letter to a community leader and intonation in tag questions
  - 1 3 回 Giving opinions for and against controversial issues
  - 1 4 回 Writing a personal statement for an application
  - 1 5 回 Review

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
20% peer journal and 80% exam

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
Students will be expected to write a peer journal with a partner about weekly activities. The students will exchange the peer journal and reply to what their partner has written.

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 英語VIII ( 比2 - D ) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

**授業の概要 /Course Description**  
 Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

**教科書 /Textbooks**  
 No textbook

**参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )**  
 none

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**

- 1 回 Introduction and course objectives
- 2 回 Social issues in the world
- 3 回 Research of social issues
- 4 回 Expansion of social issues
- 5 回 Consolidation of social issues
- 6 回 First group: Presentation and discussion
- 7 回 Second Group: Presentation and discussion
- 8 回 Analysis and Advice
- 9 回 Political issues in the world
- 1 0 回 Research of political issues
- 1 1 回 Expansion of political issues
- 1 2 回 Consolidation of political issues
- 1 3 回 Third Group: Presentation and discussion
- 1 4 回 Fourth Group: Presentation and discussion
- 1 5 回 Summary and exam preparation

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 class participation 40%, homework 20%, presentations 20%, exam 20%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
 Japanese-English dictionary

**履修上の注意 /Remarks**  
 none

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 英語IX ( 比人 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 比人3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

時事英語を題材にし、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

## 教科書 /Textbooks

毎回、プリント配布予定。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 政治
- 3回 ビジネス
- 4回 外交
- 5回 司法
- 6回 災害
- 7回 スポーツ
- 8回 まとめ(1)
- 9回 海外事情
- 10回 科学
- 11回 文化(1)
- 12回 文化(2)
- 13回 環境(1)
- 14回 環境(2)
- 15回 まとめ(2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...35% 課題・小テスト ... 35% 期末試験 ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 英語X ( 比人 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比人3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

時事英語を題材にし、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

## 教科書 /Textbooks

毎回、プリント配布予定。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 政治
- 3回 ビジネス
- 4回 外交
- 5回 司法
- 6回 災害
- 7回 スポーツ
- 8回 まとめ(1)
- 9回 海外事情
- 10回 科学
- 11回 文化(1)
- 12回 文化(2)
- 13回 環境(1)
- 14回 環境(2)
- 15回 まとめ(2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...35% 課題・小テスト ... 35% 期末試験 ... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語XI ( 比人 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Communicative English skills

## 教科書 /Textbooks

English in Common (Pearson)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

電子辞典

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (Relationships)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (In the Media)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Home sweet home)
- 第 6 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 7 回: Unit 4 and discussion in English (Wealth)
- 第 8 回: Unit 5 and discussion in English (Spare time)
- 第 9 回: Unit 6 and discussion in English (Travel tales)
- 第 10 回: Unit 7 and discussion in English (Lifelong learning)
- 第 11 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 12 回: Unit 8 and discussion in English (Making changes)
- 第 13 回: Unit 9 and discussion in English (On the job)
- 第 14 回: Unit 10 and discussion in English (Memories of you)
- 第 15 回: Class presentations (Original Topics)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and semester test

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

As instructed by teacher

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Lets enjoy learning English together

## キーワード /Keywords

Meet people \ Make friends \ Have fun!

# 英語XII ( 比人 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比人 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Communicative English skills

## 教科書 /Textbooks

English in Common 5 (Pearson)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

電子辞典

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (Making connections)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (Making a living)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Lessons from history)
- 第 6 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 7 回: Unit 4 and discussion in English (Taking risks)
- 第 8 回: Unit 5 and discussion in English (Looking back)
- 第 9 回: Unit 6 and discussion in English (Exploring the world)
- 第 10 回: Unit 7 and discussion in English (Indulging yourself)
- 第 11 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 12 回: Unit 8 and discussion in English (Aiming for success)
- 第 13 回: Unit 9 and discussion in English (Crime solvers)
- 第 14 回: Unit 10 and discussion in English (Mind matters)
- 第 15 回: Class presentations (Original Topics)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and semester test

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

As directed by teacher

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Lets enjoy learning English together

## キーワード /Keywords

Meet people \ Make friends \ Have fun!

# 中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。  
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。  
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。  
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『西遊記』 < 試用本 > (『中国秀シリーズ』編集委員会)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介(本文)
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京(本文)
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津(本文)
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海(本文)
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州(本文)
- 14回 前期のまとめ(1)
- 15回 前期のまとめ(2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。  
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。  
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。  
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『西遊記』 < 試用本 > (『中国秀シリーズ』編集委員会)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介(本文)
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京(本文)
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津(本文)
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海(本文)
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州(本文)
- 14回 前期のまとめ(1)
- 15回 前期のまとめ(2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。  
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。  
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。  
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏(本文)
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽(本文)
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都(本文)
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明(本文)
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州(本文)
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連(本文)
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介(本文)
- 15回 後期のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。  
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。  
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。  
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏(本文)
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽(本文)
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都(本文)
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明(本文)
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州(本文)
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連(本文)
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介(本文)
- 15回 後期のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

## 教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [ 総合編集のコピー配布 ]

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音1と複母音1
3. 子音2と複母音2・基本挨拶
4. 鼻母音・音節と音便・教室用語
5. 発音の復習とまとめ
6. 「自己紹介」（判断文・疑問文1・人称代名詞）
7. 復習と実用練習
8. 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文2）
9. 復習と実用練習
10. 「両替」（願望表現・数字・場所）
11. 復習と実用練習
12. 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
13. 復習と実用練習
14. 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
15. 復習と実用練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



## キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

# 中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 妮 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
  - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
  - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
  - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『西遊記』<試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして(会話文)
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国(会話文)
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて(会話文)
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通(会話文)
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光(会話文)
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

## 教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [ 総合編集のコピー配布 ]

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

# 中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 妮 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	比 1年						
対象入学年度 /Year of School Entrance				2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
  - (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
  - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
  - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『西遊記』 < 試用本 > (『中国秀シリーズ』編集委員会)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物(会話文)
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて(会話文)
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて(会話文)
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話(会話文)
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味(会話文)
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い(会話文)
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて(会話文)
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 比2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(本文) ポイント説明
- 2回 第二課 東京(本文)
- 3回 第二課 ポイント説明
- 4回 第三課 横浜(本文)
- 5回 第三課 ポイント説明
- 6回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 7回 第四課 ポイント説明
- 8回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 9回 第五課 ポイント説明
- 10回 第六課 京都(本文)
- 11回 第六課 ポイント説明
- 12回 第七課 奈良(本文)
- 13回 第七課 ポイント説明
- 14回 第八課 大阪(本文)
- 15回 第八課 ポイント説明

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (本文)
- 2回 第九課 ポイント説明
- 3回 第十課 九州 (本文)
- 4回 第十課 ポイント説明
- 5回 第十一課 福岡 (本文)
- 6回 第十一課 ポイント説明
- 7回 第十二課 佐賀 (本文)
- 8回 第十二課 ポイント説明
- 9回 第十三課 長崎 (本文)
- 10回 第一三課 ポイント説明
- 11回 第十四課 四国 (本文)
- 12回 第十四課 ポイント説明
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (本文)
- 14回 第十五課 ポイント説明
- 15回 後期のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。  
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語Ⅶ【昼】

担当者名 王 妮 / 国際教育交流センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 比2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書(CASIO等)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語VIII 【昼】

担当者名 王 妮 / 国際教育交流センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

## 教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州 (会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡 (会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀 (会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎 (会話)
- 10回 第一三課 練習
- 11回 第十四課 四国 (会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 後期のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

# 中国語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。  
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。  
主にビジネスに関する文章の学習を行い、聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。  
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

## 教科書 /Textbooks

「実感から学ぶ中国語 - 中国で公務」日本語版、高等教育出版社（北京）、2010年3月  
「体験漢語 - 公務編」

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて参考資料を配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期  
第1回 第1課 単語練習、聴解練習  
第2回 第1課 会話、作文練習  
第3回 第1課 場面の体験  
第4回 第2課 単語練習、聴解練習  
第5回 第2課 会話、作文練習  
第6回 第2課 場面の体験  
第7回 第3課 単語練習、聴解練習  
第8回 第3課 会話、作文練習  
第9回 第3課 場面の体験  
第10回 第4課 単語練習、聴解練習  
第11回 第4課 会話、作文練習  
第12回 第4課 場面の体験  
第13回 第5課 単語練習、聴解練習  
第14回 第5課 会話、作文練習  
第15回 第5課 場面の体験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表20% 定期試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習および復習する必要がある。

## 履修上の注意 /Remarks

できるだけ欠席しないこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

## キーワード /Keywords

ビジネス単語、会話、ビジネス作文

# 上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。  
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。  
主にビジネスに関する文章の学習を行い、聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。  
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

## 教科書 /Textbooks

「実感から学ぶ中国語 - 中国で公務」日本語版、高等教育出版社（北京）、2010年3月  
「体験漢語 - 公務編」

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて参考資料を配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期

- 第1回 第6課 単語、聴解練習
- 第2回 第6課 会話、作文練習
- 第3回 第6課 場面の体験
- 第4回 第7課 単語、聴解練習
- 第5回 第7課 会話、作文練習
- 第6回 第7課 場面の体験
- 第7回 第8課 単語、聴解練習
- 第8回 第8課 会話、作文練習
- 第9回 第8課 場面の体験
- 第10回 第9課 単語、聴解練習
- 第11回 第9課 会話、作文練習
- 第12回 第9課 場面の体験
- 第13回 第10課 単語、聴解練習
- 第14回 第10課 会話、作文練習
- 第15回 第10課 場面の体験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表20% 定期試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習する必要がある。

## 履修上の注意 /Remarks

できるだけ欠席しないこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

## キーワード /Keywords

ビジネス単語、会話、ビジネス作文

# 上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立つ能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

## 教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
- 2回 面接、【動詞と時量】
- 3回 電話を掛ける【呼び方】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
- 6回 約束【全面否定・肯定】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 空港への出迎え【願望】
- 9回 食事に招待する【比況表現】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 町を見物する【軽量表現】
- 12回 空港見送り【仮定表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 ホテルの予約【起点・終点】
- 15回 総合復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心とする反復練習を望む。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語は単なる知識ではなく、能力である。車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

## キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化



# 上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英国済営比人 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立つ能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

## 教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
- 2回 税関で【結果補語1】
- 3回 タクシーに乗る【距離表現】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 チェックイン【受身主語文】
- 6回 道をたずねる【連鎖表現】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 両替【等分表現】
- 9回 レストランで食事する【結果補語2】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 サンプルを送る【比較表現】
- 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
- 15回 総合復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心とする反復練習を望む。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語は単なる知識ではなく、能力である。車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

## キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

# 朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。

この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩(改訂版)』 厳基珠、金三順ほか(白水社) ISBN978-4-560-01784-5  
、担当者が作ったプリントとメディア資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)  
李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長(朝日出版社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音】
- 4回 文字の発音及び書き順3【濃音】【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 文字の発音及び書き順4【母音2】
- 6回 文字の発音及び書き順5【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 7回 発音の法則【連音化】【激音化】【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】単語読みと書き取りのドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞【ある・無い】【～に】
- 13回 指示・人称代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど表】【何、なぜ、誰 等】
- 14回 かしこまった丁寧形1
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅲの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい韓国語授業にしたいと思います。そうするためには皆様の力も必要ですので、一緒に頑張りましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

教科書：『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、白水社）定価2,200円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考図書：辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 母音 ( 1 )
3. 子音 ( 1 )
4. 子音 ( 2 )
5. 子音 ( 3 )
6. 子音 ( 4 )
7. 子音 ( 5 )
8. 母音 ( 2 )
9. 終声 ( 1 )
10. 発音の変化 ( 1 )
11. 発音の変化 ( 2 )
12. 【指定詞の丁寧形】
13. 【指定詞の丁寧形・疑問】
14. 【指定詞の丁寧形・否定】
15. 【指定詞の丁寧形・否定の疑問】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%  
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%  
学期末試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor                                  チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year                  1年次                  単位 /Credits                  1単位                  学期 /Semester                  2学期                  授業形態 /Class Format                  講義                  クラス 比 /Class                  比1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

**授業の概要 /Course Description**  
 日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現によって異なる言葉遣いにおける学習、短文の読解ができるための基礎文法を学習することを目標とする。

**教科書 /Textbooks**  
 『韓国語の初歩（改訂版）』巖基珠、金三順ほか（白水社）ISBN978-4-560-01784-5、  
 担当者が作ったプリントとメディア資料

**参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )**  
 油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）  
 李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 朝鮮語Iの学習内容確認、丁寧形1
  - 2回 否定形2
  - 3回 漢数字【1～、分数・小数】【電話番号】【年月日】【誕生日】
  - 4回 固有数字【年齢】【時刻】
  - 5回 助詞
  - 6回 丁寧形2【打ち解けた丁寧形】
  - 7回 丁寧形2【打ち解けた丁寧形】ドリル
  - 8回 敬語1
  - 9回 敬語2
  - 10回 敬語3
  - 11回 過去形【합시다体の過去】【해요体の過去】【日記】
  - 12回 過去形の及びドリル
  - 13回 好み
  - 14回 注文
  - 15回 まとめ

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 平常の学習状況...25%      課題...25%      期末試験...50%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
 受講生はこの講義と朝鮮語IVの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**  
 文法をしっかり勉強すると会話が楽しくなりますので、一緒に頑張りましょう。

**キーワード /Keywords**

# 朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

## 教科書 /Textbooks

教科書：『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、白水社）定価2,200円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考図書：辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 前期のまとめ、
- 2 . 【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3 . 【動詞と形容詞の丁寧形・疑問】
- 4 . 【動詞と形容詞の丁寧形】
- 5 . 【漢数詞】【固有数詞】
- 6 . 【動詞と形容詞の丁寧形・否定】
- 7 . 【指定詞の打ちとけた丁寧形・疑問と否定】
- 8 . 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形】
- 9 . 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・変則活用】
- 10 . 【尊敬表現の丁寧形・疑問と否定】
- 11 . 【尊敬表現のうちとけた丁寧形・疑問と否定】
- 12 . 【動詞と形容詞の丁寧形・過去】
- 13 . 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・過去】
- 14 . 【意思・推量・婉曲表現】
- 15 . 【願望表現】【勧誘表現】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%  
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%  
学期末試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名  
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次  
/Year

単位 1単位  
/Credits

学期 1学期  
/Semester

授業形態 講義  
/Class Format

クラス 比1年  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル(文字)と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)、担当者が作ったプリントとメディア資料

## 参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長(朝日出版社)  
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【~ですか】【はい、いいえ】【~ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、セスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【~に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義と朝鮮語Iの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっておりますので、楽しい韓国語を学びましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

## 教科書 /Textbooks

金順玉 他 『新チャレンジ! 韓国語』、白水社 (2009年3月)、2,300円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
平常点50%(小テスト・課題・態度)、 定期試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をすること。  
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor: チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	比 1年						
対象入学年度 /Year of School Entrance				2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	○	○	○	

**授業の概要 /Course Description**  
日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法における類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

**教科書 /Textbooks**  
金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)、担当者が作ったプリントとメディア資料

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)  
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形 1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
  - 2回 助詞 1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字 1【【おいくらですか】【買い物】
  - 3回 助詞 2、漢数字 2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日?】
  - 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
  - 5回 丁寧形 2【해요体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
  - 6回 丁寧形 2【해요体】文章に於いての丁寧形ドリル
  - 7回 「해요体」の不規則、固有数字 1【一つ、二つ...】
  - 8回 「해요体」のドリル、固有数字 2【おいくつですか】
  - 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
  - 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【相づち】
  - 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
  - 12回 否定及び不可能表現【ヘアの質問と応答練習】【못~,~지 못해요】
  - 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】  
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
  - 14回 会話テスト(韓国語でグループ発表)、民族遊び
  - 15回 まとめ

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
平常の学習状況...25%      課題...25%      期末試験...50%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

**履修上の注意 /Remarks**  
韓国語で発表をする形で期末会話テストがあります。

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**  
アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

**キーワード /Keywords**



# 朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

正確な発音の能力を高めながら、初級文法をもとに会話表現を学び、基礎レベルでの日常会話の能力を身につけることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

金順玉 他 『新チャレンジ!韓国語』、白水社(2009年3月)、2,300円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典『朝鮮語辞典』小学館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 3回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 4回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 5回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 6回 何時ですか【固有数詞】【時間】【助数詞】
- 7回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 8回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 9回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 10回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 11回 週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
- 12回 週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
- 13回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 14回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
平常点50% (小テスト・課題・態度)、定期試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をすること。  
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

## 教科書 /Textbooks

楽しくできる韓国語初級II、李志暎外 1、アスク出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか ( 小学館 )  
ISBN4-09-506141-3

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第1課 動詞の現在連体形
- 3回 第1課 動詞の現在連体形
- 4回 第2課 動詞の過去連体形
- 5回 第2課 動詞の過去連体形
- 6回 第3課 動詞の未来連体形
- 7回 第3課 動詞の未来連体形
- 8回 第4課 形容詞の現在連体形
- 9回 第5課 接続語尾 -는데
- 10回 第5課 接続語尾 -는데
- 11回 第6課 ㄷ不規則活用
- 12回 第7課 ㄹ不規則活用
- 13回 第8課 ㄴ不規則活用
- 14回 第8課 ㄴ不規則活用
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

## 履修上の注意 /Remarks

朝鮮語Ⅶと並行して進行するので、同時に受講すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語VI 【昼】

担当者名  
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざおよび漢字語を習得できるように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

## 教科書 /Textbooks

「楽しくできる韓国語初級II」、李志暎外 1、アスク出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか (小学館)  
ISBN4-09-506141-3

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 第9課 ㄹ不規則活用
- 3回 第9課 ㄹ不規則活用
- 4回 第10課 ㅎ不規則活用
- 5回 第10課 ㅎ不規則活用
- 6回 第11課 話者の意思・約束
- 7回 第11課 話者の意思・約束
- 8回 第12課 状態の継続
- 9回 第12課 禁止命令
- 10回 第13課 推量表現
- 11回 第13課 推量表現
- 12回 第14課 前後の話法
- 13回 第16課 時間の経過
- 14回 第16課 意向伝達
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

## 履修上の注意 /Remarks

朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor: チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次    単位 /Credits: 1単位    学期 /Semester: 1学期    授業形態 /Class Format: 講義    クラス /Class: 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

## 教科書 /Textbooks

ちょこっとチャレンジ！韓国語、金順玉外2

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)  
ISBN4-09-506141-3

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション、シラバス紹介
2. インタビューする
3. インタビューする
4. 自己紹介する
5. 自己紹介する
6. 自己紹介する
7. 決まりを言う
8. 決まりを言う
9. 約束をする
10. 約束をする
11. 約束をする
12. 道案内をする
13. 道案内をする
14. 道案内をする
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50%    定期試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

## 履修上の注意 /Remarks

朝鮮語Ⅴと並行して進行するので、同時に受講すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合みましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor: チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次  
単位 /Credits: 1単位  
学期 /Semester: 2学期  
授業形態 /Class Format: 講義  
クラス /Class: 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

ちよこつとチャレンジ！韓国語、金順玉外2

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか ( 小学館 )  
ISBN4-09-506141-3

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 感想を言う
- 3回 感想を言う
- 4回 買い物をする
- 5回 買い物をする
- 6回 買い物をする
- 7回 プレゼントをする
- 8回 プレゼントをする
- 9回体の具合を言う
- 10回体の具合を言う
- 11回体の具合を言う
- 12回勉強の仕方を話す
- 13回勉強の仕方を話す
- 14回勉強の仕方を話す
- 15回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

## 履修上の注意 /Remarks

朝鮮語Vと並行して進行するので、同時に受講すること。  
期末に韓国語発表会形式の会話テストを行う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

## キーワード /Keywords

# 上級朝鮮語I【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。 同時に応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)、定期試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。  
予習の課題が多いのでノートを作ること。  
テキストに出る文型や語句を覚えること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

## キーワード /Keywords

# 上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。

## 教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。  
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。  
平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)、 定期試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。  
予習の課題が多いのでノートを作ること。  
テキストに出る文型や語句を覚えること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。  
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

## キーワード /Keywords

# 上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

## 教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介とウォーミングアップ
- 3回 第1課 紹介①
- 4回 第1課 紹介②
- 5回 第2課 旅行①
- 6回 第2課 旅行②
- 7回 第3課 予約①
- 8回 第3課 予約②
- 9回 第4課 案内①
- 10回 第4課 案内②
- 11回 第5課 ショッピング①
- 12回 第5課 ショッピング②
- 13回 第6課 交通①
- 14回 第6課 交通②
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

## 教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級Ⅱ』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第7課 キャンセル①
- 3回 第7課 キャンセル②
- 4回 第8課 新聞①
- 5回 第8課 新聞②
- 6回 第9課 伝達①
- 7回 第9課 伝達②
- 8回 第10課 食事①
- 9回 第10課 食事②
- 10回 第11課 電話①
- 11回 第11課 電話②
- 12回 第12課 文化①
- 13回 第12課 文化②
- 14回 第13課 美容室①
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ロシア語I【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。  
到達目標はロシア語の基礎学力を身につけ、簡単な会話と読み書きができるようになること。

## 教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社  
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%  
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。  
到達目標はロシア語の基礎学力を身につけ、簡単な会話と読み書きができるようになること。

## 教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社  
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%  
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社  
ビデオ教材も活用する予定

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名  
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次  
/Year

単位 1単位  
/Credits

学期 2学期  
/Semester

授業形態 講義  
/Class Format

クラス 済営比人1年  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社  
ビデオ教材も活用する予定

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。  
到達目標は、辞書を使って中級の読み物が理解できるようになる。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。  
到達目標は、ノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名  
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次  
/Year

単位  
/Credits

1単位

学期  
/Semester

1学期

授業形態  
/Class Format

講義

クラス  
/Class

済営比人律政2年

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

## 教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社  
ビデオ教材も活用する予定

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# ロシア語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政2年 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

## 教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社  
ビデオ教材も活用する予定

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、  
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...10% 宿題...30% 期末試験...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

## 教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他  
(Deutsch macht Spaß!)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

## 教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他  
(Deutsch macht Spaß!)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、ドイツ語表現の基礎を習得する。休暇中にミュンヘンを訪問したベルリンの大学生クラウディアの体験を通して、ドイツ語での日常表現や文法規則などを学ぼう。

この授業の主な到達目標は以下の通りである。

- ①ドイツ語の4技能（聴く、読む、話す、書く）の基礎力を身につける。
- ②ドイツ語での初歩的コミュニケーションができるようになる。

## 教科書 /Textbooks

「ハロー・ミュンヘン・ノイ」（関口 一郎、白水社）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツ語の綴りと発音
- 2回 コミュニケーションの第一歩
- 3回 ドイツ語での自己紹介
- 4回 ホテルに泊まる
- 5回 名詞の「性」と冠詞
- 6回 ミュンヘンの名所へ行く
- 7回 知人を訪ねる
- 8回 友達同士の話し方
- 9回 買い物をする
- 10回 分離動詞の使い方
- 11回 列車に乗る
- 12回 前置詞の使い方
- 13回 大学での1日
- 14回 助動詞の使い方1
- 15回 助動詞の使い方2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 20% 期末試験 ... 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ語Ⅲの続き。やや高度な文法規則を用いたドイツ語表現を習得しよう。

この授業の主な到達目標は以下の通りである。

- ①ドイツ語の4技能（聴く、読む、話す、書く）の基礎を身につける。
- ②ドイツ語での基本的コミュニケーションができるようになる。

## 教科書 /Textbooks

「ハロー・ミュンヘン・ノイ」（関口 一郎、白水社）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 形容詞の使い方
- 2回 色の表現
- 3回 過去表現は現在完了形で
- 4回 昨日何をしましたか?
- 5回 過去形
- 6回 ドイツの歴史を過去形で説明
- 7回 再帰動詞と再帰代名詞
- 8回 1日の行動を再帰動詞で表現
- 9回 副文と接続詞
- 10回 関係代名詞
- 11回 関係代名詞を使った表現
- 12回 接続法の種類
- 13回 接続法第二式
- 14回 非現実話法の練習
- 15回 全体の復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 20% 期末試験 ... 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。  
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

## 教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他  
( Szenen 2 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト ( 50% ) 学期末試験 ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。  
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

## 教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他  
( Szenen 2 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト ( 50% ) 学期末試験 ( 50% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。  
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

## 教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くととき
- 8回 綴りを聞くととき、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くととき、道順・方向を聞くととき、距離を聞くととき
- 11回 時刻を聞くととき、時間を聞くととき、曜日を聞くととき、日付を聞くととき
- 12回 値段を聞くととき、数量を聞くととき、方法を聞くととき、理由を聞くととき
- 13回 目的を聞くととき、住所を聞くととき、出身地を聞くととき、生年月日を聞くととき
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。  
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

## 教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には、簡単な文章を作るために必要な要素である名詞・代名詞・動詞・形容詞・冠詞・前置詞や、文の種類（肯定文、否定文、疑問文）を学びます。音声化を重視するのでつづり字の読み方を早く覚え、積極的に発音し、文を音で覚えるようにします。6月に実施される実用フランス語技能検定試験（仏検）5級を合格すれば成績Cを保証されます。その場合でも定期試験は必ず受けます。

## 教科書 /Textbooks

太田浩一他著 『フランス語文法の基礎』（白水社）2625円

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音の方法とつづり字の読み方
- 2回 名詞・冠詞、エリズイオン
- 3回 人称代名詞1（主語） 動詞 <etre> と形容詞
- 4回 動詞 <avoir>、il y a 構文、否定文の作り方
- 5回 1群動詞 <-er> の活用
- 6回 疑問文1 疑問詞のない疑問文の作り方
- 7回 指示形容詞、所有形容詞
- 8回 中間まとめ
- 9回 動詞 <aller> 活用、前置詞の縮約形、近接未来形について
- 10回 動詞 <venir> 活用、前置詞の縮約形、近接過去形について
- 11回 疑問文2 疑問代名詞・疑問形容詞・疑問副詞を用いる疑問文の作り方
- 12回 2群動詞 <-ir> の活用
- 13回 比較級・最上級
- 14回 命令文、非人称構文
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、平常の授業への取り組み30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

一学期に引き続き文法の基礎知識を広げて表現力の充実を目標とします。具体的には、過去・未来時制・複文・代名詞などを学びます。11月の仏検4級を合格すると、成績Cが保証されます。その場合でも、定期試験は必ず受験します。

## 教科書 /Textbooks

太田浩一 他著 『フランス語文法の基礎』 (白水社)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期の復習
- 2回 人称代名詞(2)直接目的語、その語順
- 3回 人称代名詞(2)間接目的語、その語順
- 4回 直説法複合過去
- 5回 代名動詞
- 6回 中性代名詞
- 7回 直説法半過去
- 8回 複合過去の復習
- 9回 直説法半過去の復習
- 10回 代名動詞の複合過去
- 11回 複合過去と半過去の使い分け
- 12回 時制のまとめと復習
- 13回 単純未来
- 14回 関係代名詞
- 15回 現在分詞とジェロンディフ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、平常の授業への取り組み30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition du vocabulaire de base, et de réflexes dans la conversation. Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène I". Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours. この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話を培うことです。基本的な語彙や表現を習得することに重点を置きます。主に指定の教科書を使い授業を進めます。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。

## 教科書 /Textbooks

『EN SCENE I』 (高橋百代、Nicolas Jégonday) 三修社 2800 ¥

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - La communication en France フランスにおけるコミュニケーション
- 2 - Les salutations 挨拶
- 3 - Se présenter (1) 自己紹介 1
- 4 - Se présenter (2) 自己紹介 2
- 5 - Présenter quelqu'un (1) 紹介する 1
- 6 - Présenter quelqu'un (2) 紹介する 2
- 7 - Les études et les loisirs 勉強と趣味
- 8 - La famille (1) 家族 1
- 9 - La famille (2) 家族 2
- 10 - Les objets 持ち物
- 11 - La date 日付
- 12 - L'heure 時刻
- 13 - Exposés (1) 発表 1
- 14 - Exposés (2) 発表 2
- 15 - Révisions まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

30% contrôles de vocabulaire 小テスト  
30% exposé 発表  
40% examen final 最終試験

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. 毎週、語彙の小テストを行うので、準備してくること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition du vocabulaire de base, et de réflexes dans la conversation.

Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène I", ainsi que des documents vidéos disponibles sur internet.

Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours.

この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話を培うことです。基本的な語彙や表現を習得することに重点を置きます。主に指定の教科書とインターネットの動画を使い授業を進めます。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。

## 教科書 /Textbooks

『EN SCENE I』(高橋百代、Nicolas Jégonday) 三修社 2800¥

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - L'expression du futur (1) 未来の出来事 1
- 2 - L'expression du futur (2) 未来の出来事 2
- 3 - Les aliments (1) 食品 1
- 4 - Les aliments (2) 食品 2
- 5 - La météo 天候
- 6 - La ville et l'université 街と大学
- 7 - Se repérer dans l'espace 位置関係
- 8 - Les expressions des jeunes 若者言葉
- 9 - L'humour français フランスのユーモア
- 10 - Les bandes dessinées フランスのマンガ
- 11 - Les relations hommes-femmes 男と女の関係性
- 12 - La chanson française フランスのシャンソン
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Révisions まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 30% contrôles de vocabulaire 小テスト
- 30% exposé 発表
- 40% examen final 最終試験

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. 毎週、語彙の小テストを行うので準備してくること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

1年時に習得した基礎文法を復習しながら、さらにフランス語表現カアップを目指します。同時にフランス社会や、その奥深い文化への知見を広げます。

## 教科書 /Textbooks

沼田五十六 他著 『カジュアルにフランス語2』 (朝日出版社) 2200円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <avoir> を使う複合過去
- 2回 <etre> を使う複合過去
- 3回 代名動詞の復習
- 4回 代名動詞の複合過去
- 5回 中性代名詞の復習
- 6回 中性代名詞と人称代名詞
- 7回 単純未来
- 8回 前未来
- 9回 半過去の復習
- 10回 半過去と複合過去
- 11回 大過去
- 12回 現在分詞とジェロンディフ
- 13回 過去分詞のまとめ
- 14回 lecture (1)
- 15回 lecture (2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果70%、平常の授業への取り組み30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中の発音練習では不十分なので、各自練習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

基礎文法から、いよいよ中級文法の習得を完成する。法（モード）を学ぶことによって、表現力が確実にアップする。

## 教科書 /Textbooks

沼田五十六 他著 『カジュアルにフランス語2』（朝日出版社） 2200円

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて授業中に紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 関係代名詞 qui,que,ou
- 2回 関係代名詞 dont
- 3回 時、理由を表す接続詞
- 4回 条件を表す接続詞
- 5回 条件法現在
- 6回 条件法過去
- 7回 接続法(1)
- 8回 接続法(2)
- 9回 直接話法と間接話法
- 10回 時制の一致
- 11回 単純過去
- 12回 手紙を書く
- 13回 lecture (1)
- 14回 lecture (2)
- 15回 知っておきたい動詞の復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果70%、平常の授業への取り組み30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語VII 【昼】

担当者名 /Instructor ドゥラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous utiliserons comme support le manuel "En Scène I", ainsi que des documents extérieurs authentiques (vidéos, textes, etc.). Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours.  
この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話を培うことです。語彙を増やし、ある程度のスピードでコミュニケーションがとれるよう、訓練することに重点を置きます。指定の教科書の他、様々な資料（テキスト、動画など）を使い授業を進めます。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。

## 教科書 /Textbooks

『EN SCENE I』（高橋百代、Nicolas Jégonday）三修社 2800 ¥

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - Révisions des acquis de 1ère année 1年目の復習
- 2 - La communication en France フランスにおけるコミュニケーション
- 3 - Les salutations, se présenter (1) 挨拶、自己紹介 1
- 4 - Se présenter (2) 自己紹介 2
- 5 - Présenter quelqu'un 紹介する
- 6 - Les études et les loisirs 勉強と趣味
- 7 - La famille 家族
- 8 - Les objets 持ちもの
- 9 - La date et l'heure 日付と時刻
- 10 - L'expression du passé 過去の出来事
- 11 - L'expression du futur 未来の出来事
- 12 - Les expressions des jeunes 若者言葉
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Révisions まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 30% contrôles de vocabulaire 小テスト
- 30% exposé 発表
- 40% examen final 最終試験

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. 毎週、語彙の小テストを行うので、準備してくること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



キーワード /Keywords

# フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide.

Nous utiliserons comme support le manuel "En Scène I", ainsi que des documents extérieurs authentiques (vidéos, textes, etc.).

Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours.

この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話力を培うことです。語彙を増やし、ある程度のスピードでコミュニケーションがとれるよう、訓練することに重点を置きます。指定の教科書の他、様々な資料（テキスト、動画など）を使い授業を進めます。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。

## 教科書 /Textbooks

『EN SCENE I』（高橋百代、Nicolas Jégonday）三修社 2800 ¥

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - Les aliments 食品
- 2 - La météo 天候
- 3 - La ville et l'université 街と大学
- 4 - Se repérer dans l'espace 位置関係
- 5 - L'humour français (1) フランスのユーモア 1
- 6 - L'humour français (2) フランスのユーモア 2
- 7 - Les bandes dessinées フランスのマンガ
- 8 - Le cinéma français フランスの映画
- 9 - La chanson française フランスのシャンソン
- 10 - Les relations hommes-femmes 男と女の関係性
- 11 - La vie en France フランスでの生活
- 12 - La culture japonaise en France フランスでの日本文化
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Révisions まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 30% contrôles de vocabulaire 小テスト
- 30% exposé 発表
- 40% examen final 最終試験

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. 毎週、語彙の小テストを行うので、準備してくること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

第一言語・母語として、中国語に次ぎ世界第2の話者人口を持つスペイン語を初歩から学習します。と同時に、その文化(圏)を少しなりとも理解し身に付けます。\*我が国ではスペイン語は普通、西語、と表記されます。

## 教科書 /Textbooks

青木・辻・マリア J. H. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。西和辞典又は電子辞書必携

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語のアルファベット・発音
- 2回 発音・アクセント
- 3回 名詞の性と数・冠詞
- 4回 主格人称代名詞・動詞について
- 5回 直説法現在規則活用
- 6回 基本的な文章(肯定文・否定文・疑問文)
- 7回 疑問詞(QUE・QUIEN・DONDE)
- 8回 国名とその言語
- 9回 不規則活用(主要三動詞、SER・ESTAR・HABER)
- 10回 形容詞の性・数
- 11回 主要三動詞例文
- 12回 疑問詞(COMO)・指示詞・所有形容詞
- 13回 他の不規則動詞
- 14回 不規則動詞例文
- 15回 不定詞の用法

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

初めての外国語を学ぶには、興味を持つことが第一条件です。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

西語の発音は、日本語を母語とする者にとっては、非常に容易です。逆に、文法や動詞の活用は、難解で複雑です。特に、初歩段階が肝腎です。欠席は好ましくありません。

## キーワード /Keywords

スペイン語の世界的位置 スペイン語圏

# スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

西語 I を継続し、ほぼ初級の文法を終えます。

## 教科書 /Textbooks

西語 I と同じ。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 代名詞(与格・対格)
- 2回 G U S T A R 類の動詞
- 3回 代名詞(前置詞格)
- 4回 日付・曜日・時刻
- 5回 数詞(序数の使用)
- 6回 不定過去・不完了過去・現在完了(規則活用)
- 7回 動詞の種類
- 8回 不定語と例文
- 9回 天候・季節の表現と例文
- 10回 不定過去・不完了過去(不規則活用)
- 11回 現在分詞とその用法・例文
- 12回 名詞節・副詞節・形容詞節と例文
- 13回 未来・条件未来・過去完了の活用と用法
- 14回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 15回 再帰動詞と用法

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Iをよく理解・学習しておくことが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

## キーワード /Keywords

スペイン語の世界的位置 スペイン語圏

# スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門の基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を採用いたします。また、ときどき、映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。  
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 人称代名詞、名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 規則動詞(1)、基本的表現
- 5回 動詞estar, ir を用いた表現
- 6回 動詞ser、形容詞・指示形容詞を用いた表現
- 7回 規則動詞(2) 基本的表現
- 8回 規則動詞(3) 基本的表現
- 9回 動詞(tener), 所有形容詞
- 10回 3つの規則動詞活用の復習
- 11回 動詞(estar, hay..)の基本用例
- 12回 動詞活用と基本表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠です。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。この入門編でスペイン語の基礎を学部こととなりますが、出だしが肝心です。意欲的に取り組んでください

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# スペイン語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。スペイン語圏に旅行に行っても、簡単な日常会話ができるレベルに到達することを目指します。

## 教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。  
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、人称代名詞(目的格)
- 3回 人称代名詞を用いた表現
- 4回 近接未来表現など天候表現、時刻表現
- 5回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞(その2)
- 6回 gustar(～が好きです)系の表現、間接目的格
- 7回 前置詞に導かれる人称代名詞
- 8回 復習：日常的表現
- 9回 再帰動詞(1)
- 10回 再帰動詞(2)
- 11回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 12回 比較級と最上級
- 13回 現在完了形
- 14回 現在進行形
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済誉比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

## 教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 接続法とは何か
- 2回 接続法現在・規則活用
- 3回 接続法現在・不規則活用
- 4回 接続法現在の用法
- 5回 命令法・命令形
- 6回 感嘆文
- 7回 比較級
- 8回 相対・絶対最上級
- 9回 不定詞を用いた放任・使役の動詞
- 10回 不定詞を用いた忠告・命令・許可・禁止の動詞
- 11回 SEの受身文
- 12回 SEの無人称文
- 13回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 14回 接続法の用法(独立文)
- 15回 接続法の例文

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅰ・Ⅱを良く理解・学習しておくことが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

## キーワード /Keywords

スペイン語圏



# スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

スペインの文化・風土・歴史などを織り込んだ中級程度のスペイン語の文章を読みます。スペイン語及びスペインに関する幅広い知識を身に付けます。

## 教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の、講読部分（別冊。500円）。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

\* スペイン語講読・説明・解説

- 1回 第一課 【位置】
- 2回 第二課 【風土】
- 3回 第三課 【行政】
- 4回 第四課 【生活】
- 5回 第五課 【バルセローナ】
- 6回 第六課 【マドリード】
- 7回 第七課 【中世文学】
- 8回 第八課 【レコンキスタ】
- 9回 第九課前半 【古代ローマ治下】
- 10回 第九課後半 【イスラーム治下】
- 11回 第十課 【セビージャ】
- 12回 第十一課前半 【レコンキスタの完了】
- 13回 第十一課後半 【スペイン帝国】
- 14回 第十二課 【ドン・キホーテ】
- 15回 第十三課 【バスク自治州】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語・II・Vを良く理解・学習しておくことが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

## キーワード /Keywords

古代ローマ帝国 イスラーム レコンキスタ

# スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。スペイン語テキストの文法事項を押さえ、いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

## 教科書 /Textbooks

前年度と同じテキストを使用します。(『コミュニケーションのためのスペイン語 三訂版』坂東・仲井・太田・ガジェゴ共著、第三書房、2010、2版(三訂版)  
他、プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。  
辞書については開講時に指示します。西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、  
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習
- 2回 自己紹介、その他不規則動詞
- 3回 現在分詞、不定語と否定語「スペイン語を勉強しています。」
- 4回 過去分詞、現在完了「どうしましたか？」
- 5回 ser・estarの受身「泥棒は警察に逮捕された」
- 6回 接続法現在の活用
- 7回 接続法、名詞節「できたらこの本を送ってほしい」
- 8回 点過去「昨日パエージャを食べた」
- 9回 se受身、se 無人称「アパート貸します」
- 10回 線過去「昨日食事をしていたとき・・・」
- 11回 命令「口をあけて」
- 12回 比較「マリアは私より背が高い」
- 13回 相対・絶対最上級「高すぎる！」
- 14回 DVDなど視聴覚教材
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、日常の授業への取り組み 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書必携です。

## 履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

# スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

## 教科書 /Textbooks

スペイン語VIIと同じテキスト『スペイン語でコミュニケーション 三訂版』(坂東・仲井・太田・ガジェゴ共著、第三書房、2010、三訂版2版)をそのまま使用します。  
他、プリントを配ります。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。  
辞書についてはスペイン語VIIに同じです。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語VIIの復習
- 2回 関係詞「今朝来た人はなんていう名前？」
- 3回 関係副詞「バレンシアはよく米を食べる地域です」
- 4回 接続法の用法(形容詞節・副詞節)
- 5回 直説法未来「今度新しい車を買うだろう」
- 6回 直説法過去未来「昨日、今度新しい車を買うと言った」
- 7回 接続法過去「飛行機で旅行するよう勧めた」
- 8回 条件文「お金があったらもう一軒別荘を買うのに」
- 9回 短編教材と聞き取り
- 10回 短編教材と会話練習
- 11回 「自分の好きな有名人」
- 11回 「スペイン語圏で私が興味あること」
- 13回 スペイン語でDVDなどを見る(1)
- 14回 スペイン語でDVDなどを見る(2)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 60% 日常の授業への取り組み 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書必携です。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語(I・II・III・IV・V・VII)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

## キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

# 日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

## 教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)  
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【高校・日本語学校と大学の違い・ 大学・学部・学科について学ぶ】
- 3回 大学生生活(2)【キャンパスツアー】
- 4回 論理的思考力(1)【大学生と論理的思考力・ リストアップする】
- 5回 大学生生活(3)【大学教員・ 職員との付き合い方】 論理的思考力(2)【マッピングする・ キーワードを繋げる】
- 6回 大学生生活(4)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(5)【大学生生活のデザイン】 論理的思考力(3)【イラストから読み取ったことを表現する】
- 8回 大学生生活(6)【講義の上手な受け方】 論理的思考力(4)【定義をする】
- 9回 大学生生活(7)【演習に参加するコツ】 論理的思考力(5)【日本語の語順に沿って考える・ 時間軸に沿って考える】
- 10回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 11回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 12回 チュートリアル(3)【修正】
- 13回 チュートリアル(4)【評価】
- 14回 大学生生活(8)【大学の定期試験】 論理的思考力(6)【主張に理由や具体例を加えて表現する・ 論理的に考えて表現する】
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %  
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

# 日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

## 教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)  
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【高校・日本語学校と大学の違い・ 大学・学部・学科について学ぶ】
- 3回 大学生生活(2)【キャンパスツアー】
- 4回 論理的思考力(1)【大学生と論理的思考力・ リストアップする】
- 5回 大学生生活(3)【大学教員・ 職員との付き合い方】 論理的思考力(2)【マッピングする・ キーワードを繋げる】
- 6回 大学生生活(4)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(5)【大学生生活のデザイン】 論理的思考力(3)【イラストから読み取ったことを表現する】
- 8回 大学生生活(6)【講義の上手な受け方】 論理的思考力(4)【定義をする】
- 9回 大学生生活(7)【演習に参加するコツ】 論理的思考力(5)【日本語の語順に沿って考える・ 時間軸に沿って考える】
- 10回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 11回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 12回 チュートリアル(3)【修正】
- 13回 チュートリアル(4)【評価】
- 14回 大学生生活(8)【大学の定期試験】 論理的思考力(6)【主張に理由や具体例を加えて表現する・ 論理的に考えて表現する】
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %  
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

# 日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 亜紀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、「大学生活」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。

文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。

そして、ある文章を深く読むことによって、作者の主張と自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。

また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協力で活動する能力を養成します。

## 教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

岩波書店編集部『大学活用法』2000年 岩波ジュニア新書 882円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 大学生活についての読解 1
- 第3回 読んできた内容について話し合う 1
- 第4回 大学生活についての読解 2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 図式化して理解する
- 第7回 大学生活についての読解 3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 大学生活についての読解 4
- 第10回 読んできた内容について話し合う
- 第11回 先輩の大学生活についてインタビューする
- 第12回 インタビューの内容についてまとめる
- 第13回 インタビューの内容を発表する
- 第14回 自分の大学生活について考える

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を1 / 3以上欠席したのものには単位を与えない

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をし、ワークシートに記入してくること

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 亜紀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、「大学生活」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。  
文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。  
そして、ある文章を深く読むことによって、作者の主張と自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。  
また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協同で活動する能力を養成します。

## 教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

岩波書店編集部『大学活用法』2000年 岩波ジュニア新書 882円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 大学生活についての読解 1
- 第3回 読んできた内容について話し合う 1
- 第4回 大学生活についての読解 2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 図式化して理解する
- 第7回 大学生活についての読解 3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 大学生活についての読解 4
- 第10回 読んできた内容について話し合う
- 第11回 先輩の大学生活についてインタビューする
- 第12回 インタビューの内容についてまとめる
- 第13回 インタビューの内容を発表する
- 第14回 自分の大学生活について考える

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を 1 / 3 以上欠席したのものには単位を与えない

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をし、ワークシートに記入してくること

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

## 教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション  
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語IとIIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ



# 日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

## 教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション  
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語IとIIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ

# 日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Bでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指し、2つの授業内容を並行する。一つは、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。もう一つは、論理的な文章表現能力である。独りよがりの表現にならないようにするためには、コミュニケーションを通して課題発見解決能力と批判的思考力を共に育成することが欠かせない。

## 教科書 /Textbooks

- 『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)
- 『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション - プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 清水担当回 >	< 小林担当回 >
1回 授業オリエンテーション TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】	1回 授業オリエンテーション
2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】	2回 自己PR(1)【自分を伝える】
3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】	3回 自己PR(2)【情報を整理する】
4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】	4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】	5回 自己PR(4)【スピーチをする】
6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】	6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】	7回 ブックトーク(1)【情報を探す】
8回 「初級編」【マイセンテンス】	8回 ブックトーク(2)【情報を読んで伝える】
9回 「中級編」【パターンを見つける】	9回 ブックトーク(3)【アウトラインを書く】
10回 「中級編」【パターンを交差させる】	10回 ブックトーク(4)【ポスター発表を準備する】
11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】	11回 ブックトーク(5)【発表する】
12回 「中級編」【資料を使って論じよう】	12回 ブックレポート(1)【情報を引用する】
13回 「中級編」【経験から論じよう】	13回 ブックレポート(2)【内容を検討する】
14回 「中級編」【感想文を書こう】	14回 ブックレポート(3)【表現や形式を点検する】
15回 評価【学びを振り返る】	15回 評価【学びを振り返る】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語AとBは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

ノートテイキング デイバート TAE 身体を感じ

# 日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Bでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指し、2つの授業内容を並行する。一つは、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。もう一つは、論理的な文章表現能力である。独りよがりの表現にならないようにするためには、コミュニケーションを通して課題発見解決能力と批判的思考力を共に育成することが欠かせない。

## 教科書 /Textbooks

- 『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)
- 『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション - プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 清水担当回 >	< 小林担当回 >
1回 授業オリエンテーション TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】	1回 授業オリエンテーション
2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】	2回 自己PR(1)【自分を伝える】
3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】	3回 自己PR(2)【情報を整理する】
4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】	4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】	5回 自己PR(4)【スピーチをする】
6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】	6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】	7回 ブックトーク(1)【情報を探す】
8回 「初級編」【マイセンテンス】	8回 ブックトーク(2)【情報を読んで伝える】
9回 「中級編」【パターンを見つける】	9回 ブックトーク(3)【アウトラインを書く】
10回 「中級編」【パターンを交差させる】	10回 ブックトーク(4)【ポスター発表を準備する】
11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】	11回 ブックトーク(5)【発表する】
12回 「中級編」【資料を使って論じよう】	12回 ブックレポート(1)【情報を引用する】
13回 「中級編」【経験から論じよう】	13回 ブックレポート(2)【内容を検討する】
14回 「中級編」【感想文を書こう】	14回 ブックレポート(3)【表現や形式を点検する】
15回 評価【学びを振り返る】	15回 評価【学びを振り返る】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語AとBは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

ノートテイキング デイバート TAE 身体を感じ

# 日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IVでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。また、日本語Iに続き、アカデミックなスタディスキルの練習を行う。

## 教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)  
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生に求められる読む力・自己評価
- 3回 絵やイラストを読む・表やグラフを読み取る
- 4回 表やグラフ以外のものを読み取る
- 5回 マッピングしながら読む・図解で考える
- 6回 文章を読んで図や表にする
- 7回 登場人物になったつもりで読む・どちらがいいかを考えながら読む
- 8回 理由を考えながら読む・前後の文脈から推論しながら読む
- 9回 資料を探す(スキミングとスキミング)
- 10回 資料を読む(批判的な読み方)
- 11回 レポートの特徴・ブックレポートを書く
- 12回 レジюмеを作成する
- 13回 パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 14回 日本語で読むことと自分について考える
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%  
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語IVと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

# 日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IVでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。また、日本語Iに続き、アカデミックなスタディスキルの練習を行う。

## 教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)  
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生に求められる読む力・自己評価
- 3回 絵やイラストを読む・表やグラフを読み取る
- 4回 表やグラフ以外のものを読み取る
- 5回 マッピングしながら読む・図解で考える
- 6回 文章を読んで図や表にする
- 7回 登場人物になったつもりで読む・どちらがいいかを考えながら読む
- 8回 理由を考えながら読む・前後の文脈から推論しながら読む
- 9回 資料を探す(スキミングとスキミング)
- 10回 資料を読む(批判的な読み方)
- 11回 レポートの特徴・ブックレポートを書く
- 12回 レジュメを作成する
- 13回 パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 14回 日本語で読むことと自分について考える
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%  
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語IVと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

# 日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、「学び」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。そして、いくつかの文章を深く読むことによって、それぞれの筆者の意見を比較したり、自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協力で活動する能力を養成します。

## 教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配ります。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

渡部信一 (2005) 『ロボット化する子どもたち-「学び」の認知科学』大修館書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 「学び」についての読解1
- 第3回 読んできた内容について話し合う1
- 第4回 「学び」についての読解2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 比較してみよう
- 第7回 「学び」についての読解3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 引用の仕方
- 第10回 「学び」についての読解4
- 第11回 読んできた内容について話し合う
- 第12回 図式化してみよう
- 第13回 自分の学びを振り返る
- 第14回 よく学べる環境とはどんな環境なのか話し合う
- 第15回 話し合う

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を1 / 3以上欠席したのものには単位を与えない

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をしてこよう

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、「学び」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。そして、いくつかの文章を深く読むことによって、それぞれの筆者の意見を比較したり、自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協力で活動する能力を養成します。

## 教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配ります。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

渡部信一 (2005) 『ロボット化する子どもたち-「学び」の認知科学』大修館書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 「学び」についての読解1
- 第3回 読んできた内容について話し合う1
- 第4回 「学び」についての読解2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 比較してみよう
- 第7回 「学び」についての読解3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 引用の仕方
- 第10回 「学び」についての読解4
- 第11回 読んできた内容について話し合う
- 第12回 図式化してみよう
- 第13回 自分の学びを振り返る
- 第14回 よく学べる環境とはどんな環境なのか話し合う
- 第15回 話し合う

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を1/3以上欠席したのものには単位を与えない

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をしてこよう

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、前半で『留学生のための懸賞論文コンクール』に応募するための小論文をピア・レスポンスで作成する。自分の意見を、ピア(仲間の学習者)同士で話し合い、書いたものが読み手によく伝わるように遂行する。後半では、スタディスキルのうちの聴解に焦点をしばり、聞き取りや講義を聴く技術、ノートテイキングを行う。さらに、音読発音練習として、シャドーイングを随時取り入れる。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『聴解・発表ワークブック』(犬飼康弘、スリーエーネットワーク)
- 『シャドーイングで日本語発音レッスン』(戸田貴子、スリーエーネットワーク)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 小論文①【マッピングでテーマを決める】
- 3回 小論文②【アウトラインを書く】
- 4回 小論文③【ピア・レスポンスで推敲する】
- 5回 聞き取り【音の変化】【キーワード】
- 6回 講義を聴く①【新聞】
- 7回 講義を聴く②【まなごしの心理学】
- 8回 メモを取る【記号・略語】
- 9回 発表の構成を知る【序・本・結】
- 10回 発表を聞いてメモを取る①【グラフの読み取り】
- 11回 ピア・ノートテイキング【ノートの使い方】
- 12回 メモを見て発表を再現する【発表の表現】
- 13回 シャドーイング①【音読】【マンプリング】
- 14回 シャドーイング②【パラレル・リーディング】
- 15回 総括【自己評価・ピア評価】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 課題・レポート・発表・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。自分が履修している授業でそれぞれどのように聞き取り、ノートを取っているか意識しておいてください。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語IVとVIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

ピア・レスポンス ノートテイキング シャドーイング



# 日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、前半で『留学生のための懸賞論文コンクール』に応募するための小論文をピア・レスポンスで作成する。自分の意見を、ピア(仲間の学習者)同士で話し合い、書いたものが読み手によく伝わるように遂行する。後半では、スタディスキルのうちの聴解に焦点をしばり、聞き取りや講義を聴く技術、ノートテイキングを行う。さらに、音読発音練習として、シャドーイングを随時取り入れる。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『聴解・発表ワークブック』(犬飼康弘、スリーエーネットワーク)
- 『シャドーイングで日本語発音レッスン』(戸田貴子、スリーエーネットワーク)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 小論文①【マッピングでテーマを決める】
- 3回 小論文②【アウトラインを書く】
- 4回 小論文③【ピア・レスポンスで推敲する】
- 5回 聞き取り【音の変化】【キーワード】
- 6回 講義を聴く①【新聞】
- 7回 講義を聴く②【まなごしの心理学】
- 8回 メモを取る【記号・略語】
- 9回 発表の構成を知る【序・本・結】
- 10回 発表を聞いてメモを取る①【グラフの読み取り】
- 11回 ピア・ノートテイキング【ノートの使い方】
- 12回 メモを見て発表を再現する【発表の表現】
- 13回 シャドーイング①【音読】【マンプリング】
- 14回 シャドーイング②【パラレル・リーディング】
- 15回 総括【自己評価・ピア評価】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 課題・レポート・発表・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分が履修している授業でそれぞれどのように聞き取り、ノートを取っているか意識しておいてください。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。  
日本語IVとVIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

ピア・レスポンス ノートテイキング シャドーイング

# 日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。

日本語Dでは、2つの授業目標を持つ。

まず、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

もう一つは、この授業では、前半で『留学生のための懸賞論文コンクール』に応募するための小論文をピア・レスポンスで作成する。自分の意見を、ピア(仲間の学習者)同士で話し合い、書いたものが読み手によく伝わるように推敲する。後半では、スタディスキルのうちの聴解に焦点を絞り、聞き取りや講義を聴く技術、ノートテイキングを行う。さらに、音読発音練習として、シャドーイングを随時取り入れる。

## 教科書 /Textbooks

<小林担当分>『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)  
<清水担当分>なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『聴解・発表ワークブック』(犬飼康弘、スリーエーネットワーク)
- 『シャドーイングで日本語発音レッスン』(戸田貴子、スリーエーネットワーク)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 清水担当回 >	< 小林担当回 >
1回 オリエンテーション	1回 授業の目的及び必要性【知る】【課題の条件を確認する】
2回 小論文①【マッピングでテーマを決める】	2回 レポートとは何か【論証型レポート】【根拠の大切さ】
3回 小論文②【アウトラインを書く】	3回 レポートのテーマを考える【構想マップ】【思考マップ】
4回 小論文③【ピア・レスポンスで推敲する】	4回 情報をカード化する【情報の信頼性】【テーマを練る】
5回 聞き取り【音の変化】【キーワード】	5回 目標を仮に規定する【情報の整理】
6回 講義を聞く①【新聞】	6回 目標を仮に規定する【絞る】【テーマを練る】
7回 講義を聞く②【まなごしの心理学】	7回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
8回 メモをとる【記号・略語】	8回 アウトラインを作る【組み立てる】
9回 発表の構成を知る【序・本・結】	9回 パラグラフライティング【中心文】
10回 発表を聞いてメモをとる①【グラフの読み取り】	10回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
11回 ピア・ノートテイキング【ノートの使い方】	11回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
12回 メモを見て発表を再現する【発表の表現】	12回 レポートの完成【文章の点検】【校正】
13回 シャドーイング①【音読】【マンプリング】	13回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】【練習】
14回 シャドーイング②【パラレル・リーディング】	14回 発表する【話し手】【聞き手】
15回 総括【自己評価・ピア評価】	15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...30% 課題・レポート・発表...30% 自己評価...20% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。  
自分が履修している授業でそれぞれどのように聞き取り、ノートを取っているか意識しておいてください。

## 日本語D 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考 小論文 ノートテイキング シャドーイング

# 日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。

日本語Dでは、2つの授業目標を持つ。

まず、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

もう一つは、この授業では、前半で『留学生のための懸賞論文コンクール』に応募するための小論文をピア・レスポンスで作成する。自分の意見を、ピア(仲間の学習者)同士で話し合い、書いたものが読み手によく伝わるように推敲する。後半では、スタディスキルのうちの聴解に焦点を絞り、聞き取りや講義を聴く技術、ノートテイキングを行う。さらに、音読発音練習として、シャドーイングを随時取り入れる。

## 教科書 /Textbooks

<小林担当分>『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)  
<清水担当分>なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『聴解・発表ワークブック』(犬飼康弘、スリーエーネットワーク)
- 『シャドーイングで日本語発音レッスン』(戸田貴子、スリーエーネットワーク)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 清水担当回 >	< 小林担当回 >
1回 オリエンテーション	1回 授業の目的及び必要性【知る】【課題の条件を確認する】
2回 小論文①【マッピングでテーマを決める】	2回 レポートとは何か【論証型レポート】【根拠の大切さ】
3回 小論文②【アウトラインを書く】	3回 レポートのテーマを考える【構想マップ】【思考マップ】
4回 小論文③【ピア・レスポンスで推敲する】	4回 情報をカード化する【情報の信頼性】【テーマを練る】
5回 聞き取り【音の変化】【キーワード】	5回 目標を仮に規定する【情報の整理】
6回 講義を聞く①【新聞】	6回 目標を仮に規定する【絞る】【テーマを練る】
7回 講義を聞く②【まなごしの心理学】	7回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
8回 メモをとる【記号・略語】	8回 アウトラインを作る【組み立てる】
9回 発表の構成を知る【序・本・結】	9回 パラグラフライティング【中心文】
10回 発表を聞いてメモをとる①【グラフの読み取り】	10回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
11回 ピア・ノートテイキング【ノートの使い方】	11回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
12回 メモを見て発表を再現する【発表の表現】	12回 レポートの完成【文章の点検】【校正】
13回 シャドーイング①【音読】【マンプリング】	13回 発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】【練習】
14回 シャドーイング②【パラレル・リーディング】	14回 発表する【話し手】【聞き手】
15回 総括【自己評価・ピア評価】	15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...30% 課題・レポート・発表...30% 自己評価...20% ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。  
自分が履修している授業でそれぞれどのように聞き取り、ノートを取っているか意識しておいてください。

## 日本語D 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考 小論文 ノートテイキング シャドーイング

# 日本事情 ( 人文 ) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、「歌舞伎」を日本語で学ぶことを通して、日本社会・日本文化・日本人を理解する視点を得る。歌舞伎に関する読み物を読み、歌舞伎鑑賞を行い、クラス内で議論し、レポートにまとめていく。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏・雄山閣出版)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 歌舞伎の歴史・江戸の町について
- 3回 歌舞伎鑑賞(1)【大序】
- 4回 登場人物造形(1)【高師直・若狭之助】
- 5回 歌舞伎鑑賞(2)【三段目】
- 6回 登場人物造形(2)【塩治判官】
- 7回 歌舞伎鑑賞(3)【四段目】
- 8回 切腹と武士道
- 9回 博多座6月大歌舞伎鑑賞
- 10回 振り返り
- 11回 忠臣蔵の世界観(1)
- 12回 忠臣蔵の世界観(2)
- 13回 現代日本を考える【インタビュー発表】
- 14回 歌舞伎と外国人・歌舞伎が外国へ与えた影響
- 15回 総括【文化継承の視点から私たちにできること】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

6月中に一度、博多座へ歌舞伎鑑賞に行きます。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

歌舞伎 日本文化 自文化

# 日本事情 ( 人文 ) B 【昼】

担当者名 家根橋 伸子 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Bでは、現代日本社会・文化事情についての様々なトピックを通して、前期「日本事情(人文)A」同様、日本社会・日本文化・日本人を理解する視点を育てる。前半は設定されたトピックについて資料の読み込み、ディスカッション、そこから得られた自身の考えを表現する活動を中心に行う。後半は受講者それぞれがトピックを見つけ、資料を用意し、それをクラスで検討し各自の考えを構築することを中心とする。この過程を通して一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得、さらに行動へと動き出す契機となることをねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

※資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

※授業において紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 トピック1①：資料1講読・ディスカッション1・記述1
- 3回 トピック1②：記述1のシェア・資料2・ディスカッション2・レポート(宿題)
- 4回 トピック2①：資料1講読・ディスカッション1・記述1
- 5回 トピック2②：記述1のシェア・資料2・ディスカッション2・レポート(宿題)
- 6回 トピック3①：資料1講読・ディスカッション・記述1
- 7回 トピック3②：記述1のシェア・資料2・ディスカッション2・レポート(宿題)
- 8回 第2回～第7回の振り返り / 各自のトピック選定
- 9回 学生選定トピック1：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 10回 学生選定トピック2：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 11回 学生選定トピック3：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 12回 学生選定トピック4：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 13回 学生選定トピック4：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 14回 レポートピア評価
- 15回 レポートピア評価と総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

資料を前もって熟読し、自分の考えを持って授業に臨むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一人一人が主体的に授業に参加することを求めます。発表やレポート記述では文法的な正しさより内容を重視します。

## キーワード /Keywords

日本文化 日本社会 日本人 自文化

# 日本事情 ( 社会 ) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

### 授業概要

第二次世界大戦後、日本経済はどのようにして発展してきたか、発展の過程でどんな問題が生じたかを知り、今後の日本経済のあり方について考えることがこの講義の目標である。日本が経済大国になった高度経済成長の時代、石油ショックとそれを克服した時代、その後のバブル経済とその崩壊、そして“失われた10年”からの回復から現代にいたる問題を取りあげ考えていく。

### 到達目標

1. 第二次世界大戦後、日本経済がどのような経過をたどって現在に至ったかを理解できる。
2. 1973年、1979年の石油ショックを契機に、日本経済が大きく変わったことを理解できる。
3. 1985年のプラザ合意以降、急激な円高に直面し、対外進出を強めたことを理解できる。
4. バブル経済とその崩壊後の日本経済の諸問題について理解できる。
5. 今後の日本経済のゆくえについて述べるができる。

## 教科書 /Textbooks

口講義のため指定の教科書なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

### 参考図書等

- 半藤利一 『昭和史』 平凡社、2004年、『昭和史 戦後篇』 平凡社2006年
- 井村喜代子 『現代日本経済論』 (有斐閣)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 戦後の荒廃から復興へ  
①第2次世界大戦後の日本経済 - 戦災と経済の混乱
- 第2回 ②経済復興へ - 戦後の諸改革  
省エネ・省力、ファクトリー・オートメーション、貿易・経済摩擦
- 第3回 ③占領下の経済から復興へ
- 第4回 2. 高度経済成長  
① 高度経済成長へ
- 第5回 ②重化学工業の発展、国土開発政策の展開
- 第6回 ③経済発展と公害、四大公害訴訟  
④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出
- 第7回 3. 石油ショックと低成長  
① 石油ショックとその影響
- 第8回 ②“重厚長大”から“軽薄短小”へ
- 第9回 ③貿易・経済摩擦
- 第10回 ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出
- 第11回 4. バブル崩壊、不況  
①バブル経済、バブル崩壊と不況、不良債権問題
- 第12回 ②長引く不況 - 失業の増加、非正規労働者(パートタイマー、派遣労働者、フリーター等)の増加
- 第13回 ③アジア諸国、中国経済の発展と日本経済
- 第14回 5. 現在の日本経済の諸問題  
①少子高齢化社会保障
- 第15回 ②財政危機と国民生活

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート30%、期末試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# 日本事情 ( 社会 ) A 【昼】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業以外の学習方法: 受講生へのメッセージ

- ・ 新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・ 講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本事情 ( 社会 ) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本は公的医療制度たる国民皆保険制度のおかげで、世界一の長寿国となった。男性は79歳、女性は86歳である。しかし医療費が年間30兆円を超えて財政難に直面している。

日本の将来の公的医療制度は如何にあるべきか。解答を得るために世界各国から来ている留学生に自国の公的医療制度を語ってもらう。その上でどの医療制度が我が国に最適かについて考えることができるようになる。

## 教科書 /Textbooks

留学生の説明を元に講義を行うので教科書は使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

その都度指示するが、さしあたり、池上直己『ベーシック 医療問題』(日本経済新聞社)を挙げておく。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本、イギリス、アメリカの医療制度の特徴
- 第2回 イギリスのNHS(ナショナル・ヘルスサービス)の歴史展開過程
- 第3回 第2次世界大戦とヘバリッジ報告書
- 第4回 大戦後のアトリー労働政権と福祉国家政策
- 第5回 ベバン保健大臣とNHS発足
- 第6回 NHSの組織とヘルスセンターの役割
- 第7回 サッチャー政権とNHS改革(1)
- 第8回 サッチャーの経済改革(2)
- 第9回 トニー・ブレア労働党のNHS改革
- 第10回 アメリカの医療制度
- 第11回 クリントンの医療改革
- 第12回 戦後日本経済史
- 第13回 国民皆保険制度の確立とその特徴
- 第14回 国民会保険制度の問題点
- 第15回 老人介護

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート20%、定期試験60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を毎日読んで 自国の政治や経済、社会文化に目を通しておくこと。特に公的医療制度の変更事項には注意すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 比較宗教・思想【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化（領域系）科目

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

多くの宗教において聖遺物という考え方が見られる。つまり、聖人の遺体や遺骨、遺灰、もしくは、聖人に接触した物品に特別な力を認め、それを聖なるものとして保存し、崇敬する文化である。聖遺物への崇敬は東西に共通して見られる行動様式であると言えるが、近年、この聖遺物を保存する容器こそが造形イメージや諸芸術の起源であるとする研究が進められている。この授業では、芸術の起源にまで踏み込むことはできないが、「痕跡」として現れる聖遺物を手がかりとして、デスマスク、肖像画、写真、記念碑、痕跡を利用した現代美術といったイメージや表象物について、大胆に思考を展開してみたい。

## 教科書 /Textbooks

秋山聡『聖遺物崇敬の心性史 西洋中世の理性と造形』講談社選書メチエ、講談社、2009年（1,600円）  
及び、随時プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

岡田温司『キリストの身体-血と肉と愛の傷』（中公新書）、中央公論新社、2009年  
岡田温司『デスマスク』（岩波新書）、岩波書店、2011年  
湯沢英彦『クリスチャン・ポルトタンスキー：死者のモニュメント』水声社、2004年  
『死生学研究』第11号、東京大学大学院人文社会系研究科、2009年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：イントロダクション
- 2回：教科書講読1：聖遺物の力
- 3回：教科書講読2：トランスラティオ（聖遺物奉遷）と教会構造
- 4回：教科書講読3：黄金のシュライン 聖遺物を納める容器
- 5回：教科書講読4：聖遺物容器のさまざまな形態
- 6回：教科書講読5：聖なる見世物 聖遺物 / 聖遺物容器の人々への呈示
- 7回：教科書講読6：聖なるカタログ
- 8回：東洋の聖遺物
- 9回：イメージと痕跡
- 10回：聖遺物と記念碑
- 11回：近現代の聖遺物
- 12回：展示される聖遺物
- 13回：現代美術と聖遺物
- 14回：日常生活の聖遺物
- 15回：まとめ

\* 各回の授業のスケジュールはあくまで目安であり、実際は学生の理解と興味を見ながら進む。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...20% レポート and/or 試験...80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を一読しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

今年度は、出張のため、月一回程度の休講がある。休講分は補講期間にまとめて講義するので、履修者はそのことを了解の上、計画的に履修すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「聖遺物」は決して皆さんの日常生活とも無関係ではありません。身近な聖遺物を探してみましよう。

## キーワード /Keywords

聖遺物 キリスト教 仏教 偶像 記念碑 肖像画 写真 痕跡 西洋 死 喪失

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

近藤和彦の言葉を借りると、歴史学とは、「過去という異文化を考察し、甦らせる営み」である。あるいはE・H・カーに言わせれば、歴史とは、「現在と過去の間の尽きることをしらぬ対話」である。本講義では、主として18世紀以降の大西洋を挟んだふたつの国、イギリスとアメリカ合衆国における民衆の広い意味での「抗議行動」をとりあげ、何が人びとに制裁や抗議という行動を選択させたのか、またその行動は彼らが生きた社会の中でどのような意味をもっていたのかを考える。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。資料等は授業中に配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献は授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス：【比較の手法】【歴史とは何か】
- 2回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代イギリスにおける女房売り
- 3回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代イギリスにおけるスキミントン
- 4回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代ヨーロッパにおける魔女狩り(1)【宗教改革・ルネサンス】
- 5回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代ヨーロッパにおける魔女狩り(2)【社会の変化と共同体解体の危機】
- 6回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代アメリカ合衆国における魔女狩り(1)【植民地のピューリタニズム】
- 7回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代アメリカ合衆国における魔女狩り(2)【「緋文字」にみる魔女狩り】
- 8回 【異議申立て】とコミュニティ：近代イギリスにおける【食糧暴動】(1)【18世紀のイギリス社会】
- 9回 【異議申立て】とコミュニティ：近代イギリスにおける【食糧暴動】(2)【民衆による価格設定】
- 10回 【異議申立て】とコミュニティ：アメリカ合衆国における【食糧暴動】(1)【前世紀転換期のアメリカ】
- 11回 【異議申立て】とコミュニティ：アメリカ合衆国における【食糧暴動】(2)【コウシャー肉暴動】
- 12回 【異議申立て】とコミュニティ：【モラル・エコノミー】とは何か
- 13回 【異議申立て】とコミュニティ：サッチャー政権下イギリスにおける【労働運動】
- 14回 【異議申立て】とコミュニティ：レーガン政権下アメリカ合衆国における【労働運動】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験(100%)で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 比較日本古典文学【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本文学が、どのように外国文化を学び受け入れてきたかを、漢文との関わりを通して学ぶ。  
漢文学の受容を通して日本文学の特質を考える。

## 教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 洪水の予言
- 3回 異界訪問譚と時間【仙界と時間の流れ】
- 4回 異界訪問譚と時間【浦島太郎】
- 5回 肩間尺【孝子伝と搜神記】
- 6回 肩間尺【日本における肩間尺譚】
- 7回 「長恨歌」と『源氏物語』
- 8回 日本の楊貴妃伝説
- 9回 七夕伝説【中国における展開】
- 10回 七夕伝説【日本の受容】
- 11回 酒顛童子と『白猿伝』【『白猿伝』のあらすじと類似点】
- 12回 酒顛童子と『白猿伝』【日本での受容と酒顛童子】
- 13回 和歌と漢詩【鎌倉以前】
- 14回 和歌と漢詩【鎌倉以降】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験 80%  
平常の学習状況 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示された参考文献には、事前に目を通して授業に臨むことが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 比較ドイツ文学【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(領域系)科目

担当者名 岩本 真理子 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

文学のみならず、ドイツの芸術各分野で重要な役割を果たしている「ファウスト」について、他国の作品も参考にしながら多角的に考察する。

## 教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ファウストとは何者か
- 2回 実在のファウストと時代背景
- 3回 民衆本『ファウスト』
- 4回 民間伝承のファウスト
- 5回 イギリスに渡ったファウスト伝説
- 6回 クリストファー・マーロウ『フォースタス博士の悲劇』
- 7回 ファウストとメフィストの変化
- 8回 ゲーテ『ファウスト』
- 9回 『ファウスト第一部』のグレートヒエン悲劇とメフィストの役割
- 10回 『ファウスト第二部』の複雑さ
- 11回 『ファウスト第二部』における救済
- 12回 ハイネのパレエ劇『ファウスト』
- 13回 映画『ファウスト』
- 14回 その他のファウスト作品群
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...10% 期末試験 ... 90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 比較美術【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor  
五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

2008年、美術雑誌『国華』創刊120周年を記念して、東京国立博物館で「対決 巨匠たちの日本美術」という展覧会が開催された。本講義では、同展覧会において対決という名目で比較展示された巨匠たちの作品を改めて比較することを通して、日本近世絵画史の名品を概観し、それによって、日本の近世という時代に、いかに多様な表現が開花していたかを確認したいと思う。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「対決 巨匠たちの日本美術」展について
- 2回 狩野永徳と長谷川等伯【聚光院】
- 3回 狩野永徳と長谷川等伯【智積院】
- 4回 狩野永徳と長谷川等伯【牧谿】
- 5回 俵屋宗達と尾形光琳【風神雷神図】
- 6回 俵屋宗達と尾形光琳【養源院】
- 7回 俵屋宗達と尾形光琳【燕子花図】
- 8回 尾形光琳と酒井抱一【夏草草図】
- 9回 円山応挙と長澤蘆雪【無量寺】
- 10回 円山応挙と長澤蘆雪【写実、写生】
- 11回 円山応挙と長澤蘆雪【白黒屏風】
- 12回 伊藤若冲と曾我蕭白【枳目描】
- 13回 伊藤若冲と曾我蕭白【明清絵画】
- 14回 伊藤若冲と曾我蕭白【古典学習】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(場合によっては学期末試験) ...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 比較民族学 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 成末 繁郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

民族学や文化人類学がこれまで開発してきた「異文化理解」の戦略を、相対主義的な(対象地域の人々に寄り添った)解釈と普遍主義的な(近代合理主義的)解釈との対立を軸に、基本的で定評ある民族誌に依拠しながら解説していく。講師は文化相対主義且つ象徴人類学の立場に立つが、普遍主義的な解釈を完全に否定することはしない。時には相対主義的解釈よりもはるかに説得力を持つ場合もあることも認識しており、その点もあわせて解説するつもりである。また、理論的且つある意味で古典的な文化人類学の学説をトピックごとに解説する方式をとるので(往々にして、「今でもそのようなことが行なわれているのですか」という質問をうけてしまうことが多い)、「グローバル化」とか「ポスト・コロニアル」等の用語で言及されている状況(まさに現在の世界の実情)が手薄になるが、「グローバル化を考える」の表題のもとに関連する映像を見ることで、現在の世界を実感してもらうことでその部分を補足したい。ここで言う「映像」とは現在も伝統的な生活を守り続ける民族の記録及び世界各地でまさに今流行している音楽のビデオである。これらの映像をとおして「グローバル化」の実態への理解を深めることを目指したい。この映像中心の講義をトピックの区切りごとに3回ほど予定している。

今このときの世界に対する理解も含めて、出来るだけ相対主義的に考えていくdispositionを身につけることがこの講義の狙いである。尚、今回は宗教・呪術に関するトピックを中心に進める。

## 教科書 /Textbooks

テキストは特になし。適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press..
- Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago.
- Roy Wagner, 2010, Coyote Anthropology University of Nebraska Press.
- Tambiah, S. J. 1985 Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 象徴論からみた文化の概念解説01 文化の相対主義的な定義【相対主義、認知科学】
  - 2回 象徴論からみた文化の概念解説02 欧米の認知のフォーマット【自然、文化、innate, artificial】
  - 3回 シンボルとは何か シンボルの解説【ラカン、象徴界、恣意性】
  - 4回 グローバル化を考えるI 世界の民族【呪術的治療、精霊、アマゾン】
  - 5回 宗教研究に欧米的近代思考の図式がもたらす弊害01 欧米の思考のフォーマットの歴史【聖餐式、サブ
  - 6回 宗教研究に欧米的近代思考の図式がもたらす弊害02 19世紀から20世紀初頭編01 【進化論、植民地主
  - 7回 宗教研究に欧米的近代思考の図式がもたらす弊害03 19世紀から20世紀初頭編02 【デュルケム、機
  - 8回 グローバル化を考えるII ヒップホップのグローバル化とローカル化【グローバリズム、土着化】
  - 9回 宗教研究に欧米的近代思考の図式がもたらす弊害：20世紀編01 【マリノフスキー、エバンス・プリチ
  - 10回 宗教研究に欧米的近代思考の図式がもたらす弊害：20世紀編02 【ギアツ、ロイ・ワーグナー】
  - 11回 宗教研究に欧米的近代思考の図式がもたらす弊害：20世紀編03 【科学的な解釈、リアリティの厚み】
  - 12回 グローバル化を考えるIII 世界のアイドル【美あるいは「かわいい」の相対性】
  - 13回 呪術研究に欧米的近代思考の図式がもたらす誤った解釈：呪術の効果をめぐって01 【構造主義、象徴
  - 14回 呪術研究に欧米的近代思考の図式がもたらす誤った解釈：呪術の効果をめぐって02 【パフォーマティ
  - 15回 総括：夢のカ【カルロス・カスタネダ、現実批判の人類学】
- ~ 14回 呪術研究に欧米的近代思考の図式がもたらす誤った解釈：呪術の効果をめぐって  
15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験の点数で判定する(100%)。基本的には出席はとらない(取る時は前もって告知する)。試験の際には以下のものを持ち込み可とする。詳細は最初の講義の時に解説する。  
①自筆のノート(ノートのコピーの持ち込みは厳禁) ②配布プリント(コピー可)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義をとる場合、文化人類学や社会学に関する講義や文献に触れておくことが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

私語厳禁。また携帯電話についても最低限のマナーを守ってほしい。



## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

異論や反論を歓迎するので、気軽に質問してください。

## キーワード /Keywords

自然、文化、呪術、近代、科学、宗教、シンボル、記号論。

# 比較表象文化 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では声・身体を人間の最も身近なメディアとして位置づけプロフェッショナルな表現行為の分析を講義する。表象を比較するうえでの方法にも随時注意しながら、人間の感動、喜怒哀楽といった感情を引き起こすさまざまな技術、及びその技術を可能にしている条件について考えてみたい。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発話の重層性①
- 第3回 発話の重層性②
- 第4回 発話の重層性③
- 第5回 発話の重層性④
- 第6回 ジャンルの連鎖①
- 第7回 ジャンルの連鎖②
- 第8回 発話の時空①
- 第9回 発話の時空②
- 第10回 発話の歴史性①
- 第11回 発話の歴史性②
- 第12回 発話の歴史性③
- 第13回 声のメディア性①
- 第14回 声のメディア性②
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、小テスト、課題、授業態度など)…約20% 学期末レポート約80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 比較映像・文化【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

題材たる映像として、本講義では、誰しもがなじみの深いハリウッド映画を用いる。比較は、映画と映画、また、映画と小説の組み合わせで、編集した映画の一場面を鑑賞しつつ行いたい。このような形で比較作業を行なうことによって、今まで見えていなかった、どのような、文化の一面が明らかになるのかを分析したい。同時に、比較という作業が、文化を研究するにあたって、有効な研究手段であることを理解してもらいたい。併せて、アメリカと日本、アメリカとイギリスの文化の違いに関する理解も深めてもらいたい。

## 教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じて、レジュメ等の資料を配布する。参考図書も、適宜紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

入門・現代ハリウッド映画講義	藤井仁子	人文書院
時計じかけのハリウッド映画	芦刈いずみ	角川S C C新書
大人のための『ローマの休日』講義	北野圭介	平凡社新書
カーチェイス映画の文化論	長谷川功一	リム出版新社
映画の構造分析	内田樹	晶文社
「戦争映画」が教えてくれる現代史の読み方	福井次郎	彩流社
シネマの宗教美学		フィルムアート社
家族の幻影	伊藤淑子	大正大学出版会
ハリウッド100年のアラブ	村上由見子	朝日選書
映画で読む21世紀	長坂寿久	明石書店
イエローフェイス	村上由見子	朝日選書
映画の中のアメリカ	藤原帰一	朝日選書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方の説明、参考図書の紹介
- 2回 アメリカ版ゴジラ(1998年)の分析
- 3回 日本版ゴジラ(1954年)の分析
- 4回 日米のゴジラの比較分析
- 5回 ゴジラの違いが日米の文化の差とどのように連なっているかの考察
- 6回 日米の映画タイトルの比較
- 7回 『シンドラーのリスト』と『ライフ・イズ・ビューティフル』を比較
- 8回 上記二作品の映画製作者の意図を分析
- 9回 ユダヤ人と非ユダヤ人の感性の比較
- 10回 日米の映画に見られる語り方の違いを分析
- 11回 日米の映画に見られる語り方の違いと、文化との関係を分析
- 12回 映画『ハリリー・ポッター賢者』と原作とを比較：ハリリーの活躍の度合いの違い
- 13回 映画『ハリリー・ポッター賢者』と原作とを比較：ハリリーのキャラクターの違い
- 14回 『ハリリー・ポッター賢者』の原作と映画との比較によって明らかになる、英米の文化の違い
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%  
配布プリント(ただし、書き込みがされたプリントのコピーは持ち込み不可)、自筆ノート持込可(ただし、コピーノートは持ち込み不可)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の前に指定した映画を可能な限り見ておくようにしてください。  
講義中には、重要な場面を断片的にのみ見ることになります。

## 履修上の注意 /Remarks

# 比較映像・文化【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化（領域系）科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 比較社会意識 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

我々の日常の生活のなかでは、人間の意識のほとんどは、個人的なもののように見える。しかし、我々の道徳意識や美意識等が、主に家族等、様々な集団を通して内面化されているものであることから分かるように、意識（無意識も含めて）とは極めて集合的なものであり、歴史的なものである。また、人間の思考の多くの部分は、社会的なものである言語によって支配されている。本講義においては、社会的なものとしての意識（無意識）が、「不確実性」という特徴を次第に強める現代社会のなかで、内なる自然としての身体を持つ「個人」とおとして、どのように社会化され、さらに変容してゆくのかを考える。

## 教科書 /Textbooks

特になし（レジュメ資料を配付）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

須藤廣『ツーリズムとポストモダン社会』明石書店（2012年）  
須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版（2008年）  
J・リッツァ『マクドナルド化する社会』早稲田大学出版会（1999年）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 【意識】とは何か
  - 2回 言語と意識との関係について
  - 3回 現象学は意識をどう捉えてきたか
  - 4回 構成主義、【構築主義】の社会学は意識をどう捉えてきたのか
  - 5回 【近代化】と意識1 (E・デュルケムにとっての「意識」)
  - 6回 近代化と意識2 (M・ウェーバーにとっての「意識」)
  - 7回 M・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』解説
  - 8回 【個人主義化】と意識1 (フロム、リースマン、ベラー論)
  - 9回 【ポストモダン】化と意識 (ポストモダニズム論、ギデンズ論)
  - 10回 【消費社会化】と意識1 (リッツァーの【マクドナルド化】論)
  - 11回 消費社会化と意識2 (「デイズニー化」と意識)
  - 12回 日本人と意識の歴史1 (戦後～70年代)
  - 13回 日本人と意識の歴史2 (70年代以降)
  - 14回 現代社会の「不確実性」と現代人の意識
  - 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題30% 試験70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理論的な解説が主になるので、背景の社会学的知識が必要である。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 比較社会文化 【昼】

担当者名  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義の前半においては現代文化の特徴についての諸理論、諸分野を解説し、後半（4回程度）はその応用領域として観光文化について、主に理論的に講義をする。本講義では文化を、「真/偽」「美/醜」「善/悪」等の基準はカッコに入れ、それらの基準を成り立たせているメカニズムとして、分析的に考える。

## 教科書 /Textbooks

特になし（レジユメ資料を配付）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版（2008年5月）2500円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（【 】はキーワード）

- 1回 【文化】とは何か（【イメージ】の生産とイメージの解釈・消費のしくみについて）
- 2回 【近代化】と文化1（M・ウェーバーの近代化論を中心に）
- 3回 儀礼と世俗化（V・ターナーの通過儀礼論、PLバーガーの世俗化論を中心に）
- 4回 現代文化における実在と記号（イメージの生産とイメージの消費についての近代システム）
- 5回 【ポスト・モダニズム】と【現代文化】消費文化1 建築、絵画
- 6回 【ポスト・モダニズム】と【現代文化】消費文化2 絵画・写真
- 7回 【ポスト・モダニズム】と【現代文化】消費文化3 映画（鑑賞）
- 8回 【ポスト・モダニズム】と【現代文化】消費文化3 映画
- 9回 【ポスト・モダニズム】と【現代文化】消費文化2 文学・哲学
- 10回 【ポスト・モダニズム】と【現代文化】消費文化2 音楽
- 11回 現代社会と表象システム
- 12回 【観光】文化とは何か（近・現代社会と場所の消費としての観光について）
- 13回 日常世界の観光化と観光の日常化（テーマパークとモールについて）
- 14回 観光とアイデンティティの政治学
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題30% レポート70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

11回以降では、指定された参考書に従って授業を進める。

## 履修上の注意 /Remarks

理論的な解説が主になるので、背景の社会学的知識が必要になる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 比較中国思想 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(領域系)科目

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

中国の思想、文学、文化を研究する学問について、日本では、古くから「漢学」(Sinology)と、現在では「中国学」(Chinese Studies)と呼ばれている。同様、中国の言語も、「漢文」から「中国語」に変化した。

本講義のねらいは、「漢学」から「中国学」へ、「漢文」から「中国語」への発展軌跡を究明することである。

本授業の内容は、中国人学者の著作『从汉学到中国学』(漢学から中国学へ)の関連部分の中国語原文を、演習の形で日本語に翻訳したうえで、講読し理解することである。

## 教科書 /Textbooks

『从汉学到中国学』(中華書局2007年)  
授業ごとにプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

『中国文化叢書』、大修館書店1980年。○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 近代大学建制与伝統漢学的式微
- 第二回 東京大学古典講習科
- 第三回 過渡期人材の学術成就
- 第四回 東洋史、東洋学的建立
- 第五回 史哲双星
- 第六回 京都支那学
- 第七回 京都学派及其学術特徴
- 第八回 漢学与中国学
- 第九回 借用、仮名与和訓
- 第十回 近代大学中的「清語」教育
- 第十一回 善隣書院、東亜同文書院
- 第十二回 唐通事、旗人与外交官
- 第十三回 中国語教育的時代背景
- 第十四回 教科書体系化与專業雜誌
- 第十五回 中国語教育与近代日中關係

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席態度30%、演習結果50%、レポート20%。  
演習担当日の欠席あるいは遅刻(30分以上)は、一発「不可」。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最初の授業から担当者、担当部分を分配するので、第一回目から積極的に参加し、様子見(オリエンテーション的)しないこと。  
演習担当の際、よく辞書などで調べること。  
演習本番の前に、よく原文を大声で練習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

欠席と遅刻を重要視する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語が、普通の学生にとってはこれからの人生の武器に過ぎざるも、外国語学部の学生にとってはすべてである。

## キーワード /Keywords

# 比較ジェンダー論【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

グローバリゼーションの下、ナショナルとグローバルのせめぎあいのなかで変容する表象文化に焦点を当て、そこに潜むジェンダー・ポリティクスを、国際比較というツールを用いて、歴史的 / 地域横断的に読み解く視点と理論を身につける。

## 教科書 /Textbooks

事前にレジュメと資料を配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『グローバリゼーションとジェンダー表象』(ヴェラ・マッキー著) 御茶の水書房 1,500円
- 『象徴としての女性像-ジェンダー史から見た家父長制社会における女性表象』(若桑 みどり著) 筑摩書房 4,500円
- 『視線と差異-フェミニズムで読む美術史』(グリゼルダ・ポロック 著) 新水社 4,515円
- 『女性・ネイティブ・他者-ポストコロニアリズムとフェミニズム』(トリンティ・ミンハ著) 岩波書店 3,675円
- 『岩波女性学辞典』(井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編) 岩波書店 4,830円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 絵画のなかの家族・子ども
- 2回 絵画のなかの妻・娼婦
- 3回 絵画のなかのオリエンタリズム
- 4回 モダンガール・東アジア・植民地的近代
- 5回 対ソ戦略韓国 - 沖縄 - 台湾 - フィリピン防衛ラインにおける米軍基地文化と暴力
- 6回 小説・戯曲・宝塚にみる異装性
- 7回 広告・映画のなかのジェンダー、人種 / エスニシティ、階級とポストコロニアリズム
- 8回 広告・映画のなかのマッチョ文化
- 9回 デイズニー映画と帝国主義
- 10回 映画のなかの「レイディース・ファースト」
- 11回 絵画・映画・小説のなかの美女と死
- 12回 ファッション雑誌がつくる「美」と美容整形
- 13回 越境する日本のマンガ・アニメ、コスプレ、ライトノベル
- 14回 アメリカ大統領家族と日本天皇家家族の肖像とナショナリズム
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...30%、レポート...30%、期末試験...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グローバリゼーションの状況下でのメディア表象に日頃から関心に向け、ジェンダーの視点で問い直す作業を行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

オリエンタリズム、階級、グローバリゼーション、コロニアリズム、ジェンダー、人種 / 民族、セクシュアリティ、多文化主義、トランスナショナル、ナショナリズム、表象文化、ポストコロニアリズム、ポリティクス、眼差し



# 日米文化比較 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

### 内容

日米文化を比較し、両者の相違点と共通点を探ります。まず文化とは何か、比較文化とは何か、およびその目的とは何か、ということを考えます。そして、日米文化比較の具体的内容に入っていきます。

講義が中心ですが、受講生は講義中でもペアワーク、グループワークそしてミニレポート執筆と多様な活動を通して学習します。

### 学習目標

- 1 比較文化の基礎知識を得て、それを活用できる。
- 2 異文化理解に必要な相対主義的態度を身につける。
- 3 講義内容を的確にまとめ、論理的な文章で説明できる。

## 教科書 /Textbooks

使いません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

テーマに応じて、適宜講義中に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション：授業の進め方、成績評価方法など。必ず出席のこと。
- 2 . 文化とは何か：定義、種類、特性など。
- 3 . 比較文化とは何か：定義、目的、方法、注意点など。
- 4 . 日米の国の成り立ち①：日本編
- 5 . 日米の国の成り立ち②：アメリカ編
- 6 . 日米文化比較①：スポーツ
- 7 . 日米文化比較②：ダイバーシティ
- 8 . 日米文化比較③：社会と世間
- 9 . 日米文化比較④：若者文化、世代論
- 10 . 日米文化比較⑤：仕事、労働、生産
- 11 . 日米文化比較⑥：同上
- 12 . 学生のグループワーク
- 13 . 学生のグループワーク
- 14 . 学生のグループワーク
- 15 . まとめ：授業総括として、相対主義、異文化理解など

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート 30%

課題提出 20%

期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本、アメリカ両文化について知っていること、知らないことを整理しておいて下さい。授業には常に積極的な姿勢で臨むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

比較文化をすることは簡単そうに聞こえますが、実はその過程では様々な問題があります。よほど注意しなければ自文化中心主義という罠にかかるとです。本コースでは文化を比べる際の、あるいは文化を語る際の心構え等の習得も目指しています。

キーワード /Keywords

# 日英文化比較 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この講義では、「若者」をテーマにして、イギリスと日本の比較を行います。いわゆる「若者文化」の比較だけではなく、「社会」問題としての「若者」をそれぞれの国がどのように取り扱っているのかを比較することも通じて、両国の「社会」の構造全体を比較したいと思います。

## 教科書 /Textbooks

特になし(毎回、レジュメを配布します)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『イギリス「族」物語』(ジョン・サベージ)、毎日新聞社、2625円
- 『族の系譜学』(難波功士)、青弓社、2730円
- 『ノンエリート青年の社会空間』(中西新太郎・高山智樹編)、大月書店、3360円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 インタロダクションー「若者」って誰のこと?
- 第二回 イギリスの若者文化・その1ーイギリス近代と「若者」の誕生
- 第三回 イギリスの若者文化・その2ー「フリーガン」登場
- 第四回 イギリスの若者文化・その3ーテッズからモッズへ
- 第五回 イギリスの若者文化・その4ースキンヘッズ・パンク・ポストパンク
- 第六回 イギリスの若者文化・その5ーサッチャリズムからブリットポップへ
- 第七回 イギリスの若者文化・その6ー若者文化の現代
- 第八回 イギリスの若者文化ー映像で見る若者文化
- 第九回 日本の若者文化・その1ー「青年」と「壮士」
- 第十回 日本の若者文化・その2ー「皇国」の失われた「青春」
- 第十一回 日本の若者文化・その3ー「アブレゲール」と「太陽族」
- 第十二回 日本の若者文化・その4ー反抗する「若者」たち
- 第十三回 日本の若者文化・その5ー文化としての「ヤンキー」
- 第十四回 日本の若者文化・その6ー平坦な戦場を生きる私たち
- 第十五回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小レポート40%、期末レポート60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

映像、音楽をふんだんに使用して、多角的な「若者」の理解を図ります。

## キーワード /Keywords

若者文化、ロックンロール、階級、多文化主義、ニート、社会的排除

# 日仏文化比較【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(領域系)科目

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

具体的な作家(アーティスト)たち、すなわち、現代美術家、映像作家、舞踏家、小説家といった人々を、日本とフランスからそれぞれ取り上げ、彼らの活動やその射程について理解を深めながら、日仏の文化比較を行う。予定している作家は、岡本太郎とピカソ、草間彌生とアネット・メサジエ、Chim↑PomとZevsとボルタンスキー、ピナ・バウシュと山海塾、ゴダールと大島渚、等々である。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、その都度提示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回: イントロダクション
- 2回: 現代絵画1: パブロ・ピカソから岡本太郎へ
- 3回: 現代絵画2: 岡本太郎と戦後日本
- 4回: 現代美術の女性1: 草間彌生
- 5回: 現代美術の女性2: アネット・メサジエ
- 6回: 現代美術と都市1: Chim↑Pom
- 7回: 現代美術と都市2: Zevs他
- 8回: 現代美術と記憶1: Chim↑Pom他
- 9回: 現代美術と記憶2: クリスチャン・ボルタンスキー
- 10回: 現代と舞踏1: ピナ・バウシュ
- 11回: 現代と舞踏2: 山海塾
- 12回: 現代と映画: 大島渚
- 13回: 現代と映画: ジャン＝リュック・ゴダール
- 14回: 日仏作家比較
- 15回: まとめ

各回の授業スケジュールと内容はあくまで目安である。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% レポート and/or 期末試験...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

普段から意識して、日仏の現代美術、映画、文学、舞台芸術をみておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

毎月一度、出張のため休講とし、その分は補講期間にまとめて講義する。履修者はそれを踏まえた上で計画的に履修すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いっしょに芸術の現在と未来を考えてみましょう。

## キーワード /Keywords

現代美術 フランス 日本 映画 都市 記憶 身体 表象

# 日中文化比較【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本と中国は一衣帯水の関係にあり、文化の面で密接な関係を持つが、一方では相違点も多く見られる。本講義は、特に生活の基本となる飲食文化について、日中間の比較を行う。

とりわけ、東洋医学の視点から日中の飲食文化の違いを考えていく。

全体的にまず、東洋医学の基礎的な考え方を学ぶ。

それから、具体的に、日中間の飲食文化比較を進めていく。さらに、授業中に、近年注目を集めている医食同源、薬膳などの内容についても触れる予定である。

## 教科書 /Textbooks

『東方栄養新書』（梁 晨千鶴著 メディカル・ユーコン社 ¥2,100）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

プリント配布

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 東洋医学の考え方(1) 【陰陽・五行について】
- 3回 東洋医学の考え方(2) 【陰陽・五行と身体の関係について】
- 4回 医食同源
- 5回 主食の比較(日本)
- 6回 主食の比較(中国)
- 7回 副食の比較(日本)
- 8回 副食の比較(中国)
- 9回 日中調理法の比較
- 10回 薬膳
- 11回 日本茶
- 12回 中国茶
- 13回 茶法・茶菓子
- 14回 健康茶・薬酒
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・60% テスト・・・40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

宿題、レポートをしっかりと提出すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

東洋医学、医食同源、薬膳、主食、副食、中国茶、日本茶

# 近現代美術【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

美術を、思考ツール・実践ツールとして読みこなし使いこなす能力を身に付けます。  
国内外の近現代美術の事例をスライドやビデオ等で紹介しながら、「美術」に関する既成概念に縛られずに、思考の柔軟性を養います。  
また必要に応じて「美術」に限らず他分野の事象も取り上げます。

## 教科書 /Textbooks

使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品の鑑賞とは1：身近な作品を鑑賞する
- 3回 作品の鑑賞とは2：鑑賞の実例
- 4回 抽象美術作品の意味と趣味
- 5回 広がる美術の舞台：地球規模・都市規模のアート
- 6回 広がる美術の舞台：概念・態度としての美術
- 7回 美術と近代化1：近代日本美術の成立
- 8回 美術と近代化2：ラオス、カンボジア
- 9回 美術と近代化3：ベトナム、タイ
- 10回 芸術の力×権力×暴力
- 11回 アートプロジェクトの事例1：美術×都市
- 12回 アートプロジェクトの事例2：美術×地域
- 13回 アートプロジェクトの事例3：美術×自然
- 14回 北九州のアートシーン1：明治～昭和
- 15回 北九州のアートシーン2：昭和～現在

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は変更する場合があります。  
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の美術館・ギャラリー等で行われる展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

今までに「自己」と「他者」について深く考えてみたことはあるだろうか。他人とともに生きていくため人間関係を理解には、なにが必要だろうか。残念ながら、たとえ「心」や「社会」の仕組みがわかって、人間関係は理解できない。人間関係はつねに変わっていく「なまもの」だからだ。時代や地域や育った環境によって異なる価値観をもとに、それぞれの人は他人と交渉し合意をはかり意思決定をする。そうした倫理や判断基準を作り上げているのが「文化」である。

自分と他人は、異なる身体を持ち、異なる価値観を持ち、異なる時間を生きているにもかかわらず、共感することができたり、相手のいうことが理解できたりするのはなぜだろう。「他人のことなんてわかるはずはない」といいながら、そんな他人を信じて毎日を生きられるのは、とても不思議なことだ。

人類学では、理解できるはずのない他人に果敢にもフィールドワークという手法をつかって近づいていく。時にはビデオ・スライドをみながら異文化をイメージする。

内容はちょっと難しいかもしれないけど、講義の中で人間の文化の多様性と他者認知や自己認知の普遍性について考えを巡らしながら、恋だの政治だの常識だの、みんなが大好きな人間関係のパワーゲームについて分析し、いろいろと回り道をしようと思う。そうしたたくさんさんの経験を通して、他人を知ることは自分を知ることでありという異文化理解のもっとも基本的な道筋が見えてくるはずだ。

人間と自然と社会の関連性に関する専門的な知識を身につけるとともに、主体的に学ぶ方法論を考えることが達成目標となる。

## 教科書 /Textbooks

講義中にたくさんの本と映画を紹介する  
そのうちで最低でも5つくらいは最終講義までに読み終えておくこと。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 「人間らしさとはなにか? 人間のユニークさを明かす科学の最前線」マイケル・S・ガザニガ
- 「共感の時代へ 動物行動学が教えてくれること」フランス・ドゥ・ヴァール
- 以下はほんの一部である
- 「完全な人間を目指さなくてもよい理由 遺伝子操作とエンハンスメントの倫理」マイケル・J・サンデル
- 「日常人類学宣言! 生活世界の深層へ / から」松田 素二
- 「熊から王へ」中沢新一
- 「人類大図鑑」ロバート・ウィンストン 小笠原景子
- 「フィールドワークへの挑戦〈実践〉人類学入門」菅原和孝
- 「身体の零度」三浦雅士
- 「自由を耐え忍ぶ」テッサ・モリス・スズキ 辛島理人

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 文化とはなにか
- 第2講 近代とはなにか
- 第3講 共感とはなにか
- 第4講 他者とはなにか
- 第5講 交換とはなにか 入門編
- 第6講 交換とはなにか 応用編
- 第7講 社会とはなにか
- 第8講 国家とはなにか
- 第9講 信じるとはなにか 入門編
- 第10講 信じるとはなにか 応用編
- 第11講 自然とはなにか 入門編
- 第12講 自然とはなにか 応用編
- 第13講 わかるとはなにか 入門編
- 第14講 わかるとはなにか 応用編
- 第15講 すべてのまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義で紹介するさまざまな活動に参加する	...	30%
講義で紹介するさまざまな本を読み考える	...	30%
講義でおこなわれるさまざまな議論に参加する	...	30%
講義の内容と上記の活動を踏まえた上で小論を書く	...	10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

人間とは何かについて考えており、心の準備ができている人だけ受講すること。  
大学の講義は教えられることよりも、自分で考える事が大切である。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

人類学  
フィールドワーク



担当者名 /Instructor 明間 肇 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ポスト近代（情報社会・高度消費社会）が大きな近代化の流れの中でいかに成立してきたのか、また、社会意識がいかに変容してきたのかを考えていきます。近代化と近代的主体の構築過程を追いながら、現代における主体の変容の必然とその先に予想される新たな連帯の可能性について考えてみたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版（2008年5月）、田中義久編『関係の社会学』弘文堂（1996年2月）、宇野常寛『リトル・ピープルの時代』幻冬舎（2011年7月）、村上春樹の小説『1Q84』など

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要の説明：問題提起および問題意識の所在
- 2回 【市民社会】における【情報社会】の位置づけ：市民社会の歴史的な規定性の貫徹
- 3回 【脱魔術化】の過程としての【近代化】：【近代市民社会】の意識のあり方および【高度消費社会・情報社会】の位置づけ
- 4回 社会学の成立と近代の関係および補足：【資本制社会】の成立過程における個人と社会のあり方の変容
- 5回 補足・討論
- 6回 【メディア】について：【身体-主体】の変容をもたらすものとしての【メディア】
- 7回 【身体-主体】の基本的構制：【近代的主体】と【メディア】との関係性
- 8回 【メディア】からみた現代：社会意識の変容
- 9回 【ポスト近代】について：【多様化】する【身体】と【メディア】
- 10回 補足・討論
- 11回 近代権力とは何か：近代化と【生-権力】の成立の関係
- 12回 【ポスト近代】における権力と主体
- 13回 現代社会の諸相を考える + 補足：新たな【連帯】のエートスへ向けて
- 14回 補足・討論
- 15回 試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況...40% レポート...20% 試験...40%

出席は毎回とりますので、出席状況も評価の対象となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記予定は、講義日程や講義の理解度に応じて適宜順序を変更する可能性があります。また、補足として映画等を観て、あるいは一定の課題のもとでレポートを書いていただく予定です。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に質問していただける姿勢で授業に参加してください。

## キーワード /Keywords

# 日本文学概論 ( 古典 ) 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化 ( 地域系 ) 科目

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本文学とは？  
古典とは？

日本文学は現代まで千数百年の歴史を有するが、そのうち古典と称されるものがこの講義の対象である。その範囲は膨大で多岐にわたるが、系統的に講述する。

## 教科書 /Textbooks

特に用いない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本文学とは？古典とは？その定義について
- 2回 日本古典文学の領域・範囲について
- 3回 古筆・絵詞ほか周辺領域について【古筆切れ】【絵巻】
- 4回 韻文文学とは【音数律】
- 5回 和歌【歌語】【歌枕】
- 6回 連歌・俳諧【座の文学】【連衆】【宗匠】
- 7回 狂歌・川柳【俗文学】
- 8回 漢詩文【訓読】
- 9回 散文文学とは
- 10回 神話・伝承・祝詞・宣命【口承文学】
- 11回 物語文学【歌物語】【作り物語】【歴史物語】【軍記】【話型】
- 12回 説話文学【口承から書承へ】
- 13回 評論・随筆・日記・紀行【身の上】
- 14回 劇文学-能・狂言・歌舞伎【傾き者】【わざおぎ】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 30% 試験 ... 70%  
出席が3分の2未満の者は、試験を受けることができない。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

随時紹介する参考文献について入手し読破すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本文学概論 ( 近現代 ) 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化 ( 地域系 ) 科目

担当者名 /Instructor 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、受講生が培ってきた読書慣習や教科「国語」を通じての知識を、日本文学研究のための専門知識へと、レベルアップすることを目的とする。具体的には、今、日本文学を学ぶ者として知っておくべき作家・作品を概説し、さらに文化史の観点から考察を加えていく。テキストを読む段階から、人や時代の動的な営みのなかで文学を捉える段階へとステップアップすることによって、日本文学とは何か、日本文学を「今」学ぶとは何か、についてぜひ受講者それぞれに考えてもらいたい。  
※本講義は日本文学を専門とする複数の教員によるオムニバス授業である。

## 教科書 /Textbooks

授業時に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○各種、日本文学史。  
他は授業内で指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入：「国語」から「日本文学研究」へ
- 2 村上春樹と「風の歌を聴け」(馬場担当)
- 3 三島由紀夫と「金閣寺」(馬場担当)
- 4 安部公房と「砂の女」(馬場担当)
- 5 川端康成と「雪国」(馬場担当)
- 6 谷崎潤一郎と「細雪」(馬場担当)
- 7 小林多喜二と「蟹工船」(馬場担当)
- 8 芥川龍之介と「藪の中」(馬場担当)
- 9 夏目漱石と「坊っちゃん」(馬場担当)
- 10 滝沢馬琴「南総里美八犬伝」(馬場担当)
- 11 上田秋成と「雨月物語」(渡瀬担当)
- 12 「小栗判官」(渡瀬担当)
- 13 「とはずがたり」(渡瀬担当)
- 14 「平家物語」(渡瀬担当)
- 15 「宇治拾遺物語」(渡瀬担当)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

担当者ごとの課題...各50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に作品を指定、もしくは複写資料を配布する場合がありますので、その予習・復習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本語学概論I【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

我々が普段何気なく使用している日本語を、音声・音韻・文字などの観点より観察することを通して、日本語の特色について考える。その中で、日本語学の基礎理論を学ぶとともに、過去の日本語と現代日本語とのかわりについても、個別の現象を抑えながら把握するよう努める。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』和泉書院

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本語学と国語学
- 第2回 音声学と音韻論
- 第3回 音韻論と文字・五十音図とのかかわり
- 第4回 音節と単音・音素表記
- 第5回 シラブルと撥音・促音・拗音・長音 特殊音の平仮名表記とカタカナ表記
- 第6回 音声器官の構造と役割
- 第7回 有声音と無声音
- 第8回 国際音声記号 母音の無声化
- 第9回 調音点と調音法
- 第10回 硬口蓋化現象と拗音との関連
- 第11回 ガ行鼻濁音にみる地域差と年齢差 連濁現象 四つ仮名の混同
- 第12回 八行子音の歴史的変遷と八行転呼音
- 第13回 五十音図と『醍醐寺藏孔雀経音義』
- 第14回 撥音と促音にみる逆行同化現象と条件異音 ラ行音と自由異音
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...25% 期末試験...75%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この科目履修後に「日本語学概論II」を受講すれば、より多角的な観点から日本語の諸現象を理解することができます。授業で指示されたことを、授業の事後に必ず学習してください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本語学概論II 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

普段何気なく使用している日本語を語彙・文字・文法・敬語・方言などの観点から観察することを通して、日本語の特色について考える。そのなかで日本語学の各分野における基礎理論について、個別の現象を抑えながら把握するよう努める。とくに、知識の習得に終始するのではなく、各分野における様々な問題点について自ら考える力を養っていく。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』和泉書院

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 語と語彙 語彙の分類と体系 辞書・辞典にみる語彙
- 第2回 理解語彙と使用語彙 基本語と基礎語 単語の種々相
- 第3回 語彙の系統 語彙の量的考察 語彙量と使用率
- 第4回 日本語の語種 語構成 語の位相 意味の諸相
- 第5回 語種と品詞の関連 単語の文法的な性質 品詞論と文法化
- 第6回 漢語の伝来と受容 音声と文字とのかかわり 文字の種類
- 第7回 漢字の成立と伝来と享受 万葉仮名と上代特殊仮名遣い
- 第8回 漢字の訓の定着 日本の漢字音 漢字の構成と形と音
- 第9回 ローマ字の伝来と変遷 文字の発達の一方向 現代日本語の表記の特徴
- 第10回 待遇表現と敬語 敬語の三種類 素材敬語と対者敬語
- 第11回 美化語と丁寧語 絶対敬語と相対敬語 敬意と名詞
- 第12回 標準語と共通語と方言と俚言 方言を生む作用
- 第13回 方言圏論 方言区画論
- 第14回 アクセントの種類
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...25% 期末試験...75%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習してください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本の宗教文化【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

### 神道の成立と展開

初詣やお祭りやお祓いなど、日本人の宗教生活に密着した宗教である神道について、義務教育や高校教育では詳しく触れられることがない。学界においても、戦前戦後を通じて本格的に考究されることがなかった。近年パワースポット詣でやスピリチュアルブームでもはやされているところがあるが、そうした関連書籍に目を通して、ずいぶん誤解されているところがある。

神道という宗教は日本の民族宗教として原始時代から成立していたと考えられがちである。また民俗宗教として社会の中で自然発生的に形をなしてきた宗教という見方もなされることがある。あるいは、神道は土俗の信仰が仏教に取り込まれる中で、仏教の一つの形態・あり方として形成されてきたとする議論もある。しかしながら本当にそうであろうか。

神道という宗教は、稲作漁労文化を基盤としているが、それが自然に発展を遂げたものではなく、古代東アジアの国際関係・文化交流の中で政治的な力学によって形作られていったと考えられる。

奈良時代に神道は仏教との関係を深めていく。神を仏教の教理の中でどう意味付けるのか、その思想は大きく揺らいでいく。これにも実は政治的要因が関係している。神道と仏教という二つの宗教の共存のあり方は平安時代まで試行錯誤が続いていくのである。このことは今日の日本人の宗教生活や文化のありかたとも密接に関わってくる問題だろう。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 井上光貞『日本古代の王権と祭祀』(東京大学出版会)
- 高取正男『神道の成立』(平凡社)
- 岡田荘司『日本神道史』(吉川弘文館)
- 村山修一『本地垂迹』(吉川弘文館)
- 新川登亀男『道教をめぐる攻防 日本の君王、道士の法を崇めず』(大修館書店)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「神道」の成立をめぐる諸学説
- 3回 律令制以前の「神道」
- 4回 神社の成立と古代の神信仰
- 5回 神祇令の成立
- 6回 中国の皇帝祭祀と神道(1) 皇帝祭祀とは
- 7回 中国の皇帝祭祀と神道(2) その共通点と相違点
- 8回 儒教・道教の受容をめぐる
- 9回 神仏習合思想の発生
- 10回 神仏習合と東アジア宗教
- 11回 奈良時代の神仏隔離
- 12回 平安時代の神仏隔離
- 13回 本地垂迹説の形成と展開
- 14回 神仏習合と神仏分離
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 50% 期末試験... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布された資料や、紹介した参考図書はよく読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に習った日本史の古代について復習しておいてください。

## キーワード /Keywords

神道、神社、神祇令、皇帝祭祀、律令制、神仏習合、本地垂迹説、神仏隔離

# 日本の歴史と社会【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。そこでこの授業では、「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○高木侃『三行半と縁切寺』(講談社現代新書)  
山本英二『慶安の触書は出されたか』(山川出版社日本史リブレット)他

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 ガイダンス
  - 2回 【近世】という時代
  - 3回 【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
  - 4回 【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
  - 5回 【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
  - 6回 『【女大学】』と『和俗童子君』①
  - 7回 『【女大学】』と『和俗童子君』②
  - 8回 【好色物】と女性の社会進出
  - 9回 【縁切寺】の歴史
  - 10回 【慶安御触書】を読み直す①榎本宗次説
  - 11回 【慶安御触書】を読み直す②丸山雍成説
  - 12回 【慶安御触書】を読み直す③木崎良美説
  - 13回 【慶安御触書】を読み直す④神崎直美説
  - 14回 【慶安御触書】を読み直す⑤山本英二説
  - 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 日本の芸能文化【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

テーマ：日本古代の芸能—芸能と宗教の関係を中心に

日本古代において芸能と宗教は密接不可分の関係にあった。芸能は神や人や稲霊などの霊魂に働きかけ、コントロールする技法であった。授業ではまず「芸能」という言葉のもつ本来の意味を中国にさかのぼって説明する。続いて、縄文時代・弥生時代・古墳時代の芸能について、考古資料をもとに説明する。さらに文献に見える様々な芸能を紹介し、それらが当時の人々の宗教観・霊魂観と密接な関係にあったことを論じていく。

とりわけ神楽は古代から今日まで継承されてきた芸能であり、神話にもその起源が語られている。九州は神楽の盛んな地域でもあるので重点的に取り上げていきたい。

また雅楽を中心とする古代の渡来芸能についても取り上げ、中世の田楽・猿楽・能・狂言の発生までを講義したい。

日常あまり接する機会のない伝統芸能をテーマとして取り上げるため、ビデオを上映など視聴覚教材を使って芸能に対する理解を深めることに努めるが、古典芸能や民間芸能にじかに触れる機会を持ってもらうため、神楽や能・狂言の鑑賞・見学レポートを提出してもらう。

## 教科書 /Textbooks

使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 藝能史研究会編『日本芸能史』(法政大学出版)
- 藝能史研究会編『日本の古典芸能』全10巻(平凡社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要とレポートについて
- 2回 「芸能」とはなにか(1)「芸能」の語義
- 3回 「芸能」とはなにか(2)中国との比較
- 4回 先史時代の芸能—琴・笛・銅鐸
- 5回 霊魂と芸能—神楽・歌垣・田植踊り
- 6回 神祭りと言能—記紀・風土記に見る芸能
- 7回 政治と芸能—国魂と服属儀礼
- 8回 神楽の種類
- 9回 神楽を見る①椎葉神楽の映像を通して
- 10回 神楽を見る②遠山の霜月祭り・大元神楽の映像を通して
- 11回 神楽を見る③宮廷神楽と巫女神楽
- 12回 天石戸神話・鎮魂祭と古代の神楽
- 13回 雅楽の伝来
- 14回 中世芸能の発生と雅楽
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...70% 芸能見学・鑑賞レポート...30%(レポートを提出しない場合は、単位を認めません。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布するプリントを読んでおいてください。  
初回と2回目の授業に、レポートに関する諸注意を説明します。よく聞いておいてください。

## 履修上の注意 /Remarks

レポートの提出期限は厳守すること。遅延は認めません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

できるだけ生の伝統芸能に触れる機会をつくって下さい。

## キーワード /Keywords

芸能、神楽、霊魂、神話、鎮魂、雅楽、能、狂言

# 日本の生活文化【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

前半は日本人の生活の中心である衣食住の歴史を衣と食を中心に先史時代にさかのぼるとともに、日本文化の確立期である江戸時代を中心にみていきます。また地域の食や暮らしの文化を研究している第一人者を外部講師としてお招きし、貴重なお話をお伺いします。

後半は菓子の歴史から地域の社会と生活の歴史を見ていきたいと思えます。

## 教科書 /Textbooks

前半・・・レジユム・プリントを配布する。

後半・・・八百啓介『砂糖の通った道-菓子からみた社会史-』（弦書房 2011）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 永原慶二『苧麻・絹・木綿の歴史』（吉川弘文館）
- 柳田國男『木綿以前の事』（岩波文庫）
- 原田信男『江戸の料理史-料理本と料理文化-』（中公新書）
- 原田信男編『江戸の料理と食生活』（小学館）
- 中山圭子『事典 和菓子の世界』（岩波書店）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 江戸時代における衣食住の成立
- 3回 生活文化の東西
- 4回 外部講師①布の歴史と【小倉織】(予定)
- 5回 戦国時代の輸入【木綿】
- 6回 江戸時代の輸入【木綿】
- 7回 江戸時代の服装と化粧
- 8回 外部講師②未定
- 9回 菓子の社会史①禅宗と菓子
- 10回 菓子の社会史②南蛮料理と南蛮菓子
- 11回 菓子の社会史③長崎街道の飴文化
- 12回 菓子の社会史④長崎警備と砂糖食文化
- 13回 菓子の社会史⑤近世～近代における小倉の菓子
- 14回 菓子の社会史⑥菓子と近代
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業レポート...50% 筆記試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジユム・参考文献をよく読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本文学史 ( 古典 ) 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化 ( 地域系 ) 科目

担当者名 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

古典文学の生成、発展という大まかな流れを理解する。  
現在、「古典」として扱われている作品は、いかにして「古典」となったのか、「古典」とはどのようなカテゴリーなのかを追求することを通して、「古典」の意味を考える。

## 教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「古典」とは何か
- 2回 神話
- 3回 和歌と権威
- 4回 物語の誕生
- 5回 物語の展開
- 6回 古典と学問【漢籍】
- 7回 古典と学問【和歌・物語】
- 8回 古典と注釈
- 9回 古典となった芸能、なれなかった芸能【盲僧琵琶・幸若など】
- 10回 古典となった芸能、なれなかった芸能【能・狂言など】
- 11回 近世の出版と古典【古活字版と「準古典」】
- 12回 近世の出版と古典【物語と作者】
- 13回 明治維新と古典
- 14回 演劇の近代化と歌舞伎
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験 80 %  
平常の学習状況 20 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文学史年表を暗記するのではなく、自分なりに文学史の流れを組み立てられるよう、自ら考える姿勢で臨むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本文学史 (近現代) 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化 (地域系) 科目

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本の明治以降の日本近代文学について、従来の近代文学史を基礎としながらもその上に立って、「私」「われわれ」「風俗」の観点から文学を見直し新たな文学史の可能性を探る。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。毎回プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 従来の近代文学史の概観
- 2回 日本の近代文学の出発 近代文学の理論 坪内逍遙 二葉亭四迷
- 3回 「私」を巡る問題① 森鷗外 樋口一葉
- 4回 「私」を巡る問題② 夏目漱石 志賀直哉 芥川龍之介
- 5回 「私」を巡る問題③ 堀辰雄 中島敦
- 6回 「私」を巡る問題④ 宮本輝 村上春樹
- 7回 「私」を巡る問題⑤ 鷲沢萌
- 8回 「われわれ」という発想① 小林多喜二「蟹工船」
- 9回 「われわれ」という発想② 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」「淫売婦」
- 10回 「われわれ」という発想③ 中野重治「鉄の話」
- 11回 風俗を描く① 古き良き東京を舞台として 永井荷風 谷崎潤一郎
- 12回 風俗を描く② 川端康成「浅草紅団」 梶井基次郎「檸檬」  
浅草、京都といった都市を描くことの意味
- 13回 風俗を描く③ 松本清張「点と線」「時間の習俗」 戦後という時代風景
- 14回 風俗を描く④ 池袋という「都市」を描く 石田衣良
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

テスト・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に、講義で言及する作家の作品を読んでおいて貰いたい

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本の大衆文化【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義で扱う「大衆文化」とは、メディア史・都市史を補助線としつつ形成されて流通してきた文化を指している。本講義では大衆文化史を、大衆芸能のジャンル生成を焦点としながら他分野にも目配せをして概観していく。なお授業では、メディア環境の転換点を見極めつつ、日常生活の変容、思想の変容を関係させながら、大衆文化を概観をする。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス	講義のデザイン
第2回	●近世●	近世都市の大衆①【印刷文化】
第3回		近世都市の大衆②【劇場】【寄席】
第4回	●近代●	幕末・文明開化【芸能統制】【改良言説】【新聞錦絵】
第5回		世紀転換期①【言文一致】【活動写真】
第6回		世紀転換期②【国家戦争】【レコード】
第7回		両大戦間期【民衆娯楽】【モダニズム】【労働問題】【大衆文学】
第8回	●近代～現代●	メディアの浸透①【電気吹き込み】【トーキー】
第9回		メディアの浸透②【ラジオ】
第10回		総力戦・戦後占領【国家総動員】【GHQ】【軍国主義から民主主義へ】
第11回	●現代●	民主主義の胎動 民間放送【グラビア雑誌】【視聴者参加】
第12回		高度経済成長①【ナショナルメディアとしてのテレビ】【映画における英雄像】
第13回		高度経済成長②【大衆文化論の系譜】
第14回		大衆文化の現在【サブカルチャー】【グローバリズム】
第15回	まとめ	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、課題など)...約20%  
学期末レポート...約80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備は特に必要ないが、各回の講義の内容は、以降の講義につねに関連していくことになる。したがって、講義内容を各自自主的に見直していく必要がある。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本の古典文学I【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

中世の文学作品を取り上げ、読解を通して、現代にも通じるテーマを探し出す。  
関連する作品との比較対象を通して古典文学の思考法、特徴などを理解する。

## 教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 丸谷才一『忠臣蔵とは何か』講談社
- 梶原正昭・大津雄一・野中哲照訳注『曾我物語』新編日本古典文学全集 小学館2002年
- 市古貞次・大島建彦校注『曾我物語』日本古典文学大系 岩波書店1966年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 曾我物語とは？【日本人と「敵討ち」の物語】
- 2回 曾我兄弟誕生以前
- 3回 不幸な少年時代
- 4回 曾我兄弟と源頼朝【頼朝の流人時代】
- 5回 曾我兄弟と源頼朝【「王」としての頼朝】
- 6回 敵討ちに向けて
- 7回 兄弟の恋
- 8回 母との別れ
- 9回 富士の巻き狩り
- 10回 敵討ち
- 11回 乱闘と祝祭
- 12回 女性たちの物語
- 13回 中世の曾我物【能・幸若】
- 14回 近世の曾我物【古浄瑠璃・歌舞伎】
- 15回 まとめ【敵討ちの快楽】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験80%  
平常の学習状況20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

一編の物語であるため、授業で扱いきれない部分についても現代語訳などを読み、内容を理解して参加することが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本の古典文学II【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本の古典文学の基本となる和歌文学について、その特質を考える。

和歌というと、「萬葉集」や、「古今集」を嚆矢とする勅撰集に注目しがちであるが、それらを支えたのは無数の私家集である。それぞれが特徴的で、伊勢は「古今集」最多の女性歌人、檜垣媼は全勅撰集中「後撰集」に1首のみ入集、和泉式部は複数の私家集が伝存する、といった具合でまさに多岐に亘る。

こうした多様な私家集群から、和歌文学の豊穡の海に遊んでみよう。

## 教科書 /Textbooks

『新編 国歌大観』本のプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記「ねらい」を、勅撰三代集から各一名の女性歌人を選び、それぞれの私家集の読解を進めることによって明らかにする。その歌人たちとは、伊勢(古今集時代)・檜垣媼(後撰集時代)・和泉式部(拾遺集時代)である。

- 1回 オリエンテーション～三代集とは【勅撰和歌集】
- 2回 私家集とは【いへのしゅう】【撰集】
- 3回 伊勢の生涯【宮仕え】【宮廷文化圏】
- 4回 冒頭歌群の特異性【物語】
- 5回 仲平・時平との交渉【召し人】
- 6回 名も無き男たちとの贈答【日常詠】
- 7回 帝寵と皇子の生と死【栄光と挫折】
- 8回 温子中宮との交流【主従関係】
- 9回 檜垣媼は実在したか【伝説的歌人】
- 10回 史実と虚構(1)【清原元輔】
- 11回 史実と虚構(2)【落魄説話】
- 12回 和泉式部の世間的評価【浮かれ女】
- 13回 日記と家集【超越的視点】
- 14回 敦道親王の死【挽歌群】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 30% 試験... 70%  
出席が3分の2に満たない者は、試験を受けられない。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国歌大観本は、ほとんどがかな表記のため、次回予定部分を漢字かな交じりで書き改めておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本の近代文学【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本近代の文学を学ぶことは、今を生きる私たちにとって、もっとも身近な過去(起原)を知ることであり、それがどのように成立し、どのような特徴を持つに至ったのかを知ることは、どのような物語と言葉のなかで自らが生きているかを自覚し、見直す機会をもたらす。

本講義は、日本近代文学の内容および表現が、近代国家成立、すなわち政治・経済・社会・文化等の諸制度の成立との関係のなかで、どのように模索され、発展もしくは変容していったのかという視点から、代表的作家・作品を通して、日本近代文学の諸特徴について詳説していくものである。これにより、文学的文章の高度な読解力・分析力を身につけ、なおかつ日本近代文学の核となる考えを学び、近代文学研究の基礎を涵養することを目指す。

## 教科書 /Textbooks

随時、複写して配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 坪内逍遙『小説神髓』(岩波書店・岩波文庫)
- 柳田泉『「小説神髓」研究』(春秋社)
- 『日本近代文学大系 坪内逍遙集』(角川書店)
- 亀井秀雄『「小説」論-『小説神髓』と近代』(岩波書店)
- 『日本古典文学大系・明治編 坪内逍遙・二葉亭四迷集』(岩波書店)
- 各種、日本文学史

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本の近代文学の起点にある坪内逍遙『小説神髓』を軸に、近代小説の主要な要素がいかんして成立し、どのような内容および表現に結実したか、その後の展開の様相まで視野にいれて講義していく。

- 1 〈文学〉の近代一坪内逍遙と『小説神髓』一
- 2 美術としての小説(1) 『小説神髓』上巻「小説総論」
- 3 美術としての小説(2) 坪内逍遙「当世書生気質」を例に
- 4 心理と内面(1) 『小説神髓』上巻「小説の主眼」
- 5 心理と内面(2) 二葉亭四迷「浮雲」を例に
- 6 近代文体の試み(1) 『小説神髓』下巻「文体論」
- 7 近代文体の試み(2) 森田思軒「探偵ユーベル」他を例に
- 8 趣向とプロット(1) 『小説神髓』下巻「小説脚色の法則」
- 9 趣向とプロット(2) 尾崎紅葉「二人比丘尼 色懺悔」を例に
- 10 世界と歴史(1) 『小説神髓』下巻「時代小説の脚色」
- 11 世界と歴史(2) 山田美妙「武蔵野」を例に
- 12 主人公と作者、語り手(1) 『小説神髓』下巻「主人公の設置」
- 13 主人公と作者、語り手(2) 森鷗外「舞姫」を例に
- 14 地の文と描写(1) 『小説神髓』下巻「叙事法」
- 15 地の文と描写(2) 国木田独步「武蔵野」を例に

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート…40% 期末レポート…60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するテキストを予習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

日本近代文学、明治文学、大正文学、昭和文学



# 日本の現代文学【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

現代という時代において、現代が抱え持つさまざまな問題を、現代の作家たちは、どのように作品として表現しているか。現代文学が現代に対して提起している問題について考察する。今年度は基本的に現代文学の祖といわれている梶井基次郎の作品を主に現代文学が抱え持つ諸問題について講義する。

## 教科書 /Textbooks

梶井基次郎『檸檬』（新潮文庫）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 梶井基次郎について
- 2回 「檸檬」が提起すること
- 3回 「檸檬」と京都
- 4回 「泥濘」の問題点
- 5回 「城のある町にて」の暗さ
- 6回 「雪後」と東京
- 7回 「過古」が語ってくること
- 8回 「ある心の風景」の問題と京都
- 9回 「ある心の風景」の抱え持つ今と街
- 10回 「Kの昇天」が提起すること
- 11回 「冬の日」に描かれた病気
- 12回 「冬の日」がその後に提起していること
- 13回 「桜の樹の下には」の語ること
- 14回 「闇の絵巻」の闇
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

テスト・・・100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品を読んでおくように

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本の美術【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

12世紀(院政時代)に制作された四つの国宝絵巻-「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」「伴大納言絵巻」「鳥獣人物戯画」甲・乙巻-は、数ある日本の絵巻の中でも優品として知られ、これらを輩出した12世紀は絵巻の黄金時代とも言われる。本講義では、これらの絵巻を概観することを通して、絵巻の基本を確認する。異時同図法や時間逆行の手法などといった特徴的な表現や段落式絵巻と連続式絵巻との違いなどを確認する。

昨年度は、「源氏物語絵巻」と「信貴山縁起絵巻」について講義したので、本年度は、「伴大納言絵巻」と「鳥獣人物戯画」甲・乙巻を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 院政期絵巻入門
- 2回 「伴大納言絵巻」上巻の内容と画面構成
- 3回 「伴大納言絵巻」中巻の内容と画面構成
- 4回 「伴大納言絵巻」下巻の内容と画面構成
- 5回 所謂「謎の人物」の問題 - 先行研究 -
- 6回 所謂「謎の人物」の問題 - 最新の説 -
- 7回 「伴大納言絵巻」と御霊信仰との関係 - 御霊信仰とは? -
- 8回 「伴大納言絵巻」と御霊信仰との関係 - 天神信仰との比較 -
- 9回 「鳥獣人物戯画」甲巻の内容
- 10回 「鳥獣人物戯画」甲巻の復元と画面構成
- 11回 「鳥獣人物戯画」乙巻の内容-正倉院宝物霊獣図との比較
- 12回 「鳥獣人物戯画」甲・乙巻の筆者問題について【絵仏師・宮廷絵師】
- 13回 「鳥獣人物戯画」甲・乙巻の筆者問題について【「伴大納言絵巻」「年中行事絵巻」】
- 14回 「鳥獣人物戯画」甲巻と法華経信仰との関係
- 15回 「鳥獣人物戯画」乙巻と法華経信仰との関係

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(場合によっては学期末試験) ...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本の宗教と美術【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

平安時代は、美術品制作に関して技術・美意識ともに一つの頂点を迎えた時期とも言われ、数多の仏画の名品が生み出された時代としても知られる。本講義では、平安時代～鎌倉時代前半までの仏画の名品を取り上げながら、仏画の基本(尊像名・描法・修法など)を概観したいと思う。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 仏画概説(如来・菩薩)
- 2回 仏画概説(明王・天部)
- 3回 金剛峯寺所蔵「仏涅槃図(応徳涅槃)」をめぐって【具色・截金】
- 4回 金剛峯寺所蔵「仏涅槃図(応徳涅槃)」をめぐって【宮廷絵師・法華経信仰】
- 5回 京都国立博物館所蔵「十二天像」をめぐって【後七日御修法・空海】
- 6回 京都国立博物館所蔵「十二天像」をめぐって【疏荒・着衣文様】
- 7回 奈良国立博物館所蔵「十一面観音菩薩像」をめぐって【頭上面・朱隈】
- 8回 奈良国立博物館所蔵「十一面観音菩薩像」をめぐって【法隆寺金堂壁画】
- 9回 東京国立博物館所蔵「普賢菩薩像」をめぐって【影向・観普賢経】
- 10回 東京国立博物館所蔵「普賢菩薩像」をめぐって【銀泥・銀截金】
- 11回 平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって【四方四季・迎講】
- 12回 平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって【山越阿弥陀図】
- 13回 平安時代から鎌倉時代の地獄絵をめぐって【「僻邪絵」「地獄草紙」「餓鬼草紙」】
- 14回 平安時代から鎌倉時代の地獄絵をめぐって【聖衆来迎寺「六道絵」】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(場合によっては学期末試験) ...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本の都市文化【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

明治維新後、日本の大衆文化は西洋文化の影響を受けながらも、基本的には伝統の色を強く残していた。しかし、大正期になると都市化の進行によって大衆文化は大きく変貌した。さらに関東大震災後には都市化・大衆社会化などを背景に現代社会に通じる「モダニズム」と呼ばれる現象が起こり、日本人の生活様式も大きく変化した。この講義では様々な分野における具体的な問題を取り上げながらこの現象がいかなるものであったのかを考えてみたい。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

初田亨『モダン都市の空間博物学-東京』(彰国社、1995年)  
○鈴木博之『日本の近代10 都市へ』(中央公論新社、1999年)  
橋爪紳也『モダン都市の誕生』(吉川弘文館、2003年)  
『「あら、尖端的ね。」-大正末・昭和初期の都市文化と商業美術』(岡崎市美術博物館、2009年)  
井上寿一『戦前昭和の社会-1926-1945-』(講談社現代新書、2011年)  
戸矢理衣奈『銀座と資生堂-日本を「モダン」にした会社-』(新潮選書、2012年)  
小池智子ほか編『都市から郊外へ-1930年代の東京-』(世田谷文学館、2012年)  
村山知義研究会編『すべての僕が沸騰する-村山知義の宇宙-』(読売新聞社、2012年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本の都市文化とは
- 第2回 関東大震災と復興
- 第3回 百貨店-消費社会の舞台装置-
- 第4回 商業美術と都市
- 第5回 子ども用品の誕生
- 第6回 カフェーと喫茶店-都市のたまり場-
- 第7回 新しい住空間と生活様式の模索-室内と家具の変容-
- 第8回 郊外住宅と鉄道
- 第9回 建築とモダニズム
- 第10回 モダニズムと伝統
- 第11回 霊柩車の誕生
- 第12回 モダニズムとしての「新興写真」
- 第13回 戦争とモダニズム
- 第14回 映画館と観客
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本語の文法【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

平安時代に成立した『源氏物語』を言語資料とし、ことばと文化の関わりを理解することを目的とします。毎回、具体的な〈一つのことば〉〈あるカテゴリーの語彙〉〈一つの文法現象〉を取り上げ、ことばや言語現象とそれを支える古代人の価値観や思考の論理(物の捉え方や認識方法など)との関わり、それを育んだ文化的背景や時代的背景との関わりについて考えます。また、史的観点を取り入れつつ、現代語との差異や共通性についても学びます。

主な到達目標は、次の通りです。

- ①ことばと文化の関わりを理解する。
- ②ことば(言語現象)とそれを支える人間の価値観や思考の論理との関わり、及びそれを育んだ文化的・時代的背景との関わりについて考えることができるようになる。

\* \* \* 文法規則の暗記や現代語訳を行う講義ではありません。ことばの背後にある文化を考えるよう努めてください。\* \* \*

## 教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

小学館『源氏物語』日本古典文学全集○  
この他は、図書館の「堀尾の指定図書コーナー」に設置。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【導入】
- 第1回 ことばと文化の関わり
  - 第2回 日本語史上における中古語 王朝の社会機構
  - 第3回 『源氏物語』概説〈語る〉ということと挿入句
  - 第4回 古代語の文構造と古代人の思考方法 通時論と共時論
- 【藤壺物語を読む】
- 第5回 「あはれ」という認知 隔ての文化
  - 第6回 「あさまし」という認識 形容詞の種々相
  - 第7回 「宿世」という思想 現代にみる拡大解釈
  - 第8回 香りの文化を読む ことばの変化
- 【明石物語を読む】
- 第9回 「身の程」という意識 格をめぐって
  - 第10回 ことばの創出 助詞ゼロ
  - 第11回 「とりたて」という文法概念
  - 第12回 「今めく」と「唐めく」 係り結びという文法現象
  - 第13回 「めざまし」とう概念 条件表現の変遷
  - 第14回 非言語メッセージとしての筆跡と琴の音
  - 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...70% 日常の授業への取り組み...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文法規則の暗記や現代語訳を行うのではなく、ことばの背後にある文化を考えるよう努めてください。

## 履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 日本語表現法I【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 秦 恭子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本授業は、「ことば」による様々な表現行為をみつめ直し、「ことば」についての知識と認識を深め、より豊かなコミュニケーションを生み出していくための基礎力を養うことを目的としている。実践的な表現活動を織り交ぜながら授業を展開し、総合的な日本語表現力を身につけていく。

## 教科書 /Textbooks

適宜関係資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【授業の概要と方法】
- 2回 日本語表現の基礎(1)【「ことば」とは何か】
- 3回 日本語表現の基礎(2)【日本語の成り立ち】
- 4回 日本語表現の基礎(3)【さまざまな音声言語表現】
- 5回 日本語表現の基礎(4)【さまざまな文字言語表現】
- 6回 日本語表現の基礎(5)【非言語的表現 / 沈黙と身体】
- 7回 日本語表現の基礎(6)【言語表現をめぐる今日の問題】
- 8回 日本語表現演習(1)【言語表現のふり返りと課題の設定】
- 9回 日本語表現演習(2)【グループ分け】【グループ課題設定】
- 10回 日本語表現演習(3)【表現活動の立案・企画】
- 11回 日本語表現演習(4)【表現活動の練習】
- 12回 日本語表現演習(5)【リハーサル】
- 13回 表現発表交流会(1)【話す / 聞く】【自己 / 相互の評価】
- 14回 表現発表交流会(2)【読む / 書く】【自己 / 相互の評価】
- 15回 学習のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

表現活動への取り組み50%  
自己 / 相互評価カード、レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義形式と演習形式を織り交ぜながら展開をするため、授業内外における主体的な取り組みが求められる。

## 履修上の注意 /Remarks

受講後に「日本語表現法II」を履修することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちは日々、目覚めている内のほとんどの時間を、「ことば」を用いて生きています。「ことば」への認識を深め、その表現を豊かにすることは、生きることを豊かにすることと同義です。本授業を通して、その基礎力を養っていきましょう。

## キーワード /Keywords

【基礎的日本語表現法】

# 日本語表現法II 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 秦 恭子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本授業は、日常生活における様々な「ことば」の表現行為をみつめ直し、より豊かで確かなコミュニケーションを実現するために必要な言語技術を身につけることを目的としている。これからの大学生活や就職活動、社会生活等、公私にわたるあらゆる場面で「ことば」を適切に運用していけるよう、実践的な言語表現活動を通して学習する。

## 教科書 /Textbooks

適宜関係資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【授業の概要と方法】
- 2回 コミュニケーションの基礎(1)【「ことば」の働き】
- 3回 コミュニケーションの基礎(2)【自己意識 / 相手意識】
- 4回 コミュニケーションの基礎(3)【敬語表現】
- 5回 話す・聞く(1)【音声コミュニケーションの特徴と留意点】
- 6回 話す・聞く(2)【スピーチ】
- 7回 話す・聞く(3)【傾聴】
- 8回 話す・聞く(4)【ワールドカフェ】
- 9回 書く(1)【文字言語コミュニケーションの特徴ときまり】
- 10回 書く(2)【手紙の書き方 / メール の書き方】
- 11回 書く(3)【レポートの構成】
- 12回 書く(4)【メモの取り方】
- 13回 読む(1)【情報を読む】
- 14回 読む(2)【心情を読む】
- 15回 学習のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

表現活動への取り組み50%  
レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義形式と演習形式を織り交ぜながら展開をするため、授業内外における主体的な取り組みが求められる。

## 履修上の注意 /Remarks

「日本語表現法I」を履修後に受講することが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「ことば」による表現力は、社会生活におけるあらゆる人間関係構築の礎となるものです。本授業を通して、さまざまな場面や相手に応じた言語表現法を身につけ、人間関係をより広く深く築いていくための力を身につけていきましょう。

## キーワード /Keywords

【実用的日本語表現法】



# 日本語音声学I【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 矢野 準 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

- ① 学習の理解を助けるために、適宜、音声教材も取り入れながら、日本語教育にも役立つような形で日本語の音声学や音韻論の基本を講ずる。
- ② 共時的観点から、日本語の音(共通語の音)について、母音及び子音の発声に関する分析確認を中心に、学習してもらう。
- ③ 日本語教育能力検定試験に合格するための基礎となる知識の一部を身につけることができる。

## 教科書 /Textbooks

『日本語能力検定試験に合格するための音声23』(松崎寛・河野俊之著)アルク、ISBN978-4-7574-1832-5 ¥2,200 を使用し、適宜、プリントを配布する。なお、該書は用語解説書としても使用。また、「日本語音声学II」でも、使用する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『音声学』(服部四郎著)岩波書店1984刊。
- その他は、講義時間中に、配布プリントなどで、必要に応じて提示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 あらまし【日本語教育能力検定試験】【音声器官】
- 2回 音韻と音声1【ラング】【パロール】【音素】【単音】【音節】
- 3回 音韻と音声2【最小対】【異音】【モーラ音素】【拍の等時性】
- 4回 母音と子音1【有声音】【無声音】
- 5回 母音と子音2【調音点】【調音法】【音声字母表】
- 6回 日本語の音1【音節数】【五十音】
- 7回 日本語の音2【破裂音】
- 8回 日本語の音3【摩擦音】
- 9回 日本語の音4【破擦音】
- 10回 日本語の音5【鼻音】【鼻濁音】
- 11回 日本語の音6【流音】【接近音】
- 12回 日本語の音7【口蓋化】【無声化】
- 13回 日本語の音8【同化】【異化】
- 14回 日本語の音9【母語の干渉】
- 15回 まとめ

(【 】はキーワード)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...75% 日常の授業への取り組み...25%  
(5回以上欠席した者は、学期末試験を受けることができない。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。

## 履修上の注意 /Remarks

当該科目では、日本語アクセントについては取り扱わない。アクセントについては「日本語音声学II」で扱う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

科目の性格上、声を出して確認してもらいたい場合もあるので、積極的な参加を期待します。

## キーワード /Keywords

日本語の音 母音 子音 五十音図

# 日本語音声学II 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 矢野 準 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

- ① 学習の理解を助けるために、適宜、音声教材も取り入れながら、日本語教育にも役立つような形で日本語の音声学や音韻論の基本を講ずる。
- ② 共時的観点から、日本語のアクセント(共通語のアクセント)について、聴き取りを含め、その有り様を学習してもらう。また、通時的観点から音韻やアクセントの歴史についても、学習してもらう。
- ③ 日本語教育能力検定試験に合格するための基礎となる知識の一部を身につけることができる。

## 教科書 /Textbooks

主たるテキストではないが、「日本語音声I」で使用したものと同一『日本語能力検定試験に合格するための音声23』(松崎寛・河野俊之著)アルク、ISBN978-4-7574-1832-5 ￥2,200を使用し、適宜、プリントを配付する。歴史的な事項については、配付プリントを主として講ずる。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

講義時間中に、配付プリントなどで、必要に応じて提示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 あらまし【日本語教育能力検定試験】
- 2回 アクセント1【ストレスアクセント】【ピッチアクセント】【核】【アクセント記述方式】
- 3回 アクセント2【共通語のアクセント体系】【アクセント規則】【アクセントの平板化】
- 4回 アクセント3【方言のアクセント】【東京式アクセント】【京阪式アクセント】【一型アクセント】
- 5回 アクセント4【名詞のアクセント】【動詞のアクセント】【形容詞のアクセント】【複合語のアクセント】
- 6回 アクセント5【アクセントの機能】
- 7回 イントネーション【ヤマ】【プロミネンス】【フォーカス】
- 8回 音韻史1【上代特殊仮名遣い】
- 9回 音韻史2【音価】
- 10回 音韻史3【八行転呼現象】
- 11回 音韻史4【才段長音の開合】
- 12回 音韻史5【四つ仮名】
- 13回 アクセント史1【方言国語史】【倒叙国語史】【声点】【節ハカセ】
- 14回 アクセント史2【金田一法則】
- 15回 まとめ

(【 】はキーワード)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 75% 日常の授業への取り組み... 25%  
(5回以上欠席した者は、学期末試験を受けることができない。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日本語音声学I」を受講しておく、「本講義のねらい」の達成度がより高くなる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクセントの聴き取りには、人により得手不得手があるので、不得手な人はテキストに添付されている音声CDを利用して聴き取り練習をねばり強く行って欲しい。

## キーワード /Keywords

共通語のアクセント体系 方言のアクセント アクセントの機能

# 漢文学【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 榎崎 洋一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

いわゆる「漢文」は、中国において数千年に及ぶ歴史を有することは言うまでもないが、日本でも奈良時代以来、千年を超える伝統を保ちつつ、現在に至っている。したがって、漢文を学ぶことは、それによって、隣国である中国の歴史や文明について理解を深めることができるだけでなく、日本人として、自国の文化的ルーツを知ろうとする上でも、欠かすことのできないことであると言える。この授業では、中国の歴代の「漢文」の代表的作品について読み進めていき、意外なまでの懐の深さをもつ「漢文」の世界の全貌を窺うこととする。また、大陸から渡来した外国語としての「漢文」を、昔の日本人がどのように「読み下して」いったかを、訓点の歴史などを通して時代を追って見ていく。日本人が書いた「日本漢文」についても、代表的な作品を読解し、日本人独特の「漢文」の特色を見ていくことにする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 甲骨文から詩書へ【宗教から人間主義へ】
- 3回 経書の世界【四書五経】
- 4回 孔子のことば【論語】
- 5回 諸子百家【百家争鳴】
- 6回 古詩の世界【歓楽と哀情】
- 7回 六朝志怪【人鬼の世界】
- 8回 唐詩と宋詩【情念と理知】
- 9回 明清期の詩文【近代の芽生え】
- 10回 漢字漢文の伝来【漢文と万葉仮名】
- 11回 訓点の歴史【日本語と漢文】
- 12回 日本漢文(1)【奈良～室町】
- 13回 日本漢文(2)【戦国～江戸】
- 14回 日本漢文(3)【江戸末期～明治】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中のレポートなど) ... 30% 期末試験... 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に配布するプリントに、よく目を通しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

漢文 甲骨文 詩書 経書 経史子集 漢詩 唐宋八大家 六朝志怪 日本漢文 訓点

# 日本の近代思想【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、近代国家形成期における日本の政治家や知識人の立憲政治理解のあり方を、現実の明治立憲制の構築とそれをめぐる政治的対立の中から探る。さらにその立憲政治の理解のあり方が、明治立憲制の実際の構造・運用・機能などにどのような影響を与えたかを考えていく。そのような作業を通じて思想史的方法や日本の近代化の意味について学ぶこととする。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

鳥海靖『日本近代史講義』(東京大学出版会、1988年)  
○江村栄一校注『憲法構想』(岩波書店、1989年)  
西川誠『天皇の歴史07 明治天皇の大日本帝国』(講談社、2011年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「日本の近代思想」について
- 第2回 明治立憲制の理解と評価
- 第3回 幕末における立憲政治論
- 第4回 明治初年の立憲政治の理念と構想
- 第5回 民撰議院設立の建白と民撰議院論争
- 第6回 国会開設運動
- 第7回 藩閥政府内の憲法意見
- 第8回 明治十四年の政変
- 第9回 自由党と立憲改進黨
- 第10回 私擬憲法における立憲政体構想
- 第11回 伊藤博文の憲法調査
- 第12回 宮中改革と華族制度・内閣制度の確立
- 第13回 明治憲法における君権主義と立憲主義
- 第14回 明治立憲制の運用をめぐって
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

立憲制、大日本帝国憲法

# アメリカ文学概論【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ文学全体を時代を越えて貫いている複数の特徴を確認することにより、アメリカ文学の全体像を理解してもらう。さらには、アメリカ文学の特徴が、ハリウッド映画によっても共有されている事実も実際に映像を見ることによって明らかにする。次いで、そのような文学と映画との共通性が何ゆえに生じたのかを、アメリカの社会、歴史、文化の特質に目を向けることにより考察したい。文学と映画という、一見すると全く異質に見える存在が、実は、共に特定の社会の下に誕生した以上、同根の存在とならざるを得ない事実を理解してもらえたら幸いである。また、アメリカ文学を文化的背景と絡めて分析する視点も身につけてもらえたらと考えている。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてアメリカ文学作品からの抜粋(翻訳)をプリントの形で配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『アメリカ文学思潮史』 福田陸太郎 中教出版
- 『アメリカ文学史1、2、3』 亀井俊介 南雲堂
- 『アメリカ文学必須用語辞典』 スティーブン・マタソン 松柏社
- 『アメリカ文学案内』 寺門泰彦/渡辺信二 朝日出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 アメリカ文学に関する基礎知識
- 3回 アメリカ文学にみるアメリカ人の自意識のあり方の分析
- 4回 ハリウッド映画にみるアメリカ人の自意識のあり方の分析と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 5回 アメリカ文学における社会意識の特質の分析
- 6回 ハリウッド映画における社会意識の特質の分析と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 7回 アメリカ文学における移動描写の分析
- 8回 ハリウッド映画における移動描写の分析と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 9回 アメリカ文学における恋愛・結婚描写の特質の分析
- 10回 ハリウッド映画における恋愛・結婚描写の特質の分析と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 11回 アメリカ文学における超常現象描写の分析
- 12回 ハリウッド映画における超常現象描写の分析と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 13回 アメリカ文学における自然描写の分析
- 14回 ハリウッド映画における自然描写の分析と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%  
配布プリント、自筆ノート持ち込み可で試験を行う。(コピーノートと、書き込みがなされたプリントのコピーは持ち込み不可)  
なお、試験は英語力を問うものではありません。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる作家と作品名は事前に知らせますので、既出の参考書等を講義前に参照し、作者と作品に関する基礎的な情報を確認しておく、講義がより理解しやすくなります。同様に、講義で取り上げる映画も事前に周知しておきますので、興味がある場合は、各自で事前に鑑賞しておいて下さい。講義中には、時間の関係で、映画は重要な箇所のみを断片的に見る形を取ります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# イギリス文学概論【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

今日、文学というどうしてもかたいイメージを持ってしまふ人が多いかもしれませんが、「おもしろくなければ文学じゃない」というイギリスの作家W.S.モームの言葉にもあるように、本来、人間の様々な生き様を描いた小説や詩がおもしろくないはずはないのです。敬遠されるようになったのは、ひとつには、読書感想文を書くための読書であったり、画一的な解釈を強要される読書であったり、昨今の「読書」を取り巻く環境が変化してきたためであり、それが私たちから読書の本来の楽しさを奪ってしまっているのです。人間同士のかかわり、絆が希薄になりつつあるといわれる今、多くのすぐれた文学作品に触れることは、今一度、人間に対する、他者に対する関心を呼び起こしてくれることでしょう。

イギリス文学の歴史はそれなりに長く、詩から劇、そして小説へと発展してきたわけですが、本講義では、その始まりから説き起こし、今日に至るまでの流れを追いつつ、さらに具体的に作品の抜粋を読みつつ、それらを生み出した時代背景、文化背景との関わりを探っていきます。

伝統あるイギリス文学の作品を様々な文化事項と絡めながら見ていき、そのおもしろさを共に味わえればと思います。また同時に、作品との関連で、人間に関する様々なテーマ(生、死、愛、宗教、想像力・・・)についても問題提起をします。一緒に考えていきましょう!!

## 教科書 /Textbooks

An Outline of English Literature by G.C.Thornley and Gwyneth Roberts (Longman)  
(テキストは、速読ができるほどの、非常に易しい英語で書かれています。)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入(文学の勤め、文学のおもしろさ、イギリスについて、評価方法などの説明)
- 2回 『ベオウルフ』(古英語) 想像力と文学、頭韻など
- 3回 『キャンタベリー物語』by チョーサー (中英語) 脚韻など
- 4回 『エヴリマン』(中英語) 死と人間
- 5回 『失楽園』by ミルトン 宗教の影響
- 6回 シェイクスピアの4大悲劇(『ハムレット』、『リア王』)
- 7回 シェイクスピアの4大悲劇(『マクベス』、『オセロ』)
- 8回 散文、日記文学(自意識の芽生え)
- 9回 『ロビンソン・クルーソー』(デフォー、勃興期の小説)
- 10回 『ガリヴァー旅行記』by スウィフト (風刺文学)
- 11回 『パメラ』by リチャードソン、『シャメラ』by フィールディング(パロディ)
- 12回 『高慢と偏見』by オースティン、『テス』by ハーディ
- 13回 ロレンス、オプライエン(問題小説)、ドラブル、イシグロ(伝統回帰)
- 14回 『不思議の国のアリス』by キャロル(児童文学、ファンタジー)
- 15回 まとめ(イギリス文学の流れ: 「詩」→「劇」→「小説」、宗教との関連)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート(受講者数により決定します)・・・90%  
平常点(課題、授業への参加度など)・・・10% (出席重視)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布する資料は、よく目を通してください。また、本講義で扱う作品に限らず、様々な文学作品をたくさん読んでください。

# イギリス文学概論【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリス文学の中でも現代に近い作品に関心を持っている人は「イギリスの現代文学」の受講をおすすめします。

## キーワード /Keywords

「詩」「劇」「小説」「伝統」「文学のおもしろさ」「想像力」「風刺」「パロディ」「児童文学」「ファンタジー」

# アメリカの現代文学 【昼】

担当者名 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

まず、現代の第一次世界大戦後の荒廃を【ロスト・ジェネレーション】の世代としてニヒリズムの虚無と闘ったE・Hemingway、そして【ユダヤ系文学】、【黒人文学】、第二次世界大戦後の【ポストモダニズムの文学】を読んで現代アメリカ文学への理解を深めていきたい。

### 【ロスト・ジェネレーション文学】

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 『日はまた昇る』(集英社文庫)  
F・S Fitzgerald: The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』(中央公論新社)

### 【ユダヤ系文学】

J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 『ライ麦畑でつかまえて』(白水Uブックス)、

### 【黒人文学】

Richard Wright: Native Son 『アメリカの息子』(ハヤカワNVブックス)

### 【ポストモダニズム文学】

Robert Newton Peck: A Day No Pigs Would Die 『豚の死なない日』(白水社Uブックス)  
Dennis Johnson: Jesus' Son 『ジーザス・サン』

## 教科書 /Textbooks

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 『日はまた昇る』(集英社文庫)  
F・S Fitzgerald: The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』(中央公論新社)  
J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 『ライ麦畑でつかまえて』(白水Uブックス)  
Richard Wright: Native Son、【ユダヤ系文学】、【黒人文学】【ポストモダニズム】(絶版なので資料配付)  
Robert Newton Peck: A Day No Pigs Would Die 『豚の死なない日』(資料配付)  
Dennis Johnson: Jesus' Son 『ジーザス・サン』(資料配付)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【国籍離脱者Exile】 【Hard-boiled】
- 2回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【ロスト・ジェネレーション】
- 3回 パリ、スペイン・パンブローナ「牛追い祭」と闘牛のシーン(映画・ビデオ)で鑑賞。
- 4回 F・S Fitzgerald: The Great Gatsby 【The Jazz Age】
- 5回 F・S Fitzgerald: The Great Gatsby 【Gatsby's Dream】
- 6回 F・S Fitzgerald: The Great Gatsby 【American Dream】日本の【成金】との比較
- 7回 映画「華麗なるギャツビー」の鑑賞。
- 8回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【ユダヤ系作家】 【Soft-boiled】映画Scent of A Woman東部の名門寄宿高校
- 9回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【禅仏教】 【Angry Young Men】映画Scent of A Woman東部の名門寄宿高校
- 10回 Richard Wright: Native Son 【黒人作家】 【エリソン】 【ボールドウィンら黒人作家】
- 11回 Richard Wright: Native Son 【Black Power】 【旧約聖書・ヨブ記】
- 12回 ポストモダニズムの文学(1) Ken Kesey: One Flew Over the Cuckoo's Nest 【サイケデリック・カルチャー】
- 13回 ポストモダニズムの文学(2) Joseph Heller: Catch-22 【ギラン・バレー症候群】 【Catch-22の状況とは】
- 14回 ポストモダニズムの文学(3) Robert Newton Peck: A Day No Pigs Would Die 『豚の死なない日』(白水社Uブックス)
- 15回 ポストモダニズムの文学(4) 【ブラックユーモア】 【シュールリアリズム】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(20%)、レポート(50%)と学期末試験(30%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で準備することは、テキストを読むこと、さらに、授業中指示した参考書等を読むこと。



# アメリカの現代文学 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# アメリカの18-19世紀文学【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の古典である、アメリカ植民地時代の【ピューリタニズム】と【アメリカの独立】の時代を見事に描いたNathaniel Hawthorneの文学、【アメリカ民主主義】の讃歌と西洋文明の挽歌を歌ったHerman Melville、民主主義の国アメリカの新しい、【独立心】の強い女を描いたHenry JamesのDaisy MillerやThe Portraite of a Ladyを読んでアメリカ文学の古典への理解を深めていきたい。

## 教科書 /Textbooks

- Nathaniel Hawthorne: Short Stories 『ホーソン短編集』(岩波文庫)
- Nathaniel Hawthorne : The Scarlet Letter 『緋文字』(岩波文庫)
- Herman Melville: Moby Dick or the white whale 『白鯨』(新潮文庫)
- Henry James: Daisy Miller 『デージー・ミラー』(新潮文庫)
- Henry James: The Portraite of a Lady 『ある婦人の肖像』(岩波文庫)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- Nathaniel Hawthorne: Short Stories 『ホーソン短編集』(岩波文庫)
  - Nathaniel Hawthorne : The Scarlet Letter 『緋文字』(岩波文庫)
  - Herman Melville: Moby Dick or the white whale 『白鯨』(新潮文庫)
  - Henry James: Daisy Miller 『デージー・ミラー』(新潮文庫)
  - The Portraite of a Lady 『ある婦人の肖像』(岩波文庫)
- 参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories【大英帝国植民地】【マサチューセッツ・ボストン】映像
- 2回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories【ピューリタニズム】映像
- 3回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories【自由主義思想】【Salem魔女裁判】映像
- 4回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter【ピューリタニズム】【啓蒙主義思想】の文学・映像
- 5回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter【超絶主義】の文学・映像
- 6回 NHKグレートブックス・シリーズ「緋文字」のビデオをみて「緋文字」の現代的意味を探る。
- 7回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale【アメリカ民主主義】【バーバリズム】Powerpointによる解説
- 8回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale【ゾロアスター教】【拝火教】Powerpointによる解説
- 9回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale【白鯨とは何なのか】【ヨブ記】【異端】映像
- 10回 Henry James: Daisy Miller【19世紀の女性】【Independent】【自由とは】映像
- 11回 Henry James: Daisy Miller【慣習】【因習】【しきたり】【Freedom】【自由恋愛】映像
- 12回 Henry James: The Portraite of a Lady【民主主義アメリカの新しい女性】【自立した女性】映像
- 13回 Henry James: The Portraite of a Lady【旧世界の因習】【選択】【人生の苦しみ】映像
- 14回 Henry James: The Portraite of a Lady【結婚・離婚と自己責任】映像
- 15回 まとめ・Jamesの映像『金色の嘘』『鳩の翼』

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(30%)、レポート(40%)と学期末試験(30%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備としてテキストを読むこと、授業次に指示した参考書等を読むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

【大英帝国植民地】【マサチューセッツ・ボストン】Nathaniel Hawthorne【ピューリタニズム】【自由主義思想】【Salem魔女裁判】【ピューリタニズム】【啓蒙主義思想】【超絶主義】『緋文字』の現代的意味【アメリカ民主主義】【バーバリズム】【ゾロアスター教】【拝火教】【白鯨とは何なのか】【ヨブ記】【異端】【19世紀の女性】【Independent】【自由とは】【慣習】【因習】【しきたり】【Freedom】【自由恋愛】【民主主義アメリカの新しい女性】【自立した女性】【旧世界の因習】【選択】【人生の苦しみ】【結婚・離婚と自己責任】

# アメリカの大衆文化【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

誰しもがなじみの深いハリウッド映画を題材として取りあげ、映画の中にアメリカ人の精神性や、美意識、価値観がいかなる形で投映されているかを考察する。そのような分析を行うことを通して、映画とアメリカ文化との関連性に対する理解を深めてもらう。講義では、アメリカ文化の特性を、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。このことを通して、アメリカ人の価値観や美意識の特殊性への理解も深めてもらいたい。最終的には、ハリウッド映画を文化的な文脈の中で分析的に鑑賞する視点を、授業を通して体得してもらうことができたら幸いである。

## 教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『映画で学ぶアメリカ文化』、スクリーンプレイ出版 (映画とアメリカ文化の関連性を様々な視点から)
- 『映画で楽しむアメリカ文学』、金星堂、(アメリカ文学と映画の比較の視点から)
- 『映画で楽しむアメリカの歴史』、金星堂 (映画とアメリカ史の関連性を様々な視点から)
- 『サーカスが来た!』、亀井俊介先生、岩波書店、(指定図書コーナー)(サーカス、オペラハウス、ターザン、ハリウッド)
- 『アメリカンヒーローの系譜』、亀井俊介先生、研究社、クリーム色、(ランボー、ロッキー)
- 『アメリカの大衆文化』、明石書店、清水知久 (映画、音楽、スポーツ、広告)
- 『アメリカの大衆文化』、研究社、亀井俊介、(テレビ、漫画、音楽、映画など)
- 『アメリカが見えてくる』、サイマル出版会、越智道雄 (アメリカ社会の諸現象と映画の関連性)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 『ビッグ』をビデオで鑑賞
- 3回 『ビッグ』の子供描写の特徴
- 4回 『A.I.』、『ターミネーター2』、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の子供の描き方の概観
- 5回 アメリカ映画の子供の描き方の特徴とアメリカ史との関係
- 6回 『フェイス/オフ』、『ターミネーター2、3』、『マスク』。『ミッション・インポッシブル』の中の変身描写の特徴
- 7回 アメリカ映画に登場する変装描写の全体的特徴
- 8回 アメリカ映画の変身・変装へのこだわりと、アメリカ文化との関係
- 9回 『プラダを着た悪魔』に読み取れる金銭感覚の特徴
- 10回 『フォレスト・ガンプ』、『チャーリーとチョコレート工場』に読み取れる金銭感覚
- 11回 映画に読み取れる金銭感覚と、アメリカ文化との関係
- 12回 『スタンド・バイ・ミー』、『SW:シスの復讐』、『ダーティハリー2』の銃の描写の特徴
- 13回 映画の銃の描き方と、アメリカ史との関係
- 14回 アメリカ映画に見る平等の概念
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%  
試験は、配布プリント、自筆ノート持ち込み可(コピーは不可)で行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる映画は前もってタイトルを伝えますので、出来るだけ事前に見ておいてください。  
講義時には、編集された断片のみを見ることになります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# アメリカの歴史と文化【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

私達、誰もがなじみの深いハリウッド映画を題材として取りあげ、アメリカの史実や文化が、いかなる形で映画に投映されているかを考察する。具体的には、編集したハリウッド映画の断片をビデオで見ながら、映画の全体的構造を背後で支配しているアメリカ人の歴史感覚を考察する。その過程を通して、映画とアメリカの歴史、文化との相互関連性に対する理解を深めてもらう。アメリカの歴史と文化のイメージを、映画を通して可能な限り具体的に把握してもらえよう工夫したい。アメリカ人の歴史感覚の独自性、アメリカ文化の特質に対する理解も深めてもらうことができればと思っている。さらに、ハリウッド映画を歴史的な文脈の下で分析的に鑑賞する視点を講義を通して体得してもらえたら幸いである。

## 教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じて、レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講座・アメリカの文化(全6巻、別巻2) 南雲堂  
総合研究アメリカ(全7巻) 研究社  
文明としてのアメリカ(全5巻) 日本経済新聞社  
アメリカ古典文庫(全23巻) 研究社  
アメリカンヒーローの系譜 亀井俊介 研究社  
荒野のアメリカ 亀井俊介 南雲堂  
サーカスが来た 亀井俊介 東京大学出版会  
読んで旅する世界の歴史と文化 アメリカ 新潮社  
物語 アメリカの歴史 猿谷要 中公新書  
資料が語るアメリカ 木下尚一 有斐閣  
アメリカとは何か 斎藤真 平凡社  
エスニックアメリカ 明石紀雄 有斐閣選書  
新書アメリカ合衆国史 大陸国家の夢 講談社現代新書  
アメリカの20世(上・下) 有賀夏紀 中公新書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 Forrest Gump、Daylightとアメリカ人にとってのキリスト教
- 3回 Titanicとアメリカ人にとってのキリスト教
- 4回 Green Mile とキリスト教の関係の分析
- 5回 Monster's Inc とアメリカの多様性の関係
- 6回 Star Wars とアメリカの多様性の関係
- 7回 The Lord of the Rings とアメリカの多様性の関係
- 8回 Independence Dayとアメリカのほら話
- 9回 Star Wars Eplll とアメリカのほら話
- 10回 Devil Wears Prada とアメリカ人の個人観
- 11回 Titanic とアメリカ人の個人観
- 12回 A . I とアメリカ人の機械観
- 13回 Terminator II とアメリカ人の機械観
- 14回 Terminator III とアメリカ人の機械観
- 15回 全体の総括、補足説明 (絶対に欠席しないこと。)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%  
試験は、配布プリント、自筆ノート(コピーノートは不可)持ち込み可で行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる映画は前もって伝えますので、出来るだけ見ておいてください。  
講義時には、編集された映画を部分的に見ていくことになります。

# アメリカの歴史と文化【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# アメリカの歴史と社会【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

21世紀を迎えたアメリカ社会が相変わらず抱える課題のひとつが、人種の問題である。これは、アメリカ合衆国の原則ともいえる民主主義を揺るがしかねない深刻な問題をはらんでいる一方で、アメリカのダイナミズムの源にもなりうる。本講義では主に、アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック、日系人を取り上げ、その歴史的背景を踏まえ、今日のアメリカ社会における人種や民族をめぐる問題を考える。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

開講時及び授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争以前の状況
- 第 3回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争後の南部社会における新しい労働体制と黒人投票権の剥奪
- 第 4回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の確立とそれに対する黒人の抵抗運動
- 第 5回 アフリカ系アメリカ人の歴史：公民権運動①
- 第 6回 アフリカ系アメリカ人の歴史：公民権運動②
- 第 7回 アフリカ系アメリカ人の歴史：アフリカ系アメリカ人を取り巻く今日の状況
- 第 8回 日系アメリカ人の歴史：前世紀転換期における移住の開始
- 第 9回 日系アメリカ人の歴史：20世紀初頭の日本人移民制限の動き
- 第 10回 日系アメリカ人の歴史：太平洋戦争の勃発と強制立ち退き
- 第 11回 日系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦における日系人部隊
- 第 12回 日系アメリカ人の歴史：戦後の補償問題
- 第 13回 ヒスパニック系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦後の移民法改正①
- 第 14回 ヒスパニック系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦後の移民法改正②
- 第 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、学期末試験(100%)で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# アメリカ文化論【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor  
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義はアメリカ文化を様々な視点から検討します。独立宣言、政治演説など、多数の歴史的資料を取り上げることを通して、アメリカが辿って来た道、そして現代における意義を検証していきます。この講義を通して、学生はアメリカに対する専門的知識を得る上で、アメリカ社会の動向に対して分析する力を身につけます。

## 教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要なものは授業中に提示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 The New World
- 3回 The Original Colonies
- 4回 British Influence
- 5回 Early Expansion to the Mississippi
- 6回 The Moving Frontier
- 7回 【The Civil War】 and the 【Civil Rights Movement】
- 8回 The US System of 【Government】
- 9回 The Second World War
- 10回 The 1960s Counterculture
- 11回 Economic Values
- 12回 Lifestyle
- 13回 Popular Culture
- 14回 Continuing 【Immigration】
- 15回 Course Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 30% 小テスト : 0% 期末試験 : 60% 課題 : 0% 態度 : 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are expected to read the English-language textbook chapter relating to each week's topic to gain historical background information so as to fully appreciate the lecture.

## 履修上の注意 /Remarks

The course will be taught using a combination of English and Japanese. Lecture notes will be provided to aid student review. The examination will be in Japanese but will include some English vocabulary.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# アメリカの生活文化 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 福田 展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、20世紀前半を中心としたアメリカの近代建築と、それらが建ち並ぶ都市の歴史を学び、現代合衆国都市の文化や人びとのくらしの源流を探ることにある。本講義では、福田は、合衆国の1900年以降に建設されたモダニズム建築を取り上げ、映像や写真を中心に、デザインの裏側にあるアメリカの文化、建築家の思考、建築デザインが生み出される社会的な背景などを解説する。寺田は、19世紀末から20世紀前半の合衆国社会の変容と都市における居住空間の形成、およびそれに伴い発生する問題について解説する。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Twentieth-Century American Architecture: The Buildings and Their Makers (W. W. Norton & Company, 2000) ; 竹田有『アメリカ労働民衆の世界』(ミネルヴァ書房、2010年) ; リチャード・プランツ『ニューヨーク 都市居住の社会史』(鹿島出版会、2005年)。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . はじめに(福田 / 寺田)
- 2 . アメリカ近代建築の潮流(福田)
- 3 . シカゴ超高層建築 1 (福田)
- 4 . シカゴ超高層建築 2 (福田)
- 5 . ニューヨークの近代建築 1 (福田)
- 6 . ニューヨークの近代建築 2 (福田)
- 7 . アメリカの巨匠建築家 1 (福田)
- 8 . アメリカの巨匠建築家 2 (福田)
- 9 . アメリカの巨匠建築家 3 (福田)
- 10 . 大都市の誕生(寺田)
- 11 . エスニック・コミュニティの形成(寺田)
- 12 . 移民と黒人のコミュニティ形成(寺田)
- 13 . 都市における対立と隔離の発生 1 (寺田)
- 14 . 都市における対立と隔離の発生 2 (寺田)
- 15 . 学生レポート講評とまとめ(福田 / 寺田)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、レポート(福田)60%、試験(寺田)40%で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# イギリスの現代文学 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「幸福」について共に考えよう！！

文学作品の面白さの一つは、主人公を中心とする人物たちの様々な生き様を読むことで、読者がいつのまにかその世界にすっかり引き込まれ、自分自身がまるでactor、actressになったかのように別の人生を生きることができるところにあります。人間はともすると、自分だけのいごちのよい小さな世界の中で安穩と生きること、井の中の蛙になりがちです。そのような中、独りよがりな独善から解放され、より広く深い人間観を持つためには文学作品は恰好の対象となります。さらに、より広い世界観を得るためには、自国の文学だけに満足することなく、様々な国々の文学作品に接することも必要でしょう。

イギリスの20世紀以降は、伝統を重んじる保守派の中から、様々な領域において刷新を望む新しい力が台頭してきた、とても興味深い時代です。そのような変化が如実に反映されている文学作品の中でも、この授業では、主に短篇小説を読むことで、様々な人間についての問題について一緒に考えていきましょう。そうすることで、より広い視野をもつことができればと思います。(本年度の主なテーマは「幸福」です。)

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。(原則として翻訳を用いますが、英語で書かれた原作も準備します)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入(テーマ、授業の勧め方、評価方法などについての説明)
- 2回 "The Happy Man" by W. S. Maugham、内容確認
- 3回 "The Happy Man" by W. S. Maugham、議論【地位やお金と幸福】
- 4回 "The Happy Prince" by O. Wilde、内容確認
- 5回 "The Happy Prince" by O. Wilde、議論【自己犠牲と幸福】
- 6回 "A Little Cloud" by James Joyce、内容確認
- 7回 "A Little Cloud" by James Joyce、議論【自由や束縛と幸福】
- 8回 "Miss Brill" by K. Mansfield、内容確認
- 9回 "Miss Brill" by K. Mansfield、議論【孤独の不幸】
- 10回 August Is a Wicked Month by E. O'Brien、内容確認
- 11回 August Is a Wicked Month by E. O'Brien、議論【男女の愛の不毛性】
- 12回 Lady Chatterley's Lover by D. H. Lawrence、内容確認
- 13回 Lady Chatterley's Lover by D. H. Lawrence、議論【自然との関係にみる救い】
- 14回 幸福についての議論
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート...90% 平常点(課題など)...10% (出席重視)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

短編については、配布する物語をあらかじめ授業の前に読んでおいてください。

原作(英語のオリジナル)のプリントも配布するので、英語を頑張りたい人は積極的にそれを活用して自分で訳す作業をすることをお勧めします。その作業をやった人については、評価に+αの配点をします。

# イギリスの現代文学 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化（地域系）科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【地位やお金と幸福】、【自己犠牲と幸福】、【自由や束縛と幸福】、【孤独の不幸】、【男女の愛の不毛性】、【自然との関係にみる救い】

# イギリスの18-19世紀文学【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 高本 孝子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、18 - 19世紀のイギリス小説の中でも特に一般になじみ深いと思われるものを取り上げ、各々の作品の内容およびその思想背景などについて学ぶ。また、19世紀イギリス小説の代表的な作品の1つである『自負と偏見』を通読することにより、小説観賞の方法を学ぶとともに、この時代のイギリス小説の特質についての理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

ジェイン・オースティン『自負と偏見』(または『高慢と偏見』)(入手しやすい訳本を使用する予定。)  
Jane Austen, *Pride and Prejudice* (Penguin Classics)  
別途、授業中にプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 受講のしかたについての説明・イントロダクション
2. 18、19世紀のイギリス史概観
3. ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー』(1719)
4. ジェイン・オースティン『自負と偏見』(1813) 第1章～第10章
5. ジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』(1726)
6. ジェイン・オースティン『自負と偏見』(1813) 第11章～第20章
7. メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』(1818)
8. ジェイン・オースティン『自負と偏見』(1813) 第21章～第30章
9. ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』(1865)
10. ジェイン・オースティン『自負と偏見』(1813) 第31章～第40章
11. ロバート・L・ステイヴンソン『ジキル博士とハイド氏』(1886)
12. ジェイン・オースティン『自負と偏見』(1813) 第41章～第50章
13. H.G. ウェルズ『タイムマシン』(1895)
14. ジェイン・オースティン『自負と偏見』(1813) 第51章～第60章
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小課題提出(9～10回程度。小説の梗概作成など)60%、授業への取り組み20%、小テスト20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

授業への取り組み方を重視した評価を行う。課題の提出状況および出席状況が4/5を下回る者に対する成績評価は原則として行わない。締切を過ぎて出されたレポート類については若干減点する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語が苦手な方でもこなせる課題を設定します。イギリス小説を読む醍醐味を一緒に味わいましょう。

## キーワード /Keywords

# イギリスの大衆文化【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

フットボールやボクシングなど、イギリス発祥のスポーツは数多くあります。その殆どは、もともと民衆娯楽として生まれたものが、近代において「スポーツ」として制度化されたものでした。この授業では、様々なスポーツを通じて、中世から現代に至るまでのイギリスの「民衆文化」の変容を検討していきます。

## 教科書 /Textbooks

特になし(毎回レジュメを配布します)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『スポーツを考える』(多木浩二)、ちくま新書
- 『フットボールの文化史』(山本浩)、ちくま新書
- 『空から女が降ってくる』(富山木佳夫)岩波書店
- 『英国社会の民衆娯楽』(ロバート・W・マーカムソン)、平凡社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 インTRODクシヨン~「民衆文化」と「大衆文化」
- 第二回 「アニマルスポーツ」と近代化(闘鶏)
- 第三回 「ブラッドスポーツ」と暴力(ボクシング)
- 第四回 儀礼からスポーツへ(フットボール・1)
- 第五回 オフサイドはなぜ反則か(フットボール・2)
- 第六回 ジェントルマンのサラブレッド(競馬)
- 第七回 ヴィクトリア朝のアルピニスト(登山)
- 第八回 「健康」のためのスポーツ(陸上)
- 第九回 「アマチュアリズム」とは何か(オリンピック)
- 第十回 映像で見るスポーツ
- 第十一回 スポーツとナショナリズム(フーリガニズム)
- 第十二回 スポーツとジェンダー(ネットボール、フットボール)
- 第十三回 スポーツと植民地主義(クリケット)
- 第十四回 現代におけるスポーツ(メディア)
- 第十五回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 40%、期末テスト 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スポーツがメインですが、イギリスの民衆文化について幅広く扱います。スポーツに特に興味のない人もどうぞ。

## キーワード /Keywords

スポーツ、共同体、祝祭、サッカー、演芸、格闘技、階級

# イギリスの歴史と文化【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

言うまでもなく、イギリスは資本主義の発祥地です。この授業では、その資本主義の歴史をイギリスに即して辿りながら、それがいかなる文化を生み出してきたのか考察します。文化と社会、文化と経済の関係を探ることがメインテーマです。

## 教科書 /Textbooks

特になし(毎回、レジュメを配布します)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『新自由主義』(デヴィッド・ハーヴェイ)、作品社、2730円
- 『田舎と都会』(レイモンド・ウィリアムズ)、晶文社、3990円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 オリエンテーション
- 第二回 イギリス社会の「文化」と「経済」
- 第三回 資本主義の「起源」～農業と資本主義
- 第四回 冒険者たちのイギリス～航海と資本主義
- 第五回 蒸気機関は世界を変えたか～産業革命と資本主義
- 第六回 「自由」な「個人」の「権利」～社会思想と資本主義
- 第七回 プランテーションからカントリーハウスへ～植民地と資本主義
- 第八回 「大衆」か「プロレタリアート」か～都市と資本主義
- 第九回 「貧困」の発見～社会政策と資本主義
- 第十回 巨人たちの戦い～帝国主義と資本主義
- 第十一回 選ばれた人々?～ナショナリズムと資本主義
- 第十二回 「文化的」な生活のために～福祉国家と資本主義
- 第十三回 フォークランドからイラクへ～戦争と資本主義
- 第十四回 ブームとバブル～金融と資本主義
- 第十五回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト100%。ただし、授業態度などの平常点により多少の増減あり。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難解そうに見えるかもしれませんが、「資本主義」とは私たちが今行きている現実に他なりません。そして、その現実を見なければ、実際のところどんな「文化」も理解できないのです。

## キーワード /Keywords

資本主義、グローバリゼーション、戦争、新自由主義、産業革命、階級

# イギリスの歴史と社会【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 久木 尚志 / 国際関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。異文化に接近するための方法論と基礎知識を身につける。

## 教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド・映像を適宜用いる。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じ紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 英米文化への接近方法【英米文化】【コミュニケーション】
- 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
- 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ・カルタ】
- 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
- 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
- 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【帝国】【スコットランド】
- 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
- 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
- 第10回 アイルランドは「ケルト」ではない(1)【アイルランド】【カソリック】
- 第11回 アイルランドは「ケルト」ではない(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
- 第12回 ホワイトハウスが白いのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
- 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
- 第14回 イギリスにもねじれ国会があった【貴族】【国制】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# イギリス文化論【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

映画や文学、新聞を中心にイギリスの文化を読み解く。階級、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、宗教、王室等をキーワードとして、歴史的な視点、現代的な視点の両方から考えてみたい。

This course will assess and analyse British Culture through a focus on film, literature and journalistic text. Both historical and modern perspectives will be maintained and embraced throughout this investigation into the key themes of class, gender, sexuality, ethnicity, religion and sovereignty.

## 教科書 /Textbooks

Handouts will be provided at the beginning of each class.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Relevant material for further study will be introduced during each class.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Class 1: Gender and Sexuality on the Shakespearean Stage
- Class 2: Gender and Sexuality in Modern Britain: Self and Society in Billy Eliot
- Class 3: Gender, Sexuality and Identity throughout British History
- Class 4: Religion in Tudor England: The Legacy of Henry VIII
- Class 5: Religion in Tudor England: The Philosophy of Elizabeth I
- Class 6: Religion and Identity throughout British History
- Class 7: Social Class in Shakespearean London
- Class 8: Social Class in Victorian London
- Class 9: Social Class in Film and Rock in Modern Britain: Billy's Ballet and Pulp's Plea
- Class 10: Ethnicity and Shakespeare
- Class 11: Ethnicity and War
- Class 12: Ethnicity in Modern Britain: Bend It Like Beckham
- Class 13: The Royal Family and the British Press
- Class 14: Sovereigns On Stage and Film: Presenting the Royals
- Class 15: Review and Discussion

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- Homework assignment 1 - 50% (Short Essay)
- Homework assignment 2 - 50% (Short Essay)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

None specified

## 履修上の注意 /Remarks

Please note that this course will be conducted in English.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 環大西洋の社会史【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

2010年の冬以来、世界各地で民衆による大規模な抗議行動が頻発している。その行動は、ある地域では「革命」であり、ほかの地域では「異議申し立て」にとどまるが、いずれも権力や権威に対する抗議であることにおいては共通する。こうした抗議行動の原因や意義を考えるうえでのひとつの手掛かりとして、本講義では、環大西洋世界で生じた歴史的な「革命」を取り上げ、近代の欧米を中心とした政治的な流れを、経済・社会・文化と絡めて考察する。

## 教科書 /Textbooks

特に指定なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに：授業の狙い・テーマについてのガイダンス
- 2回 イギリス革命：ピューリタン革命(1)【イギリスの宗教改革】
- 3回 イギリス革命：ピューリタン革命(2)【ピューリタニズムと共和国】
- 4回 イギリス革命：名誉革命(1)【王政復古体制】
- 5回 イギリス革命：名誉革命(2)【権利章典】
- 6回 アメリカ革命：反英抗争(1)【植民地建設】
- 7回 アメリカ革命：反英抗争(2)【植民地の発展】
- 8回 アメリカ革命：独立革命(1)【課税への反対】
- 9回 アメリカ革命：独立革命(2)【「コモン・センス」と「独立宣言」】
- 10回 フランス革命：アンシャン・レジーム(1)【「社団」から「公衆」へ】
- 11回 フランス革命：アンシャン・レジーム(2)【政治的危機と経済的危機】
- 12回 フランス革命：89年革命(1)【全国三部会とバスティーユ占領】
- 13回 フランス革命：89年革命(2)【「人権宣言」と「1791年憲法」】
- 14回 ハイチ革命：米仏への影響
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験(100%)で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 西洋美術史【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 貞包 博幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

19～20世紀初頭の西洋美術に焦点をあてる。とりわけ産業革命後の近代市民社会の形成や機械文明の発達が発達が芸術活動にどう影響したか、近代美術とはそもそもどのようなものであり、どのようにして形成されたかを見る。そのために絵画・彫刻に留まらず、建築・工芸・産業製品についても映像を多用し、理論的かつ視覚的な理解に努める。目標とするところは造形表現が時代の変化といかに密接に関わり、社会の状況を反映したものであるかを知ることにある。

## 教科書 /Textbooks

安部公正他著『世界デザイン史』美術出版社、2600円。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

千足伸行他『新西洋美術史』西村書店 ニコラス・ペブスナー『モダンデザインの展開』みすず書房  
貞包博幸訳『キュービズム』および『バウハウスの実験住宅』中央公論美術出版 他。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1回	近代市民社会の発展と美術	産業革命、フランス革命、【大衆社会】
2回	美術における二つの価値体系	理想主義的価値観、【実利的価値観】
3回	19世紀の美学思想	「用」なるもの、【「美」なるもの】
4回	アカデミズムの芸術思潮	アカデミー、【歴史主義】、芸術至上主義
5回	機械文明と新しい造形	万国博覧会、鉄道の発達、【機械化】
6回	19世紀の西洋美術の系譜	アングルの絵画、マネの絵画、【新しい写実性】
7回	印象主義の誕生	モネの絵画、【仮象色】
8回	アート・アンド・クラフト運動	ウィリアム・モリス、手工芸、【芸術の大衆化】
9回	アール・ヌーボーの芸術運動	【曲線様式】、鉄の愛用
10回	アール・ヌーボーの時代背景	アカデミズムからの離反、【新しい芸術感情】
11回	キュービズムの絵画とその意味	ピカソ、【視点の移動】、時間の導入
12回	ドイツ近代運動の展開	ドレスデン手工芸工房、合理美、【機械様式】
13回	ドイツ工作連盟の活動	連盟の目標、【規格化】、【品質】
14回	バウハウスとモダニズム	【芸術と技術の統一】
15回	まとめ	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...10 % 課題(レポート提出) ...20 % 期末テスト ...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業では、各回資料を配付するので十分に読み理解に努めること。

## 履修上の注意 /Remarks

美術展を多く観賞し、美術に親しむこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義開始時間を守ること。

## キーワード /Keywords

アカデミズム 近代芸術 用と美 規格化 モダニズム

# 西洋美術史 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 貞包 博幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

19～20世紀初頭の西洋美術に焦点をあてる。とりわけ産業革命後の近代市民社会の形成や機械文明の発達が発達が芸術活動にどう影響したか、近代美術とはそもそもどのようなものであり、どのようにして形成されたかを見る。そのために絵画・彫刻に留まらず、建築・工芸・産業製品についても映像を多用し、理論的かつ視覚的な理解に努める。目標とするところは造形表現が時代の変化といかに密接に関わり、社会の状況を反映したものであるかを知ることにある。

## 教科書 /Textbooks

安部公正他著『世界デザイン史』美術出版社、2600円。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

千足伸行他『新西洋美術史』西村書店 ニコラス・ペブスナー『モダンデザインの展開』みすず書房  
貞包博幸訳『キュービズム』および『バウハウスの実験住宅』中央公論美術出版 他。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1回	近代市民社会の発展と美術	産業革命、フランス革命、【大衆社会】
2回	美術における二つの価値体系	理想主義的価値観、【実利的価値観】
3回	19世紀の美学思想	「用」なるもの、【「美」なるもの】
4回	アカデミズムの芸術思潮	アカデミー、【歴史主義】、芸術至上主義
5回	機械文明と新しい造形	万国博覧会、鉄道の発達、【機械化】
6回	19世紀の西洋美術の系譜	アングルの絵画、マネの絵画、【新しい写実性】
7回	印象主義の誕生	モネの絵画、【仮象色】
8回	アート・アンド・クラフト運動	ウィリアム・モリス、手工芸、【芸術の大衆化】
9回	アール・ヌーボーの芸術運動	【曲線様式】、鉄の愛用
10回	アール・ヌーボーの時代背景	アカデミズムからの離反、【新しい芸術感情】
11回	キュービズムの絵画とその意味	ピカソ、【視点の移動】、時間の導入
12回	ドイツ近代運動の展開	ドレスデン手工芸工房、合理美、【機械様式】
13回	ドイツ工作連盟の活動	連盟の目標、【規格化】、【品質】
14回	バウハウスとモダニズム	【芸術と技術の統一】
15回	まとめ	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...10 % 課題(レポート提出) ...20 % 期末テスト ...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業では、各回資料を配付するので十分に読み理解に努めること。

## 履修上の注意 /Remarks

美術展を多く観賞し、美術に親しむこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義開始時間を守ること。

## キーワード /Keywords

アカデミズム 近代芸術 用と美 規格化 モダニズム

# フランス文学 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化（地域系）科目

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

現代フランス文学を代表する作家マルグリット・デュラス（1914～1996）は、自分の少女時代をあくことなく、何度も語り直す。この講義では、語り直された二つの自伝的物語、『太平洋の防波堤』（1950年、36歳執筆）、『愛人（ラマン）』（1984年、70歳執筆）の読解と比較を通して、語り直しによって何が変わったのか、もしくは、何が変わっていないのか、について考えてみたい。さらには、同じ女流作家であるフランソワーズ・サガン（1935～2004）が十代で（つまりは同時代的に）書いた『悲しみよ こんにちは』における少女時代と何が共通していて、何が違うのかについても比較していく。

## 教科書 /Textbooks

マルグリット・デュラス『太平洋の防波堤/愛人 ラマン/悲しみよ こんにちは』（池澤夏樹=個人編集 世界文学全集 1-4）河出書房新社、2008年。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

マルグリット・デュラス『愛人（ラマン）』清水徹訳、河出書房新社、2008年（河出文庫、1992年）。  
マルグリット・デュラス『北の愛人』清水徹訳、河出文庫、1996年。  
Laure Adler, MarguriteDuras, Gallimard, 1998.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：イントロダクション：デュラス、人と作品
- 2回：デュラス『太平洋の防波堤』（1950）pp. 6～55
- 3回：デュラス『太平洋の防波堤』（1950）pp. 56～101
- 4回：デュラス『太平洋の防波堤』（1950）pp. 102-155
- 5回：デュラス『太平洋の防波堤』（1950）pp. 156～210
- 6回：デュラス『太平洋の防波堤』（1950）pp. 211～255
- 7回：デュラス『太平洋の防波堤』（1950）pp. 256～294
- 8回：デュラス『太平洋の防波堤』（1950）pp. 295～337
- 9回：デュラス『愛人（ラマン）』（1984）pp. 339～390
- 10回：デュラス『愛人（ラマン）』（1984）pp. 391～451
- 11回：映画『ラマン』（1992）との比較
- 12回：サガン『悲しみよ こんにちは』（1954）pp. 453～504
- 13回：サガン『悲しみよ こんにちは』（1954）pp. 505～533
- 14回：サガン『悲しみよ こんにちは』（1954）pp. 534～575
- 15回：まとめ

\* 授業の進度はあくまで目安であり、学生と相談しながら決める。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート等70%、平常点30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は邦訳を用いる。できれば、三つの作品を一通り読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

今年は、出張のため、月一回程度の休講が予想される。休講分は補講期間にまとめて講義するので、履修者はそのことを了解の上、計画的に履修すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランスの現代小説をじっくりと読んでみましょう。

## キーワード /Keywords

自伝 思春期 小説 フランス 恋愛

# ドイツ文化論 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ文化圏内の世界遺産を手がかりとして、ドイツの歴史とドイツ文化の多様性について考える。

## 教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 世界遺産とは何か
- 2回 ドイツ史概観
- 3回 ケルン大聖堂
- 4回 宗教建築の基礎知識
- 5回 危機遺産指定と解除
- 6回 ベルリンの世界遺産
- 7回 ベルリンの歴史
- 8回 変貌するベルリン
- 9回 リューベック・ 戦災からの復興
- 10回 その他のハンザ都市
- 11回 再統一後のハンザ都市の整備
- 12回 番外編・ アウシュヴィッツ
- 13回 その他の強制収容所
- 14回 負の遺産の持つ意味
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...10% 期末試験 ... 90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# スペインの歴史と文化【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

イベリア半島のスペインは、地域的に多様性に富んだ国です。講義では中世イベリア半島におけるイスラーム勢力との遭遇、レコンキスタと諸地域の形成からスペイン王国確立にいたる歴史を概観したうえで、おもに近世のスペイン王国の成り立ちから、社会史の視点から人々の心性やソシアビリテ(人と人との結びつき)に焦点を絞って、スペインの社会と文化を扱います。今日の多言語・多文化スペインの理解につなげたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。プリントを配布。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- ベナサル『スペイン人—16世紀～19世紀の行動と心性』(彩流社)
- 立石博高ほか編『スペインの歴史』(昭和堂)
- 立石博高『スペイン歴史散策』(行路社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的な内容: ヨーロッパのなかのスペイン
- 2回 中世のイベリア半島—イスラーム優位の時代【アル・アンダルス】
- 3回 キリスト教諸王国の形成から半島の統一【レコンキスタ】
- 4回 ユダヤ人追放をめぐって
- 5回 スペイン王国: 国家と社会【複合王政】【異端審問所】
- 6回 カトリック信仰の黄金時代【マンタリテ】
- 7回 祝祭と娯楽
- 8回 時間の持続性: カレンダーに見る人々の営為
- 9回 スペイン帝国の衰退からブルボン王朝の啓蒙改革
- 10回 近世スペインのマイノリティ、ジプシーについて
- 11回 セビーリャの啓蒙のテルトゥリア【ソシアビリテ】
- 12回 近代はカディスから、カフェ文化の誕生
- 13回 カディス国民議会と独立戦争【1812年憲法】
- 14回 19世紀、近代スペイン
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 小テスト... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上にあげた参考文献のほか、授業で紹介する文献を読む。とくにどの学問もそうであるが、特殊な用語(キー・ワード)については、歴史学辞典、『スペイン・ポルトガルを知る事典』(平凡社)などで確認する。

## 履修上の注意 /Remarks

岡住ゼミを3年次に選択する学生は、必ず2年次あるいは3年次に受講しましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 近現代の南欧世界【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

南欧の国、地域的に多様なスペイン近現代の流れを押さえた上で、19世紀の自由主義革命の時代の国民化やスペイン・イメージの形成と国民文化・地域文化の発見と創造、イベリア半島からの移民現象、そして地域と国家の問題(地域ナショナリズム)などを多角的にスペインの歴史を学び、最後に、現在の自治州国家体制の理解につなげたいと思います。歴史学は比較史ですから、スペインと同じラテン系のイタリアやフランスにも目配りしてスペイン史の理解を目指します。

## 教科書 /Textbooks

プリントを毎回配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 立石博高『スペイン歴史散策』行路社、2002年
- 立石博高ほか編『スペインの国家と地域』国際書院、2003年
- 関哲行ほか編『スペイン史2 近現代・地域からの視座』山川出版、2008年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1回 出来事-独立戦争からスペイン内戦までの歴史
- 2回 スペインの自由主義革命について【自由主義】
- 3回 マリアナ・ピネーダ「自由の殉教者」について
- 4回 旅行者たちが見た「スペイン」【ロマン主義】
- 5回 19世紀の国民形成について【国民化】
- 6回 「地域」の発見あるいは「ナショナルなもの」創造
- 7回 フラメンコとサルダーナについて
- 8回 大西洋移民システムの中のイベリア半島
- 9回 アンダルシアからの移民現象
- 10回 スペイン経済の不均衡発展: アンダルシアとカタルーニャ
- 11回 カタルーニャ・ナショナリズム
- 12回 アンダルシア地域主義
- 13回 20世紀70年代の民主化と地域ナショナリズム
- 14回 多言語・多文化の国、スペイン【自治州国家体制】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で紹介する参考文献を読むと理解が早いでしょう。授業で配布するレジュメを読み直し、学んだことを確認すること。

## 履修上の注意 /Remarks

3年次で岡住ゼミを希望する学生は、この授業を選択することが望ましいです。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ロシアの歴史と社会【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科  
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ソ連崩壊以降の国内社会問題、内政、近隣諸国との関係など現代ロシアも含めて、ロシアの歴史・社会・文化・生活習慣などについて理解を深めることを目的とする。

到達目標は、ロシアの歴史や社会の基本的なことについて説明できるようになること。

## 教科書 /Textbooks

レジュメ配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

和田春樹編『ロシア史』山川出版社  
 藤沼貴著『ロシア その歴史と心』  
 以上のほか、授業で紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシアの自然・風土：ロシア基本データ、ロシアの領域特徴・自然特徴
- 2回 ロシアの歴史1：【キエフ・ルーシ】、【モンゴルの支配】、【モスクワ公国の発展】
- 3回 ロシアの歴史2：【動乱の時代】、【西欧化の波】、【ピョートル時代の近代化】
- 4回 ロシアの歴史3：【帝政ロシアの異民族支配体制】、【19世紀の改革と反動】、【ロシア革命】
- 5回 ロシアの歴史4：【ソ連国家建設から1970年代末までのソ連社会概観】
- 6回 ビデオ鑑賞：ソ連時代の人々の行動と価値観
- 7回 ロシア文化論①ロシア文化と地政学的条件、自然観と宗教
- 8回 ロシア文化論②生活文化、社会文化
- 9回 ゴルバチョフ登場からソ連崩壊まで①【ベレストロイカ】、【グラスノスチ】
- 10回 ゴルバチョフ登場からソ連崩壊まで②【ベレストロイカの行詰まり】、【ソ連崩壊】
- 11回 エリツイン時代のロシア：企業民営化、議会と大統領の対立、チェチェン侵攻
- 12回 プーチン時代のロシア：7連邦管区制度導入、言論統制、民営化企業見直し
- 13回 中央政府と民族共和国の関係：タタルスタン、ダゲスタンを例に
- 14回 ロシアの外交：【近い外国】、【遠い外国】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 70 % 平常の学習状況 ... 30 %  
 (欠席・遅刻が三分の一以上の者は単位取得資格を失います)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ロシア、ソ連の歴史は複雑です。授業で参考文献や資料を紹介しますので、しっかり授業準備をしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 北ユーラシアの民族と社会 【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科  
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

民族を結び付けている言語・文化・宗教、アイデンティティなどについて考察する。  
 事例研究では、ロシア・旧ソ連を重点的に扱い、多民族国家・社会における言語問題、民族対立、文化統合・国民統合などの問題について考察し、グローバル化社会における個人と帰属社会の関係について理解を深めることを狙いとする。  
 到達目標は、多民族社会に関する知識を養い、日本の社会を多様な価値観で認識し直すことができるようになること。

## 教科書 /Textbooks

レジュメ配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

蓮実重彦、山内昌之『いま、なぜ民族か』 東京大学出版会 1994年  
 『スラブの民族』(講座スラブの世界 2) 山川出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 民族とは何か：【民族籍と国籍】、【民族アイデンティティ】
- 2回 民族社会と文化①文化の定義、人と文化、文化政策
- 3回 民族社会と文化②【クレオール】
- 4回 社会と宗教：世界の宗教意識調査、宗教の役割とは何か、宗教政策
- 5回 言語と社会①【母語とは】、人と言語、民族言語
- 6回 言語と社会② 近代化と言語政策・言語問題
- 7回 ボルガ・ウラル地域の民族社会①タタール人
- 8回 ボルガ・ウラル地域の民族社会②ウドムルト人
- 9回 北カフカスの諸民族、【ダゲスタンの諸民族】
- 10回 南カフカスの諸民族、アルメニア人、グルジア人、アゼリ人
- 11回 中央アジアの民族と社会：草原の民とオアシスの民、信仰と宗教、新たな国造り
- 13回 ウクライナの民族・地域問題：各地域が抱える問題、言語事情
- 14回 シベリア・極北の民族社会：自然と産業、開発の歴史、少数民族社会の消長
- 15回 旧ソ連の離散民：ロシアの朝鮮人、離散の歴史

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート70%、授業への取り組み状況30%  
 (欠席・遅刻が三分の一以上の者は単位取得資格を失います)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で参考文献や資料を紹介しますので、授業準備をしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語学概論 【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化（地域系）科目

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

英語学に関する基礎知識の習得。

## 教科書 /Textbooks

『英語学概論 - 三大文法の流れと特徴 - 』松井千枝著 朝日出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『英語学基礎講義 英語学ってどんな学問?』高橋勝忠著 現代図書  
○『英語学へのファーストステップ』有村(他)英宝社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文は単語の配列で構成されているが、単語と単語の関係は線の順序だけではなく、階層的關係が存在することを理解してもらう。

- 1回 ガイダンス
- 2回 言語学の諸分野
- 3回 歴史比較言語学によるインド=ヨーロッパ祖語の再構築及び英語史の概略説明
- 4回 英文法の歴史の概略説明(規範文法から記述文法への流れ)
- 5回 音声と音素
- 6回 語と形態素
- 7回 アメリカ構造主義による複数個の形態素から成り立つ語のIC分析
- 8回 伝統文法、アメリカ構造主義、生成文法における、それぞれの語の分類方法
- 9回 統語論その1(品詞の分類に基づいた伝統文法における統語構造の分析方法とアメリカ構造主義における統語構造のIC分析の欠点、利点)
- 10回 統語論その2(生成文法における統語構造の分析方法)
- 11回 意味論(オグデン、リチャーズの意味の三角形の概略説明等)
- 12回 認知言語学の概略説明
- 13回 S. Kuno等が提案している機能文法の概略説明(前置詞残留現象を例に取り)
- 14回 述語が持つ項構造(不定詞等に見られる発音されない意味上の主語を仮定する根拠の概略説明)
- 15回 まとめ

10回程度、講義の終わりに小テストを行う。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験60% レポート40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もって、テキストを読んでくること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

疑問が生じたらその日に質問等をし、疑問を解消すること。

## キーワード /Keywords

# 英語音声学【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年 英米優先クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい音声について明らかにする。音声分析ソフトを用い、spectrographによる分析も試みる。

## 教科書 /Textbooks

佐藤 寧、佐藤 努 著『現代の英語音声学』金星堂、2400円(税別)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じ、プリントを配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA (テキスト:第1章、第3章)
- 2回 発生のメカニズム、母音の種類(1) (テキスト:第2章、第4章)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音 (テキスト:第4章)
- 4回 子音の種類(1) 鼻音、閉鎖音 (テキスト:第5章)
- 5回 子音の種類(2) 摩擦音 (テキスト:第5章)
- 6回 子音の種類(3) 破擦音、側音、半母音(第5章)
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢(テキスト:第7章)
- 9回 音の縮小、同時長音(テキスト:第8章、第9章)
- 10回 英語のリズム(テキスト:第6章)
- 11回 イントネーション(1)(テキスト:第10章)
- 12回 イントネーション(2)(テキスト:第10章)
- 13回 音響音声学(テキスト:第11章)
- 14回 音変化と規則性(テキスト:第13章、第15章)
- 15回 授業のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加、提出課題 40%  
期末試験 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

USBメモリを準備すること

## 履修上の注意 /Remarks

CALL教室で授業を行うので、1クラスを受講希望者が60名を超えた場合、別のクラスで受講してもらう場合がある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

IPA, articulation, vowel, consonant, stress, intonation, acoustic phonetics

# 英語音声学【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年ラ 国比優先ク

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい音声について明らかにする。音声分析ソフトを用い、spectrographによる分析も試みる。

## 教科書 /Textbooks

佐藤 寧、佐藤 努 著『現代の英語音声学』金星堂、2400円(税別)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じ、プリントを配布する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA (テキスト:第1章、第3章)
- 2回 発生のメカニズム、母音の種類(1) (テキスト:第2章、第4章)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音 (テキスト:第4章)
- 4回 子音の種類(1)鼻音、閉鎖音 (テキスト:第5章)
- 5回 子音の種類(2)摩擦音 (テキスト:第5章)
- 6回 子音の種類(3)破擦音、側音、半母音(第5章)
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢(テキスト:第7章)
- 9回 音の縮小、同時長音(テキスト:第8章、第9章)
- 10回 英語のリズム(テキスト:第6章)
- 11回 イントネーション(1)(テキスト:第10章)
- 12回 イントネーション(2)(テキスト:第10章)
- 13回 音響音声学(テキスト:第11章)
- 14回 音変化と規則性(テキスト:第13章、第15章)
- 15回 授業のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加、提出課題 40%  
期末試験 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

USBメモリを準備すること

## 履修上の注意 /Remarks

CALL教室で授業を行うので、1クラスの受講希望者が60名を超えた場合、別のクラスで受講してもらう場合がある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

IPA, articulation, vowel, consonant, stress, intonation, acoustic phonetics

# 英語史【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講座では、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生(5世紀)から近世(16世紀)に至るまでの歴史を概観する。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる(1)語彙の豊富さ(2)語尾変化の少なさを、この2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを具体例を通して概観し、英語の発達の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることを学んでいく。

## 教科書 /Textbooks

『ファンダメンタル英語史』(児馬修著) ひつじ書房 1500円

## 参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が適宜紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバス配布 & 英語史導入問題の解答と解説
- 2回 はしがき & はじめに【外面史】、【内面史】
- 3回 英語史の概観(1)【アングロサクソン人】
- 4回 英語史の概観(2)【ケルト人】
- 5回 印欧祖語(1)【異言語間の数詞比較】
- 6回 印欧祖語(2)【ウィリアム・ジョーンズ】
- 7回 印欧祖語(3)【印欧語族】
- 8回 古英語の文献・特殊文字(1)【ルーン文字】、【ローマンアルファベット】
- 9回 古英語の文献・特殊文字(2)【古英語】
- 10回 海賊と英語(1)【ヴァイキング】
- 11回 海賊と英語(2)【借用語】
- 12回 海賊と英語(3)【地名】
- 13回 ノルマン人の征服と英語(1)【ノルマン人の征服】
- 14回 ノルマン人の征服と英語(2)【英語の危機】
- 15回 ノルマン人の征服と英語(3)【フランス語借用語】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・20% 定期試験・・・80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎講義の冒頭に前回の講義内容に関する質問を受講生に口頭でおこなうので、講義開始時まで前回の講義内容を復習しておくこと。この口頭質問は重要なクラス活動と位置づけるので、平常点として成績評価の対象とする。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

アングロサクソン 古英語 借用語 フランス語

# 英文法I【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

主に英語教育を目指す人を対象に、英語の仕組みそのものを平易な切り口で理解してもらうことを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』(David Crystal著 Longman)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』(豊永 彰著 南雲堂 1,400円)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Types of sentences
- 3回 Clause types
- 4回 The verb element, The subject element
- 5回 The object element, The complement element
- 6回 The adverbial element
- 7回 Verb phrase structure
- 8回 Auxiliary verbs
- 9回 Modal meanings
- 10回 The moods of the verb phrase
- 11回 Verb tenses
- 12回 Future time
- 13回 Verb aspects
- 14回 Active and passive
- 15回 今学期の学習内容の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 授業への取り組み(小テスト含む)...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの遅刻や欠席に対しては、厳しい態度で臨む所存です。

## キーワード /Keywords

「使える英文法」文の仕組み 動詞 名詞

# 英文法I【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

主に英語教育を目指す人を対象に、英語の仕組みそのものを平易な切り口で理解してもらうことを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』(David Crystal著 Longman)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』(豊永 彰著 南雲堂 1,400円)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Types of sentences
- 3回 Clause types
- 4回 The verb element, The subject element
- 5回 The object element, The complement element
- 6回 The adverbial element
- 7回 Verb phrase structure
- 8回 Auxiliary verbs
- 9回 Modal meanings
- 10回 The moods of the verb phrase
- 11回 Verb tenses
- 12回 Future time
- 13回 Verb aspects
- 14回 Active and passive
- 15回 今学期の学習内容の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 授業への取り組み(小テスト含む)...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの遅刻や欠席に対しては、厳しい態度で臨む所存です。

## キーワード /Keywords

「使える英文法」文の仕組み 動詞 名詞

# 英文法Ⅱ【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「英文法の体系を習得することを目的に、文法的事象の分析や整理の仕方を具体的に学習する。英文法の習得には日本語文法との比較対象が有効であるとの前提に立ち、学習の一助とする。」

## 教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal 著 Longman

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『英文法ビフォー&アフター』(豊永 彰著) 南雲堂 ¥1,400

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容と成績評価の仕方に関する説明 今後の概説
- 2回 The noun phrase: outline of NP
- 3回 The noun phrase: common and proper nouns
- 4回 The noun phrase: count and noncount nouns
- 5回 The noun phrase: variable and invariable nouns
- 6回 The noun phrase: gender and case
- 7回 Determiners
- 8回 The articles
- 9回 Predeterminers, premodification
- 10回 Relative clauses
- 11回 Pronouns
- 12回 Adjectives
- 13回 Adverbs
- 14回 Prepositions
- 15回 今学期の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の授業への取り組み...20%、試験...80%で総合評価をする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門基礎教育科目の「英文法I」とあわせて受講すればわかりやすい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

名詞句の特徴、冠詞、形容詞・副詞、前置詞



# 英文法Ⅱ【昼】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「英文法の体系を習得することを目的に、文法的事象の分析や整理の仕方を具体的に学習する。英文法の習得には日本語文法との比較対象が有効であるとの前提に立ち、学習の一助とする。」

## 教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal 著 Longman

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『英文法ビフォー&アフター』(豊永 彰著) 南雲堂 ¥1,400

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容と成績評価の仕方に関する説明 今後の概説
- 2回 The noun phrase: outline of NP
- 3回 The noun phrase: common and proper nouns
- 4回 The noun phrase: count and noncount nouns
- 5回 The noun phrase: variable and invariable nouns
- 6回 The noun phrase: gender and case
- 7回 Determiners
- 8回 The articles
- 9回 Predeterminers, premodification
- 10回 Relative clauses
- 11回 Pronouns
- 12回 Adjectives
- 13回 Adverbs
- 14回 Prepositions
- 15回 今学期の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の授業への取り組み...20%、試験...80%で総合評価をする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門基礎教育科目の「英文法I」とあわせて受講すればわかりやすい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

名詞句の特徴、冠詞、形容詞・副詞、前置詞

# 異文化間コミュニケーション概論【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本と主にアメリカを例に取り、異文化接触に伴うコミュニケーション(非言語も含む)の衝突、摩擦の事例を考察して、そのメカニズムを言語的、社会的、文化的要因に分解しながら解明していく。その中で異文化コミュニケーションの関する実践的方法論などにも触れる。

## 教科書 /Textbooks

授業最初のコースワークの説明の時に知らせる。また必要な資料は授業において適宜配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

チャールズ・プリブル 『科学としての異文化コミュニケーション』ナカニシヤ出版  
 鈴木孝夫 『ことばと文化』岩波新書  
 古田暁(監修) 『異文化コミュニケーション』有斐閣選書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 文化とは何か、コミュニケーションとは何か
- 第3回 異文化コミュニケーションの諸相
- 第4回 言語相対性論とコミュニケーション
- 第5回 ことばと文化とコミュニケーション
- 第6回 日本語と英語の構造に起因するコミュニケーション・ギャップ
- 第7回 事例観察 各事例とその基となる日米文化の差異(直感的な観察)
- 第8回 事例観察 理論(ハイコンテキスト、ローコンテキスト)に基づく分析
- 第9回 事例研究 日本語話者が多弁なとき、それに対する在日外国人からの反応
- 第10回 事例研究 統計的処理の実例(非)ステレオタイプ
- 第11回 事例研究 実践方法(バーンランド)の手順(「私的自己、公的自己」「防御の方策」)
- 第12回 非言語行動、研究領域、日韓行動の差異
- 第13回 広告、翻訳に見る異文化コミュニケーション
- 第14回 異文化適応、カルチュラル・アシミレーター
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動30% 期末試験70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コミュニケーション論であり、スキルの問題を扱う訳ではない。幅広い領域であるが、ことばと文化が深く関わっていること、文化がコミュニケーションがどのように関わっているかを日常的に観察することが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義は社会言語学の基礎知識を学び、日常における様々な言語現象を観察し理解する力を身につけることが目的です。ことばは様々な要因によって影響を受け、変化やバリエーションが生じます。どのような要因がどのような影響を与えるのか、また私たちはことばをどのように駆使しているのかを、社会言語学の視点から考えます。ことばと社会との関係、そこに生じる諸問題を理解することがこの授業の狙いです。

## 教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回社会言語学とは
- 2 回英語の地域変種
- 3 回標準英語と非標準英語
- 4 回ことばと社会階級
- 5 回ことばの性差
- 6 回ことばの年齢差
- 7 回ことばと人種・民族
- 8 回ことばとソーシャルネットワーク
- 9 回ことばとスタイル
- 10 回ことばの変化(1) イギリス英語
- 11 回ことばの変化(2) アメリカ英語
- 12 回方言接触(1)
- 13 回方言接触(2)
- 14 回言語接触
- 15 回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100% 平常の学習状況も考慮します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席を重視します。欠席が3分の1を越える場合は、学期末試験を受けられません。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - a

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Various videos are used to introduce material of international relevance.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Heinle Cengage Learning. 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Listening to a talk; giving a presentation.
- 3 回 Listening to an informal conversation; keeping a conversation going
- 4 回 Listening to a lecture; discussing the issue
- 5 回 Listening to an informal discussion; planning a group presentation
- 6 回 Presentations
- 7 回 Listening to a lecture; giving information
- 8 回 Listening to a presentation; planning a presentation
- 9 回 Listening to a guest speaker; presenting an idea
- 1 0 回 Listening to a group discussion; role-playing a meeting.
- 1 1 回 Presentations
- 1 2 回 Listening to a documentary; discussing problems and solutions
- 1 3 回 Listening to a student conversation; planning a group presentation
- 1 4 回 Group discussions and writing assignments
- 1 5 回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week for use in class.

Complete the online workbook assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - b

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Various videos are used to introduce material of international relevance.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Heinle Cengage Learning. 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Listening to a talk; giving a presentation.
- 3 回 Listening to an informal conversation; keeping a conversation going
- 4 回 Listening to a lecture; discussing the issue
- 5 回 Listening to an informal discussion; planning a group presentation
- 6 回 Presentations
- 7 回 Listening to a lecture; giving information
- 8 回 Listening to a presentation; planning a presentation
- 9 回 Listening to a guest speaker; presenting an idea
- 10 回 Listening to a group discussion; role-playing a meeting.
- 11 回 Presentations
- 12 回 Listening to a documentary; discussing problems and solutions
- 13 回 Listening to a student conversation; planning a group presentation
- 14 回 Group discussions and writing assignments
- 15 回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week for use in class.

Complete the online workbook assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - c

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Students will study the four basic language skills of reading, listening, writing, and speaking, with a main focus on speaking & writing. They will do this while studying about different cultures. The reading materials included will give the students something to speak and write about.

## 教科書 /Textbooks

Check it out! Book 2 by Milada Broukal Heinle Centage Learnin

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course introduction & filling our student information cards
2. Greetings - must, must not, have to, don't have to
3. Explorers - present perfect tense
4. Inventions - past continuous tense
5. Written Grammar Review Test & Conversation Test
6. Writing Assignment 1 Introduction to outlining "My Life"
7. Writing composition from last week's outline
8. Weather - will and going to
9. Transportation - can & could
10. Places - superlatives
11. Written Grammar Review Test & Conversation Test
12. Writing Assignment 2 Outlining "My Hometown" Write stories from last week's outlines
13. Speech activity - What's in Your Pocket
14. Make-up day
15. Wrap-up

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Marks will be based on an average of speech and writing assignments and tests.  
Writing assignments and tests will be averaged to make 70% of the final mark.  
The other 30% will be from the final examination.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students should prepare for each class by reading the first page of each unit and the story on the following page and checking words they do not understand in the dictionary.

## 履修上の注意 /Remarks

Every student must do all of the assignments. Absence is not an excuse for not doing class work, homework, or taking tests.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

communication between you and the teacher and other students is what makes an English course fun rather than just a requirement. When you don't understand something, ask the teacher. Your question may be the difference between a high mark and one that is not so high.

## キーワード /Keywords

担当者名  
/Instructor

ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次  
/Year

単位 1単位  
/Credits

学期 1学期  
/Semester

1学期

授業形態 演習  
/Class Format

クラス 1 - d  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

## 教科書 /Textbooks

Discover Debate by Lubetsky, Le beau and Harrington (Language solutions) (semester 1)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Students must have an English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 Have an opinion
- 3 回 Unit 1 Have an opinion- agree or disagree
- 4 回 Unit 2 Explaining your opinion
- 5 回 Unit 2 Compare and contrast- giving reasons
- 6 回 Unit 3 Supporting your opinion
- 7 回 Unit 3 Giving supports
- 8 回 Unit 4 Organizing your opinion
- 9 回 Unit 4 Debate introductions and conclusions
- 1 0 回 Unit 5 Refuting explanations
- 1 1 回 Unit 5 Tennis debate
- 1 2 回 Tennis debate preparation
- 1 3 回 Tennis debate
- 1 4 回 Exam review
- 1 5 回 Summary

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - e

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

## 教科書 /Textbooks

Discover Debate by Lubetsky, Le beau and Harrington (Language solutions) (semester 1)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

An English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 Have an opinion
- 3 回 Unit 1 Have an opinion- agree or disagree
- 4 回 Unit 2 Explaining your opinion
- 5 回 Unit 2 Compare and contrast- giving reasons
- 6 回 Unit 3 Supporting your opinion
- 7 回 Unit 3 Giving supports
- 8 回 Unit 4 Organizing your opinion
- 9 回 Unit 4 Debate introductions and conclusions
- 1 0 回 Unit 5 Refuting explanations
- 1 1 回 Unit 5 Tennis debate
- 1 2 回 Tennis debate preparation
- 1 3 回 Tennis debate
- 1 4 回 Exam review
- 1 5 回 Summary

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1 - f  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Various videos are used to introduce material of international relevance.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Heinle Cengage Learning. 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Listening to a talk; giving a presentation.
- 3 回 Listening to an informal conversation; keeping a conversation going
- 4 回 Listening to a lecture; discussing the issue
- 5 回 Listening to an informal discussion; planning a group presentation
- 6 回 Presentations
- 7 回 Listening to a lecture; giving information
- 8 回 Listening to a presentation; planning a presentation
- 9 回 Listening to a guest speaker; presenting an idea
- 10 回 Listening to a group discussion; role-playing a meeting.
- 11 回 Presentations
- 12 回 Listening to a documentary; discussing problems and solutions
- 13 回 Listening to a student conversation; planning a group presentation
- 14 回 Group discussions and writing assignments
- 15 回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week for use in class.

Complete the online workbook assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名  
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次  
/Year

単位 1単位  
/Credits

学期 1学期  
/Semester

授業形態 演習  
/Class Format

クラス 1 - g  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Various videos are used to introduce material of international relevance.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Heinle Cengage Learning. 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Listening to a talk; giving a presentation.
- 3 回 Listening to an informal conversation; keeping a conversation going
- 4 回 Listening to a lecture; discussing the issue
- 5 回 Listening to an informal discussion; planning a group presentation
- 6 回 Presentations
- 7 回 Listening to a lecture; giving information
- 8 回 Listening to a presentation; planning a presentation
- 9 回 Listening to a guest speaker; presenting an idea
- 10 回 Listening to a group discussion; role-playing a meeting.
- 11 回 Presentations
- 12 回 Listening to a documentary; discussing problems and solutions
- 13 回 Listening to a student conversation; planning a group presentation
- 14 回 Group discussions and writing assignments
- 15 回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70%                      Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week for use in class.

Complete the online workbook assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor  
ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1 - h  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Various videos are used to introduce material of international relevance.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Heinle Cengage Learning. 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Listening to a talk; giving a presentation.
- 3 回 Listening to an informal conversation; keeping a conversation going
- 4 回 Listening to a lecture; discussing the issue
- 5 回 Listening to an informal discussion; planning a group presentation
- 6 回 Presentations
- 7 回 Listening to a lecture; giving information
- 8 回 Listening to a presentation; planning a presentation
- 9 回 Listening to a guest speaker; presenting an idea
- 1 0 回 Listening to a group discussion; role-playing a meeting.
- 1 1 回 Presentations
- 1 2 回 Listening to a documentary; discussing problems and solutions
- 1 3 回 Listening to a student conversation; planning a group presentation
- 1 4 回 Group discussions and writing assignments
- 1 5 回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week for use in class.

Complete the online workbook assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - a

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Various videos are used to introduce material of international relevance.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Heinle Cengage Learning. 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Recap of the first semester
- 2 回 Listening to a seminar; participating in a mini-debate
- 3 回 Listening to a group discussion; using visuals for presentations
- 4 回 Listening to an earth science lecture; giving a news report
- 5 回 Listening to a group discussion; giving a group presentation
- 6 回 Presentations
- 7 回 Listening to a guided tour; presenting an ancient artifact
- 8 回 Listening to a student conversation; giving a summary
- 9 回 Listening to a biologist's talk; discussing endangered species
- 10 回 Listening to a science experiment conversation; planning a research proposal
- 11 回 Presentations
- 12 回 Listening to a lecture; discussing business ideas
- 13 回 Listening to a case study; creating a commercial
- 14 回 Final discussion
- 15 回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

Complete the online workbook homework assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - b

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Various videos are used to introduce material of international relevance.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Heinle Cengage Learning. 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Recap of the first semester
- 2 回 Listening to a seminar; participating in a mini-debate
- 3 回 Listening to a group discussion; using visuals for presentations
- 4 回 Listening to an earth science lecture; giving a news report
- 5 回 Listening to a group discussion; giving a group presentation
- 6 回 Presentations
- 7 回 Listening to a guided tour; presenting an ancient artifact
- 8 回 Listening to a student conversation; giving a summary
- 9 回 Listening to a biologist's talk; discussing endangered species
- 10 回 Listening to a science experiment conversation; planning a research proposal
- 11 回 Presentations
- 12 回 Listening to a lecture; discussing business ideas
- 13 回 Listening to a case study; creating a commercial
- 14 回 Final discussion
- 15 回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

Complete the online workbook homework assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - c

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Students will study the four basic language skills of reading, listening, writing, and speaking, with a main focus on speaking & writing. The reading materials included will give the students something to speak and write about.

## 教科書 /Textbooks

Check it out! Book 2 by Milada Broukal Heinle Centage Learning

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Discussion & outlining about Vacation Activities
2. Writing story from last week's outline
3. Sports - Must, Must not, have to, etc.
4. Health - Food & Drink, Should & Shouldn't
5. Entertainment - oscars, present perfect tense
6. Grammar Review Quiz & Conversation Test
7. Speech activity - speeches from outlines done in first class
8. Food - verb+ gerund or Infinitive
9. Communication - conditional if - if...will
10. Fashion - passive voice simple present & past
11. Grammar Review Quiz & Conversation Test
12. Outlining about "Food I Like and don't like"
13. Writing composition about last week's outline
14. Speeches from outlines about Food I Like and Don't like
15. Wrap-up

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Marks will be based on an average of speech and writing assignments and tests.  
Writing assignments and tests will be averaged to make 70% of the final mark, The other 30% will be from the final examination.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be told weekly how to prepare for the next class.

## 履修上の注意 /Remarks

Everyone is required to do all of the classwork and homework. Absence is not an excuse from doing this work.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Cooperation between you and the teacher and other students will make the course fun. Never be afraid to ask the teacher questions.

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - d

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

## 教科書 /Textbooks

Impact topics by Day and Yamanaka (Pearson & Longman) (semester 2)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

-

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 The guy with green hair & tennis debate preparation
- 3 回 Tennis debate & Earning money
- 4 回 Tennis debate & Please let me smoke
- 5 回 Tennis debate & I can't stop
- 6 回 Tennis debate & The shoplifter
- 7 回 Tennis debate & Miss Flower blossom beauty contest
- 8 回 Tennis debate & Who pays
- 9 回 Tennis debate & Cyber love
- 1 0 回 Tennis debate & The boyfriend
- 1 1 回 Tennis debate & Living together before marriage
- 1 2 回 Tennis debate & Housework
- 1 3 回 Tennis debate & Confused
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - e

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

## 教科書 /Textbooks

Impact topics by Day and Yamanaka (Pearson & Longman) (semester 2)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

An English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 The guy with green hair & tennis debate preparation
- 3 回 Tennis debate & Earning money
- 4 回 Tennis debate & Please let me smoke
- 5 回 Tennis debate & I can't stop
- 6 回 Tennis debate & The shoplifter
- 7 回 Tennis debate & Miss Flower blossom beauty contest
- 8 回 Tennis debate & Who pays
- 9 回 Tennis debate & Cyber love
- 1 0 回 Tennis debate & The boyfriend
- 1 1 回 Tennis debate & Living together before marriage
- 1 2 回 Tennis debate & Housework
- 1 3 回 Tennis debate & Confused
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1 - f  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Various videos are used to introduce material of international relevance.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Heinle Cengage Learning. 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Recap of the first semester
- 2 回 Listening to a seminar; participating in a mini-debate
- 3 回 Listening to a group discussion; using visuals for presentations
- 4 回 Listening to an earth science lecture; giving a news report
- 5 回 Listening to a group discussion; giving a group presentation
- 6 回 Presentations
- 7 回 Listening to a guided tour; presenting an ancient artifact
- 8 回 Listening to a student conversation; giving a summary
- 9 回 Listening to a biologist's talk; discussing endangered species
- 10 回 Listening to a science experiment conversation; planning a research proposal
- 11 回 Presentations
- 12 回 Listening to a lecture; discussing business ideas
- 13 回 Listening to a case study; creating a commercial
- 14 回 Final discussion
- 15 回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

Complete the online workbook homework assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor  
ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1 - g

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Various videos are used to introduce material of international relevance.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Heinle Cengage Learning. 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Recap of the first semester
- 2 回 Listening to a seminar; participating in a mini-debate
- 3 回 Listening to a group discussion; using visuals for presentations
- 4 回 Listening to an earth science lecture; giving a news report
- 5 回 Listening to a group discussion; giving a group presentation
- 6 回 Presentations
- 7 回 Listening to a guided tour; presenting an ancient artifact
- 8 回 Listening to a student conversation; giving a summary
- 9 回 Listening to a biologist's talk; discussing endangered species
- 10 回 Listening to a science experiment conversation; planning a research proposal
- 11 回 Presentations
- 12 回 Listening to a lecture; discussing business ideas
- 13 回 Listening to a case study; creating a commercial
- 14 回 Final discussion
- 15 回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70%      Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- Review materials from the previous week for use in class.
- Complete the online workbook homework assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor  
ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1 - h

対象入学年度 /Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Various videos are used to introduce material of international relevance.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 2: Heinle Cengage Learning. 2012

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Recap of the first semester
- 2 回 Listening to a seminar; participating in a mini-debate
- 3 回 Listening to a group discussion; using visuals for presentations
- 4 回 Listening to an earth science lecture; giving a news report
- 5 回 Listening to a group discussion; giving a group presentation
- 6 回 Presentations
- 7 回 Listening to a guided tour; presenting an ancient artifact
- 8 回 Listening to a student conversation; giving a summary
- 9 回 Listening to a biologist's talk; discussing endangered species
- 10 回 Listening to a science experiment conversation; planning a research proposal
- 11 回 Presentations
- 12 回 Listening to a lecture; discussing business ideas
- 13 回 Listening to a case study; creating a commercial
- 14 回 Final discussion
- 15 回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70%      Final Examination 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

Complete the online workbook homework assignments.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドロークス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

## 教科書 /Textbooks

New Crossroads ( MacMillan Publishing )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Students must have an English/Japanese dictionary,...

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introductions
- 2回 Life likes
- 3回 Vocabulary development for likes
- 4回 Friends and relationships
- 5回 Vocabulary development for relationships
- 6回 Entertainment
- 7回 Vocabulary development for entertainment
- 8回 Review
- 9回 Socialization
- 10回 Vocabulary development for Socialization
- 11回 Activities
- 12回 Vocabulary development for activities
- 13回 Money and communicating
- 14回 Vocabulary development for communicating
- 15回 Test preparation and review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバ / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills will be developed through regular practice. The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

## 教科書 /Textbooks

World English Level 2 (Heinle Cengage Learning)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

English - Japanese dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回: course introduction, explanation of what to do, and how to prepare.
- 第2回: unit 1 - Food from the earth, Vocabulary, conversation, listening.
- 第3回: unit 1 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第4回 unit 2 - Communication, Vocabulary, conversation, listening.
- 第5回 unit 2 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第6回 unit 3 - Cities, Vocabulary, conversation, listening.
- 第7回 unit 3 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第8回 unit 4- The body, Vocabulary, conversation, listening.
- 第9回 unit 4 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第10回 unit 5 - Challenges, Vocabulary, conversation, listening.
- 第11回 unit 5 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第12回 unit 6 - Transitions, Vocabulary, conversation, listening.
- 第13回 unit 6 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第13回 Review and summary, Vocabulary, conversation, listening.
- 第14回 Review and summary, Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 70%, class participation and positive attitude 30%.  
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the textbook ahead of the lesson.  
Get a good night's sleep.

## 履修上の注意 /Remarks

Please do not use your mobile phone in class.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

## キーワード /Keywords

communication, internationalization, development

# 英会話・英作文 3 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - a

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will be encouraged to critically examine a variety of cultural issues. Students will present their opinions on these issues through written assignments and class discussion. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

## 教科書 /Textbooks

What a world 2 Amazing stories from around the globe, Milanda Broukal, Longman(1st semester)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

An English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Who is the most important person from history, reading, listening, building a paragraph & statistics
- 3 回 What are fattening rooms, listening, building a paragraph & statistics
- 4 回 Where do people celebrate girls days, listening, building a paragraph & statistics
- 5 回 Environment reading, listening, building a paragraph & statistics
- 6 回 What is the royal flying docotr service reading, listening, building a paragraph & statistics
- 7 回 How did the Egyptians make mummies, listening, building a paragraph & statistics
- 8 回 Why is Louis Pasteur important, listening, building a paragraph & statistics
- 9 回 Why are sumo wrestlers so fat? reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 0 回 Who is Stephen King? reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 1 回 Where is Timbukiutu? reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 2 回 temporary workers reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 3 回 Where do most vegetarians live?reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名  
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次  
/Year

単位  
/Credits

1単位

学期  
/Semester

1学期

授業形態  
/Class Format

演習

クラス 2 - b  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills will be developed through regular practice. The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

## 教科書 /Textbooks

World English Level 2 (Heinle Cengage Learning)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

English - Japanese dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回: course introduction, explanation of what to do, and how to prepare.
- 第2回: unit 1 - Food from the earth, Vocabulary, conversation, listening.
- 第3回: unit 1 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第4回 unit 2 - Communication, Vocabulary, conversation, listening.
- 第5回 unit 2 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第6回 unit 3 - Cities, Vocabulary, conversation, listening.
- 第7回 unit 3 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第8回 unit 4- The body, Vocabulary, conversation, listening.
- 第9回 unit 4 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第10回 unit 5 - Challenges, Vocabulary, conversation, listening.
- 第11回 unit 5 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第12回 unit 6 - Transitions, Vocabulary, conversation, listening.
- 第13回 unit 6 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第13回 Review and summary, Vocabulary, conversation, listening.
- 第14回 Review and summary, Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 70%, class participation and positive attitude 30%.  
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the textbook ahead of the lesson.  
Get a good night's sleep.

## 履修上の注意 /Remarks

Please do not use your mobile phone in class.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

## キーワード /Keywords

communication, internationalization, development

# 英会話・英作文 3 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次  
 単位 /Credits: 1単位  
 学期 /Semester: 1学期  
 授業形態 /Class Format: 演習  
 クラス /Class: 2 - c

対象入学年度 /Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

**授業の概要 /Course Description**  
 The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Videos of various kinds are used to introduce material of international relevance.

**教科書 /Textbooks**  
 NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

**参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )**  
 Dictionary

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**

Week 1	Course Introduction: Speaking and writing essentials. Writing Assignment
Week 2	Shadow Talking: Basic speaking exercises
Week 3	Reading for speed. Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 4	Basic speaking exercises
Week 5	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 6	Basic speaking exercises
Week 7	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 8	Speaking on Topics
Week 9	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 10	Speaking on Topics
Week 11	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 12	Speaking on Topics
Week 13	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 14	Group Conversation
Week 15	Article reading and writing review. Writing Assignment

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.  
 Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**  
 [Blank]

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
 Review the materials from the previous week for use in class.

**履修上の注意 /Remarks**  
 Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**  
 [Blank]

**キーワード /Keywords**  
 Speak more, Write more, Learn more English



担当者名  
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次  
/Year

単位 1単位  
/Credits

学期 1学期  
/Semester

授業形態 演習  
/Class Format

クラス 2 - d  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Videos of various kinds are used to introduce material of international relevance.

## 教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Course Introduction: Speaking and writing essentials. Writing Assignment
Week 2	Shadow Talking: Basic speaking exercises
Week 3	Reading for speed. Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 4	Basic speaking exercises
Week 5	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 6	Basic speaking exercises
Week 7	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 8	Speaking on Topics
Week 9	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 10	Speaking on Topics
Week 11	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 12	Speaking on Topics
Week 13	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 14	Group Conversation
Week 15	Article reading and writing review. Writing Assignment

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week for use in class.

## 履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

Speak more, Write more, Learn more English

担当者名 /Instructor ドロークス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

## 教科書 /Textbooks

New Crossroads (Macmillan Publishing)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Students must have an English/Japanese dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Re-introduction
- 2回 What's on the menu?
- 3回 Vocabulary development for food
- 4回 Sports life
- 5回 Vocabulary development for sports
- 6回 Employment issues
- 7回 Vocabulary development for work
- 8回 Review
- 9回 Personalities
- 10回 Vocabulary development for character
- 11回 Exotic lands
- 12回 Vocabulary development for travel
- 13回 Special days
- 14回 Vocabulary development for holidays
- 15回 Test preparation and review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students are expected to have done the reading for the unit prior to each class lesson.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名  
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次  
/Year

単位 1単位  
/Credits

学期 2学期  
/Semester

授業形態 演習  
/Class Format

クラス AES 2  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills will be developed through regular practice. The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

## 教科書 /Textbooks

World English Series 2 (Heinle Cengage Learning)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese - English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回: course introduction, explanation of what to do, and how to prepare.
- 第2回: unit 7 - Luxuries, Vocabulary, conversation, listening.
- 第3回: unit 7 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第4回 unit 8 - Nature, Vocabulary, conversation, listening.
- 第5回 unit 8 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第6回 unit 9 - Life in the past, Vocabulary, conversation, listening.
- 第7回 unit 9 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第8回 unit 10- Travel, Vocabulary, conversation, listening.
- 第9回 unit 10 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第10回 unit 11 - Careers, Vocabulary, conversation, listening.
- 第11回 unit 11 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第12回 unit 12 - Celebrations, Vocabulary, conversation, listening.
- 第13回 unit 12 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第13回 Review and summary, Vocabulary, conversation, listening.
- 第14回 Review and summary, Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 70%, class participation and positive attitude 30%.  
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the textbook ahead of the lesson.  
Get a good night's sleep.

## 履修上の注意 /Remarks

Please do not use your mobile phone in class.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

## キーワード /Keywords

communication, understanding, knowledge

担当者名  
/Instructor

ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次  
/Year

単位 1単位  
/Credits

学期 2学期  
/Semester

授業形態 演習  
/Class Format

クラス 2 - a  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will be encouraged to critically examine a variety of cultural issues. Students will present their opinions on these issues through written assignments and class discussion. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

## 教科書 /Textbooks

What a world 2 Amazing stories from around the globe Milinda Broukal (2nd term)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Who is the most important person from history, reading passage, vocabulary, discussion and writing
- 3 回 What are fattening rooms, reading passage, vocabulary, discussion and writing
- 4 回 Where do people celebrate girls' days, reading passage, vocabulary, discussion and writing
- 5 回 Why is Marco Polo famous, reading passage, vocabulary, discussion and writing
- 6 回 Who reached the South Pole first, reading passage, vocabulary, discussion and writing
- 7 回 What is the Royal flying doctor service, reading passage, vocabulary, discussion and writing
- 8 回 How did the Egyptians make mummies, reading passage, vocabulary, discussion and writing
- 9 回 Why is Louis Pasteur important, reading passage, vocabulary, discussion and writing
- 10 回 Who is Nasreddin Hoda, reading passage, vocabulary, discussion and writing
- 11 回 How do Koreans celebrate weddings, reading passage, vocabulary, discussion and writing
- 12 回 Who is Stephen King, reading passage, vocabulary, discussion and writing
- 13 回 What is the story behind the bed, reading passage, vocabulary, discussion and writing
- 14 回 Review
- 15 回 Summary

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名  
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次  
/Year

単位 1単位  
/Credits

学期 2学期  
/Semester

授業形態 演習  
/Class Format

クラス 2 - b  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills will be developed through regular practice. The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

## 教科書 /Textbooks

World English Series 2 (Heinle Cengage Learning)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese - English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回: course introduction, explanation of what to do, and how to prepare.
- 第2回: unit 7 - Luxuries, Vocabulary, conversation, listening.
- 第3回: unit 7 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第4回 unit 8 - Nature, Vocabulary, conversation, listening.
- 第5回 unit 8 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第6回 unit 9 - Life in the past, Vocabulary, conversation, listening.
- 第7回 unit 9 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第8回 unit 10- Travel, Vocabulary, conversation, listening.
- 第9回 unit 10 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第10回 unit 11 - Careers, Vocabulary, conversation, listening.
- 第11回 unit 11 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第12回 unit 12 - Celebrations, Vocabulary, conversation, listening.
- 第13回 unit 12 - Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第13回 Review and summary, Vocabulary, conversation, listening.
- 第14回 Review and summary, Pronunciation, language expansion, conversation, DVD.
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 70%, class participation and positive attitude 30%.  
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the textbook ahead of the lesson.  
Get a good night's sleep.

## 履修上の注意 /Remarks

Please do not use your mobile phone in class.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

## キーワード /Keywords

communication, understanding, knowledge

担当者名  
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次  
/Year

単位 1単位  
/Credits

学期 2学期  
/Semester

授業形態 演習  
/Class Format

クラス 2 - c  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Videos of various kinds are used to introduce material of international relevance.

## 教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Course Introduction: Speaking and writing essentials. Writing Assignment
Week 2	Shadow Talking: Basic speaking exercises
Week 3	Reading for speed. Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 4	Basic speaking exercises
Week 5	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 6	Basic speaking exercises
Week 7	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 8	Speaking on Topics
Week 9	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 10	Speaking on Topics
Week 11	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 12	Speaking on Topics
Week 13	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 14	Group Conversation
Week 15	Article reading and writing review. Writing Assignment

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week for use in class.

## 履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

Speak more, Write more, Learn more English

担当者名  
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次  
/Year

単位 1単位  
/Credits

学期 2学期  
/Semester

授業形態 演習  
/Class Format

クラス 2 - d  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Videos of various kinds are used to introduce material of international relevance.

## 教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Course Introduction: Speaking and writing essentials. Writing Assignment
Week 2	Shadow Talking: Basic speaking exercises
Week 3	Reading for speed. Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 4	Basic speaking exercises
Week 5	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 6	Basic speaking exercises
Week 7	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 8	Speaking on Topics
Week 9	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 10	Speaking on Topics
Week 11	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 12	Speaking on Topics
Week 13	Article reading and writing review. Writing Assignment
Week 14	Group Conversation
Week 15	Article reading and writing review. Writing Assignment

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week for use in class.

## 履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

Speak more, Write more, Learn more English

担当者名  
/Instructor

ドローキス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次  
/Year

単位  
/Credits

1単位

学期  
/Semester

1学期

授業形態  
/Class Format

演習

クラス AES 1  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This course is designed for the student who is motivated to use the language in communication. Through a variety of discussion activities the student will develop skills to further communication abilities and through the supplemental materials the student will develop those basic skills necessary to support the ability to discuss in a group setting.

## 教科書 /Textbooks

Handouts

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

New Crossroads ( MacMillan Publishing )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to the course
2. Waiting in line
3. Little white lies
4. I quit
5. Whom should we hire?
6. One eyed monster
7. Speaking up
8. They owe it to me
9. Yes, sir. Yes, ma'am.
10. Don't forget to tip
11. Smoking or non-smoking
12. Who is the winner?
13. Which job should I try for?
14. Which programs get the money?
15. Final examination preparation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class activities (40 %)  
Final Exam (40%)  
Homework (20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 英会話・英作文 5 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバ / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

In this course, students can learn about English idioms. For students to speak more naturally, idioms can be very helpful. Students will be taught what idioms mean, and given exercises in how to apply them (controlled practice). Then students will be asked to use idioms in their everyday lives and in what situations (free practice). Students will gain a lot of confidence from this course and develop a strong understanding of idiomatic English.

## 教科書 /Textbooks

Idioms from Square One, by Barry Ward

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese - English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Course introduction, what to expect, and how to prepare.
- 第 2 回 Unit 2 Studying for exams - dialogue, extra handout, meaning of idioms, how idioms are used in context, your examples.
- 第 3 回 Unit 2 Sections B, C, D, and E. Plus three idioms used for (written) comprehension.
- 第 4 回 Unit 3 Driving - dialogue, extra handout, meaning of idioms, how idioms are used in context, your examples.
- 第 5 回 Unit 3 Sections B, C, D, and E. Plus three idioms used for (written) comprehension.
- 第 6 回 Unit 5 Staying slim - dialogue, extra handout, meaning of idioms, how idioms are used in context, your examples.
- 第 7 回 Unit 5 Sections B, C, D, and E. Plus three idioms used for (written) comprehension.
- 第 8 回 Unit 7 New neighbours - dialogue, extra handout, meaning of idioms, how idioms are used in context, your examples.
- 第 9 回 Unit 7 Sections B, C, D, and E. Plus three idioms used for (written) comprehension.
- 第 1 0 回 Unit 8 A vacation - dialogue, extra handout, meaning of idioms, how idioms are used in context, your examples.
- 第 1 1 回 Unit 8 Sections B, C, D, and E. Plus three idioms used for (written) comprehension.
- 第 1 2 回 Unit 10 The party - dialogue, extra handout, meaning of idioms, how idioms are used in context, your examples.
- 第 1 3 回 Unit 10 Sections B, C, D, and E. Plus three idioms used for (written) comprehension.
- 第 1 4 回 Review and summary of all the most important idioms covered .
- 第 1 5 回 - まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 70%, class participation and positive attitude 30%.  
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- Read the textbook ahead of the lesson.
- Sleep well the night before.
- Don't be late for class.

## 履修上の注意 /Remarks

Don't use your mobile phone in class.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a better life.

## キーワード /Keywords

communication, understanding, enjoyment

担当者名  
/Instructor

ドロークス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次  
/Year

単位 1単位  
/Credits

学期 2学期  
/Semester

授業形態 演習  
/Class Format

クラス AES 1  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This course is designed for the student who is motivated to use the language in communication. Through a variety of discussion activities the student will develop skills to further communication abilities and through the supplemental materials the student will develop those basic skills necessary to support the ability to discuss in a group setting.

## 教科書 /Textbooks

Handouts

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

New Crossroads ( MacMillan Publishing )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Re-Introduction to the course
2. Who will be the best teacher?
3. The future: What will happen if?
4. Who gets the money II
5. What school programs to eliminate?
6. Which sports are best?
7. Which places do you recommend?
8. How do I advise them?
9. Plan the college curriculum
10. What articles do I take?
11. Who is responsible and for how much?
12. Whom do we admit to medical school?
13. Which items represent the US?
14. Getting involved
15. Final examination preparation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class activities (40 %)  
Final Exam (40%)  
Homework (20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students are expected to have done the reading for the unit prior to each class lesson.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名  
/Instructor

クリストファー・オサリバ / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次  
/Year

単位 1単位  
/Credits

学期 2学期  
/Semester

授業形態 演習  
/Class Format

クラス AES 2  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

In this course, students can learn about English idioms. For students to speak more naturally, idioms can be very helpful. Students will be taught what idioms mean, and given exercises in how to apply them (controlled practice). Then students will be asked to use idioms in their everyday lives and in what situations (free practice). Students will gain a lot of confidence from this course and develop a strong understanding of idiomatic English.

## 教科書 /Textbooks

Idioms from Square One, by Barry Ward

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese - English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Course introduction, what to expect, and how to prepare.
- 第 2 回 Unit 2 Studying for exams - dialogue, extra handout, meaning of idioms, how idioms are used in context, your examples.
- 第 3 回 Unit 2 Sections B, C, D, and E. Plus three idioms used for (written) comprehension.
- 第 4 回 Unit 3 Driving - dialogue, extra handout, meaning of idioms, how idioms are used in context, your examples.
- 第 5 回 Unit 3 Sections B, C, D, and E. Plus three idioms used for (written) comprehension.
- 第 6 回 Unit 5 Staying slim - dialogue, extra handout, meaning of idioms, how idioms are used in context, your examples.
- 第 7 回 Unit 5 Sections B, C, D, and E. Plus three idioms used for (written) comprehension.
- 第 8 回 Unit 7 New neighbours - dialogue, extra handout, meaning of idioms, how idioms are used in context, your examples.
- 第 9 回 Unit 7 Sections B, C, D, and E. Plus three idioms used for (written) comprehension.
- 第 1 0 回 Unit 8 A vacation - dialogue, extra handout, meaning of idioms, how idioms are used in context, your examples.
- 第 1 1 回 Unit 8 Sections B, C, D, and E. Plus three idioms used for (written) comprehension.
- 第 1 2 回 Unit 10 The party - dialogue, extra handout, meaning of idioms, how idioms are used in context, your examples.
- 第 1 3 回 Unit 10 Sections B, C, D, and E. Plus three idioms used for (written) comprehension.
- 第 1 4 回 Review and summary of all the most important idioms covered .
- 第 1 5 回 - まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 70%, class participation and positive attitude 30%.  
More information concerning assessment will be given in the first lesson.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read the textbook ahead of the lesson.  
Sleep well the night before.  
Don't be late for class.

## 履修上の注意 /Remarks

Don't use your mobile phone in class.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a better life.

## キーワード /Keywords

communication, understanding, enjoyment

# 英会話・英作文 7 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

TOEICテストのスコアアップのための総合的対策を行う。  
以下の5項目に目標を設定して授業を行う。

1. 語彙を増やす
2. リスニング力を強化する
3. 文法、語法の知識を身につける
4. 速読の能力を高める
5. 出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

## 教科書 /Textbooks

"Perfect Practice for the TOEIC Test" by T. Ishii (成美堂、¥2,200)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に説明する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction 授業の進め方、自宅学習の方法について説明する。
- 第2回 Unit 1 Studying Abroad
- 第3回 Unit 2 International Conference
- 第4回 Unit 3 Holidays
- 第5回 Unit 4 Leisure
- 第6回 Unit 5 Restaurant
- 第7回 Unit 6 Online Shopping
- 第8回 Unit 7 Global Warming
- 第9回 Unit 8 Web Sites
- 第10回 Unit 9 Workplace
- 第11回 Unit 10 Nursing Care
- 第12回 Unit 11 Global Trading
- 第13回 Unit 12 Eco-Friendly Economy
- 第14回 Unit 13 Business Trip
- 第15回 Unit 14 Hybrid Cars

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト ( 50% )、小テスト ( 30% )、課題 ( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に小テストや予習範囲について説明する。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This course will focus on the four main language skills, but mainly on writing and speaking. In addition to the text pages listed below, students will be required to do outlines and compositions, and to give speeches from the outlines they have made.

## 教科書 /Textbooks

Check it out Book 3 by Milada Broukai Cengage Learning

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

none

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Getting acquainted and filling out student information cards.
- 2回 Unit 1 Text 1~12
- 3回 Unit 2 Text 13~24
- 4回 Unit 3 Text 25~36
- 5回 Grammar Review Test Units 1~3 & Conversation test
- 6回 Introduction to outlining & making outline about student "Home Prefecture"
- 7回 Using last weeks outline to create a composition
- 8回 Unit 4 Text 39~50
- 9回 Unit 5 Text 51~62
- 10回 Unit 6 Text 63~74
- 11回 Grammar Review Test Units 4~6 & Conversation test
- 12回 Outlining about student's personal preferences
- 13回 Writing story about last week's outline
- 14回 Introduction to public speaking from outlines
- 15回 Speeches from last Week's outlines

## 成績評価の方法 /Assessment Method

70 % assignments % 30% Final Examination

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Instructions on how to prepare for each class will be given weekly by the teacher.

## 履修上の注意 /Remarks

Absence is not an excuse for not doing required classwork or homework. Every student is required to do all of the assignments.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Cooperation with other students and listening carefully to the teacher's instructions will make this class fun for you.

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to get a greater understanding of British culture and history. Each week a different aspect of British life will be examined for example education, shopping and different events of the year. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

## 教科書 /Textbooks

In Britain. Macmillan

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Students must have an English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 The British Isles
- 3 回 Very British
- 4 回 Empire
- 5 回 A world role
- 6 回 Being British
- 7 回 The British year Jan, Feb, March, April
- 8 回 The British year May, June, July, August
- 9 回 The British year Sep, Oct, Nov, Dec
- 1 0 回 Many faiths
- 1 1 回 Coming to Britain
- 1 2 回 At home
- 1 3 回 In the family
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80 % Peer journal 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバ / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス A E S  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

In this interesting course, students can learn about presentation skills. In the first semester, students will study about presentation methodology (introduction, body, conclusion), and visual presentation features (posture, voice stress, gestures). Gradually, students will make short presentations, 1 to 1, 1 to 3, and finally to the whole class. Later, using Powerpoint, students will be asked to make presentations about social, cultural, political, and environmental issues that they are concerned about. Students with a strong interest in Japanese culture will be asked to present Japanese culture as though they were teaching it to foreigners.

## 教科書 /Textbooks

No book

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese/English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回(Week 1) Introduction
- 第 2回 Introduction to visual message and story message.
- 第 3回 Posture, eye contact, and voice inflexion.
- 第 4回 Pairwork activity. Gestures.
- 第 5回 The introduction, what, why, and overview.
- 第 6回 Story message, the lay-out and listening activity.
- 第 7回 Finish the visual message. Explain the need of graphs, charts and directions.
- 第 8回 Do an introduction, one-on-one speech.
- 第 9回 Look at transitions, and sequence makers.
- 第10回 How to make a conclusion.
- 第11回 Brainstorming and prioritizing your ideas.
- 第12回 The story message, the body. Making your speech smooth.
- 第13回 Do a one-to-three speech.
- 第14回 A look at possible speech topics, Powerpoint presentation, and contents.
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40%, class participation and positive attitude 60%.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.  
Students are expected to use Microsoft Powerpoint in this course.

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

## キーワード /Keywords

communication, gestures, Powerpoint, speaking skills, Japanese culture

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

以下の5項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。  
より実践的な方法で学習する。

1. 語彙を増やす
2. リスニング力を強化する
3. 文法、語法の知識を身につける
4. 速読の能力を高める
5. 出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

## 教科書 /Textbooks

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 3. by A. Mizumoto et al. ( 桐原書店、¥1,800 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Daily Life
- 第2回 Places
- 第3回 People
- 第4回 Travel
- 第5回 Business
- 第6回 Office
- 第7回 Technology
- 第8回 Personnel
- 第9回 Management
- 第10回 Purchasing
- 第11回 Finances
- 第12回 Media
- 第13回 Entertainment
- 第14回 Health
- 第15回 Reservation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 40%、 期末試験 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に小テストや予習範囲について説明する。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This course will focus on the four main language skills, but mainly on writing and speaking. In addition to the text pages listed below, students will be required to do outlines and compositions, and to give speeches from the outlines they have made.

## 教科書 /Textbooks

Check it out Book 3 by Milada Broukai Cengage Learning

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Post vacation conversation activity
- 2回 Unit 7 Text 77~88
- 3回 Unit 8 Text 89~100
- 4回 Unit 9 Text 101~112
- 5回 Grammar Review Test Units 7~9 & Conversation test
- 6回 Outlining about "My Opinion about Japanese politics"
- 7回 Using last weeks outline to create a composition
- 8回 Unit 10 Text 115~126
- 9回 Unit 11 Text 127~138
- 10回 Unit 12 Text 139~150
- 11回 Grammar Review Test Units 10~12 & Conversation test
- 12回 Outlining about final speech & Final speech questionnaire
- 13回 Final check of materials for final speech
- 14回 Final speeches
- 15回 Final speeches continued. & Wrap-up

## 成績評価の方法 /Assessment Method

70 % assignments % 30% Final Examination

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students should prepare for each class as instructed by the teacher. Preparation will depend upon the activity in the next class.

## 履修上の注意 /Remarks

Absence is not an excuse for not doing required classwork or homework. Every student is required to do all of the assignments.

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Cooperation with each other is the key to having fun while you study English.

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to get a greater understanding of British culture and history. Each week a different aspect of British life will be examined for example education, shopping and different events of the year. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

## 教科書 /Textbooks

In Britain. Macmillan

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Students must have an English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 At school
- 2 回 At college
- 3 回 Finding a job
- 4 回 The economy
- 5 回 Food
- 6 回 Film and theatre
- 7 回 Music
- 8 回 The classics
- 9 回 Modern life
- 1 0 回 In the news
- 1 1 回 On TV and radio
- 1 2 回 At the shops
- 1 3 回 Sport
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class A E S

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

In this interesting course, students can learn about presentation skills. In the second semester, students will continue to make presentations about social and cultural issues that they are concerned about. Students with a strong interest in Japanese culture will be asked to present Japanese culture as though they were teaching it to foreigners.

## 教科書 /Textbooks

No book

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese/English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回(Week 1)	Introduction and course objectives
第2回	Looking at social issues in the world
第3回	Start to research social issues
第4回	Expansion and consolidation of social issues
第5回	Presentation and Discussion: of social issues
第6回	Looking at cultural issues in the world
第7回	Start to research cultural issues
第8回	Expansion and consolidation of cultural issues
第9回	Presentation and Discussion: of cultural issues
第10回	Presentation and feedback #1
第11回	Presentation and feedback #2
第12回	Discussion of presentation examples
第13回	Improving presentations so far, brainstorming
第14回	Final presentations
第15回	まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40%, class participation and positive attitude 60%.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.  
Students are expected to use Microsoft Powerpoint in this course.

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

## キーワード /Keywords

Japanese cultural topics,

# 上級英語I【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This course will take a critical look at media. We will examine the how and why of media control. Discussion of the various issues is intended to lead to a better understanding of media, the changes that media is currently experiencing, and media's influence on our lives.

## 教科書 /Textbooks

Puppet on a String: Media Control in Our Lives. Lynch, Jonathan. Cengage Learning. 2010.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction. What really happened?
- 2回 How true is what we read?
- 3回 How the political spectrum affects our news
- 4回 Spinning out of control
- 5回 Staged TV
- 6回 Advertising or brainwashing?
- 7回 Consumerism gone mad
- 8回 Stereotypes and the media
- 9回 The discriminating viewer
- 10回 Another bash on the head
- 11回 So beautiful, so thin
- 12回 Privacy and the media
- 13回 New media same old problems?
- 14回 Depictions of foreigners in the media
- 15回 Like a puppet on a string

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40%  
Assignments 40%  
Final Examination 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare the Warm Up section before coming to class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 上級英語II【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

In this course we will continue looking at the media in a critical manner. A student centered approach will be used to discuss a variety of current issues. International, domestic, and local items of interest will be presented in various formats using this approach. Various elements of critical thinking will also be introduced and applied to real world situations.

## 教科書 /Textbooks

None.  
Materials provided by the lecturer and the students.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction - review of belief, bias, spin, and stereotypes
- 2回 Discussion on Assumptions
- 3回 Project 1 planning
- 4回 Project 1 preparation
- 5回 Project 1 presentation
- 6回 Discussion on Inferences
- 7回 Project 2 planning
- 8回 Project 2 preparation
- 9回 Project 2 presentation
- 10回 Discussion on Facts and Opinions
- 11回 Project 3 planning
- 12回 Project 3 preparation
- 13回 Project 3 presentation
- 14回 Application of critical thinking in real world case studies
- 15回 Final review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 20%  
Projects 60%  
Final Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Complete the tasks and be prepared for active participation in class.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# アメリカ文化講読【昼】

担当者名 生田 和也 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス 1年(1-2、  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1-3)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本授業のテキストであるTrue Tales of American Lifeは、アメリカのいわゆる「庶民たち」が、自身の人生に起きた特別な出来事を語ったエピソード集です。収録されたエピソードは短くまとめられており、驚き、喜び、笑い、時に後悔と悲しみに満ちています。そして、それぞれの個人的なエピソードの裏側に、アメリカという国の文化、歴史、社会状況が潜んでいます。

まずは粘り強く辞書をひき、毎回の範囲を予習し、授業で英文読解の確認を行います。この授業では、英文を正確に読む訓練をし、英語で書かれた物語を読むための基礎的能力を養います。また、それぞれのエピソードに潜む文化的事象を確認し、アメリカという国への理解を深めます。

## 教科書 /Textbooks

True Tales of American Life. Ed. Paul Auster. New York: Faber and Faber, 2001.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

英語辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 “Introduction” / “The Chicken” / “One Day in Higley”(Slapstick)
- 第2回 Animal① “Rascal” / “Python” / “Rabbit Story”
- 第3回 Animal② “Pooh” / “Blue Skies” / “Exposure”
- 第4回 Object① “A Bicycle Story” / “Grandmother’s China” / “Sophisticated Lady” (Slapstick)
- 第5回 Object② “Mother’s Watch” / “MS. Found in an Attic” / “The Striped Pen”
- 第6回 Object③ “A Family Christmas” / “The Purse” / “A Gift of Gold”
- 第7回 Family① “Connections” / “The Wednesday Before Christmas” / “Revenge”
- 第8回 Family② “How My Father Lost His Job” / “Put Your Little Foot”
- 第9回 Family③ “American Odyssey” / “A Picture of Life”
- 第10回 Family④ “Double Sadness” / “Margie”
- 第11回 Strangers① “Me and the Babe” / “Land of the Lost” / “Christmas Morning, 1949”
- 第12回 War① “The Fastest Man in the Union Army” / “Christmas, 1862” / “Mount Grappa” / “Savenay”
- 第13回 War② “Fifty Years Later” / “He Was the Same Age as My Sister” / “The Last Hand” / “August 1945”
- 第14回 War③ “A Shot in the Dark” / “Forever” / “Utah, 1975”
- 第15回 Love① “Table for Two” / “Top Button” / “Lesson in Love”

※原則的に上記の予定で行うが、受講者の意見や進度を確認しながら、扱うエピソードを変更する場合がある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

予習度テスト40%、試験50%、授業への姿勢10%で評価する。予習度テストは第2回以降の毎回の授業の最初に行い、遅刻者や欠席者に対する再試験は行わない。大学が定める公欠については、所定の証明書類を提出の上、教員に相談すること。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業履修前の準備事項については特に指定しないが、高校までの英語学習の内容を復習しておくことと良い。毎回の授業では、毎週2～3時間の予習が必須とされる。前日にまとめて予習するのではなく、計画を立てて予習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

受講者は第1回目の授業にテキストを持参すること。  
毎回の範囲の予習をしてこようこと。  
授業には必ず英語辞書を持ってこようこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アメリカ文化や英語に興味のある方の参加を歓迎します。現時点での英語の得意・不得意よりも、課題に対して粘り強く取り組む姿勢が肝心です。

## キーワード /Keywords

# アメリカ文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年(1-1)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Ads Speak American Culture 『広告から見たアメリカ文化』はユニークなアメリカ文化論だ。広告に表されるアメリカ人の生き方、考え方や日本文化の違いを平易な英語で書いたものだ。アメリカ研究入門として、比較文化論に関心のある人は是非読んで貰いたい。広告は、PR = Public Relationsというように国民と企業とのコミュニケーション・メディアでありPopular Culture大衆文化である。多人種の国アメリカで大衆の心を掴むにはシンプルでかつユーモアがなければならない。一方、日本の広告は、日本人の心を掴むものでなければならない。あけすけな非難や中傷は嫌われる。異文化間コミュニケーションを効果的に行うには、相手とのgapを知らねばならない。広告は雄弁だ。広告コピーは文化を語り時代を告げる。化粧品の広告が語るアメリカのキャリア・ウーマンと成功の代価。車の広告が語るアメリカのpragmatism。スニーカーの広告が語るアメリカの個人主義とmobilityなど23章。著者の豊富な異文化体験に基づいて書かれたユニークなアメリカ広告文化論。日米比較文化の深い洞察とヒューマニズムにあふれている。

## 教科書 /Textbooks

Ads Speak American Culture 『広告から見たアメリカ文化』 (成美堂)  
ラクトリン 井上 久美 著

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

コウビルド英英辞典  
ロングマン現代英英辞典 4訂増補版 CD-ROM2枚付  
オックスフォード現代英英辞典 第7版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代アメリカを象徴するIT・メディア
- 第2回 ミルク / タバコ
- 第3回 下着
- 第4回 スニーカーの広告が語るアメリカの個人主義とmobility
- 第5回 パソコン / インターネット
- 第6回 ジーンズ
- 第7回 ゲーム
- 第8回 車
- 第9回 スポーツウェア
- 第10回 ダイヤモンド
- 第11回 アパレル
- 第12回 食品
- 第13回 筆記用具
- 第14回 化粧品とキャリアウーマン
- 第15回 銃器 (公共広告)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表 ( 30% )、レポート ( 20% )、学期末試験 ( 50% ) などで総合評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1~2章ずつ予習して、調べるべきことは図書館で調べて、授業で発表する。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

【広告文化】

# イギリス文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年(1-1、1-3)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、英字新聞・雑誌・ネット記事等、様々な媒体(メディア)を通して、「イギリス」の文化(が、どのように表象されているかも含め)を読み解きます。

生きた英語の読解を通して英語力をつけると同時に、英文の背景を読むためにリサーチし、思考する力を養うことも目指します。  
( \* 映像資料も補助的に使用します )

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜伝えます。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ウェストミンスター寺院、「無名戦士の墓」( & セナタフ、赤いポピー)
- 第3回 ウェストミンスター寺院、「無名戦士の墓」
- 第4回 王室と報道 (映像資料補足)解説
- 第5回 王室と報道 (映像資料補足)解説
- 第6回 王室と報道 映像資料解説 (ヴィクトリア女王/エリザベス女王/ダイアナ、サッチャー/ブレアとメディア)
- 第7回 王室と報道 (ハリー王子報道 - The Guardian, The Times, The Sunの記事)
- 第8回 王室と報道 (ハリー王子報道 - The Guardian, The Times, The Sunの記事)
- 第9回 サッチャーとブレア (教育政策、同性愛に関する政策、移民政策、福祉政策、他)
- 第10回 サッチャーとブレア (教育政策、同性愛に関する政策、移民政策、福祉政策、他)
- 第11回 サッチャーとブレア (教育政策、同性愛に関する政策、移民政策、福祉政策、他)
- 第12回 パンクとファッション (Vivienne Westwoodを通して)
- 第13回 パンクとファッション (Vivienne Westwoodを通して)
- 第14回 ストリート・アート (Banksy を通してみる英国)または(ブッカー賞作家を通して)
- 第15回 ストリート・アート (Banksy を通してみる英国)または(ブッカー賞作家を通して)

\* 授業の時点で取り上げるのに相応しいニュースが出る可能性があるため、随時変更の可能性あり

## 成績評価の方法 /Assessment Method

30% 提出物・平常点 70% 期末試験

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習必須

## 履修上の注意 /Remarks

遅刻厳禁。辞書必携。予習必須。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# イギリス文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 生田 和也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年(1-2)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

イギリス作家Charles Dickensの中篇小説"A Christmas Carol"を原文で講読します。この授業では、英語の語彙力を増やし、英語で書かれた物語を講読するための基礎的能力を習得することができます。また物語の文化的背景を学び、イギリスという国への理解を深めます。

英文講読は、決して楽な作業ではありません。テキストを細やかに読み、粘り強く辞書をひき、不明な点について図書館などで調べ、そして何より自分でよく考えることで、英語で書かれたテキストとその文化背景を読み解く訓練をします。

## 教科書 /Textbooks

Dickens, Charles. A Christmas Carol and Other Stories. New York: Modern Library, 2001.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

英語辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の説明
- 第2回 テキストの読解① ( P5 - 11 )
- 第3回 テキストの読解② ( P11- 16 )
- 第4回 テキストの読解③ ( P16- 22 )
- 第5回 テキストの読解④ ( P22- 28 )
- 第6回 テキストの読解⑤ ( P29- 36 )
- 第7回 テキストの読解⑥ ( P36- 43 )
- 第8回 テキストの読解⑦ ( P43- 50 )
- 第9回 テキストの読解⑧ ( P51- 58 )
- 第10回 テキストの読解⑨ ( P58- 65 )
- 第11回 テキストの読解⑩ ( P65- 72 )
- 第12回 テキストの読解⑪ ( P72- 79 )
- 第13回 テキストの読解⑫ ( P80- 89 )
- 第14回 テキストの読解⑬ ( P89- 98 )
- 第15回 テキストの読解⑭ ( P99- 107 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

予習度テスト40%、試験50%、授業への姿勢10%で評価する。予習度テストは第2回以降の毎回の授業の最初に行い、遅刻者・欠席者に対する再試験は行わない。大学が定める公欠については、所定の証明書類を提出の上、教員に相談すること。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前の準備は特に指定しないが、英語力に不安がある場合は、高校までの学習内容の復習をしておくこと。毎回の授業には、毎週約2~3時間の予習が必須とされる。前日にまとめて予習するのではなく、きっちりと計画を立てて予習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

受講者は第1回目の授業にテキストを持って参加すること。  
毎回の授業範囲の予習をして参加すること。  
授業には英語辞書を持参すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリス小説を原文で読む絶好の機会ですので、イギリス文化や英語に興味がある方の参加を歓迎します。現時点での英語の得意・不得意よりも、課題に対して粘り強く取り組む姿勢が肝心です。

## キーワード /Keywords

# 日本文化英文講読【昼】

担当者名 /Instructor 生田 和也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

Lafcadio Hearnという人物をご存知でしょうか。1850年にギリシャ領に生まれたHearnは、1890年(明治23年)に日本を訪れました。その後1904年(明治37年)に亡くなるまでの人生を日本で過ごしたHearnは、日本文化を海外に紹介した初期の人物でした。

この授業で用いるテキストは、Hearnの日本についての英文エッセイをまとめたものです。まずは粘り強く辞書をひき、毎回の範囲を予習し、授業で英文読解の確認を行います。この授業では、英文を正確に読む訓練をし、その論旨をつかむための基礎的能力を養います。そして西欧出身のHearnが100年以上前に記した日本の姿を、現代日本の我々の視点から検証しましょう。

## 教科書 /Textbooks

Hearn, Lafcadio. Selected Essays of Hearn. Ed.Densaku Midorikawa. Tokyo: Kaibunsha, 1998.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

英語辞書  
サイード, E. W. 『オリエンタリズム』. 今沢紀子訳. 東京: 平凡社, 1993. ( 図書館蔵書あり )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の紹介
- 第2回 “The Japanese Smile”① : P1-6
- 第3回 “The Japanese Smile”② : P6-11
- 第4回 “The Japanese Smile”③ : P11-16
- 第5回 “The Japanese Smile”④ : P16-22
- 第6回 “The Japanese Smile”⑤ : P22-27
- 第7回 “The Japanese Smile”⑥ : P27-33
- 第8回 “Some Thoughts about Ancestor-Worship”P34-37 / “Unselfish Self-Control” : P38-39
- 第9回 “Strangeness and Charm”① : P42-46
- 第10回 “Strangeness and Charm”② : P46-51
- 第11回 “Strangeness and Charm”③ : P51-56
- 第12回 “A Living God”① : P65-69
- 第13回 “A Living God”② : P69-74
- 第14回 “Whatever the Living Possess Is from the Dead” P57-59 / “A Little Flower-Show” : P60-61
- 第15回 “The Writing of Short Poems” P40-41 / “The Beauty of Stones” P62-64

※原則的に上記の予定で行うが、受講者の意見や進度を確認しながら、扱うエピソードを選択する場合がある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト40%、試験50%、授業への姿勢10%で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業履修前の準備事項については特に指定しないが、高校までの英語学習の内容を復習しておくのと良い。毎回の授業では、毎週2～3時間の予習が必須とされる。前日にまとめて予習するのではなく、計画を立てて予習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

受講者は第1回目の授業にテキストを持参すること。  
毎回の範囲の予習をしてこること。  
授業には必ず英語辞書を持ってこること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本についてのHearnのエッセイを通して、英語力を鍛えると共に、日本を客観的に見る視点を身につけましょう。現時点での英語の得意・不得意よりも、課題に対して粘り強く取り組む姿勢が肝心です。

## キーワード /Keywords

# 日本文化英文講読【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

私たちは日本に生まれ日本で育ったにもかかわらず、「日本文化とは」と尋ねられて、どれほどのことが語れるでしょうか。それはむしろ仕方のないことなのかもしれません。というのも、それを意識するには、他文化のことを学んだり、自分が他文化圏と接触することにより両者の比較をしたり自己分析をしたり、といった努力が必要だからです。そこでこの授業では、英米圏あるいは台湾の人たちの日本での経験談を集めたテキストを扱うことで、日本文化の独自性を再認識したいと思います。

テキストの英語は非常にこなれたやさしいもので、全部で15のユニットに分かれています。毎回1ユニットずつ読破していき、内容理解につとめます。ユニット毎に理解度等のチェックもできるように、問いが設けられているので、それらも利用していきます。

また、それぞれのユニットの内容についてお互いに意見交換ができればと思っています。さらに余裕があれば、日本文化を自分の英語でいかに発信するかという観点で、英作文の作業もできればと思っています。

## 教科書 /Textbooks

Surprises and Discoveries about Japan (朝日出版)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入、英語の学習の仕方について
- 2回 ユニット1
- 3回 ユニット2
- 4回 ユニット3
- 5回 ユニット4
- 6回 ユニット5
- 7回 ユニット6
- 8回 ユニット7
- 9回 ユニット8
- 10回 ユニット9
- 11回 ユニット10
- 12回 ユニット11
- 13回 ユニット12
- 14回 ユニット13
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の英語の訳の担当など平常点... 20% 試験... 80%  
(出席重視)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 日本文化英文講読【昼】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『菊と刀』、『甘えの構造』など、有名な日本文化の書物を是非読んでください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

「文化の比較」「自己分析」「日本文化の独自性」「議論」「英語の習熟」

# 日本の文献講読【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本の近代以降の文献を扱うための基礎的な知識を身につけることを目的とする。  
具体的には、明治期から昭和期に書かれた日本文化論を講読し、それを素材として、日本における書誌ついでへの考え方、さらには日本語文献の調査の方法等について講義する。  
最終的には日本の印刷文化・出版文化への理解をとおり、日本文化系学問の基礎を涵養することを目指す。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 青木保「『日本文化論』の変容—戦後日本の文化とアイデンティティー」(中公文庫)
- 新渡戸稲造「武士道」(複数あり)
- 岡倉覚三「茶の本」(複数あり)
- 坂口安吾「日本文化私観」(安吾全集・各種文庫本あり)
- 川端康成「美しい日本の私」(講談社現代新書)
- 大江健三郎「あいまいな日本の私」(岩波新書)
- 川井良介編「出版メディア入門」第二版(日本評論社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「日本文化」を「文献」から考える
- 第2回 新渡戸稲造「武士道」講読
- 第3回 文献としての新渡戸稲造「武士道」
- 第4回 岡倉覚三「茶の本」講読
- 第5回 文献としての岡倉覚三「茶の本」
- 第6回 坂口安吾「日本文化私観」講読
- 第7回 文献としての坂口安吾「日本文化私観」
- 第8回 川端康成「美しい日本の私」講読
- 第9回 大江健三郎「あいまいな日本の私」講読
- 第10回 メディアとしての本(1) 印刷と出版の日本文化
- 第11回 メディアとしての本(2) モノとしての本
- 第12回 メディアとしての本(3) 流通
- 第13回 メディアとしての本(4) 電子出版
- 第14回 メディアとしての本(5) 著作権法
- 第15回 特別講義講師授業：詳細は授業時に伝えます

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート... 40% 期末試験... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストが事前に配布された場合は、すべて予習の上参加すること。  
毎講義の復習をきちんと行ってから参加すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

日本文化、出版文化、印刷文化

# 日本の古典文学講読【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本の古典文学の二大ジャンルである、和歌と物語の関係を「伊勢物語」を通じて考える。

現行の「伊勢物語」は全編で計125の短小な章段からなる物語であるが、どの章段にも必ず1首以上の和歌が配されている。その多くが在原業平作の和歌で、歌物語と呼ばれる所以であり、和歌を基にして作られたものである。それゆえ物語の内容も業平の事績と重ねられることが多い。

しかし、そこに所謂虚構はないのか？  
また和歌はすべて真実を語るのか？

主要な章段群は「古今集」との関連が深いのも確かである。

これらのことをどう考えればよいのか、追究していく。

## 教科書 /Textbooks

石田穰二訳注『新版 伊勢物語』（角川ソフィア文庫）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「伊勢物語」の主人公像を探る。

在原業平をモデルとするとされる本物語の主人公は、本当に実在人物業平なのか？そこには史実と虚構の交雑はないのか？どこまでが事実でどこからが創作なのか？主人公は一貫して「みやび」な人物か？変化はないか？あるとすればそれはなぜか？

- 1回 「伊勢物語」について【段階的成立論】
- 2回 在原業平について【三代実録】
- 3回 初冠から辞世まで【一代記的構成】
- 4回 二条后章段における主人公像(1) - 第4段【禁忌】
- 5回 二条后章段における主人公像(2) - 第5段【禁忌】
- 6回 二条后章段における主人公像(3) - 第6段【禁忌】
- 7回 付随章段群における主人公像【色好み】
- 8回 伊勢斎宮章段における主人公像(1) - 第69段その1【王権侵犯】
- 9回 伊勢斎宮章段における主人公像(2) - 第69段その2【王権侵犯】
- 10回 付随章段群における主人公像【色好み】
- 11回 東下り章段の構造 - 第9段その1【挫折と決意】
- 12回 四場面における主人公像 - 第9段その2【望郷】
- 13回 付随章段群における主人公像【流浪と放逸】
- 14回 古今和歌集との関係【史実と虚構】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30% 試験... 70%  
出席が3分の2に満たない者は、試験を受けられない。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

取り上げる章段について、本文を熟読して問題点の所在を確認しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

テキスト必携。所持していない場合は受講を認めない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 日本の古典文学講読 【昼】

キーワード /Keywords

みやび、色好み

# フランス文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

フランス文化について、食文化、文学、シャンソン、博物館、現代美術、ポップミュージック、映画、政治、宗教といったさまざまな面からアプローチします。明晰にして、味わい深いフランス語の文章をゆっくりと精読しながら、フランス文化の多様性とその奥深さについて、じっくりと迫って行きましょう。

授業ではフランス語の文章を読みますから、フランス語既修者限定とします（フランス語を1～2年履修していれば、授業についてくるのはまったく問題ありません）。

## 教科書 /Textbooks

必要な箇所をプリントで配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

開講時に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 フランス語文献講読(宗教)
- 第3回 フランス語文献講読(政治)
- 第4回 フランス語文献講読(エッフェル塔)
- 第5回 フランス語文献講読(芸術の都:パリ)
- 第6回 フランス語文献講読(博物館/美術館)
- 第7回 フランス語文献講読(文学者とカフェ)
- 第8回 フランス語文献講読(映画)
- 第9回 フランス語文献講読(食文化)
- 第10回 フランス語文献講読(シャンソン)
- 第11回 フランス語文献講読(ポップミュージック)
- 第12回 フランス語文献講読(現代美術)
- 第13回 フランス語文献講読(舞台芸術)
- 第14回 フランス語文献講読(ジャポニスム)
- 第15回 まとめ

\* 授業内容はあくまで目安であり、参加学生と相談しながら進めます。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点50% 期末試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

フランス語文法の基礎を復習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

フランス語を1年以上学んでいる学生限定の授業です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、フランス語の文章を通して、フランス文化に親しんでもらいます。フランス語学習の仕上げにもなります。もちろん、仏検を受けようと思っている学生にもオススメです。

## キーワード /Keywords

フランス 食文化 シャンソン 映画 現代美術 ポップミュージック 政治 宗教



# ドイツ文化講読【昼】

担当者名 岩本 真理子 / Instructor  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 / Course Description

ドイツの社会事情や文化的背景に関するドイツ語テキストを読むことで、ドイツ文化理解を深めると共に、ドイツ語読解力を高める。また、各課ごとに提示される状況別重要フレーズを応用することで、ドイツ語会話・ドイツ語作文の訓練をする。

## 教科書 / Textbooks

「太郎のモーゼルの旅」(市川 明 朝日出版社)

## 参考書(図書館蔵書には ○) / References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 / Class schedules and Contents

- 1回 助言を与える・ドイツの食文化
- 2回 相手の発言をさえぎる・ドイツの歴史
- 3回 道を探ねる・ドイツの思想家
- 4回 訪問の際の会話・ドイツ流礼儀作法
- 5回 自己紹介・人の紹介の仕方
- 6回 お祝いの表現・ドイツの習慣
- 7回 両替・ヨーロッパの通貨
- 8回 切符の購入・ドイツの娯楽
- 9回 経歴の表現・ドイツの学制
- 10回 朝の挨拶・ドイツの家庭やホテル
- 11回 注意と警告・自己責任の国ドイツ
- 12回 別れる際の表現・ドイツの観光スポット
- 13回 丁寧な依頼・ドイツの城
- 14回 連絡の取り方・ドイツの交通機関
- 15回 許可を求める表現・ドイツの文学

## 成績評価の方法 / Assessment Method

授業への参加度...40% 期末試験 ... 60%

## 事前・事後学習の内容 / Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 / Preparation for the Class

ドイツ語読解能力があることが前提。必ず独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

## 履修上の注意 / Remarks

## 担当者からのメッセージ / Message from the Instructor

## キーワード / Keywords

# スペイン文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、スペイン歴史・文化に関するテキストを読んで、おもに近代スペインの社会のありようや文化について学びます。具体的には、人々の娯楽と集いの場としてのテルトゥリア、カフェ、居酒屋から、劇場、レストランやホテル、フラメンコ・カフェなどの誕生とその後の変容を、社会・政治の変化と絡めて理解したいと思います。3年次のゼミと補完的な意味合いもあります。

## 教科書 /Textbooks

ゴンサレス・トゥトヤーノほか『集いと娯楽の近代スペイン-セビーリャのソシアビリテ空間へ』（彩流社、2011年）  
セビーリャの歴史地図やプリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 立石博高『スペイン歴史散策』行路社
- 同『スペインの食文化』農文協

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ソシアビリテとソシアビリテ空間について：導入的講義
- 2回 「啓蒙のテルトゥリアからロマン主義的居酒屋へ」
- 3回 テルトゥリアから叢生するさまざまなソシアビリテについて
- 4回 「家の外で飲む・食べる」(1) (旅館・飲食業に関連するソシアビリテ空間)
- 5回 セビーリャの近代都市生活
- 6回 「家の外で飲む・食べる」(2)
- 7回 集いと娯楽の場としての劇場について
- 8回 「劇場と社会」(1) 近代のオペラ劇場の誕生
- 9回 「劇場と社会」(2) 庶民の演劇熱と劇場の多様化
- 10回 オペラ『カルメン』(ビゼー作)を鑑賞
- 11回 オペラ『ノルマ』(ペツリー二作)を鑑賞
- 12回 「カフェ・カンタンテ」：ブルジョワ的カフェから民衆的フラメンコ・カフェの誕生
- 13回 フラメンコ：フォルクロアから芸術へ
- 14回 ソシアビリテ空間は歴史のリズムに合わせて、どのように変化・発展してきたか？
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 質疑応答・コメント口頭発表...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で使うテキストは、日本語で書かれています。けして難解な本ではありませんが、それぞれのテーマに関する用語の意味は事前に調べることを。

## 履修上の注意 /Remarks

出席・参加重視の授業なので、3回以上欠席すると成績は「-」とします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ロシア文化講読【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

スラブの歴史、自然、民族、文化に関する論集を読むことで、ロシアの生活文化、社会文化、精神文化のルーツを探り、それを基にロシア人のメンタリティ形成、人間関係、社会関係などについての理解を深めることを目的とする。  
到達目標は、ロシアの基本的な事柄について説明できるようになること。

## 教科書 /Textbooks

森安達也編『スラブ民族と東欧ロシア』（民族の世界史10）山川出版社、1986年

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

川端香男里編『スラブの文化』（講座スラブの世界1）弘文社、  
黒川知人『ロシア・キリスト教史-土着と服従と復活』教文館、1999年  
中村喜和『聖なるロシアを求めて-旧教徒のユートピア伝説』平凡社、1990年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スラブ民族とは : 国家形成以前のスラヴ人
- 2回 : 分裂と移住
- 3回 : 地理的環境
- 4回 : 生業
- 5回 : 社会構造
- 6回 スラブ民族の歴史 : キリスト教の受容と国家の形成
- 7回 : ビザンツ帝国とスラヴ民族
- 8回 : スラヴ民族とゲルマン民族
- 9回 : スラヴ民族と周辺の諸民族
- 10回 : 民族の独立とパン・スラヴィズム
- 11回 スラヴ民族の文化 : 宗教
- 12回 : 民間暦
- 13回 : 神話と民間信仰
- 14回 : 生活文化
- 15回 全体のまとめと考察

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み60%、質疑応答40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの内容要約の発表を課するので、時間をかけた予習が必要です。スラブ民族の歴史・文化などに特に興味関心のある参加者を歓迎します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 1 ( 比較ドイツ文化 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ文化研究に必要な総合的能力を習得する事を目標とし、ドイツ文化に関する情報収集などの訓練を行う。

## 教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツ文化の基礎知識①
- 2回 ドイツ文化の基礎知識②
- 3回 映像で見るドイツ文化①
- 4回 情報収集法①
- 5回 情報収集法②
- 6回 課題研究発表①
- 7回 課題研究発表②
- 8回 課題研究発表③
- 9回 資料の読み方①
- 10回 資料の読み方②
- 11回 映像で見るドイツ文化②
- 12回 自由研究発表①
- 13回 自由研究発表②
- 14回 自由研究発表③
- 15回 まとめとレポート提出

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表と授業への参加度...80% レポート ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず独和辞書を持参すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 1 ( 日本文化 ) 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本美術史入門書の講読・要約・学習を行うことによって、日本美術の多様性を確認する。具体的には、各特質ごと(章ごと)に担当者を決めて、具体例として挙げられている作品の概要や、テキストに出てくる専門用語等を調べ、各章(担当箇所)で論じられている内容をわかりやすくまとめて発表する。  
尚、博物館・美術館への見学も盛り込む予定である。

## 教科書 /Textbooks

辻惟雄『岩波 日本美術の流れ7 日本美術の見方』岩波書店

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の手順の確認、各自の担当箇所の決定
- 2回 日本絵画の見方入門
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 四年生の卒論構想発表会への参加
- 5回 四年生の卒論構想発表会への参加
- 6回 四年生の卒論構想発表会への参加
- 7回 四年生の卒論構想発表会への参加
- 8回 第二章「美しい自然」の担当者の発表
- 9回 第三章「飾る喜び」(前半)の担当者の発表
- 10回 第三章「飾る喜び」(後半)の担当者の発表
- 11回 第四章「飾らない美意識」の担当者の発表
- 12回 第五章「遊戯する心」(前半)の担当者の発表
- 13回 第五章「遊戯する心」(後半)の担当者の発表
- 14回 第六章「聖なるもの、縄文的なるもの」の担当者の発表
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容...70% レポート...10% 授業への参加態度...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は、必ず事前にレジユメのチェックを受けること。  
発表者以外の者も、必ずテキストを読んで授業に臨むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 1 ( 日本文化 ) 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

平成25年度の北九州市立自然史・歴史博物館における展示の企画のための調査・報告を行う。

## 教科書 /Textbooks

ありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

報告テーマに関する文献リストを配布します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 大学でのガイダンス
- 2回 展示テーマの企画
- 3回 史料の配付
- 4回 調査計画と分担
- 5回 調査または文献講読①
- 6回 調査または文献講読②
- 7回 調査または文献講読③
- 8回 調査または文献講読④
- 9回 4年生の卒論構想発表①
- 10回 4年生の卒論構想発表②
- 11回 報告①
- 12回 報告②
- 13回 報告③
- 14回 報告④
- 15回 まとめと2学期の指示

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席時の報告とコメントの内容で100%評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業時間における博物館での作業(4回予定)に関しては火曜午前10時に博物館に集合すること。  
授業時間内での博物館での作業と市内調査の交通費は原則として自己負担とする。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 1 ( 日本文化 ) 【昼】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

テーマ：説話を通して日本の宗教文化を学ぶ  
古代・中世の説話作品の中には、神道や仏教と関わりの深い宗教説話が含まれている。  
この授業ではその中からいくつかの説話を取り上げ、関連説話や説話のもととなった歴史的事件に関する資料などを合わせて読解し、相互比較検討した上で問題点・疑問点を発見し考えてもらう。  
演習であるので参加者全員にそれぞれ興味のある説話を担当してもらい発表を行ってもらう。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配付する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 発表の具体的準備手順について
- 3回目 古代・中世の宗教について
- 4回目 受講生による研究発表
- 5回目 同上
- 6回目 同上
- 7回目 同上
- 8回目 同上
- 9回目 同上
- 10回目 同上
- 11回目 同上
- 12回目 同上
- 13回目 同上
- 14回目 同上
- 15回目 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表にあたっては事前にレジユメを提出し、相談を受けてもらうことになります。

## 履修上の注意 /Remarks

本年は、研究室ではなく教室で授業を実施する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分で問題点を発見できる能力を養って下さい。

## キーワード /Keywords

神祇説話、仏教説話

# 演習 A - 1 (メディア文化) 【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

近現代日本のメディア文化・表象文化を研究するための基礎をかためることが目標となる。  
前期は、文献購読を通して、読む・レジュメをつくる・プレゼンテーションする・コメントする・議論するという一連の過程に自覚的に取り組み、人文学的な知的探求に取り組むための基礎の錬成を目指す。「論文」という文章形式についての理解を深める。  
なお授業では、合宿形式の演習(発表・議論・交流)が含まれている。全員参加のなかで、テーマを共有し、各自の問題意識のブラッシュアップを目指す。

## 教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リサーチ入門
- 3回 文献購読1
- 4回 文献購読2
- 5回 文献購読3
- 6回 文献購読4
- 7回 文献購読5
- 8回 文献購読6
- 9回 文献購読7
- 10回 グループ研究1
- 11回 グループ研究2
- 12回 グループ研究3
- 13回 グループ研究4
- 14回 グループ研究5
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 50% 発表(レポート)... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、チーム作業・全体討議を重視します。演習に積極的に参加してくれる受講生を歓迎します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 演習 A - 1 ( 日本古典文学 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

古典研究のための基本的な知識と調査方法を身につけ、古典の多様性に触れることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○片桐洋一『中世古今集注釈書解題』赤尾照文堂  
 榎節男『書庫涉獵』おうふう 2006年  
 橋口侯之介『和本入門』平凡社ライブラリー 2011年

その他、必要に応じて適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 古典文学と「諸本」
- 3回 写本と板本の違い
- 4回 中世の「注釈書」とは？
- 5回 くずし字の読解について
- 6回 『古今集序聞書三流抄』について
- 7回 くずし字の読解と質疑【三流抄序文】
- 8回 同上【鶯・蛙の歌(前半)】
- 9回 同上【鶯・蛙の歌(後半)】
- 10回 同上【「生きとし生けるもの」の説(前半)】
- 11回 同上【「生きとし生けるもの」の説(後半)】
- 12回 同上【「目に見えぬ鬼神」の説(前半)】
- 13回 同上【「目に見えぬ鬼神」の説(後半)】
- 14回 同上【「武士の歌に愛」の説】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート60%  
 平常の学習状況40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習形式で授業を進めるため、積極的な態度で授業に臨むこと。  
 くずし字の読解に際しては、予習をしておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 1 ( 日本近代文学 ) 【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本近代文学のなかでも、明治期の近代文学黎明期から成立期の文学作品を読んでいく。一作ずつ丁寧に読み進めながら、「読解」から「解釈」することにむけてのレベルアップをはかる。

## 教科書 /Textbooks

テキストは授業開始時に指示する。  
( 文学作品の書籍購入もしくは複写製本のための費用がかかります。 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 各種、日本文学史に関する本
- 「新日本古典文学大系 明治編」( 岩波書店 )
- 「明治文学全集」( 筑摩書房 )
- 「明治文学大系」( 角川書店 )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の目的・手順等について概説
- 第2回 明治文学総論
- 第3回 東海散士「佳人之奇遇」を読む
- 第4回 森鷗外「舞姫」注釈確認
- 第5回 森鷗外「舞姫」を読む
- 第6回 幸田露伴「五重塔」注釈確認
- 第7回 幸田露伴「五重塔」を読む
- 第8回 樋口一葉「にごりえ」注釈確認
- 第9回 樋口一葉「にごりえ」を読む
- 第10回 泉鏡花「高野聖」注釈確認
- 第11回 泉鏡花「高野聖」を読む
- 第12回 国木田独歩「源叔父」注釈確認
- 第13回 国木田独歩「源叔父」を読む
- 第14回 夏目漱石「草枕」注釈確認
- 第15回 夏目漱石「草枕」を読む

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への意欲的な参加... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品を事前に読み通し、本文や注釈について疑問や読解に関する意見を述べるための事前準備。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

日本近代文学・明治文学

# 演習 A - 1 ( 日本語学 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。扱う言語資料は、受講者の興味や関心を考慮に入れつつ決定する予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針 卒業論文執筆までのスケジュール
- 第2回 国語学・日本語学研究の諸分野
- 第3回 先行研究の収集方法 文献資料の種類と扱い方
- 第4回 レジユメの作成要領 模擬発表
- 第5回 各人の発表(1)
- 第6回 各人の発表(2)
- 第7回 各人の発表(3)
- 第8回 各人の発表(4)
- 第9回 各人の発表(5)
- 第10回 各人の発表(6)
- 第11回 各人の発表(7)
- 第12回 各人の発表(8)
- 第13回 各人の発表(9)
- 第14回 各人の発表(10)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% レポート...30%  
その他、出席を重視します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 1 (日本語教育学) 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すのではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習 A - 1では、日本語教育という枠から離れて広く教育の研究にはどのようなものがあるのか、どんな方法で行われているのかを幅広く知ってもらいたいと思います。学習者オートノミーの専門書を輪読します。

また、同時に自分がこれまでの人生の中で経験したことを言葉にして表現できるようにするために、TAEを学びます。TAEを用いて自分の内側から自己表現を試みることは、内面的成長を促すことが期待できます。そして、人にとって言葉がどのようなものであるのかの理解が深められます。これは、言語教育を学ぶものにとって必須のことです。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本語教育実践分野の研究を知る。
- ②自らの関心を探求しながら自分の関心に適した研究分野を発見する。
- ③自分が日本語教育実践分野の何に関心を持っているのか言語化を試みる
- ④研究について深く知ることに興味を持つ。

## 教科書 /Textbooks

『学習者オートノミー：日本語教育と外国語教育の未来のために』（青木直子他、ひつじ書房）  
『TAEによる文章表現ワークブック』（得丸さと子、図書文化）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 秋田喜代美他編著(2005)『教育研究のメソッドロジー』東京大学出版会
  - 秋田喜代美他(2007)『事例から学ぶはじめての質的研究法：教育・学習編』東京図書
- その他に日本語教育における先行研究例を適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、TAEとは何か
- 2回 学習者オートノミー：初めての人のイントロダクション、TAE (1) フェルトセンス感度チェック
- 3回 言語学習におけるオートノミー、TAE (2) リラックスのワーク
- 4回 学習者オートノミーの実践、TAE (3) 色模様のワーク
- 5回 即興の技、TAE (4) オノマトペのワーク
- 6回 セルフアクセス言語学習、TAE (5) 比喩のワーク
- 7回 言語学習のためのアドバイジング、TAE (6) 花束のワーク
- 8回 そもそも誰の物語なのか？、TAE (7) コツのワーク
- 9回 学校文脈における英語教師の同僚性とオートノミー、TAE (8) 共同詩のワーク
- 10回 教室を越えた言語学習の場の考察、TAE (9) 励ます言葉のワーク
- 11回 学習者オートノミーが第二言語ユーザーを裏切る時、TAE (10) マイセンテンスを詩にしよう
- 12回 教師オートノミー、TAE (11) マイセンテンスから書こう
- 13回 TAE (12) パターンとは、TAE (13) 失敗は成功のもと
- 14回 TAE (14) 社会に提言しよう、TAE (15) 交差とは
- 15回 TAE (16) 自己PR文を作ろう、総括及び、夏休みの学習計画

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメを含む)... 50% 参加者としての貢献度... 30% レポート... 20%  
(主に発表を聞く時)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

助け合うことができるような人間関係を日頃から構築する努力をしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 演習 A - 1 ( 日本語教育学 ) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

学習者オートノミー 教師オートノミー TAE フェルトセンス マイセンテンス

# 演習 A - 1 ( 英米文学 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんといっしょに語り合いたいと思います。前期は主に英米文学の中の短編（児童文学を含む）を数多く読み、それぞれの作品における様々な問題点やテーマ（生と死、愛、心の内奥の暗黒、人間の心理の不可思議さ、差別、女性の自由・自立、ピューリタニズム、自然と人間、人間の卑小性、グロテスクさ、機械と人間など）に関する討論を通じて、それぞれの作家の特徴や傾向をつかむと同時に、文学作品の鑑賞と討論の面白さをみんなと共有します。比較の視点も導入します。作品は主に翻訳を利用しようと考えています。

\*ゼミの目的： 1. 自己発見 2. 議論のコツのマスター 3. 仲間作り

\*ゼミ通信や4年生の卒論（中間）発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。

\*ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、今後の流れの説明、その他いろいろ
- 2回 「蠅」 by K. Mansfield (英)
- 3回 「告げ口心臓」 by A. Poe (米)
- 4回 「1時間の物語」 by K. Chopin (米)
- 5回 「良心ゆえに」 by T. Hardy (英)
- 6回 「若いゲットマン・アラウン」 by N. Hawthorne (米)
- 7回 「家族の絆」 by 渡邊浩式 (日本)
- 8回 「エミリーへのバラ」 by W. Faulkner (米)
- 9回 「小さな雲」 by James Joyce (英)
- 10回 「亡き妻フィービー」 by T. Dreiser (米)
- 11回 「善良な田舎者」 by F. O'Connor (米)
- 13回 「幸福な王子」 by O. Wilde (英)
- 14回 デイベートの説明と実施
- 15回 まとめ(合宿に備えて)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

担当時の準備... 30% レポート... 50% 平常点(発表、討論の参加など)... 20% (出席重視)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 演習 A - 1 ( 英米文学 ) 【昼】

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者になった場合は、授業前に議論のための資料や参考文献などを読むなど、下準備をしっかりとした上で担当当日に臨んでください。配布資料の準備も必要です。担当者でない場合も、自分の意見が述べられるように問題意識を持って臨んでください。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」

# 演習 A - 1 ( アメリカ文学 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ映画を題材として用いる、アメリカ研究ゼミです。アメリカ映画の中に登場する会話、情景描写、ストーリー展開、登場人物の描かれ方などを分析することにより、作品を背後で支配しているアメリカ人の美意識や、価値観がいかなるものであるかを考えていきます。アメリカ映画とアメリカの現実との関係がいかなるものであるかを探求します。その作業を通して、アメリカ(人、文化、社会、歴史)の特質に対する理解を深めていくことを主な目的とします。

ゼミのやり方としては、毎回、担当者を3名決め、B4のレジュメを作成してもらった上で、レジュメの解説を行なってもらい、その発表内容をゼミ生全員で検討する形で進めていきます。発表する際の視点、レジュメ作成の要領、作品分析の方法、発表に必要な書籍については、最初の時間に詳しく説明します。発表に必要な資料の配置場所を知ってもらうため、図書館巡りも最初に行ないます。

## 教科書 /Textbooks

取り上げる題材はゼミ生と相談し、できるだけゼミ生の意向が反映されるようにします。過去には、『プラダを着た悪魔』、『モンスターズ・インク』、『魔法にかけられて』、『チャーリーとチョコレート工場』、『トイ・ストーリー』などの映画を取り上げ、内容を様々な視点から議論しました。ゼミ生が卒論で取り上げることが決定した作品は最優先で題材として取り上げます。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『早わかりアメリカ』 302.53 I32
- 『そうだったのがアメリカ』 302.53 I33
- 『読んで旅する世界の歴史と文化』 亀井俊介 290.8 Y82
- 『異文化社会アメリカ』 示村陽一 302.53
- 『アメリカ合衆国とは何か』 253. Ta45
- 『アメリカ人の性格』 ゴーラー 書庫にしかない 361.6 G67
- 『この一冊でアメリカの歴史がわかる』 253.01 Sa69
- 『アメリカの大衆文化』 亀井俊介 253.07 H85
- 『アメリカン・ウェイ・オブ・ライフ』 302.53 B89
- 『ヨーロッパ人のアメリカ論』(アメリカ古典文庫21) 253 A44 1-21
- 『アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実』(有賀夏紀) 253 A79
- 『アメリカ人の思考法』 エドワード・スチュワート 361.42 St5
- 『文明としてのアメリカ』(全5巻) 日本経済新聞社 302.53
- 『アメリカの歴史を知るための60章』 富田虎男 253 To58
- 『アメリカの文化』 現代文明を作った人たち 亀井俊介
- 『アメリカの社会』 変貌する巨人 猿谷要
- 『アメリカ文化事典』 亀井俊介 研究社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 作品分析の方法やレジュメの作成要領の説明、参考文献などの紹介
- 2回 図書館めぐり、文献の検索方法の再確認
- 3回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論1
- 4回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論2
- 5回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論3
- 6回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論4
- 7回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論5
- 8回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論6
- 9回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論7
- 10回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論8
- 11回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論9
- 12回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論10
- 13回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論11
- 14回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論12
- 15回 まとめ、夏休みの課題レポートに関する説明

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミの参加への積極性...50% 発表内容...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



## 演習 A - 1 ( アメリカ文学 ) 【昼】

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、担当者を3名割り振りますので、担当が当たった場合はB4のレジユメを作成してもらった上で、レジユメの解説をゼミの時間をお願いします。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 演習 A - 1 ( イギリス文化 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、文献講読を中心として、イギリス文化について、さらには文化研究一般の方法についても学びます。「文化」を通じて「社会」全体を把握するという目標を念頭に置きながら、イギリス社会、そして日本社会の様々な側面についても考察し、議論したいと思っています。

## 教科書 /Textbooks

履修者と相談の上、演習中に指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 イン트로ダクション
- 第二回 文献講読 ( 1 )
- 第三回 文献講読 ( 2 )
- 第四回 文献講読 ( 3 )
- 第五回 文献講読 ( 4 )
- 第六回 文献講読 ( 5 )
- 第七回 文献講読 ( 6 )
- 第八回 文献講読 ( 7 )
- 第九回 文献講読 ( 8 )
- 第十回 文献講読 ( 9 )
- 第十一回 文献講読 ( 10 )
- 第十二回 文献講読 ( 11 )
- 第十三回 文献講読 ( 12 )
- 第十四回 文献講読 ( 13 )
- 第十五回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加 60% ゼミ報告 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修人数にもよりますが、各人最低一回は、指定されたテキストについて報告を行うことになります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

幅広い興味を持って、討論に積極的に参加することを期待します。

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 1 ( フランス文化 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

このゼミでは、フランス文化を主要な参照先としながら、文学、映画、美術といった人間の営みに迫ります。とくにテーマに限定はありませんが、何よりも大事にしたいのは、各学生が、自分の興味を発見し、その対象について知識、理解を深めながら、言葉を用いて自分の興味を他人に伝える力を養うことです。まずは、提示された作品について、みんなで意見や分析を述べることから始め、後半では自分でテーマや作品を選び、それについて発表をしてもらいます。いろいろな作品を読むこと、観ることが絶対の条件となります。

## 教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

開講時に指示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回～4回 作品についての討論
- 5回～14回 個人発表
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・レポート等・・・80% 平常点・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表は複数回まわってくるので、普段からアンテナを立てて自分の興味を探しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

学生の発表主体の授業です。また、合宿を行うことがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

作者が作品にこめた思い、また、それを作らなければならなかった必然性を受け止め、芸術作品が私たちにとって持つ意味について考えてもらえたらと思います。

## キーワード /Keywords

記憶 表象 展示 映画 現代美術 モニュメント 死

# 演習 A - 1 ( アメリカ文化 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の歴史(政治・社会・文化)を中心としたアメリカ地域研究を行い、学問の方法に触れる。

## 教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

開講時および授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方、テキスト選定などについての話し合い。
- 2回 レジユメの作り方、発表の仕方についての説明。
- 3回 受講者による発表・討議。
- 4回 受講者による発表・討議。
- 5回 受講者による発表・討議。
- 6回 受講者による発表・討議。
- 7回 受講者による発表・討議。
- 8回 受講者による発表・討議。
- 9回 受講者による発表・討議。
- 10回 受講者による発表・討議。
- 11回 受講者による発表・討議。
- 12回 受講者による発表・討議。
- 13回 受講者による発表・討議。
- 14回 受講者による発表・討議。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業への貢献度、発表内容)100%。ただし出席状況によって減点する場合がある。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生は全員、毎回テキストを読み込んで授業に出席すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 1 ( スペイン史 ) 【昼】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

このゼミは歴史学からのスペイン研究です。わが国でこれまで蓄積された参考文献案内をはじめ、テキストにそって、多様な地域からなるスペインの歴史や文化に接近し、スペインの理解を深めます。ゼミ参加者の関心あるテーマに関する報告もしていただきます。

ローロッパのなかのスペインの位置を、中世から近代の歴史の流れの中で理解し、加えて、宗教・文化・社会の変容を学ぶことを目指します。

## 教科書 /Textbooks

- 立石博高ほか編『スペインの歴史』昭和堂、1998年

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に必要に応じて文献を紹介します。以下は、授業と関連する有用な本。

- 福井憲彦『ヨーロッパの社会史』岩波書店、2003年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的な講義とゼミの進め方
- 2回 スペイン中世における諸地域の形成
- 3回 西欧のなかの中世イベリア世界
- 4回 中世スペイン：テキストの輪読(1)
- 5回 中世スペイン：テキストの輪読(2)
- 6回 近世スペインの国家と地域
- 7回 大航海時代のスペイン
- 8回 近世スペイン：テキストの輪読(1)
- 9回 近世スペイン：テキストの輪読(2)
- 10回 スペイン王国の構造
- 11回 啓蒙の時代
- 12回 近代スペイン：テキストの輪読(1)
- 13回 近代スペイン：テキストの輪読(2)
- 14回 近代の幕開け
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 50% 報告... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは事前に読むこと。授業中は質疑応答などを通して積極的に参加する。

## 履修上の注意 /Remarks

演習の主体は学生です。出席重視です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 1 (ロシア文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

私のゼミのキーワードは「ロシア、ユーラシア」、「多民族社会」です。  
比較研究のためロシア以外の地域も取り上げつつ、多言語、多文化現象（民族・言語・宗教・文化などの同化・対立や共生・混交）について理解を深めること、また研究発表・論文作成のための基本ルール・技術の向上も授業のねらいとするところです。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布予定

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

川端香男里『スラブの文化』弘文社、1996年  
 浜由樹子『ユーラシア主義とは何か』成文社、2010年  
 原尻英樹編著『世界の民族＝民族形成と近代』放送大学教育振興会、1998年  
 三浦信孝編『多言語主義とは何か』藤原書店、1997年  
 馬淵仁著『「異文化理解」のディスコース』京都大学学術出版会、2005年  
 東照二『バイリンガリズム』講談社、2000  
 大橋理枝、ダニエル・ロング『日本語からたどる文化』日本放送協会、2011年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方についての相談、講読テキストの選択、ゼミ発表予定日程取決めなど
- 2回 言語と文化関係のビデオ観賞、レジュメ作成・要約方法について指導
- 3回 講読テキストの要約発表、議論、レジュメ作成・要約方法について指導
- 4回 講読テキストの要約発表、議論、レジュメ作成・要約方法について指導
- 5回 講読テキストの要約発表、議論、レジュメ作成・要約方法について指導
- 6回 クレオール・多言語主義に関するビデオ鑑賞：内容について議論
- 7回 講読テキストの要約発表、議論、レジュメ作成・要約方法について指導
- 8回 講読テキストの要約発表、議論、レジュメ作成・要約方法について指導
- 9回 講読テキストの要約発表、議論、レジュメ作成・要約方法について指導
- 10回 言語と文化関係のビデオ鑑賞：内容についての議論
- 11回 講読テキストの要約発表
- 12回 言語と文化関係のビデオ鑑賞：内容についての議論
- 13回 要約発表における重要事項・重要用語のまとめ
- 14回 文献・資料検索方法、研究テーマ選択などの指導
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 60%、質疑応答 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会言語学、民族文化関係の書を複数冊読んで、専門用語や内容を理解し、授業準備をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 2 ( 比較ドイツ文化 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

演習 A - 1 の続き。1学期に習得した知識や研究方法を応用して、課題研究発表と自由研究発表を行い、ドイツ文化に関する理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツ文化の知識・応用編①
- 2回 ドイツ文化の知識・応用編②
- 3回 映像で見るドイツ文化①
- 4回 課題研究発表①
- 5回 課題研究発表②
- 6回 課題研究発表③
- 7回 資料の利用法研究①
- 8回 資料の利用法研究②
- 9回 インターネットの利用法①
- 10回 インターネットの利用法②
- 11回 自由研究発表①
- 12回 自由研究発表②
- 13回 自由研究発表③
- 14回 研究発表に関する質疑応答
- 15回 まとめとレポート提出

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表と授業への参加度 ... 80% レポート ... 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず独和辞書を持参すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 2 ( 日本文化 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

1学期の入門書学習や、日本美術史の授業、さらには、これまでの美術館・博物館・寺社への見学などにおいて興味を持った作品あるいは画家を各自一つずつ選び、その作品の概要(画像・材質・技術など)・研究史・残された問題点をまとめて発表する。それによって、文献の集め方、先行研究のまとめ方、美術史的な研究方法の習得を目指す。  
尚、博物館・美術館への見学も盛り込む予定である。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の手順の説明、各自が扱う作品あるいは画家の決定
- 2回 博物館あるいは美術館見学
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 発表準備の進展について確認
- 5回 発表準備の進展について確認
- 6回 発表とディスカッション
- 7回 発表とディスカッション
- 8回 発表とディスカッション
- 9回 発表とディスカッション
- 10回 発表とディスカッション
- 11回 発表とディスカッション
- 12回 発表とディスカッション
- 13回 博物館あるいは美術館見学
- 14回 卒論構想発表に向けての準備
- 15回 卒論構想発表に向けての準備

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容...70% レポート...10% 授業への参加態度...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は、必ず事前にレジユメのチェックを受けること。  
また、各自が何について発表するかは周知するので、発表者以外の者も、どのような作品あるいは画家であるか事前に確認して授業に臨むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 演習 A - 2 ( 日本文化 ) 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

1学期に調査した結果に基づき展示の企画を進めるとともに、卒業論文の準備のためにゼミの卒業論文集 ( 『青嵐史学』 ) や『日本の近世』などの論文を参考に関心のあるテーマや論文を選び、①先行研究としての論文紹介②史料の紹介を行う。

## 教科書 /Textbooks

ありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『岩波講座日本歴史』 ( 岩波書店 )
- 『岩波講座日本通史』 ( 岩波書店 )
- 『日本の近世』全 18 巻 ( 中央公論社 )
- 卒業論文集『青雲史学』第 1 ~ 9 号

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 第1次テーマ報告①
- 3回 第1次テーマ報告②
- 4回 第1次テーマ報告③
- 5回 博物館展示企画①
- 6回 博物館展示企画②
- 7回 博物館展示企画③
- 8回 第2次テーマ報告①
- 9回 第2次テーマ報告②
- 10回 第2次テーマ報告③
- 11回 4年生卒論経過報告①
- 12回 4年生卒論経過報告②
- 13回 第2次テーマ報告④
- 14回 第2次テーマ報告⑤
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席時の報告とコメントの内容で100%評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業時間における博物館での作業 ( 4回予定 ) に関しては火曜午前10時に博物館に集合すること。  
授業時間内での博物館での作業と市内調査の交通費は原則として自己負担とする。  
博物館における展示作業とワークショップには必ず参加すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 2 ( 日本文化 ) 【昼】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

テーマは「古記録を読む」  
日本の古代中世文化を学び卒業論文を仕上げるためには、日本漢文で書かれた記録を読む能力を身につける必要がある。読解が容易なテキストから始めて徐々に読解能力の向上をはかっていきたい。  
受講生には担当個所について読解して発表してもらう。

## 教科書 /Textbooks

授業の場で適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 阿部猛編『古文書古記録語辞典』(東京堂書店)
- 高橋秀樹『古記録入門』(東京堂書店)
- 築島裕編『訓読語彙集成』(汲古書院)
- 『平安時代史事典』(角川書店)
- 『国史大辞典』(吉川弘文館)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 古記録について
- 3回 古記録の読み方
- 4回 『日本紀略』を読む
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 『扶桑略記』を読む
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業の学習態度・成果 ...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表にあたっては、事前に発表内容について報告し相談すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習は学生が主役です。意欲的に参加して、積極的に発言して下さい。

## キーワード /Keywords

古記録、『日本紀略』『扶桑略記』

# 演習 A - 2 (メディア文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

近現代日本のメディア文化・表象文化・大衆文化をテーマとした演習をおこなう。前半は演習A-1をふまえて共有テーマの継続議論をおこなう。後半は、独自の研究対象を決めて、発表・コメント・討議に引き続き取り組む。特に資料調査の技術、プレゼンテーションの技術向上を目指す。なお授業では、合宿形式の演習(発表・議論・交流)が含まれている。また、演習の内容を補完するために、学外施設の見学を取り入れる予定。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 グループ討議 1
- 3回 グループ討議 2
- 4回 グループ討議 3
- 5回 グループ討議 4
- 6回 グループ討議 5
- 7回 テーマの総括
- 8回 個人発表 1
- 9回 個人発表 2
- 10回 個人発表 3
- 11回 個人発表 4
- 12回 個人発表 5
- 13回 個人発表 6
- 14回 個人発表 7
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...20% 発表...80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習は個人発表が中心となるが、小グループのなかでの相談や意見交換も重要な要素として取り込みます。演習に積極的に参加してくれる受講生を歓迎します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 2 ( 日本古典文学 ) 【昼】

担当者名 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

古典研究のための基本的な知識と調査方法を身につけ、古典の多様性に触れることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 片桐洋一『中世古今集注釈書解題』赤尾照文堂
- 児玉幸多『くずし字用例辞典』東京堂出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 担当の振り分け
- 2回 発表の進め方等の解説【「天地開け始まりて」の説】
- 3回 発表と質疑応答【「おもしろ」の語源(前半)】
- 4回 同上【「おもしろ」の語源(後半)】
- 5回 同上【「烏羽玉」の説】
- 6回 同上【「難波津」の歌】
- 7回 同上【「浅香山」の歌】
- 8回 同上【「遊子と伯陽」(前半)】
- 9回 同上【「遊子と伯陽」(後半)】
- 10回 同上【「富士の煙」(前半)】
- 11回 同上【「富士の煙」(後半)】
- 12回 同上【「松虫」】
- 13回 同上【「鳴の羽垣」の説(前半)】
- 14回 同上【「鳴の羽垣」の説(後半)】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%  
平常の学習状況50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習形式で授業を進めるため、積極的な態度で授業に臨むこと。  
くずし字の読解に際しては、予習をしておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 2 ( 日本近代文学 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

明治期から昭和終戦期までの文学を主に扱う。一作ずつ丁寧に読み進めながら、日本近代文学研究の基本的な手続きを学ぶことを目的とする。本演習では学生自身が作品を選択し、それについて調査・発表することが中心となる。

## 教科書 /Textbooks

ゼミ生各自が発表用資料を用意して配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 各種、日本文学史に関する本
- 各作家の個人全集
- 「新日本古典文学大系 明治編」
- 「編年体大正文学全集」
- 「昭和文学全集」

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(演習の目的概説・演習担当の決定・テキストおよび書誌の作成)
- 第2回 近代文学研究の基本(1) 教員による模範演習①(基礎調査編)
- 第3回 近代文学研究の基本(2) 基礎調査の手順(図書館にて情報検索研修)
- 第4回 近代文学研究の基本(3) 教員による模範演習②(作品解釈編)
- 第5回 近代文学研究の基本(4) 理論編①前田愛『文学テキスト入門』講読
- 第6回 近代文学研究の基本(5) 理論編②現代文学理論総論
- 第7回 基礎調査報告(演習発表1回目-1グループ)
- 第8回 基礎調査報告(演習発表1回目-2グループ)
- 第9回~14回 作品解釈報告(演習2回目-個別演習)
- 第15回 卒業論文にむけて

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業における発言等の意欲的な態度... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- 第1回~6回...教員に指示されたテキストを事前に予習すること。
- 第7回~8回...従前な準備が必要なので発表者各自で図書館等にしっかり通い時間をかけて作業すること。
- 第9回~14回...自身の発表のときは、レジユメ作成およびプレゼン方法を工夫すること。他の学生の発表を聞くときは、テキストを事前により、質疑応答に備えること。

## 履修上の注意 /Remarks

演習は、「演習をこなせばいい」「他の人の発表を聞けばいい」というものではありません。発表者・司会者・聴講者といった参加者全員に役割があり、それぞれの努力と配慮によってはじめて効果を発揮します。発表者は聞き手に対し、聞き手は発表者に対し、それぞれ敬意をもって演習に参加してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

はじめての演習で学ぶことも多いと思いますが、基本を身につけることで、卒業論文で自身のテーマを深めることが出来るようになります。がんばってください。

## キーワード /Keywords

日本近代文学・日本現代文学・文献調査・作品分析

# 演習 A - 2 ( 日本語学 ) 【昼】

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。扱う言語資料については、受講者の興味や関心を考慮に入れつつ決定する予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針
- 第2回 卒業論文執筆方法
- 第3回 先行研究の検証
- 第4回 用例収集の方法
- 第5回 各人の発表(1)
- 第6回 各人の発表(2)
- 第7回 各人の発表(3)
- 第8回 各人の発表(4)
- 第9回 各人の発表(5)
- 第10回 各人の発表(6)
- 第11回 各人の発表(7)
- 第12回 各人の発表(8)
- 第13回 各人の発表(9)
- 第14回 各人の発表(10)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% 課題...30%  
その他、出席を重視します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 2 ( 日本語教育学 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すのではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習 A - 2 では、4年次に入って直ぐに卒業論文を作成する、つまりそのための研究に取り掛かることができるように準備をします。具体的には、卒業論文レベルの研究をイメージできるようになる、論文の書き方の凡そを知る、仮テーマを選定する、までを目標とします。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本語教育実践分野の研究方法に対する基礎を身につける。
- ②自らの関心を探求しながら卒業論文に適した研究課題を発見する。
- ③自分発の研究課題を的確に言語化する。
- ④自らの関心に従い、未知の研究分野にチャレンジする。

## 教科書 /Textbooks

- 『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)
- 『研究以前のモンダイ 看護研究で迷わないための超入門講座』(西條剛央、医学書院)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『ライブ講義質的研究とは何か SCQR ベーシック編』(西條剛央、新曜社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、研究とは何か、卒業論文とは何か
- 2回 TAE ( 17 ) 資料を使って論じよう
- 3回 TAE ( 18 ) 経験から論じよう
- 4回 TAE ( 19 ) 感想文を書こう
- 5回 方法「方法とは何か?」「研究法を修正して使う方法」
- 6回 理論「理論とは何か?」「臨床実践における理論をめぐるモンダイ」
- 7回 科学「科学以前のモンダイ」「科学性の条件」
- 8回 科学「臨床実践を巡る科学性のモンダイ」「魔法のコトバとしての根本仮説」
- 9回 科学「認識論とは何か?」「研究実践における認識論のモンダイ」
- 10回 科学「トライアングレーション研究を上手に実施する方法」一般化「一般化を根本から考える」
- 11回 一般化「アナロジー(類推)に基づく一般化」「アナロジー(類推)に基づく一般化の活用法」
- 12回 TAE ( 20 ) 理論とは、TAE ( 21 ) 「~は...である」と使って考えよう
- 13回 TAE ( 22 ) 性質を考えて思考を深めよう、TAE ( 23 ) 概念を組み込んで理論を作ろう
- 14回 TAE ( 24 ) 理論を精緻化しよう、TAE 応用編研究レポートを書こう
- 15回 総括及び、春休みの学習計画

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメを含む)... 50% 参加者としての貢献度... 30% レポート... 20%  
(主に発表を聞く時)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「研究」を理解するために、積極的に参考文献を読むことが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 2 ( 英米文学 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんとじっくり語り合いたいと思います。後期は、ゼミ生主体で一冊の長編作品を選んでもらい、その作品を、あるときは速読、またあるときは精読することで、十分に満喫します。問題点について討論をすると同時に、文学批評についても様々なアプローチ方法を取り入れることにより、各自、自分にあった方法を早く見出してもらいたいと思っています。最後に卒論についての説明をし、卒論を書くにあたって方向性をつかんでもらう予定です。作品は主に翻訳を利用しようと考えています。

\* ゼミの目的： 1. 自己発見 2. 議論のコツのマスター 3. 仲間作り

\* ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定。

\* ゼミ通信や4年生の卒論(中間)発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 扱う長編作品の決定、担当者決め、その他、今後の流れの説明
- 2回 作品の第1パートの内容確認と議論
- 3回 作品の第2パートの内容確認と議論
- 4回 作品の第3パートの内容確認と議論
- 5回 作品の第4パートの内容確認と議論
- 6回 作品の第5パートの内容確認と議論
- 7回 作品の第6パートの内容確認と議論
- 8回 作品の第7パートの内容確認と議論
- 9回 作品の第8パートの内容確認と議論
- 10回 作品の第9パートの内容確認と議論
- 11回 作品の第10パートの内容確認と議論
- 12回 作品の第11パートの内容確認と議論
- 13回 作品の第12パートの内容確認と議論
- 14回 論文の書き方、ノート作りについて
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

担当時の準備・・・30% レポート・・・50% 平常点(発表、討論の参加など)・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者になった場合は、授業前に議論のための資料や参考文献などを読み、下準備をしっかりした上で担当当日に臨んでください。配布資料の準備も必要です。担当者でない場合も、自分の意見が述べられるように問題意識を持って臨んでください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



## 演習 A - 2 ( 英米文学 ) 【昼】

### キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」

# 演習 A - 2 ( アメリカ文学 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

アメリカ映画を題材として用いる、アメリカ研究ゼミです。アメリカ文学・映画の中に登場する会話、情景描写、ストーリー展開、登場人物の描かれ方などを分析することにより、作品を背後で支配しているアメリカ人の美意識や、価値観がいかなるものであるかを考えていきます。アメリカ文学・映画とアメリカの現実との関係がいかなるものであるかを探求します。その作業を通して、アメリカ(人、文化、社会、歴史)の特質に対する理解を深めていくことを主な目的とします。卒論執筆に向けた指導も織り込みます。

## 教科書 /Textbooks

ゼミで取り上げる教材は、ゼミ生と相談し、できるだけ、ゼミ生の意向が反映されるようにします。ちなみに、過去において、映画は、『チャーリーとチョコレート工場』、『モンスターズ・インク』、『シュレック』、『ブラダを着た悪魔』、『アイ・ロボット』、『ホリデイ』などの内容を議論しました。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『早わかりアメリカ』 302.53 I32
- 『そうだったのかアメリカ』 302.53 I33
- 『読んで旅する世界の歴史と文化』 亀井俊介 290.8 Y82
- 『異文化社会アメリカ』 示村陽一 302.53
- 『アメリカ合衆国とは何か』 253. Ta45
- 『アメリカ人の性格』 ゴーラー 書庫にしかない 361.6 G67
- 『この一冊でアメリカの歴史がわかる』 253.01 Sa69
- 『アメリカの大衆文化』 亀井俊介 253.07 H85
- 『アメリカン・ウェイ・オブ・ライフ』 302.53 B89
- 『ヨーロッパ人のアメリカ論』(アメリカ古典文庫21) 253 A44 1-21
- 『アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実』(有賀夏紀) 253 A79
- 『アメリカ人の思考法』 エドワード・スチュワート 361.42 St5
- 『文明としてのアメリカ』(全5巻) 日本経済新聞社 302.53
- 『アメリカの歴史を知るための60章』 富田虎男 253 To58
- 『アメリカの文化』 現代文明を作った人たち 亀井俊介
- 『アメリカの社会』 変貌する巨人 猿谷要
- 『アメリカ文化事典』 亀井俊介 研究社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 夏休みレポートの内容を各自が発表1
- 2回 夏休みレポートの内容を各自が発表2
- 3回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論1
- 4回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論2
- 5回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論3
- 6回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論4
- 7回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論5
- 8回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論6
- 9回 4年生を招いての懇談会
- 10回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論7
- 11回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論8
- 12回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論9
- 13回 冬休みの課題に関する指示
- 14回 まとめ、春休みの課題レポートに関する説明
- 15回 卒論執筆に関する指導

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表...40% 夏休み明け提出のレポート...30% ゼミ参加への積極性の度合い...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、担当者を3名割り振りますので、担当が当たった場合はB4のレジユメを作成してもらった上で、レジユメの解説をゼミの時間をお願いします。

## 演習 A - 2 ( アメリカ文学 ) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 演習 A - 2 ( イギリス文化 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、一学期に身につけた方法論をベースにして、学生個々人が自分自身の興味関心に基づいた研究報告を行うことが中心となります。必要に応じて、共同での文献講読・作品批評も行います。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 イン트로ダクション
- 第二回 個人研究報告 ( 1 )
- 第三回 個人研究報告 ( 2 )
- 第四回 個人研究報告 ( 3 )
- 第五回 個人研究報告 ( 4 )
- 第六回 個人研究報告 ( 5 )
- 第七回 文献講読・作品批評 ( 1 )
- 第八回 個人研究報告 ( 6 )
- 第九回 個人研究報告 ( 7 )
- 第十回 個人研究報告 ( 8 )
- 第十一回 個人研究報告 ( 9 )
- 第十二回 個人研究報告 ( 10 )
- 第十三回 個人研究報告 ( 11 )
- 第十四回 文献講読・作品批評 ( 2 )
- 第十五回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加 30% 報告内容 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

個人研究報告は、各自最低でも2回は行います。夏休みの間に、研究テーマをある程度絞り、報告に備えておいてください。また、第二回目の報告では、第一回目の報告時の注意点などをふまえた上で準備をしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分自身の研究報告に責任を持つのはもちろんですが、他のゼミ生の報告に対しても真摯に耳を傾け、一緒になって考えるような態度を期待します。

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 2 ( フランス文化 ) 【昼】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス文化を主要な参照先としながら、文学、映画、美術といった人間の営みに迫ります。2学期も重視するのは、各学生が、フランス文化について知識、理解を深めながら、自分の興味を発見し、それを言葉で他人に伝える力を養うことです。まずは、休暇中に書いてもらう自由研究レポートの内容について口頭発表してもらい、それについてみんなで意見や分析を述べることから始めます。作品が持つ「面白さ」とは何か、各人の答えを徐々に形成していってもらいます。

## 教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

開講時に指示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション  
2回～14回 個人発表とディスカッション  
15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・発表等・・・80% 平常点・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表は複数回まわってくるので、普段からアンテナを立てて自分の興味を探しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

学生の発表主体の授業です。学生の発表主体の授業です。また、合宿を行うことがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

作者が作品にこめた思い、また、それを作らなければならなかった必然性を受け止め、芸術作品が私たちにとって持つ意味について考えてもらえたらと思います。

## キーワード /Keywords

記憶 表象 展示 映画 現代美術 モニュメント 死

# 演習 A - 2 ( アメリカ文化 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

近現代アメリカ合衆国の諸問題などについて各自が報告を行い、それを通して論文の書き方を学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて各自で調査する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方などについての話し合い。
- 2回 卒論の書き方などについての説明。
- 3回 受講者による発表・討議。
- 4回 受講者による発表・討議。
- 5回 受講者による発表・討議。
- 6回 受講者による発表・討議。
- 7回 受講者による発表・討議。
- 8回 受講者による発表・討議。
- 9回 受講者による発表・討議。
- 10回 受講者による発表・討議。
- 11回 受講者による発表・討議。
- 12回 受講者による発表・討議。
- 13回 受講者による発表・討議。
- 14回 受講者による発表・討議。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ( 授業への貢献度、発表内容 ) 100%。ただし出席状況によって減点する場合がある。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は必ず、レジユメを作って発表にのぞむこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 2 ( スペイン史 ) 【昼】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

演習 A - 1 では、主に近世のスペインを扱いましたが、このゼミでは、近現代のスペインにかかわるテーマに焦点を絞ります。テキストにそってスペインの社会、地域や国家の問題を学びますが、ゼミ参加者の関心にそったテーマについて報告していただきます。  
テキストに即して、スペインの近代・現代の社会・文化の諸相を広く、深く学ぶことを目指します。ゼミ生は卒業論文のテーマを決められるようにすること。

## 教科書 /Textbooks

- 立石博高ほか編『スペインの歴史』昭和堂、1998年

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に必要に応じて文献を紹介します。以下は、授業と関連する有用な本。  
○福井憲彦『ヨーロッパの社会史』岩波書店、2003年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的な講義とゼミの進め方
- 2回 19世紀前半のスペイン：自由主義とロマン主義
- 3回 19世紀のスペインの社会・経済
- 4回 テキストの輪読(19世紀)
- 5回 テキストの輪読・コラム欄
- 6回 文献案内
- 7回 スペインの「近代」について
- 8回 ゼミ生の報告会(1)
- 9回 ゼミ生の報告会(2)
- 10回 19世紀末のスペイン
- 11回 地域問題：アンダルシアとカタルーニャ
- 12回 地域問題：バスク(ビデオ)
- 13回 テキストの輪読(20世紀)
- 14回 現代スペイン社会
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 50 % 発表... 50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは事前に通読する。特殊な歴史学用語は、たとえば、『世界史辞典』(角川)やその他の辞典類で調べること。

## 履修上の注意 /Remarks

出席重視です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず質疑応答の時間を設けます。好奇心を発揮し、積極的に質問しましょう。

## キーワード /Keywords

# 演習 A - 2 (ロシア文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

多言語・多文化の社会現象、比較文化に関する研究テーマ選択の指導を行い、論文作成のための基本的ルール・技能の向上を目的とする。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布予定

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

原尻英樹編著『世界の民族 = 民族形成と近代』放送大学教育振興会、1998年  
三浦信孝編『多言語主義とは何か』藤原書店、1997年  
馬淵仁著『「異文化理解」のディスコース』京都大学学術出版会、2005年  
東照二『バイリンガリズム』講談社、2000  
大橋理枝、ダニエル・ロング『日本語からたどる文化』日本放送協会、2011年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 夏休み課題レポートの発表、議論
- 2回 夏休み課題レポートの発表、議論
- 3回 夏休み課題レポートの発表、議論
- 4回 言語と文化関連のビデオ観賞：内容について議論
- 5回 講読テキストの要約発表、議論
- 6回 講読テキストの要約発表、議論
- 7回 講読テキストの要約発表、議論
- 8回 民族と文化関連ビデオ鑑賞：内容について議論
- 9回 民族と文化関連ビデオ鑑賞：内容について議論
- 10回 講読テキストの要約発表、議論
- 11回 卒論テーマの選択と文献資料、資料収集について指導
- 12回 卒論テーマの選択と文献資料、資料収集について指導
- 13回 卒論テーマの選択と文献資料、資料収集について指導
- 14回 卒論関連の資料収集発表、卒論執筆の点検
- 15回 卒論関連の資料収集発表、卒論執筆の点検

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み60%、質疑応答 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート・論文作成法に関する書をよく読んで、レジュメ作成や発表準備をしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

各人がテーマを設定してドイツ文化研究を進め、その成果を論文にまとめる準備をする。

## 教科書 /Textbooks

授業中に随時プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論文のテーマ設定方法
- 2回 論文の書き方とルール①
- 3回 論文の書き方とルール②
- 4回 論文テーマ発表と討論①
- 5回 論文テーマ発表と討論②
- 6回 資料の収集法と利用法①
- 7回 中間報告会①
- 8回 中間報告会②
- 9回 資料の収集法と利用法②
- 10回 中間報告会③
- 11回 中間報告会④
- 12回 序論の書き方
- 13回 序論提出
- 14回 序論添削と討論
- 15回 1学期のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・報告・・80%、序論提出・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 B - 1 【昼】

担当者名 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

前年度の個人報告をベースにして、具体的な卒論構想の報告を行います。論文の執筆方法などについても、詳しく指導をします。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 オリエンテーション
- 第二回 個人研究報告 ( 1 )
- 第三回 個人研究報告 ( 2 )
- 第四回 個人研究報告 ( 3 )
- 第五回 個人研究報告 ( 4 )
- 第六回 個人研究報告 ( 5 )
- 第七回 卒論指導 ( 1 )
- 第八回 個人研究報告 ( 6 )
- 第九回 個人研究報告 ( 7 )
- 第十回 個人研究報告 ( 8 )
- 第十一回 個人研究報告 ( 9 )
- 第十二回 個人研究報告 ( 1 0 )
- 第十三回 個人研究報告 ( 1 1 )
- 第十四回 卒論指導 ( 2 )
- 第十五回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加 30% 報告内容 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分がどのような卒論を書きたいと思っているのか、できるだけ具体的なイメージをふくらませた上で、ゼミで発表して下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ここでの卒論構想の報告が、夏休み以降の勉強の土台となります。気を入れて取り組んで下さい。

## キーワード /Keywords

# 演習 B - 1 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

卒業論文の構想発表を行ってもらい、先行研究にきちんと目を通しているか、研究史を踏まえた上で明らかにすべき問題点を設定しているか等を確認する。  
尚、「演習 A - 1」と合同で行う。

## 教科書 /Textbooks

辻惟雄『岩波日本美術の流れ7 日本美術の見方』岩波書店

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論構想発表の手順の確認
- 2回 卒論構想発表の準備
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 卒論構想発表
- 5回 卒論構想発表
- 6回 卒論構想発表
- 7回 卒論構想発表
- 8回 三年生の第二章「美しい自然」担当者の発表
- 9回 三年生の第三章「飾る喜び」(前半)担当者の発表
- 10回 三年生の第三章「飾る喜び」(後半)担当者の発表
- 11回 三年生の第四章「飾らない美意識」担当者の発表
- 12回 三年生の第五章「遊戯する心」(前半)担当者の発表
- 13回 三年生の第五章「遊戯する心」(後半)担当者の発表
- 14回 三年生の第六章「聖なるもの、縄文的なるもの」担当者の発表
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容...70% レポート...10% 授業への参加態度...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は、必ず事前にレジユメのチェックを受けること。  
発表者以外の者も、どのような作品あるいは画家であるか事前に確認して授業に臨むこと。  
三年生の発表に参加する際には、必ず事前にテキストを読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習B - 1 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

3年生と合同で演習を行うとともに卒業論文の個別指導を行い、卒論テーマと題目を決定します。また3年生の演習の時間に卒業論文の準備として論文紹介を行い、6月15日以降は卒論の構想発表を行います。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

卒論のテーマを決めるのには以下の論文を参考にしてください

○ 『岩波講座日本歴史』(新旧2種類)(岩波書店)

○ 『岩波講座日本通史』(岩波書店)

○ 『日本の近世』全18巻(中央公論社)

また各自で卒論に必要な文献目録を作り提出してください

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 大学でのガイダンス
- 2回 論文紹介①
- 3回 論文紹介②
- 5回 論文紹介③
- 6回 論文紹介④
- 7回 卒論構想発表①
- 8回 卒論構想発表②
- 9回 卒論構想発表③
- 10回 卒論構想発表④
- 11回 3年生の調査報告の指導①
- 12回 3年生の調査報告の指導②
- 13回 3年生の調査報告の指導③
- 14回 3年生の調査報告の指導④
- 15回 まとめ プレ卒論(原稿用紙10枚分提出)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席時の状況で100%評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業時間における博物館での作業(4回予定)に関しては火曜午前10時に博物館に集合すること。

授業時間内での博物館での作業と市内調査の交通費は原則として自己負担とする。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習B - 1 【昼】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本の古代・中世文化に関するテーマを受講生各自が自由に選択し、研究に取り組んでもらい、その成果を発表してもらう。

## 教科書 /Textbooks

使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しない

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 日本の古代・中世文化を学び研究するにあたって
- 3回 研究発表に関する説明
- 4回 研究発表と討議
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究発表にあたって、事前に発表内容に関する相談を受けること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

日本文化、神道、仏教

# 演習B - 1 【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

卒業論文作成のための発表をおこなう。  
また前期の終了時点で卒業論文の構想・進捗状況についてのレポートを提出してもらう。  
3年生との研究上の交流にも積極的な参加が求められる

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文作成にむけての発表①
- 3回 卒業論文作成にむけての発表②
- 4回 卒業論文作成にむけての発表③
- 5回 卒業論文作成にむけての発表④
- 6回 卒業論文作成にむけての発表⑤
- 7回 卒業論文作成にむけての発表⑥
- 8回 卒業論文作成にむけての発表⑦
- 9回 卒業論文作成にむけての発表⑧
- 10回 卒業論文前期中間発表①
- 11回 卒業論文前期中間発表②
- 12回 卒業論文前期中間発表③
- 13回 卒業論文前期中間発表④
- 14回 卒業論文前期中間発表⑤
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...20% 発表...40% レポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 B - 1 【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「道信集」を読む。

藤原道信は平安中期に生きた典型的な王朝歌人の一人で、しかも夭折したため、その歌才を惜しまれた。詠作期間は数年にも関わらず、勅撰集に多く入集しているのも頷ける。ではその和歌はどのようなものであり、そこから伺える道信の半生はいかなるものであったかを追究する。

## 教科書 /Textbooks

榊原家本の影印本のプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○『新編 国歌大観』、○『私家集大成』

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教員による模範授業(1・2・3番歌)
- 3回 受講生による発表と質疑(4・5・6番)以下同じ。
- 4回 (7・8・9番)
- 5回 (10・11・12番)
- 6回 (13・14・15番)
- 7回 (16・17・18番)
- 8回 (19・20・21番)
- 9回 (22・23・24番)
- 10回 (25・26・27番)
- 11回 (28・29・30番)
- 12回 (31・32・33番)
- 13回 (34・35・36番)
- 14回 (37・38・39番)
- 15回 前半のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表 = 50% レポート = 50%  
無断欠席は不可。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回分の翻字をしておくこと

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 赤塚 正幸 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

**授業の概要 /Course Description**  
日本近代文学の研究方法の習得と卒業論文への応用

**教科書 /Textbooks**  
各自卒論で取り上げる作家の作品のコピー

**参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )**  
適宜指示

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**  
1回 ガイダンス  
2回～15回 卒業論文を見据えつつ、自分が論ずる作家の作品を資料として、作家研究、作品研究などについて発表する

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
発表の内容および質疑に対する返答。100%。

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
作品をよく読んでおくこと

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**



# 演習B - 1 【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

受講者各自の卒業論文のテーマにあわせて演習発表をする。  
作品を解釈し、かつ評価する行為を通じて、思考することの大切さを学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

各自が担当する作品本文および発表用資料を用意して配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習担当スケジュールの作成  
第2回～15回 受講者による演習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への意欲的な参加... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習B - 1 【昼】

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。扱う言語資料については、受講者の興味や関心を考慮に入れつつ決定する予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針と発表予定について
- 第2回 研究論文の書き方
- 第3回 資料編の作成方法
- 第4回 模擬発表
- 第5回 各人の発表(1)
- 第6回 各人の発表(2)
- 第7回 各人の発表(3)
- 第8回 各人の発表(4)
- 第9回 各人の発表(5)
- 第10回 各人の発表(6)
- 第11回 各人の発表(7)
- 第12回 各人の発表(8)
- 第13回 各人の発表(9)
- 第14回 各人の発表(10)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% 課題...30%  
その他、出席を重視します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すのではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習 B - 1 では、前半に各自の卒業論文のテーマに沿った発表を行います。そして、後半に卒業論文の構想発表会を行います。卒業論文の研究課題と研究方法を決定することが目標になります。

## 教科書 /Textbooks

『ライブ講義 質的研究とは何か : SCQRMアドバンス編』(西條剛央、新曜社)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『実践研究計画作成法 - 情報収集からプレゼンテーションまで』(北原保雄、凡人社)
- 『ライブ講義 質的研究とは何か : SCQRMベーシック編』(西條剛央、新曜社)
- 『<ほんとうの自分>のつくり方 - 自己物語の心理学』(榎本博明、講談社現代新書)
- 『ステップ式質的研究法 - TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)
- 『PAC分析実施法入門[改訂版]』(内藤哲雄、ナカニシヤ出版)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション及び、春休みの課題報告
- 2回 卒論テーマ：発表者(1)
- 3回 卒論テーマ：発表者(2)
- 4回 卒論テーマ：発表者(3)
- 5回 卒論テーマ：発表者(4)
- 6回 研究デザインとは何か
- 7回 研究目的の明確化
- 8回 概念枠組み
- 9回 研究課題の決定
- 10回 研究方法
- 11回 研究の評価
- 12回 卒論構想発表：発表者(1)
- 13回 卒論構想発表：発表者(2)
- 14回 今後の研究計画
- 15回 総括及び

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメ及び、質疑応答も含む) ... 70 % 授業への取り組み ... 30 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献は、適宜紹介します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんと一っしょに語り合います。4年次では、大学4年間の総決算ともいべき卒論の指導をします。1学期には、9月に行う中間発表を目指して、原則として個別（あるいはグループ）指導で、毎回、各自が発表をすることで、最終的に扱いたいテーマ、作品を決定し、おおまかなレポートを提出してもらいます。この学期は、9月の中間発表に備えて議論を煮詰める、卒論作成の予備段階です。

- \*ゼミ通信や4年生の卒論（中間）発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。
- \*ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定です。

## 教科書 /Textbooks

特にありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマや作家に応じて3～4名程度のグループ分けをし、前期の方針を確認。（グループ毎に日程を調整して、毎週集合。）
- 2回 それぞれのグループのメンバー各自がテーマに沿って課題の成果を発表。
- 3回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 4回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 5回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 6回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 7回 グループ毎の活動を通して卒論題目を決定。
- 8回 各自、400字程度で論じたい内容をまとめる。
- 9回 各自コンテンションを考え、お互いに議論をしつつ決定。
- 10回 論を膨らますために必要な内容の議論。
- 11回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 12回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 13回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 14回 夏休み期間の過ごし方について、また中間発表の準備。
- 15回 6000字の中間発表用原稿を仕上げる。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（発表、討論の参加など）...50% 卒論の予備レポート...40% 活動への参加度...10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習A-1、A-2を通して指示した必要文献、資料を読んでおいてください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 演習B - 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」

# 演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

春休み明けに提出してもらった卒論の構想に対する個別指導を十分な時間をかけて行ないます。構想を十分に練った後に卒論の執筆を開始することが、能率的な卒論作成につながります。また、卒論の大まかな下書きを、早い時期から書き始めることにより、無理のない形で余裕をもって卒論を完成させます。4年次は、就職活動で多忙になるので、ゼミ生の都合に合わせて、個別指導を行ないます。日時等は、メールをやり取りすることにより決定します。卒論執筆に関して疑問が生じた際には、いつでも指導を行います。

## 教科書 /Textbooks

テキストは用いません。必要に応じて資料をコピーの形で配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

図書館2階、階段を上がってすぐのところにある、指定図書コーナー(前田譲治のところ)に多数の卒論執筆に関するマニュアルがあるので、各自、参照してください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論のテーマの決定に関する個別指導1
- 2回 卒論のテーマの決定に関する個別指導2
- 3回 卒論のテーマの決定に関する個別指導3
- 4回 卒論のテーマの決定に関する個別指導4
- 5回 卒論のテーマの決定に関する個別指導5
- 6回 卒論のテーマの決定に関する個別指導6
- 7回 卒論のテーマの決定に関する個別指導7
- 8回 卒論の全体的構成に関する個別指導1
- 9回 卒論の全体的構成に関する個別指導2
- 10回 卒論の全体的構成に関する個別指導3
- 11回 卒論の全体的構成に関する個別指導4
- 12回 卒論の全体的構成に関する個別指導5
- 13回 卒論の全体的構成に関する個別指導6
- 14回 卒論の全体的構成に関する個別指導7
- 15回 夏休み中の課題に関する説明

## 成績評価の方法 /Assessment Method

春休み明けレポート...50% 卒論指導の受講状況...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論指導を受ける前に、メールでアポを取ってください。卒論の構想や下書き等の指導対象は、指定された時間までに、事前にファイルをメールで送付して下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

3年次のゼミでの成果を活かして、フランス文化を主題とした卒業論文作成のための発表と準備を行う。

## 教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 卒論テーマ案についての発表
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・50% 平常点・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論のテーマ案としていくつかのプランを考えておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

4年生以上を対象とする授業である。合宿を行うことがある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の興味を発見し、それを論文によって他人に伝える練習をします。作文とは違う、論文の書き方についても学んでもらいます。

## キーワード /Keywords

フランス 記憶 表象 展示 映画 現代美術 モニュメント 死

# 演習 B - 1 【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

卒業論文作成に向けて、各自が卒論のテーマに沿った報告を行う。

## 教科書 /Textbooks

各自で用意する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、各自で調査・収集する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方についての話し合い。卒論の書き方などについての確認。
- 2回 受講者による発表・質疑応答。
- 3回 受講者による発表・質疑応答。
- 4回 受講者による発表・質疑応答。
- 5回 受講者による発表・質疑応答。
- 6回 受講者による発表・質疑応答。
- 7回 受講者による発表・質疑応答。
- 8回 受講者による発表・質疑応答。
- 9回 受講者による発表・質疑応答。
- 10回 受講者による発表・質疑応答。
- 11回 受講者による発表・質疑応答。
- 12回 受講者による発表・質疑応答。
- 13回 受講者による発表・質疑応答。
- 14回 受講者による発表・質疑応答。
- 15回 まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業への貢献度、発表内容)100%。ただし出席状況によって減点する場合がある。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は、必ずレジュメを作成して発表にのぞむこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

このゼミは、歴史学からの「スペイン研究」です。比較史の視点からスペインの社会・文化を中心に、できるだけゼミ学生の共通のテーマに関する論文を読み、論文作成の作法を習得します。同時に、卒業論文作成に向け、個別発表を中心とする授業になります。

## 教科書 /Textbooks

最初の授業でプリントおよび「論文の書き方マニュアル」を配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○関哲行ほか編『スペイン史2 近現代・地域からの視座』山川出版社、2008年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的講義：プリント配布と文献案内・ゼミの進め方
- 2回 論文の書き方について（形式論）
- 3回 論文を読みながら註のつけ方を学ぶ
- 4回 日本語で書かれたスペイン研究文献について
- 5回 ゼミ生の個別報告（1）
- 6回 ゼミ生の個別報告（2）
- 7回 ゼミ生の個別報告（3）
- 8回 ゼミ生の個別報告（2）
- 9回 ゼミ生の個別報告（3）
- 10回 報告の検証（反省会）
- 11回 卒業論文作成に向けての文献収集について
- 12回 卒業論文の序論を書いてみる
- 13回 論文の骨子（目次）を書いてみる
- 14回 ゼミ生のテーマを相互に語る
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

個別報告 70% レポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中の質疑応答には積極的に発言する。資料収集を夏休み前までに済ませる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習B - 1 【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ゼミ生が自らの関心により研究課題を見出すこと、そして自ら自身で考え分析し調べる方法を編み出すことが授業のねらいです。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に、紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論テーマ関連の春休み課題発表、議論
- 2回 卒論テーマ関連の春休み課題発表、議論
- 3回 卒論テーマ関連の春休み課題発表、議論
- 4回 過去の芳之内ゼミ生の論文を読む
- 5回 過去の芳之内ゼミ生の論文を読む
- 6回 卒論テーマ関連の資料収集状況の発表、資料分析、資料批判
- 7回 卒論テーマ関連の資料収集状況の発表、資料分析、資料批判
- 8回 卒論テーマ関連の資料収集状況の発表、資料分析、資料批判
- 9回 卒論の構成・見出し語の立て方；論文作成法、調査研究方法指導
- 10回 卒論の構成・見出し語の立て方；論文作成法、調査研究方法指導
- 11回 卒論の部分発表
- 12回 卒論の部分発表
- 13回 卒論の部分発表
- 14回 卒論の部分発表
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み60%、質疑応答40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表担当者は、前日までに発表内容、レジユメをメールで知らせてください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

### 授業の概要 /Course Description

各人のドイツ文化研究を、論文としてまとめる。

### 教科書 /Textbooks

特になし。

### 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 執筆状況報告第一期①
- 2回 執筆状況報告第一期②
- 3回 論の構成について①
- 4回 資料の用い方について
- 5回 執筆状況報告第二期①
- 6回 執筆状況報告第二期②
- 7回 文体修正について
- 8回 論の構成について②
- 9回 執筆状況報告第三期①
- 10回 執筆状況報告第三期②
- 11回 註のチェックについて
- 12回 最終校報告①
- 13回 最終校報告②
- 14回 最終校チェック
- 15回 論文提出

### 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・ 20%、提出論文・ 80%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

## 演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

### 授業の概要 /Course Description

卒論の進行状況について、実際に執筆した原稿も含めて報告してもらいます。報告に対しては細かな指導を加え、仕上げを目指します。

### 教科書 /Textbooks

特になし

### 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて演習中に指示します。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 オリエンテーション
- 第二回 個人研究報告 ( 1 )
- 第三回 個人研究報告 ( 2 )
- 第四回 個人研究報告 ( 3 )
- 第五回 個人研究報告 ( 4 )
- 第六回 個人研究報告 ( 5 )
- 第七回 卒論指導 ( 1 )
- 第八回 個人研究報告 ( 6 )
- 第九回 個人研究報告 ( 7 )
- 第十回 個人研究報告 ( 8 )
- 第十一回 個人研究報告 ( 9 )
- 第十二回 個人研究報告 ( 1 0 )
- 第十三回 個人研究報告 ( 1 1 )
- 第十四回 卒論指導 ( 2 )
- 第十五回 まとめ

### 成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加 30% 報告内容 70%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

夏休み中の勉強が、卒論執筆で大きくものを言います。夏休みの間にできるだけ多くの文献を探し、目を通して置いて下さい。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよラストスパートです。お互いに問題点を指摘しあって、より良い卒論を目指しましょう。

### キーワード /Keywords

## 演習 B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

### 授業の概要 /Course Description

「演習 A - 2」と合同で行うので、三年生の発表に対するディスカッションに参加すること。  
但し、四年生は、それとは別に卒業論文を書き始め、少なくとも10月初旬・11月中頃・12月中頃の三回は下書きを提出し、添削・コメントを受けながら卒業論文の完成を目指してもらう。

### 教科書 /Textbooks

なし

### 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業論文の進展状況の確認
- 2回 博物館あるいは美術館見学
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 卒業論文の進展状況の確認
- 5回 卒業論文の進展状況の確認
- 6回 発表とディスカッション
- 7回 発表とディスカッション
- 8回 発表とディスカッション
- 9回 発表とディスカッション
- 10回 発表とディスカッション
- 11回 発表とディスカッション
- 12回 発表とディスカッション
- 13回 博物館あるいは美術館見学
- 14回 卒業論文執筆報告会
- 15回 卒業論文執筆報告会

### 成績評価の方法 /Assessment Method

添削・コメントを踏まえて改善されているかどうか...70% レポート...10% 授業への参加態度...20%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

三年生の発表に参加する際には、どのような作品あるいは画家であるか事前に確認しておくこと。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

## 演習 B - 2 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

### 授業の概要 /Course Description

1学期に演習 B - 1 で卒論の題目を決定した人が、卒論執筆の経過報告を行い、指導を受ける時間です。  
3年生の演習の時間に経過報告を行うとともに、2週間に1度程度の間隔で卒論の個別指導を行います。

### 教科書 /Textbooks

なし

### 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

研究史と史料を各自で探して文献目録を作成、提出してもらいます。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 以後、授業と並行して2週間に1回程度のペースで卒論の指導を行う
- 2回 3年生第1次テーマ報告への質疑①
- 3回 3年生第1次テーマ報告への質疑②
- 4回 3年生第1次テーマ報告への質疑③
- 5回 卒論史料紹介①
- 6回 卒論史料紹介②
- 7回 卒論史料紹介③
- 8回 卒論史料紹介④
- 9回 卒論章立て①
- 10回 卒論章立て②
- 11回 卒論章立て③
- 12回 卒論章立て④
- 13回 卒論原稿チェック
- 14回 卒論修正、卒論文集作成
- 15回 まとめ

### 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告状況で100%評価する。

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論指導には必ずしたがって下さい。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

## 演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

### 授業の概要 /Course Description

日本の古代・中世文化に関するテーマを受講生各自が自由に選択し、研究に取り組んでもらい、その成果を発表してもらう。

### 教科書 /Textbooks

使用しない

### 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しない

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究発表と討議
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

### 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...100%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究発表にあたって、事前に発表内容に関する相談を受けること。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

日本文化、神道、仏教

## 演習B - 2 【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

### 授業の概要 /Course Description

卒業論文作成のための発表をおこなう。  
各自のテーマを引き続き深めて卒業論文の作成のための準備をする。  
なお演習A-2と連動したグループ討議もおこなう。

### 教科書 /Textbooks

特になし。

### 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文作成にむけての発表①
- 3回 卒業論文作成にむけての発表②
- 4回 卒業論文作成にむけての発表③
- 5回 卒業論文作成にむけての発表④
- 6回 卒業論文作成にむけての発表⑤
- 7回 卒業論文作成にむけての発表⑥
- 8回 卒業論文作成にむけての発表⑦
- 9回 卒業論文作成にむけての発表⑧
- 10回 卒業論文後期中間発表①
- 11回 卒業論文後期中間発表②
- 12回 卒業論文後期中間発表③
- 13回 卒業論文後期中間発表④
- 14回 卒業論文後期中間発表⑤
- 15回 まとめ

### 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...40% 発表...60%  
( 平常点の一部としてレポートを課す場合がある )

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords



## 演習B - 2 【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

### 授業の概要 /Course Description

「道信集」を読む。  
1学期に引き続き道信の和歌、それを通じて伺える道信の半生を追究する。

### 教科書 /Textbooks

B - 1を参照

### 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

同前

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 担当者の発表と質疑 ( 4 0・ 4 1・ 4 2 番歌 ) 以降同様。
- 2回 同上 ( 4 3・ 4 4・ 4 5 番 )
- 3回 同上 ( 4 6・ 4 7・ 4 8 番 )
- 4回 同上 ( 4 9・ 5 0・ 5 1 番 )
- 5回 同上 ( 5 2・ 5 3・ 5 4 番 )
- 6回 同上 ( 5 5・ 5 6・ 5 7 番 )
- 7回 同上 ( 5 8・ 5 9・ 6 0 番 )
- 8回 同上 ( 6 1・ 6 2・ 6 3 番 )
- 9回 同上 ( 6 4・ 6 5・ 6 6 番 )
- 10回 同上 ( 6 7・ 6 8・ 6 9 番 )
- 11回 同上 ( 7 0・ 7 1・ 7 2 番 )
- 12回 同上 ( 7 3・ 7 4・ 7 5 番 )
- 13回 同上 ( 7 6・ 7 7・ 7 8 番 )
- 14回 同上 ( 7 9・ 8 0・ 8 1 番 )
- 15回 後半部のまとめ

### 成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 50% レポート... 50%  
無断欠席は不可

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回分の翻字を用意しておくこと。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

## 演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 赤塚 正幸 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

### 授業の概要 /Course Description

習得した日本近代文学の研究手法の卒業論文への応用

### 教科書 /Textbooks

使用しない

### 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 卒業論文で自分が論ずる作家やその作品をもとに、どのように卒業論文を書こうとしているか発表する

### 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの提出状況による。100%。

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をよく読んでおく

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

## 演習B - 2 【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

### 授業の概要 /Course Description

受講者が、各自の卒業論文のテーマにあわせて演習発表をする。  
作品を解釈し、かつ評価する行為を通じて、思考することの大切さを学ぶ。

### 教科書 /Textbooks

各自が担当する作品本文および発表用資料を用意して配布する。

### 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習担当予定表の作成  
第2回～15回 受講者による演習

### 成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容...50% 授業への意欲的な参加...50%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 演習 B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。扱う言語資料については、受講者の興味や関心を考慮に入れつつ決定する予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針と発表予定について
- 第2回 研究論文の書き方
- 第3回 資料編の作成方法
- 第4回 模擬発表
- 第5回 各人の発表(1)
- 第6回 各人の発表(2)
- 第7回 各人の発表(3)
- 第8回 各人の発表(4)
- 第9回 各人の発表(5)
- 第10回 各人の発表(6)
- 第11回 各人の発表(7)
- 第12回 各人の発表(8)
- 第13回 各人の発表(9)
- 第14回 各人の発表(10)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% 課題...30%  
その他、出席を重視します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 4年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人の触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習B - 2では、前半に卒業論文の中間報告を行います。そして、後半に卒業論文の提出後、研究成果発表会を行います。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『ライブ講義質的研究とは何か：SCQRMベーシック編』(西條剛央、新曜社)
- 『ライブ講義質的研究とは何か：SCQRMアドバンス編』(西條剛央、新曜社)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション及び、夏休みの経過報告
- 2回 中間発表：発表者(1)
- 3回 中間発表：発表者(2)
- 4回 論文の書き方(1)：全体
- 5回 論文の書き方(2)：序論と結論
- 6回 論文の書き方(3)：本論
- 7回 個別研究指導(1)
- 8回 個別研究指導(2)
- 9回 個別研究指導(3)
- 10回 個別研究指導(4)
- 11回 論文完成前の点検(1)論の展開、構成
- 12回 論文完成前の点検(2)校正
- 13回 卒論発表の準備
- 14回 卒論発表会
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメ及び、質疑応答も含む) ... 70 % 授業への取り組み ... 30 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献は、適宜紹介します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

### 授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんと一っしょに語り合います。4年次では、大学4年間の総決算ともいうべき卒論の指導をします。9月の中間発表以降も、原則としてグループ活動になります。お互いに切磋琢磨しつつ、各自の論文をより良いものに仕上げていきます。2学期も、原則1学期に分けた各グループ毎に日程を調整して毎週集まり、中間発表の原稿をお互いに読み合い、コメントを出し合うことで、より客観的で論理的な文章、あるいは説得力のある表現方法を習得し、最終的には自分自身の中間発表原稿を、より完成度の高い卒論に仕上げていきます。

\*ゼミ通信や4年生の卒論(中間)発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。

\*ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定です。

### 教科書 /Textbooks

特にありません。

### 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 後期の方針の確認。
- 2回 各グループの第1発表者のプレゼンと議論。
- 3回 各グループの第2発表者のプレゼンと議論。
- 4回 各グループの第3発表者のプレゼンと議論。
- 5回 各グループの第4発表者のプレゼンと議論。
- 6回 各グループの第5発表者のプレゼンと議論。
- 7回 各グループの第1発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 8回 各グループの第2発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 9回 各グループの第3発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 10回 各グループの第4発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 11回 各グループの第5発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 12回 卒論の内容要約の作成。
- 13回 論集作りについての議論。
- 14回 論集作りについての議論。
- 15回 最終発表会の準備。

### 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発表、討論の参加など)...50% 卒論の予備レポート...40% 活動への参加度...10%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に提示する様々な文献、あるいは各自で調べた資料、文献など、どんどん読み進めて下さい。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## 演習B - 2 【昼】

### キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」

## 演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

### 授業の概要 /Course Description

4年前期に確定した研究テーマを、卒論の形に結実させるべく、卒論に関する個別指導を、時間をかけて繰り返し行います。具体的には、夏休み明けに提出してもらった卒論の下書きに対して、どこをどのように改訂すべきなのか、どのような加筆をさらに行わなければならないのかといった、詳細な指導を行います。個別指導の日時は、ゼミ生の都合に合わせて。日時等は、メールをやり取りすることにより決定します。指導に沿って卒論の下書きを改訂することにより、自然に無理なく卒論が完成するよう工夫したいと思います。併せて、就職活動に関する相談にも知識の及ぶ限り応じます。

### 教科書 /Textbooks

テキストは用いません。必要に応じて資料をコピーの形で配布します。

### 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

図書館2階、階段を上がってすぐのところにある、指定図書コーナー(前田譲治のところ)に多数の卒論執筆に関するマニュアルがあるので、各自、参照してください。卒論執筆の際に有益と思われる書物に関しては、個別指導の中で各人に教示します。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 章レベルでの個別指導1
- 2回 章レベルでの個別指導2
- 3回 章レベルでの個別指導3
- 4回 章レベルでの個別指導4
- 5回 章レベルでの個別指導5
- 6回 段落レベルでの個別指導1
- 7回 段落レベルでの個別指導2
- 8回 段落レベルでの個別指導3
- 9回 センテンスレベルでの個別指導1
- 10回 センテンスレベルでの個別指導2
- 11回 センテンスレベルでの個別指導3
- 12回 単語レベルでの個別指導1
- 13回 単語レベルでの個別指導2
- 14回 単語レベルでの個別指導3
- 15回 提出前の最終チェック

### 成績評価の方法 /Assessment Method

夏休み明けレポート...50% 卒論指導の受講状況...50%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論指導を受ける前に、メールでアポを取ってください。また、卒論指導に沿って、卒論原稿に加筆修正を加えておいてください。卒論の下書きは、指定された時間までに、事前にファイルをメールで送付して下さい。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords



## 演習B - 2 【昼】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

### 授業の概要 /Course Description

卒業論文作成のための中間発表と最終点検を行う。

### 教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。

### 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示する。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～7回 卒論中間発表
- 8回～15回 卒論執筆の点検

### 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・50% 平常点・・50%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中間発表ができるところまで、卒論の準備をしておくこと。

### 履修上の注意 /Remarks

4年生以上を対象とする授業である。合宿を行うこともある。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の興味を発見し、それを論文によって他人に伝える練習をします。作文とは違う、論文の書き方についても学んでもらいます。

### キーワード /Keywords

フランス 記憶 表象 展示 映画 現代美術 モニュメント 死

## 演習B - 2 【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

### 授業の概要 /Course Description

卒業論文作成に向けて、各自が卒論のテーマに沿った発表を行う。

### 教科書 /Textbooks

各自で用意する。

### 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、各自で調査・収集する。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論の進捗状況についての確認。
- 2回 受講者による発表・質疑応答。
- 3回 受講者による発表・質疑応答。
- 4回 受講者による発表・質疑応答。
- 5回 受講者による発表・質疑応答。
- 6回 受講者による発表・質疑応答。
- 7回 受講者による発表・質疑応答。
- 8回 受講者による発表・質疑応答。
- 9回 受講者による発表・質疑応答。
- 10回 受講者による発表・質疑応答。
- 11回 受講者による発表・質疑応答。
- 12回 受講者による発表・質疑応答。
- 13回 受講者による発表・質疑応答。
- 14回 受講者による発表・質疑応答。
- 15回 まとめ。

### 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業への貢献度、発表内容)100%。ただし出席状況によって減点する場合がある。

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者は、必ずレジュメを作成して発表にのぞむこと。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

## 演習 B - 2 【昼】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

### 授業の概要 /Course Description

この2学期のゼミは、基本的には卒業論文の経過報告（発表会）です。ゼミ生には3回ほど報告してもらいます。それぞれ異なるテーマの寄せ集めになりますが、このゼミの共同財産という自覚を持ちましょう。

### 教科書 /Textbooks

B - 1の演習で配布した「論文の書き方」、モデル論文など

### 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○スペイン関係文献目録(坂東省次編)

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ生による卒業論文の進捗状況報告
- 2回 ゼミ生による各自の「序論」の相互発表
- 3回 モデル論文を読む(1)
- 4回 モデル論文を読む(2)
- 5回 個別発表(1)
- 6回 個別発表(2)
- 7回 個別発表(3)
- 8回 論文作成指導(1)
- 9回 論文作成指導(2)
- 10回 個別発表(4)
- 11回 個別発表(5)
- 12回 個別発表(6)
- 13回 教員による個別支援
- 14回 教員による個別支援
- 15回 まとめ

### 成績評価の方法 /Assessment Method

個別発表の内容 100%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ生の間で相互に刺激しあって、強い意志で卒業論文完成にまい進する。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

## 演習B - 2 【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

### 授業の概要 /Course Description

ゼミ生が自らの関心により研究課題を見出すこと、そして自ら自身で考え分析し調べる方法を編み出すことが授業のねらいです。

### 教科書 /Textbooks

なし

### 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に、紹介します。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論関連の夏休み課題レポートの発表、議論
- 2回 卒論関連の夏休み課題レポートの発表、議論
- 3回 卒論関連の夏休み課題レポートの発表、議論
- 4回 課題レポートにおける重要概念について議論
- 5回 卒論発表、議論
- 6回 卒論発表、議論
- 7回 卒論発表、議論
- 8回 卒論発表、議論
- 9回 卒論発表、議論
- 10回 卒論発表、議論
- 11回 卒論発表、議論
- 12回 卒論発表、議論
- 13回 卒論発表、議論
- 14回 卒論発表、議論
- 15回 まとめ

### 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み60%、質疑応答40%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表担当者は、前日までに発表内容、レジユメをメールで知らせてください。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 比較文化入門 1 (日本) 【昼】

担当者名 比較文化学科教員  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

講義形式の回と少人数のクラスに分かれたクラスセミナーの回で構成されます。講義形式の回では、日本文化関係の教員が専門領域について、基本的な知識や研究方法などをオムニバス方式で講義します。クラスセミナーの回では、図書館研修やレポートの書き方の学習などを通して、大学生としての基礎的な能力を身に付けるとともに、少人数の演習形式の授業の準備をします。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

図書館の「比較文化入門・指定図書コーナー」に、各教員の推薦図書を設置しています。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 比較文化への招待
- 第2回 クラスセミナー
- 第3回 講義 1
- 第4回 講義 2
- 第5回 クラスセミナー
- 第6回 講義 3
- 第7回 講義 4
- 第8回 クラスセミナー
- 第9回 講義 5
- 第10回 講義 6
- 第11回 講義 7
- 第12回 講義 8
- 第13回 クラスセミナー
- 第14回 講義 9
- 第15回 クラスセミナー ( レポート指導・学習指導 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート100%。クラスセミナーでの参加態度を加味します。  
 ・ レポートは2つ課されます。2つとも提出しなければ、評価の対象となりません。  
 ・ 各学期5回以上欠席した場合、もしくはクラスセミナーを2回以上欠席した場合も、評価の対象となりません。遅刻の取り扱いなどを含め、詳細は初回の授業で説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業計画は若干変更になる可能性があります。  
 初回の授業で詳細なスケジュールや成績評価の方法をお知らせしますので、必ず出席してください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

比較文化

# 比較文化入門 2 ( 欧米 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

講義形式の回と少人数のクラスに分かれたクラスセミナーの回で構成されます。講義形式の回では、欧米文化関係の教員が専門領域について、基本的な知識や研究方法などをオムニバス方式で講義します。クラスセミナーの回では、演習形式で全員が発表を行い、意見交換を行います。その中で3年次からの演習(ゼミ)や卒業論文作成の基礎を身に付けます。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

使用しない。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 クラスセミナー 各クラス担当教員
- 2回 講義 1
- 3回 講義 2
- 4回 講義 3
- 5回 クラスセミナー 各クラス担当教員
- 6回 講義 4
- 7回 講義 5
- 8回 クラスセミナー 各クラス担当教員
- 9回 講義 6
- 10回 講義 7
- 11回 クラスセミナー 各クラス担当教員
- 12回 講義 8
- 13回 講義 9
- 14回 クラスセミナー 各クラス担当教員
- 15回 まとめ 各クラス担当教員

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、発表50%。クラスセミナーでの参加態度を加味します。  
 ・ レポート提出と発表の両方を満たさなければ、評価の対象となりません。  
 ・ 各学期5回以上欠席した場合、もしくはクラスセミナーを2回以上欠席した場合も、評価の対象となりません。遅刻の取り扱いなどを含め、詳細は初回の授業で説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 日本文化概論 【昼】

担当者名 /Instructor 古相 正美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本人と日本の特質について考え、その一端にでも気づくことが、この授業の目的である。  
 その方法として、文字で書かれた作品を資料として読解していきながら、日本の文字を理解していく。  
 具体的には、まず、古代の神話を読解し、文字を持たない民族が手に入れた文学と文字を味わう。その後の日本人と日本語の変遷を、作品の読解とともに味わい、その変化を考える。  
 変体仮名と言われる文字も読解できるようになりながら、昔の日本人の感覚を体験する。

## 教科書 /Textbooks

プリントを、随時配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特には指定しないが、日本語や日本人に関する本を読んでほしい。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 日本人はどこから来たか。
- 3回 古代の日本語
- 4回 日本の神話 古事記(日本の始まり)
- 5回 ヤマトノオロチ・因幡の白兔
- 6回 万葉集・風土記(浦島)
- 7回 仮名文字の発生(変体仮名の基本)
- 8回 百人一首を仮名文字で読む。 その1
- 9回 百人一首を仮名文字で読む。 その2
- 10回 中世の浦島。
- 11回 江戸の浦島
- 12回 江戸の絵本
- 13回 明治の浦島
- 14回 現代の絵本
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加(50%) 日本語を読解できる(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校時代の古典の授業・日本史の授業を思いだしてほしい。

## 履修上の注意 /Remarks

授業を聞く気持のない人は履修しないこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

古い文章を、基本から教えるつもりです。漢字は難しくても、仮名文字程度は読めるようになることが目標です。文字を介して、昔の日本人に思いをはせて欲しいと思います。

## キーワード /Keywords

日本人・変体仮名・神話・昔話

# 欧米文化概論 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科, 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科  
 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

英米文化（欧米文化）を理解するのに、避けては通れない「三種の神器」があります。Greek Mythology（ギリシア神話）、Christianity（キリスト教）、そしてMother Goose（or Nursery Rhymes：マザーグースあるいは伝承童謡、わらべ唄）の3つです。これらは英米（欧米）の様々な文化現象（新聞、雑誌、映画、文学、歌などなど）の中に、誰もが知っていて当然のこととして内在していることがよくあります。

例えば、シェークスピアの『ハムレット』には、ギリシア神話でお馴染みの神々や人物の名、あるいは地名が数多く用いられていますが、ギリシア神話の基礎知識なしでは、作者が何を意図してそのような表現を用いたのか理解できません。

また、ある時期までの西洋美術は、キリスト教の知識無しには殆ど理解できないといっても過言ではないでしょう。そもそも、殆どの西洋人が何らかの形で「神」を信じていた19世紀までは、あらゆる文化活動の背後には「神」の影があったのです。もちろん現代にいたるまで、キリスト教信仰は欧米社会に大きな影響力を及ぼしており、知らずにはすまされることが沢山あります。

さらには伝承童謡についても、例えば『鏡の国のアリス』にハンプティ・ダンプティが登場していますが、伝承童謡でおなじみの卵としてのハンプティ・ダンプティを知らなくては『アリス』の物語の面白さは半減してしまいます。

幼い頃から日々の生活の中にこういった「三種の神器」が沁み込んでいる英（欧）米の文化を本当の意味で理解するのは、これらになじみのない我々日本人にとっては甚だ厄介なことです。そこで、本講義ではこれら3つに焦点を当て、その間隙を少しでも埋めることで、異文化理解の礎を築きます。

この授業の主な到達目標は以下の通りです。

- ①欧米文化に関する基本的知識を習得する。
- ②欧米文化の研究方法の基本を習得する。
- ③国際社会において、世界的な視野を持った人間として行動ができる。

## 教科書 /Textbooks

プリントを適宜配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- トマス・ブルフィンチ『「完訳 ギリシア・ローマ神話(上・下)」(角川文庫)
- オウティウス『変身物語』(岩波文庫)
- 北森嘉蔵『聖書百話』(講談社学術文庫)
- The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes (Oxford)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入、ギリシアの神々の系譜
- 2回 文学、芸術の中のギリシア神話(1)
- 3回 文学、芸術の中のギリシア神話(2)
- 4回 トロイ戦争と「イーリアス」
- 5回 トロイ戦争と「オデュッセイアー」
- 6回 キリストの誕生 / キリスト教の誕生 (キリスト教と聖書)
- 7回 マリア信仰とキリスト教 (キリスト教とジェンダー)
- 8回 科学と宗教の相克 (近代とキリスト教)
- 9回 キリスト教と現代欧米社会 (現代における宗教の意義)
- 10回 Mother Goose の成り立ちと概略
- 11回 Let's play with Mother Goose (1) Humpty Dumpty 他
- 12回 Let's play with Mother Goose (2) Mary Had a Little Lamb 他
- 13回 Mother Goose の影響 (『不思議の国のアリス』や萩尾望都などへの影響)
- 14回 Mother Goose と日本の伝承童謡 (アンケート)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・35%  
 試験・・・・・・65%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review



# 欧米文化概論 【昼】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布される資料には、よく目を通しておいください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

「三種の神器」「ギリシア神話」「キリスト教」「ユダヤ教」「宗教紛争」「マザーグース」「伝承童謡」

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義ではまず「文学」という言葉を広義に解釈し、いわゆる詩や劇、小説、散文はもちろんのこと、様々な人間の生き方を包括的に描いているものであれば、漫画や映画をも含めて論じていき、「文学」の堅いイメージを覆し、文学のおもしろさを共有します。学際的な文学は、多くの読者（鑑賞者）に感動を与えつつ、人間に関する様々な問題について考えさせてくれる、いわば生きる糧なのです。因みに、人類の様々な学問を一輪の花に譬えるならば、そして、根を心理学、花の部分を美学であるとするならば、文学はその花全体を研究する、総合的、かつ学際的なものであると言えるでしょう。

研究姿勢の基盤ともいべき「疑うことの必要性」から説き起こし、研究に必要不可欠な2つの方法論—比較と分析—と、更にそれを総合へと展開させてゆくことの重要性についても説明します。

比較文学の実践については、まず、比較文学の歴史、「フランス派」（影響関係を調べる）と「アメリカ派」（対比する）の特徴を簡単に見、具体的に様々なテーマ毎（時代比較、国比較、ジャンル比較、その他いろいろ）に文学作品の比較をしていきます。

今、まさにポストモダンの時代。人間が断片的になり、人間同士もバラバラになり、様々な問題が生じています。このような時代にこそ、文学を通じて人間の在り方を問い、人間関係の問題を考え、また日本だけでなく外国の文学を通じて異文化をも理解することで、人間の在り方を問い直し、人間観を広げる一助になればと思います。

## 教科書 /Textbooks

コピーを利用します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究の方法論について（「絶対」の否定、比較と分析）
- 2回 文学とは：文学のおもしろさ、文学は感動、文学は倫理・・・
- 3回 文学とは：文学は想像力（The Missing Piece）、文学は鏡（『緋文字』）・・・
- 4回 文学の必要性：無用の用（『星の王子様』）
- 5回 文学は反体制：物質主義批判（『アメリカの悲劇』）、科学文明批判（「あざ」）、ルール批判
- 6回 文学は反体制：メディア批判（『トゥルーマンショー』）、教育批判（『女王の教室』）・・・
- 7回 文学の読み方、読みの多様性
- 8回 比較文学とは、目的と意義
- 9回 比較文学の方法：（「フランス派」と「アメリカ派」）（『七人の侍』と『荒野の七人』等）
- 10回 比較文学の実践：時代比較、国（地域）比較
- 11回 比較文学の実践：ジャンル比較：小説と映画
- 12回 比較文学の実践：翻訳の問題：俳句とその訳（松尾芭蕉とその翻訳）
- 13回 比較文学の実践：テーマ比較：日米の集団主義と個人主義（『わたしは貝になりたい』と『坩堝』）
- 14回 比較文学の実践：テーマ比較：母性比較（『ピラヴド』『マザー&ラヴァー』）
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験かレポート・・・85%  
授業中の課題など・・・15%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で提示する様々な作品に積極的に接して、文学のおもしろさを味わってください。その際、常に何か他の作品との比較を念頭に置いて読み進めるといいでしょう。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

「学際的」「比較文学」「フランス派」「アメリカ派」「ポストモダン」「比較」「分析」「総合」「無用の用」

# メディア文化概論【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

我々の生活は、様々なモノや表現によって媒介されて成り立っている。この授業では、「メディア」という概念が含み込んでいる視点を、講義するなかでメディア論的な思考を獲得することを目指す。個人の生活あるいは集団生活がどのようなメディアの仕掛けのもとに成立しているのかを批判的に見直すことが目標となる。以下の予定内容以外に、日常生活環境を見つめ直すためのトピックを随時挿入する。そのため、スケジュールは便宜的であり、順序の変更もありうる。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 ガイダンス メディアは「当たり前」をつくる
- 第2回 メディア論事始め①メディアは身体の拡張である【M.マクルーハン】
- 第3回 メディア論事始め②メディアはメッセージである【メディア論】
- 第4回 メディア論事始め③メディアには「カタチ」がある【物質性】【R.シャルチエ】
- 第5回 メディア史① メディアには「歴史」がある【文明史】【声】【文字】【印刷】
- 第6回 メディア史② メディアの誕生・社会化①【初期映画】
- 第7回 メディア史③ メディアの誕生・社会化②【活動写真】【トーキー】
- 第8回 メディア史④ メディアの誕生・社会化③【電話】【家庭】【個人】
- 第9回 メディア史⑤ メディアの誕生・社会化④【携帯電話】
- 第10回 メディア史⑥ メディアの誕生・社会化⑤【レコード】【ラジオ】
- 第11回 メディア史⑦ メディアの誕生・社会化⑥【ウォークマン】
- 第12回 研究の視点① メディアは「一体感」をつくる【メディアイベント】
- 第13回 研究の視点② メディアは理解 / 誤解を生む①【エンコーディング・デコーディング】【S.ホール】
- 第14回 研究の視点③ メディアは理解 / 誤解を生む②【オーディエンス】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、小テスト、課題など)...約20% 学期末試験約80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の受講準備として、それまでの講義内容のメモ・ノートを必ず見直しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 文化交流史 【昼】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

1. 「文化」と「交流」の意味を考える
2. 「日本史」「世界史」の枠を越えて歴史の知識がどのように結びつくのかを見る
3. 歴史を時間ではなく空間における変化として捉える
4. 「もの」が人間の歴史に果たした役割を理解する
5. 味覚・視覚・嗅覚などの感覚から歴史を見る

## 教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 山田憲太郎『香料の歴史』(紀伊国屋新書)
- 白井隆一郎『コーヒーが廻り世界史が廻る』(中公新書)
- W・シヴェルブシュ『楽園・味覚・理性』(法政大学出版局)他

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス 【社会革命】とは
  - 2回 文化交流としての「ルネサンスの三大発明」①・・・火薬・羅針盤
  - 3回 文化交流としての「ルネサンスの三大発明」②・・・活字
  - 4回 【香料革命】①香料とは
  - 5回 【香料革命】②宋代の中国と【香料革命】
  - 6回 【香料革命】③ヨーロッパの【香料革命】
  - 7回 【香料革命】④14・15世紀におけるヨーロッパの食文化
  - 8回 大航海時代
  - 9回 【価格革命】と【銀革命】
  - 10回 大航海時代と【鉄砲革命】①鉄砲伝来
  - 11回 大航海時代と【鉄砲革命】②火薬の製造
  - 12回 大航海時代と【鉄砲革命】③塩年貢と在村鉄砲
  - 13回 ヨーロッパの【嗜好品革命】①コーヒー
  - 14回 ヨーロッパの【嗜好品革命】②チョコレート
  - 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 世界の文化遺産【昼】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

人類の誕生以来、この地球上の各地で、人間集団がそれぞれ独自の文明や文化の多様な形態を創造してきました。この授業では、おもに専任の教員がそれぞれの専門領域の視点から、日本および世界各地の文化遺産を取りあげます。教室にいながらの「旅」です。旅は「人を考える人間にする」といいますが、文化遺産を歴史のなかに位置づけ、その意義や、それが今日の私たちに伝えるメッセージを読み解きたいものです。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。それぞれの担当者が資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

図書館のAVルームに世界遺産などのDVがありますので、テーマによっては、事前に、あるいは事後に、活用することもできます。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文化遺産に関する序論的な講義
- 2回 移民の街ニューヨーク：自由の女神にみるアメリカの大義(1)
- 3回 移民の街ニューヨーク：自由の女神にみるアメリカの大義(2)
- 4回 モン・サン＝ミシエルと修道院文化
- 5回 聖遺物という宝物-サント。シャベルからコンクまで-
- 6回 ライン渓谷の城とドイツの歴史
- 7回 ライン・ロマンチズム-古城再建ブームと廃墟の美
- 8回 ウクライナのリヴィウ歴史地区 古い町並みとその歴史
- 9回 ウクライナのリヴィウ歴史地区 さまざまな教会
- 10回 宗像沖ノ島：海の正倉院(1) 沖ノ島遺跡について
- 11回 宗像沖ノ島：海の正倉院(2) 沖ノ島と神道の形成
- 12回 オランダ史とオランダの文化遺産
- 13回 インドネシア・タイ・ベトナムの文化遺産
- 14回 ゲスト講師予定
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本の内容。50点+50点で評価する。ただし、出欠状況により減点することがある。5回以上欠席の場合は、評価の対象とはしない。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれのテーマに関する基本的知識は、辞典の類やインターネットで事前に調べておくと理解が深まります。

## 履修上の注意 /Remarks

比較文化入門と同じく、5回以上欠席すると評価対象になりません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 書道【昼】

担当者名 大森 アユミ / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義・実習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

授業のねらい：

中学校の書写指導に携る国語教師として必要な理論・実技と実践的指導法を中心に学習する。

具体的には、書写の教育目標・指導内容を理解し、基本的な見識と実践力を養うことともに、書写指導者としての実技力を高めることを目指す。実技での漢字は、楷書体・行書体を中心とする。

授業方法：

理論は、プリントに記入しながら理解を深めていく。

実技は、ポイントを確認しながら練習し、技能を高めていく。

教科指導法は、授業VTRの視聴を通して授業のあり方を考える。

到達目標：

学習指導要領に示された中学校国語科書写の指導内容及び望まれる授業のあり方を正しく理解でき、講義を通して学んだことを踏まえて、授業を構想することができる。

## 教科書 /Textbooks

「明解 書写教育」 萱原書房

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

中学校国語科学習指導要領

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①第 1・ 2回 受講基礎調査、筆順の原則とその指導の考え方
- ②第 3・ 4回 書写書道教育史と学習指導要領の変遷と内容、記念作品を書く
- ③第 5・ 6回 基本点画のその技法I・ II (片仮名)
- ④第 7・ 8回 基本点画のその技法III・ IV (片仮名)
- ⑤第 9・ 10回 楷書の学習、漢字の字体と書写の楷書(許容体)
- ⑥第 11・ 12回 行書の学習I【大気】、授業研究I【「秋風」】
- ⑦第 13・ 14回 行書の学習II【栄光】、授業研究II【「秋風」解説】
- ⑧第 15・ 16回 行書の学習III【中秋】、授業研究III【「牧歌」】
- ⑨第 17・ 18回 行書の学習IV【自己実現】、授業研究IV【指導案の作成—1時間目分—】
- ⑩第 19・ 20回 行書の学習V【開花】、授業研究V【指導案の作成—2時間目分—】
- ⑪第 21・ 22回 行書の学習VI【充実した生活】、授業研究VI【指導案の作成・学習プリント】
- ⑫第 23・ 24回 仮名の学習、授業研究VII【評価の考え方とその実際】
- ⑬第 25・ 26回 生活の中の書〔細字〕、教材開発I【「自分の花」草稿】
- ⑭第 27・ 28回 行書の学習VII〔硬筆〕、教材開発II【「自分の花」仕上げ】
- ⑮第 29・ 30回 書体の変遷、授業全般の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート：50%

課題I：20% (ポートフォリオ)

課題II：20% (指導案・学習プリント)

日常の授業への取り組み：10% (欠席をマイナス)

課題I・IIが未提出または不備の場合は「失格」とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毛筆の実技能力に関しては、経験の無い者・苦手意識の強い者は、授業後に各自で復習すること。

# 書道【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

書道用具一式は各自で持参【共有は不可】（筆4号サイズ,小筆,硯,文鎮,下敷,半紙,墨液）

授業開始20分以内に入室した場合を「遅刻」とし、遅刻回数3回を欠席回数1回とみなす。

評価を得るには、実施授業時数の「4/5以上」出席のこと。

「公欠」は考慮はするが、「出席」扱いとはしない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

③~⑥に内容は、課題I・IIに関するものであるため、この間に欠席すると課題作成に支障がでます。

指定された履修学年時に履修のこと。4年は再履修者のみとする。（上記「履修上の注意」参照）

## キーワード /Keywords



## 日本語教育学I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 2年  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本語教育とは何か？

日本語教育に限らず、広く第2言語(外国語)教育における複雑で多様な要素に気づくことを第一のねらいとします。教師、学習者、授業、教えること、学ぶこと等を通して、日本語教育の現状を知り、それに自分自身がどのように関わるかを考え、行動できるようになることを期待します。そのため、授業では、クラス内の人間関係作り(構成的グループエンカウンター)や他者との互恵的な学習方法(協同学習)について、体験学習を行います。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本語教育が複合的な領域であることを理解する。
- ②日本語教育について知るための方法を身につける。
- ③日本語教育の課題と暫定的なコースデザインの関係を考えることができる。
- ④日本語教育がグローバル化した社会の人々にとって共通課題であることに関心が持てる。

## 教科書 /Textbooks

『日本語教育の理論と実際 - 学習支援システムの開発』(田中望・齊藤里美、大修館書店)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『日本語教育学を学ぶ人のために』(青木直子他、世界思想社)
- 『自律を目指すことばの学習 - さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)
- 『構成的ブルーエンカウンター事典』(國分康孝他編、図書文化)
- 『先生のためのアイデアブック - 協同学習の基本原則とテクニック - 』(ジョージ・ジェイコブズ他、日本協同教育学会)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【日本語教育】【日本語教育学】
- 2回 日本語教育の課題【多様性】【パラダイムシフト】【学習者オートノミー】
- 3回 暫定的なコースデザイン【コースデザイン】【ニーズ分析】【レディネス分析】【シラバス】
- 4回 学習者による学習目標の意識化【ニーズ】【日本語のレディネス】
- 5回 学習者による学習過程の意識化(1)【学習環境】【リソース】
- 6回 学習者による学習過程の意識化(2)【学習ストラテジー】
- 7回 学習の評価とそのフィードバック(1)【評価の目的】【評価の方法】【学習過程の分析】
- 8回 学習の評価とそのフィードバック(2)【内省】【学習記録】
- 9回 学習者の個人カリキュラム【コースカリキュラム】【個人カリキュラム】
- 10回 チュートリアル【個人カリキュラム】
- 11回 学習の評価とそのフィードバック(3)【個人カリキュラムの評価】【総括的评价】
- 12回 自律学習に適した学習【セルフアクセス・センター】【CALL】【ピア学習】【プロジェクトワーク】
- 13回 自律学習に適した学習について学ぶ【相互学習】
- 14回 学習者の自律的なカリキュラム・デザインとその運営
- 15回 総括【リフレクション】【自己評価】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 課題 ... 30 % 自己評価 ... 20 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育に関する予備知識は必要ありませんが、世の中の動きを知る努力をしましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教師養成課程の履修希望者は、必ず履修してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本語教育は、異文化が接触する場面の連続です。

# 日本語教育学I【昼】

## キーワード /Keywords

コースデザイン パラダイムシフト 学習者オートノミー 個人カリキュラム 自己評価

## 日本語教育学II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

外国語 / 第二言語の習得に関しては、とかく俗説や思い込みが多い。  
日本語教師 (日本語学習支援者) を目指す者がまず知らなければならないのが、どのように言葉が学習されるのかであり、どのように言語学習を支援できるのかである。そこで、自らの外国語学習経験を通して、第二言語習得研究から俗説や思い込みを検証する。

## 教科書 /Textbooks

『自律を目指すことばの学習』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)  
『英語習得の「常識」「非常識」: 第二言語習得研究からの検証』(白畑知彦他、大修館書店)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『日本語教育の理論と実際: 学習支援システムの開発』(田中望他、大修館書店)
- 『英語学習7つの誤解』(大津由紀雄、生活人新書(NHK))
- 『多言語多文化学習のすすめ』(西村淳子、朝日出版社)
- 『外国語の効果的な学び方』(ルービン他、大修館書店)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回授業オリエンテーション
- 2 回複言語のすすめ【複言語】
- 3 回一斉授業の問題点【学習者オートノミー】【自律学習】【ポートフォリオ】
- 4 回チュートリアルとは何か【学習目標】【学習方法】【評価方法】【リソース】【ポートフォリオ】
- 5 回学習計画を立てる【学習目標】【学習方法】【評価方法】【リソース】【ポートフォリオ】
- 6 回チュートリアル体験言語学習(1)【協同学習】
- 7 回チュートリアル体験言語学習(2)【リフレクション】
- 8 回チュートリアル体験言語学習(3)【学習計画の修正】
- 9 回チュートリアル体験言語学習(4)【評価】
- 10 回全体リフレクション【学習の変化】【学習観】【ピラーフス】
- 11 回自律学習の問題点【カウンセリング】【アドバイジング】【ピア・ラーニング】
- 12 回自律学習の応用【チュートリアルの応用】
- 13 回日本社会と日本語教育と学習者オートノミー【多文化共生】【地域日本語学習】
- 14 回学習者オートノミーについてさらに考える【教師オートノミー】【自己主導型学習】
- 15 回まとめ: 日本語教師になること・私たちにできること

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...80 % レポート ...20 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

チュートリアル体験言語学習では、「未習の外国語を学ぶ」または「既習の外国語を初めての学習方法で学ぶ」ことをするので、そのための教材を用意すること

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教師養成課程の「日本語教育学I」を履修しておくこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

第二言語習得の理論について実践的に学ぶために、教科書(実践書と理論書)を2つ指定しています。

## キーワード /Keywords

学習者主体 学習者オートノミー チュートリアル 協同学習 自己評価能力 第二言語習得研究

## 生涯学習学【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。内容としては、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説します。

授業のねらいは、生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養うことにあります。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回生涯学習・社会教育の意義
- 第2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第3回社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第4回社会教育施設と生涯学習施設 -管理運営と連携-
- 第5回生涯学習関連施策の動向 -社会教育の歴史と発展-
- 第6回学習者の特性と学習の継続発展-学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第7回社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第8回社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
- 第9回社会教育施設-公民館
- 第10回社会教育施設-博物館
- 第11回社会教育施設-図書館
- 第12回大都市における公民館-北九州市 -自治体行財政制度と施策立案・推進-
- 第13回図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第14回成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第15回住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 博物館概論 【昼】

担当者名 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。具体的には、これまでの日本の博物館の建設事情および経緯・変遷とともに、「博物館法」に定義された公立博物館を取り巻く諸環境を検証しながら、期待される博物館の役割と課題を考える。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを用意し、各自に配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ 『博物館関係法令集』 (日本博物館協会)
- ・ 網干善教編『博物館学概論』 (関西大学出版)
- ・ 『博物館学講座』全10巻 (雄山閣)
- ・ 『月刊 博物館研究』 (日本博物館協会)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 博物館学の目的・方法・構成
- 2回 博物館学史(「博物館学」の概念と体系の変遷)
- 3回 「博物館法」の理念を理解する
- 4回 日本の博物館の種別と登録状況
- 5回 日本の博物館建設の背景と経緯(歴史と現状)
- 6回 公立博物館と私立博物館
- 7回 博物館と学芸員資格(学芸員の専門性と役割)
- 8回 博物館を取り巻く諸環境と地域性(要望の多様化)
- 9回 文化財公開施設(博物館)の計画に関する指針(環境と組織)
- 10回 博物館事業の種類と目的
- 11回 博物館の事業評価について
- 12回 市民参画および学校教育の支援と連携
- 13回 博物館に関する諸法令(文化財保護法など)
- 14回 博物館の将来を考える
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 100%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞などに取り上げられる博物館の情報に気を配るとともに、少なくとも一か所の博物館(美術館・資料館など)を観覧しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

聞き流すことなく、ポイントをしっかりとメモすること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学芸員資格を取得するという強い意志をもって出席してほしい。

## キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得。

## 博物館資料論 【昼】

担当者名 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

博物館資料の収集・整理・保管等に関する理論や方法について、基礎知識を養う。具体的には、「文化財保護法」を参考にしながら、博物館の調査・研究活動と、博物館資料の取り扱い、活用に関する手順を理解する。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを用意し、各自に配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ 『博物館学講座』全10巻(雄山閣)
- ・ 『文化財保護行政ハンドブッカー美術工芸品編一』(ぎょうせい)
- ・ 『月刊 文化財』(文化庁)
- ・ 『文化財用語辞典』(第一法規)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「博物館法」と「博物館資料」について
- 2回 文化財保護法の理解①<文化財の種別>
- 3回 文化財保護法の理解②<文化財の公開手順>
- 4回 一次資料の調査方法と心構え
- 5回 一次資料の収集と目的(資料化の過程)
- 6回 一次資料の整理と分類
- 7回 一次資料の管理(組織と施設)
- 8回 二次資料の収集と整理
- 9回 資料の研究手法①<古文書の様式>
- 10回 資料の研究手法②<古文書の解釈>
- 11回 資料の利用方法(目的と手段)
- 12回 資料に関わる諸権利(所有権・著作権など)
- 13回 資料の公開方法(情報還元と市民の利用)
- 14回 資料の評価方法
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 100%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文化財や博物館に関する報道など、諸情報に気配りしておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

「学芸員」資格を取得するという強い意志をもって授業に参加してほしい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活においても、物を大事にする習慣を身につけること。

## キーワード /Keywords

博物館資料(文化財)の保存と活用。

## 日本語教授法I【昼】

担当者名 家根橋 伸子 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本語教育では、学習者の特質、教育機関の性質、教師側の考え方等により多様なコースデザインとそれに基づく多様な授業が構成される。しかし一方で、特に現在の学校教育機関でのコースデザインの方法や個々の日本語授業にはベーシックな構成がある。日本語授業に多様性・独自性を生み出せる教師になることの前提として、こうしたベーシックなコースデザインと教授法について理解しておくことも必要である。本授業では、ベーシックなコースデザインと授業の構成について主体的な学習を通して学んでいくとともに、それを発展させられる能力を養う。

## 主要な学習内容

- ・ コースデザインの構成要素と構成原理
  - ・ 第二言語授業の構成要素と構成原理
- ※マイクロティーチングを含む。

## 到達目標

- ・ 学校教育機関等のベーシックなコースデザインの原理を理解し自分でデザインできる。
- ・ ベーシックな日本語教授法を理解し実践できる。
- ・ ベーシックなコースデザイン、教授法を個々の日本語教育の状況に合わせてどう発展させるかを考えることができる。

## 教科書 /Textbooks

- 『日本語教育の方法—コース・デザインの実践—』（田中望、大修館書店）
- 『国際交流基金日本語教授法シリーズ1 日本語教師の役割 / コースデザイン』（国際交流基金、ひつじ書房）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『日本語教育学を学ぶ人のために』（青木直子他、世界思想社）
- 『日本語教育の理論と実際 - 学習支援システムの開発 - 』（田中望他、大修館書店）
- 『アプローチ&メソッド 世界の言語教授・指導法』（リチャーズ&ロジャーズ、東京書籍）
- 『日本語教育のフロンティア』（小川貴士、くろしお出版）
- 『国際交流基金 日本語教授法シリーズ』（全14巻）（国際交流基金、ひつじ書房）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション（ブレーンストーミング）
- 2回 日本語教育の多様性と教師の役割
- 3回 コースデザインとは何か①：コースデザインの構成要素と原理
- 4回 コースデザインとは何か②：シラバス、カリキュラム
- 5回 コースデザインとは何か③：評価
- 6回 コースデザインとは何か④：コースのデザインと検討
- 7回 教授法とは何か：教授法の変遷
- 8回 授業のデザインと教材：基本的な授業構成、4技能、教材分析
- 9回 初級を教える：マイクロティーチング①
- 10回 初級を教える：マイクロティーチング②
- 11回 初級を教える：マイクロティーチング③
- 12回 初級を教える：マイクロティーチング④
- 13回 中・上級を教える：マイクロティーチング⑤
- 14回 中・上級を教える：マイクロティーチング⑥
- 15回 総括・リフレクション・自己評価

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み（自己評価を含む）...50% 期末レポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的に学生による事前学習とクラスでのその発表・検討を軸に授業を進めるので、授業時間外の準備と授業中の積極的な発表・検討への参加が必要。

# 日本語教授法I【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教師養成課程における「日本語教育学I」「日本語教育学II」を履修しておくこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一人一人の主体的な参加がより効果的な授業と学習効果を生みます。

## キーワード /Keywords

コースデザイン 教授法 社会的構成としての授業 マイクロティーチング



## 日本語教授法II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

特定の教授法に依拠して教えることはなくても、各教授法によって推奨される学習活動を応用することは多い。しかし、そのためには、基盤となる言語理論や学習理論を理解する必要がある。その上で、学習者に対して適切な選択肢を提示することができるようになることを目指す。各教授法は、学生の発表による模擬授業形式で行う。そのために、教案作成、リハーサル、実施、振り返り、報告書の提出といった教育実習で行うことを実践してみる。そのうえで、次年度に教育実習をすべきかどうかを、自ら判断できるようにしたい。

## 教科書 /Textbooks

『アプローチ&メソッド世界の言語教授・指導法』(リチャーズ&ロジャーズ、東京書籍)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『日本語教育学を学ぶ人のために』(青木直子他、世界思想社)
- 『日本語教育の理論と実践』(田中望他、大修館書店)
- 『日本語教授法ワークショップ(増補版)』(鎌田修他、凡人社)
- 上記のDVD
- 『フォーカス・オン・フォーム』を取り入れた新しい英語教育』(和泉伸一、大修館書店)
- 『CLIL内容言語型学習：上智大学外国語教育の新たな挑戦』(渡部良典他、上智大学出版)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【アプローチ】【メソッド】
- 2回 教師の役割【教育の目的】【学習者オートノミー】
- 3回 言語教育の歴史【言語教育改革】【メソッド時代】
- 4回 オーラル・アプローチ【場面教授法】
- 5回 オーディオリンガル・メソッド
- 6回 全身反応法
- 7回 サイレント・ウェイ
- 8回 コミュニティ・ランゲージ・ラーニング
- 9回 サジェストペディア
- 10回 コミュニカティブ言語教授法
- 11回 OPI
- 12回 ジグソー法による協同学習
- 13回 ナチュラル・アプローチと第二言語習得理論
- 14回 タスク重視の言語教授法、内容重視の指導法
- 15回 まとめと自己評価

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表(授業形式)50%  
授業への取り組み40%  
期末レポート10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各教授法については学生による授業(発表を含む)の形式をとる。教育実習へ向けての準備としたい。

## 履修上の注意 /Remarks

日本語教師養成課程における「日本語教育学I」「日本語教育学II」「日本語教育学演習I」「日本語教授法I」を履修しておくこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

アプローチ メソッド 言語理論 学習理論 オルタナティブ 教師オートノミー

## 日本語教育学演習I【昼】

担当者名 矢野 花織 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本国内での日本語教育は、社会や情勢の変化に伴い、その目的や学習者層が大きく変わりつつある。そこで本講義では、日本語教育の対象者（学習者）として、「生活者としての外国人」と「外国につながる子ども」に焦点をあて、かれらを取り巻く環境や制度、かれら自身の背景や学習目的などについての理解を深め、地域の日本語教育の役割や可能性について、新たな視点でとらえなおすことを目的としている。

また、地域日本語教育という考え方においては、ホスト社会や我々ひとりひとりの意識や関わり方が重要となってくるので、日本語教師を目指す者の基礎知識としてはもちろん、今後、外国人住民と共に社会を担っていく人材として、多文化共生の視点を持ち行動する力を高めることをねらいとしている。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布します

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて講義中に参考になる文献等を紹介します

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 多言語・多文化化する日本社会
- 第3回 日本の外国人政策
- 第4回 日本語を「学ぶ」という意味
- 第5回 日本語を「教える」という意味
- 第6回 学習者を知る(1)「生活者としての外国人」
- 第7回 「生活者としての外国人」のための日本語教育①【地域日本語教育】【対話型】
- 第8回 「生活者としての外国人」のための日本語教育②【カリキュラム案】【専門家】
- 第9回 学習者を知る(2)「外国につながる子ども」
- 第10回 「外国につながる子ども」のための日本語教育①【学習環境】【JSLカリキュラム】
- 第11回 「外国につながる子ども」のための日本語教育②【言語発達】【バイリンガル教育】
- 第12回 やさしい日本語～基礎編
- 第13回 やさしい日本語～実践編
- 第14回 地域日本語教育の可能性
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...50% 課題...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布する資料については次回までに必ず目を通し、特に指示がない限り毎回持参してください

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者の希望や、受講の流れにあわせて、グループワークや視聴覚教材を取り入れながら進めていきます。人前で話すことが苦手な者は「書く」ことを、文章やイラストなどを書くことが苦手なものは「話す」ことを通して、自分なりの方法で積極的に活動に参加し、全員で授業を創っていくことを期待します

## キーワード /Keywords

多文化共生 地域日本語教育 帰国・外国人児童生徒 生活者としての外国人 やさしい日本語

## 日本語教育学演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、日本国内における留学生への日本語教育について、ピア・ラーニングという概念に焦点を当てて学ぶ。まずは、ピア・ラーニングの学習方法の一つであるLTD学習方法を実際に体験し実践していく中で、仲間との学びの有効性を実感してもらう。さらに、ピア・ラーニングの考えに基づいた授業をデザイン・提案し、デモンストレーションを行うことで、学生の学びを支援する教師の役割について理解を深めてもらう。

## 教科書 /Textbooks

池田玲子他『ピア・ラーニング入門』（ひつじ書房）  
大島弥生他『日本語表現能力を育む授業のアイデア』（ひつじ書房）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

安永悟『実践・LTD話し合い学習法』（ナカニシヤ）○  
『学生参加型の大学授業—協同学習への実践ガイド』（ジョンソン,D.W他、玉川大学出版部）○  
『先生のためのアイデアブック』（ジョージ・ジェイコブス他、日本協同教育学会編）○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ピア・ラーニング】
- 2回 協働とは何か【対話的問題提起学習】【参加型学習】
- 3回 日本語教育における言語教育観の転換【仲間との相互作用】
- 4回 LTD話し合い学習法①【LTD過程プラン】
- 5回 LTD話し合い学習法②【理解・関連づけ】
- 6回 LTD話し合い学習法③【評価】
- 7回 LTDで論文を読む【ピア活動における意見交換】
- 8回 ピア・リーディング実践①【ジグソー・リーディング】
- 9回 ピア・リーディング実践②【プロセス・リーディング】
- 10回 ピア・リーディング実践③【リーディングの授業デザイン】
- 11回 ピア・リーディング実践④【授業デザインの検討】
- 12回 ピア・レスポンス実践①【プロセス重視のレポート】
- 13回 ピア・レスポンス実践②【パラグラフライティング】【批判的思考】
- 14回 ピア・レスポンス実践③【ライティングの授業デザイン】
- 15回 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...30%  
課題...30%  
自己評価...20%  
ピア評価...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

少人数での学習形態が多いので、積極的に発言しグループの学びに貢献してください。

## 履修上の注意 /Remarks

2年次に日本語教育学を履修していることが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

協働学習 ピア・リーディング ピア・レスポンス LTD話し合い学習法

## 日本語教育実習【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

最も身近な学部留学生を対象とした正規の日本語科目に参加し、実習授業を行う。授業の成否に一喜一憂することなく、実習から何を学びえたのかを丁寧に詳細に振り返ることで、教師に不可欠な内省力の育成を目指す。同時に、日本語教師としての自分自身をイメージできるようになることを期待したい。  
また、実習成果の一つとして簡易な報告書の作成を行う。

## 教科書 /Textbooks

桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』凡人社

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- ジョージ・ジェイコブズ他『先生のためのアイデアブック - 協同学習の原則とテクニック - 』日本協同教育学会
- 大島弥生他『日本語表現能力を育む授業のアイデア』ひつじ書房
- 池田玲子他『ピア・ラーニング入門 - 創造的な学びのデザインのために』ひつじ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション及び実習計画【コースデザイン】
- 2回 学習者について知る【学部留学生】【アカデミックジャパニーズ】
- 3回 チュートリアルとは何か【個別対応】【学習者オートノミー】
- 4回 授業準備【教案】【リハーサル】
- 5回 実習(1)【授業準備】【実施】【リフレクション】【気づき】
- 6回 実習(2)
- 7回 実習(3)
- 8回 実習(4)
- 9回 実習(5)
- 10回 実習(6)
- 11回 実習(7)
- 12回 実習から学んだことをどう生かすか
- 13回 総括【教師の成長】【社会の変化】
- 14回 報告書の作成(1)役割分担の確認
- 15回 報告書の作成(2)原稿の完成

## 成績評価の方法 /Assessment Method

自己評価レポート ... 100 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日本語教育学I」「日本語教育学II」「日本語教育学演習I」「日本語教育学演習II」「日本語教授法I」「日本語教授法II」を履修しておくこと。その他の日本語教師養成課程科目についても、3年次までに履修可能な科目は、できるだけ多く履修しておくことが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

実習は、外国人留学生特別科目「日本語」で行う予定である。  
人数や適性を判断して、「日本語I」「日本語II」「日本語III」に振り分ける。  
実習期間は、実習日に加えて授業準備のために大学に来ることができるようスケジュールを空けておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習は、受け入れ先の事情が優先されるので、必ずしもシラバス通りにはいかないこともあることを承知しておいてください。

## キーワード /Keywords

学習者主体 学習者オートノミー 体験学習 リフレクション(内省) 教師オートノミー

## 日本語教育実習【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本語学習者(留学生)のための短期集中コースをデザインし、それを実行する。コースを設計し、その運営を行うことは決して易しいことではないが、日本語教師の専門性には欠かすことのできない能力である。  
平成21年度から「留学生のための就職活動準備講座」を行っている。これは、「内容と言語を統合した学習(CLIL)」に基づくコースである。

## 教科書 /Textbooks

なし  
「日本語教育学I」「日本語教育学II」「日本語教授法I」「日本語教授法II」「日本語教育学演習I」「日本語教育学演習II」で使用したテキスト

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『これで安心！外国人留学生のための日本就職オールガイド』(野澤和世他、凡人社)
- 『教師とコーディネーターのための日本語プログラム運営の手引き』(丸山敬介、スリーエーネットワーク)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション及び教育実習計画について【コースデザイン】
- 2回 ニーズ分析：留学生を取り巻く就職活動状況
- 3回 ピア・サポート
- 4回 内容と言語を統合した学習CLIL
- 5回 シラバスデザイン及びカリキュラムデザイン
- 6回 授業の準備【教案】【リハーサル】【ティーチャー・トーク】
- 7回 実習(1)【授業準備】【実施】【リフレクション】【気づき】
- 8回 実習(2)
- 9回 実習(3)
- 10回 実習(4)
- 11回 実習(5)
- 12回 実習の経験をどのように生かすのか
- 13回 総括
- 14回 報告書の作成(1)役割分担
- 15回 報告書の作成(2)原稿の完成

## 成績評価の方法 /Assessment Method

受講者からの評価 ... 30 %  
自己評価レポート ... 70 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日本語教育学I」「日本語教育学II」「日本語教育学演習I」「日本語教育学演習II」「日本語教授法I」「日本語教授法II」を履修しておくこと。  
その他の日本語教師養成課程科目についても、3年次までに履修可能な科目は、できるだけ多く履修しておくことが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習は、受け入れ先の事情が優先されます。したがって、必ずしもシラバス通りに行かない場合もあることを承知しておいてください。

## キーワード /Keywords

CLIL 留学生 就職活動支援 ピア・サポート

## 博物館実習I【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科, 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科  
八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科, 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科  
五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「博物館実習I」は「博物館実習II」の事前教育である。実際の館務実習である「博物館実習II」の教育効果を高めるために文学部の担当教員のほか、各種の博物館・美術館で実際に勤務している学芸員の方々をも講師に招き、学内における講義・実習と学外の諸施設および展示の見学とを合わせて行う。

## 教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)  
「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義で紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は原則として隔週ごとの土曜日3, 4限に行う予定であるが、博物館・美術館の展示スケジュールや学芸員の勤務予定との関係で、学外見学を日曜や休日、休暇期間中に変更することもある。

歴史・民族・考古・美術・自然史・文学等の博物館を訪れる予定。

最初の授業の折にそのおよその授業の計画を説明するので、必ず出席のこと。

学外の諸施設や展示品の見学に際しては、学芸員の直接の指導を依頼することもあり、遅刻・欠席は許されないので要注意。

また見学に際しての交通費・入館費は各自の負担である。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点100%(授業態度、日誌、プレゼンテーションなどを総合的に判断する)。理由如何を問わず3回以上欠席は不可。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習科目なので欠席は原則として認めない。万が一欠席した場合は、見学を各自でおこない日誌を書くこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 博物館実習II【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科  
野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

博物館学芸員資格履修の仕上げの意味を持った館務実習です。実習は本学が委託した博物館・美術館で実施されますが、指導学芸員はじめ館員の方すべてが、激務のなかで時間を割いて機会を作ってください初めて実現しており、決して迷惑を掛けるようなことがあってはなりません。ことに取り扱うものは、金銭に換えがたい貴重な資料や作品です。当然慎重な取り扱いや真摯な研究態度が望まれます。

## 教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)  
「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義で紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「博物館実習II」は4年次履修で、期間は2単位分5～10日間(合計45時間以上)を、原則として大学が指定した博物館・美術館で夏休み期間中に行います。

「博物館実習II」を履修するためには、その前年度に「博物館実習I」を履修合格しておくとともに、次の諸学科の単位を修得していなければなりません。

イ、博物館概論・博物館経営論・博物館情報論・博物館資料論  
ロ、教育原理(比較文化学科の学生)・教育学概論(人間関係学科の学生)  
ハ、選択科目2科目以上(2系列以上からそれぞれ1科目以上)

「博物館実習II」の受講申告者には5月頃に直前説明会を行います。説明会に欠席した場合は履修できません。また申込者であっても、実習生としてふさわしくないと判断した時は、履修を中止させる事があります。館務実習費・交通費などの諸費用は履修生が負担するものとします。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点100%(授業態度、日誌、プレゼンテーションなどを総合的に判断する)。理由如何を問わず3回以上欠席は不可。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

真摯な姿勢をもって実習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 博物館経営論 【昼】

担当者名 /Instructor 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	

## 授業の概要 /Course Description

博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養う。具体的には、博物館施設の管理と事業目的に即した運営の在り方を理解し、博物館の総合的経営に関する基礎的知識と能力、コスト意識を学ぶ。あわせて市民参画の在り方や関連施設・組織との連携方法を考える。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを用意し、各自に配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・『博物館学講座』全10巻（雄山閣）
- ・網干善教編『博物館学概論』（関西大学出版）
- ・『月刊 博物館学研究』（日本博物館協会）
- ・伊藤寿朗・森田恒之編『博物館概論』（学苑社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会教育施設としての博物館
- 2回 「博物館法」にみる事業の種類
- 3回 博物館の設置及び運営に関する基準①
- 4回 博物館の設置及び運営に関する基準②
- 5回 博物館の組織と職員配置
- 6回 施設の管理（安全・安心・危機）
- 7回 経費と運用（コストの効率化）
- 8回 博物館を取り巻く環境の変化（役割の多様化）
- 9回 運営の在り方（展示・広報・集客）
- 10回 市民の参画事業（ボランティア・友の会活動）
- 11回 博物館ネットワーク（他館との情報交換・協働）
- 12回 他機関・他組織との連携（行政・大学などとの連携）
- 13回 普及活動に果たす学芸員の役割
- 14回 学芸員の育成・研修（能力の向上）
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 100%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞などに掲載される、博物館や文化施設に関する評論に注意しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

講義のポイントをしっかりとメモすること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」資格を取得するという強い意志をもって出席してほしい。

## キーワード /Keywords

地域貢献とコスト意識。



## 博物館情報・メディア論【昼】

担当者名 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	

## 授業の概要 /Course Description

博物館における資料のデータ化・展示・発信等に関する事例をスライドで紹介します。  
博物館における情報の意義と活用の現状を知り、今後のあり方について考える力を養います。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

大堀哲・水島英治『博物館学III-博物館情報・メディア論\*博物館経営論』学文社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 博物館における情報とは？
- 2回 アーカイブの現場：モノとデータ
- 3回 アーカイブの現場：メディアの変化
- 4回 資料の何をどのように伝えるか？
- 5回 展覧会をめぐる情報：ハード
- 6回 展覧会をめぐる情報：ソフト
- 7回 モノをめぐる対話の現場
- 8回 展覧会図録：モノの記録
- 9回 展覧会図録：コトの記録
- 10回 博物館の情報発信
- 11回 博物館と著作権
- 12回 博物館とインターネット
- 13回 博物館と地域の記憶
- 14回 情報の場所
- 15回 これからの博物館

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は変更する場合があります。  
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 博物館展示論 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	

## 授業の概要 /Course Description

博物館の業務は、標本資料の収集・保存・整理・登録・調査・研究・展示・教育普及の四つの柱からなっている。ここでは展示の基本理念と具体的方法についての基礎的な知識を習得する。

学内において基礎的な知識を習得した後、学外の博物館において学芸員から各分野の様々な展示方法・形態や機材の使用法について学びとともに、実際の展示の現況・課題について習得する。

第3回～第8回は外部講師として北九州市立自然史・歴史博物館自然史課の学芸員をお招きして学内で行うが、第9回～第14回は週末に同博物館において歴史課の学芸員を講師としてより具体的実践的に行い、4年次の博物館実習IIの準備を行う。ただし場合により順序や場所を変更することがある。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 展示とは・・・ガイダンスとして博物館内外における「展示」の意味を考える
- 第2回 展示の歴史・・・展示理論と展示の歴史の概要
- 第3回 博物館展示形態①・・・自然史系の資料収集から公開まで
- 第4回 博物館展示形態②・・・自然史系の博物館と展示活動
- 第5回 博物館展示形態③・・・遺伝子から景観まで
- 第6回 博物館展示形態④・・・自然史系の展示のめざすもの-教育・普及活動
- 第7回 博物館展示形態⑤・・・来館者にやさしい設備・施設と展示デザイン
- 第8回 博物館展示形態⑥・・・自然史系の展示の実践(学生の展示案作成など)
- 第9回 博物館展示形態⑦・・・文字資料・絵画資料・遺物資料の展示
- 第10回 博物館展示形態⑧・・・資料の種類と照明・展示機器の操作
- 第11回 博物館展示形態⑨・・・展示図録の条件
- 第12回 博物館展示形態⑩・・・展示図録の立案
- 第13回 展示の解説活動①・・・解説文・解説パネル・音声解説の条件
- 第14回 展示の解説活動②・・・解説文・解説パネル・音声解説の実践
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の平常点50%、期末試験・レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回のテーマを確認すること

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 博物館資料保存論【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
										○	

## 授業の概要 /Course Description

博物館の使命の一つに、標本資料を収集・保管・保存して後世に伝える役割がある。ここでは博物館における資料保存の意味と意義を知り、展示環境・収蔵環境に関する知識を習得する。

学内において基礎的な知識を習得した後、学外の博物館において学芸員から各分野の様々な資料の保存方法について学ぶとともに、実際の保存方法・現状・課題について習得する。

第3回～第9回は学内において北九州市立自然史・歴史博物館自然史課の学芸員が外部講師として来講していただくが、第9回～第14回は週末に北九州市立自然史・歴史博物館において同博物館歴史課の学芸員を講師として、4年次の博物館実習IIの準備としてより具体的実践的に行う。なお授業の順序や受講場所については変更の可能性がある。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 資料保存の意義・・・「資料」の定義と「保存」の目的について学ぶ
- 第2回 文化財の保護・保存・・・「文化財」およびその保護について学ぶ
- 第3回 標本の保存学①・・・自然史系乾燥標本の保存
- 第4回 標本の保存学②・・・液浸標本の保存
- 第5回 標本の保存学③・・・DNA標本保存
- 第6回 標本の保存学④・・・地学系標本の取り扱いと保存について(微化石を例示して)
- 第7回 標本の保存学⑤・・・岩石・鉱物の標本と保存
- 第8回 標本の保存学⑥・・・化石標本の保存
- 第9回 生物被害と保存①・・・燻蒸とIPMの理論
- 第10回 生物被害と保存②・・・燻蒸とIPMの実際
- 第11回 文献・絵画保存①・・・保存・修復・梱包の方法
- 第12回 文献・絵画保存②・・・保存・修復・梱包の実践
- 第13回 金属・木製品保存・・・保存・修復・梱包の方法
- 第14回 資料の劣化・・・劣化の実際とその防止
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点50%、期末試験・レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の授業内容を理解し、服装・持ち物に留意する。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 博物館教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 宏之 / Hiroyuki Kajihara / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○	

## 授業の概要 /Course Description

博物館には収集保存や調査研究といった大きな仕事のほかに、普及教育という市民社会へつなげる大切な仕事があります。本講義ではこの活動の基盤となる理論と実践に関する学芸員（キュレーター / エデュケーター）の知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養うことをねらいとします。また各自が未来の博物館像や地域社会との関わりを具体的に提案できることを到達目標とします。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

伊藤 寿朗『ひらけ、博物館』(岩波ブックレット、1991年)  
 染川 香澄『こどものための博物館-世界の実例を見る』(岩波ブックレット 1994年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 博物館教育への招待
- 第2回 博物館教育の実践1：考古系現場における実践内容を学ぶ
- 第3回 博物館教育の実践2：歴史系現場における実践内容を学ぶ
- 第4回 博物館教育の実践3：民俗系現場における実践内容を学ぶ
- 第5回 博物館教育の実践4：地学系現場における実践内容を学ぶ
- 第6回 博物館教育の実践5：植物系現場における実践内容を学ぶ
- 第7回 博物館教育の実践6：動物系現場における実践内容を学ぶ
- 第8回 博物館教育の実践7：環境系現場における実践内容を学ぶ
- 第9回 博物館教育の実践8：美術系現場における実践内容を学ぶ
- 第10回 新しい社会と博物館教育1：チルドレンズ・ミュージアム
- 第11回 新しい社会と博物館教育2：フィールド・ミュージアム
- 第12回 新しい社会と博物館教育3：多文化共生社会と人権
- 第13回 新しい社会と博物館教育4：ツーリズムとフォークロリズム
- 第14回 新しい社会と博物館教育5：博物館教育の新たな展開
- 第15回 まとめと提案発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績は試験によって評価します(100%)。試験では、講義の内容についての記述と、自分自身で考えたオリジナルな博物館教育の企画書も作成してもらいます(知識の量でなくユニークさで成績を評価します)。また、毎回質問状をかねた感想文を書いてもらいますが、この内容も評価の参考にします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文系の話も理系の話も幅広くしますが特別な専門知識は必要ありません。むしろそうした壁を越え、特別な専門知識をどう分かりやすく市民社会に伝えることができるかという知的好奇心を持った学生を歓迎します。

## キーワード /Keywords

博物館教育、博情館、キュレーター、エデュケーター、教育普及、キュレーション、インクルーシブデザイン

# 教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等に関する知識を習得し、教職についての理解を深め、教職について多角的に考察し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしなければよいか」ということを含めて、進路選択について指導・助言を受ける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

( 【 】 内はキーワード )	
1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】 【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】 【教育】 【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】 【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と「生徒指導」	【教員の職務】 【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育	【職業選択の基礎理論】 【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】 【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の役割	【青少年の意識】 【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】 【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体の教育」と教員の役割	【健康管理】 【食教育】 【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】 【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】 【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」 / まとめ	【指導】 【管理】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育原理 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

### 課題

教育に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育における問題について学ぶ。

### 目標

- ①教育に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

## 教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に提示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。  
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

乳児期から老年期までの各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。  
同時に、発達の過程で生じる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①人間の発達について理解し、基礎的な専門知識を身につける
- ②人間関係や発達に関する諸課題を的確に捉え、総合的な視点から考察することができる。
- ③人間と社会との関係に問題意識をもち、主体的に学習できる。

## 教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著  
『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本3)』  
ミネルヴァ書房

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児期①【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 乳児期②【発達のメカニズム】
- 第4回 乳児期③【人との関係のはじまり】
- 第5回 幼児期①【知能・認知の発達】
- 第6回 幼児期②【表象能力、心の理論】
- 第7回 幼児期③【自己の育ちと他者との関係】
- 第8回 児童期①【思考の深まり】
- 第9回 児童期②【友人とのかがりわりと社会性の発達】
- 第10回 青年期①【アイデンティティの形成】
- 第11回 青年期②【人間関係、青年期の問題行動】
- 第12回 成人期【家族形成、成熟】
- 第13回 老年期【人生の振り返り】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

### 概要

教育制度に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育制度における課題について学ぶ。

### 目標

- ①教育制度についての基礎的な知識を習得する。
- ②教育制度における課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に提示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則 教育制度とは 日本の教育法制
- 2回 学校制度の基本的事項 ( 1 ) 機会均等、学校教育における中立性等
- 3回 学校制度の基本的事項 ( 2 ) 義務教育,学校体系等
- 4回 教員に関する制度 教員免許法制、公務員としての教師,教員の指導力と研修等
- 5回 教育行財政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校等
- 6回 生涯学習の制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携等
- 7回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価等
- 8回 教育課程の意義と編成 ( 1 ) 学習指導要領、教科書・教材等
- 9回 教育課程の意義と編成 ( 2 ) 学校の教育課程編成
- 10回 学校における教育課程経営
- 11回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 12回 教育課程の評価
- 13回 教育課程の開発
- 14回 今日の課題と教育課程
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 ( 試験 ) 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。  
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

## 教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房  
文部科学省 中学校学習指導要領 外国語

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。  
なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。  
SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂  
ONE WORLD English Course 1～3 教育出版  
"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂  
NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍  
TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校)の立て方
9. 評価について
10. DVD ( 師範授業 ) の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD ( 師範授業 ) の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業 ( 中学校 ) 【1年生】
14. モデル授業 ( 中学校 ) 【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 ( 75%程度 ) を中心として、提出物 ( 15%程度 ) 及び授業参加度 ( 10%程度 ) を考慮に入れ、総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義・演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、高等学校の英語科教員としての技能を身につける。特に平成25年度より高等学校では英語で授業を行うことが基本となったので、その点を配慮した指導案作成の達成を目指す。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考し、また討論することができるようになることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房  
文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。  
ENGLISH NOW Revised Edition I・ II開隆堂 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・ II 三友社  
Vivid Reading MEW EDITION第一学習社 Onstage English Course I・ II池田書店  
EXCEED English Series New Edition I・ II 三省堂 PROMINENCE English I・ II東京書籍  
"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・ II" 増進堂  
Revised POLESTAR English Course I・ II 数研出版 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・ II"開隆堂  
"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・ II" 桐原書店 ELEMENT English Course I・ II啓林館  
Voyager English Course NEW EDITION I・ II第一学習社  
"NEW EDITION UNICORN ENGLISH COURSE I・ II"文英堂  
Genius English Course Revised I・ II大修館書店 CROWN English Series New Edition I・ II三省堂

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2. 学習指導要領および4技能の統合
3. リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について (高等学校編)
6. 学習指導案 (高等学校) の立て方
7. モデル授業の準備
8. モデル授業 (高等学校) [「コミュニケーション英語I」1回目]
9. モデル授業 (高等学校) [「コミュニケーション英語I」2回目]
10. ALTに関わる英語論文を読む[論文前半]
11. ALTに関わる英語論文を読む[論文後半]
12. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文前半]
13. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む[論文後半]
14. リスニング・スピーキングに関する英語論文を読む
15. 復習と試験の準備

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 ( 75%程度 ) を中心として、提出物 ( 15%程度 ) 及び授業参加度 ( 10%程度 ) を考慮に入れ、総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 多少なりとも教員になるという意味をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
- ・ モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

# 英語科教育法B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている「学校教育」（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における「道徳教育」の理念と具体的な実践方法について学習する。

## 教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 「道徳の時間」と道徳教育	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の指導過程	【指導方法】
7回 「道徳の時間」の指導技術	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】
14回 「道徳の時間」の「指導事例」	【指導技術】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【評価】
15回 まとめ	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 子どもたちがお互いの生きづらさや葛藤を理解し、表現しあう中で、お互いを支え合える関係づくりを学級活動の中で築いていくための課題と実践方法を検討していくこと。
- ③ 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ④ 子どもたちの自己効力感、自己有用感を育み、自治の力を育む生徒会活動、学校行事のあり方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- ⑤ 上記の理念と実践を踏まえて、学級経営、学校行事の指導計画の作成方法を学習すること

## 教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

中学校学習指導要領 及び高等学校学習指導要領 特別活動  
折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 参加者の現実の学校体験から、学級活動の課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1  
- 対立解決 ( conflict resolution ) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級集団指導の留意点
- 8回 学級経営の指導計画案について
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題と方法
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本的には教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

## キーワード /Keywords

学級づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

# 教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科を実際に指導する授業の場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、情報機器及び教材の活用を含んだ実践的な教育の方法の理論と技術を習得する。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「教育の方法」とは何か 【教育の方法の形態】【比喻・モデル】
- 2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
- 3回 「現代」の「教育の方法」 【連続と非連続】【現代化】
- 4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
- 5回 「情報機器」と「教材」の活用 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
- 6回 「情報化社会」における生徒の指導 【情報化社会】【インターネット】
- 7回 「学習遅滞」の指導 【学習遅滞】【SHELLモデル】
- 8回 教師と生徒の「コミュニケーション」 【話す】【聞く】
- 9回 「学習規律」を育てる指導方法 【出席と参加】【学習規律】
- 10回 各教科指導の「具体的システム」 【学習指導要領】【学習のシステム】
- 11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
- 12回 各教科指導の「学習指導案」 【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
- 13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」 【発問】【説明】【指示】【助言】
- 14回 各教科指導における「評価」 【授業評価】【自己評価】
- 15回 「模擬授業」-各教科指導に向けて- 【実践的な指導】【各教科の授業】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円  
 高等学校学習指導要領 平成21年3月告示東山書房 588円  
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円  
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
  2. 授業と教育方法【教育方法】
  3. 授業と教育技術【教育技術】
  4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
  5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
  6. 授業実施の技術【授業技術】
  7. 授業の評価【授業評価】
  8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
  9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
  10. 学習指導案の作成【学習指導案】
  11. 教材研究【教育メディアとその活用】
  12. 模擬授業【模擬授業】
  13. テストと学習内容の評価【テスト】
  14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
  15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を習得する。

## 教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 生徒の人権と教育	【人権】 【自尊感情】
6回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
7回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
8回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【生徒理解】
9回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】 【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】 【学習指導案】
12回 模擬授業①(中学/高校:学習指導案)	【学習指導案】 【導入】
13回 模擬授業②(中学/高校:授業構成)	【授業構成】 【目標】
14回 模擬授業③(中学/高校:授業展開)	【授業展開】 【練習】 【応用】
15回 模擬授業④(中学/高校:指導技術)	【指導技術】 【発問】 【説明】 【指示・助言】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科  
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

## 教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「学習指導要領」「学習指導案集」等

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談)、学校教育の中での位置づけについての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談、カウンセリングの基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。
4. 子どもの「最善の利益」を一致点とした保護者との共同、関係諸機関との共同に向けての課題を明らかにしていくこと。

## 教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1~4章)を使用する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 伊藤美奈子・春日井敏之編 よくわかる教育相談 ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の意義と3つの領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談))
- 3回 学校カウンセリングの教育相談の基本的な理念について
- 4回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 7回 不登校の子どもに対する教育相談
- 8回 発達障害の子どもに対する教育相談
- 9回 子どもの問題をめぐる保護者との共同・連携の課題
- 10回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 11回 教育相談活動における連携について - スクールソーシャルワーカー等との連携
- 12回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 13回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 14回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早め読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 教育相談【昼】

## キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、いじめ問題、不登校問題

# 生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、生徒指導の目的、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導)の区別と関連などを検討していくこと
- ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。  
また、実際の生徒指導の場面を想定して、その場面での対応を考える力を養うこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を踏まえた進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。  
また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

## 教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 片山紀子 入門 生徒指導 - 「生徒指導提要」を踏まえた新しい生徒指導のありかた 学事出版
- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「キャリア教育のすすめ」
- 日本キャリア教育学会 キャリア教育概説 東洋館出版
- 見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 生徒・進路指導論の課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際
- 3回 生徒指導の基本 その1 生徒指導の三機能と、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導
- 4回 生徒指導の基本 その2 毅然たる指導、ゼロトランス他
- 5回 実際の生徒指導場面での紙上応答練習
- 6回 「我が子の非行と向き合う親たちの会」の方の講演
- 7回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(女子生徒の事例から)
- 8回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(男子生徒の事例から)
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高등학교の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介
- 14回 被虐待児に対する理解と援助の課題
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート20%、期末試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの5, 6章, 8章をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

# 生徒・進路指導論【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

## キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、激しい行動化を表出する生徒への指導、進路指導

# 英語科教育法C 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The purpose of the course is to prepare future Japanese teachers of English to design and sequence communicative tasks for Japanese junior high school students to be implemented parallel to the structural syllabus of the Japanese Ministry of Education in order to develop their learners functional skills in using English fluently for communication. Students are strongly requested to take "Teaching Method of English D" given by Professor Ito with this course.

## 教科書 /Textbooks

Materials will be provided by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Ellis, R. 2009. Task-Based Language Teaching: Sorting Out the Misunderstandings  
○文部科学省 中学校学習指導要領 外国語

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Different approaches to language teaching: pros and cons
2. The role of communicative tasks in language learning
3. Performance of description tasks
4. Guidelines for designing description tasks
5. Peer-teaching of own description tasks
6. Teaching methods: focusing on form
7. Performance of Instruction tasks
8. Guidelines for designing instruction tasks
9. Peer-teaching of own instruction tasks
10. Performance of task sequences
11. Guidelines for sequencing tasks into lessons
12. Peer-teaching of own task sequences
13. Sequencing tasks over the school year
14. Implementing task work in junior high school classes
15. Planning a parallel communication course for beginners

## 成績評価の方法 /Assessment Method

50% Weekly preparation and practice teaching  
50% Materials development project

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The learners will be required to attend class regularly and apply the ideas that they learn to practical projects for improving communication skills within the context of the Japanese junior high school curriculum.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語科教育法D 【昼】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「英語科教育法」は、中学校、高等学校の英語科教員を目指す人のために、実際に教壇に立って授業をすることはもとより、授業の準備、練習問題（試験問題）の作成、成績評価に至るまでを概括し、現代のニーズに応える英語教育を実践していくための、実践的な授業です。2学期開講の「英語科教育法D」では、主に中学校、高等学校で英語を教えていく上で必要な知識を提供するとともに、実際に皆さんに模擬授業をしていただきます。したがって、ただ講義を聴くのではなく、それをどのように実践力に変えていくのか、という目的意識を持っていただきたいと思えます。ことに、高等学校では2013年から基本的に英語で授業が行なわれるという方針が示されています。模擬授業に関しては、他の人が授業を行なっているときも、自分の身に置き換えて、教育実習や実際に教員となったときに生かせるよう、積極的な姿勢で臨んでいただきたいと思えます。板書の仕方、副教材の作成、生徒の学習動機づけ、などについても指導します。

なお、この授業は、森千鶴先生開講の「英語科教育法B」と整合性を保つよう考慮してはいますが、適正なクラスサイズで一貫性のある英語科教育法の授業を提供するために、原則としてランバート先生担当の「英語科教育法C」とあわせての受講を強くお勧めします。

## 教科書 /Textbooks

講師作成のプリント教材を用意します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語
- 文部科学省 中学校学習指導要領 外国語

上記の文献については、かならずご一読ください。その他の参考文献は授業時に必要に応じて紹介します。なお、以下の教科書は教職資料室で保管していますので閲覧可能です。

- ・ ENGLISH NOW Revised Edition I・ II ( 開隆堂 )
- NEW WORLD ENGLISH COURSE I・ II ( 三友社 )
- Vivid Reading MEW EDITION ( 第一学習社 )
- Onstage English Course I・ II ( 池田書店 )
- EXCEED English Series New Edition I・ II ( 三省堂 )
- PROMINENCE English I・ II ( 東京書籍 )
- MAINSTREAM ENGLISH COURSE : Second Edition I・ II ( 増進堂 )
- Revised POLESTAR English Course I・ II ( 数研出版 )
- Revised Edition SUNSHINE English Course I・ II ( 開隆堂 )
- PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・ II ( 桐原書店 )
- ELEMENT English Course I・ II ( 啓林館 )
- Voyager English Course NEW EDITION I・ II ( 第一学習社 )
- NEW EDITION UNICORN ENGLISH COURSE I・ II ( 文英堂 )
- Genius English Course Revised I・ II ( 大修館書店 )
- CROWN English Series New Edition I・ II ( 三省堂 )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 新しい時代の英語教育を目指して：英語の現状と英語科教育の課題
- 第02回 言語習得理論と教授法
- 第03回 学習指導要領を読む
- 第04回 学習指導案の作成
- 第05回 リーディングの指導法
- 第06回 リーディングの指導（模擬授業：中学校英語科）
- 第07回 リーディングの指導（模擬授業：高等学校英語科）
- 第08回 文法・作文の指導法
- 第09回 文法・作文の指導（模擬授業：中学校英語科）
- 第10回 文法・作文の指導（模擬授業：高等学校英語科）
- 第11回 リスニング・スピーキングの指導法
- 第12回 リスニング・スピーキングの指導（模擬授業：中学校英語科）
- 第13回 リスニング・スピーキングの指導（模擬授業：高等学校英語科）
- 第14回 授業を活性化させるための工夫（副教材、板書、テスト作成、動機づけ、等）
- 第15回 英語科教員としての責任と課題（授業の総まとめ）

# 英語科教育法D 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

本科目は講義科目と演習科目の両面の正確を保持していますので、学期末試験の成績を基本として評価するつもりですが、それだけでなく通常の授業での発表やディスカッション等への参加姿勢を加味して、総合的に評価します。そのため、模擬授業などへ積極的に参加された方は評価が高くなります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

英語を教える場は、必ずしも中学校、高等学校だけとは限りません。塾や民間の英会話スクールなどで英語を教えることもあるでしょうし、そういう人にとっても有益な授業となるでしょう。しかし、この授業は基本的に教職を目指す人のためのものであることを踏まえ、安易な気持ちでなく、責任感を持って参加していただきたいと思います。課題などをお願いする際は、必ず仕上げ、提出または発表をしていただきたいと思います。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

厳しいことをたくさん記しましたが、英語を学び教えることは、本来楽しいことです。楽しく、その上で気持ちをしっかりこめて、授業を行なっていきたいと思っています。

## キーワード /Keywords



# 国語科教育法C 【昼】

担当者名 /Instructor 秦 恭子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本授業は、中学校及び高等学校の国語科教育に関わる基礎的な知識を身につけると同時に、教材研究の方法や学習指導案作成方法について学習し、実践的な指導力の基礎を養うことを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領国語編』、『高等学校学習指導要領国語編』  
その他関連資料および使用教材については、適宜配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【授業の概要と方法】
- 2回 国語科の教育目標と内容について(学習指導要領の説明)
- 3回 国語科教育における教育評価について
- 4回 「話すこと・聞くこと」(中学校)
- 5回 「話すこと・聞くこと」(高等学校)
- 6回 「書くこと」(中学校・課題設定、構成)
- 7回 「書くこと」(中学校・記述の工夫、推敲)
- 8回 「書くこと」(高校・国語表現)
- 9回 「読むこと」(中学校・詩歌)
- 10回 「読むこと」(中学校・小説)
- 11回 「読むこと」(高等学校・評論文)
- 12回 「読むこと」(高等学校 古文)
- 13回 「読むこと」(高等学校・漢文)
- 14回 国語科教育の授業づくり(教材研究の進め方)
- 15回 国語科教育の授業づくり(学習指導案作成のポイント)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表及び討議への参加、感想・質問カード50%、期末レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中学校及び高等学校『学習指導要領国語編』を読んでおくこと。  
第2～8回にかけては事前配布資料を、第9～13回にかけては次回の教材を、各自よく読んで授業に臨むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

本授業は中学校及び高等学校の国語科教員をめざす者を対象とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国語科教師を目指す者としての自覚を持って授業に臨み、講義への質疑や模擬授業への参加を積極的に行って、自分の「ことば」観とていねいに向き合い、「ことば」の学びとは何か、又それをいかにして仕組むことができるのかを深くみつめてほしい。

## キーワード /Keywords

【国語科教育】 【教材研究】 【学習指導案】

# 国語科教育法D 【昼】

担当者名 秦 恭子 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本授業は、中学校及び高等学校の国語科に関する総合的な実践力を養うことを目的とする。特に模擬授業の実践・授業分析の実際を通して、国語科教師としての授業力を自ら高めていくことのできる資質を身につける。

## 教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領国語編』、『高等学校学習指導要領国語編』  
その他関連資料、模擬授業の使用教材については、適宜配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 授業の概要と方法
- 2回 国語科教育の授業づくり - 国語観、国語学力観
- 3回 国語科教育の授業づくり - 学習者観
- 4回 国語科教育の授業づくり - 授業評価の実際
- 5回 「話すこと・聞くこと」の学習指導案の作成 (中学校)
- 6回 「話すこと・聞くこと」の模擬授業(中学校)
- 7回 「話すこと・聞くこと」の学習指導案の作成 (高等学校)
- 8回 「話すこと・聞くこと」の模擬授業(高等学校)
- 9回 「読むこと」の学習指導案の作成(高等学校・現代文)
- 10回 「読むこと」の模擬授業(高等学校・現代文)
- 11回 「読むこと」の学習指導案の作成(高等学校・古典)
- 12回 「読むこと」の模擬授業(高等学校・古典)
- 13回 「書くこと」の模擬授業(中学校)
- 14回 「国語表現」の模擬授業(高等学校)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

模擬授業、授業分析カード、感想・質問カード 50%、期末レポート50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中学校及び高等学校『学習指導要領国語編』を再読しておくこと。  
第2～4回にかけては事前配布資料を、第5～14回にかけては次回の教材を、各自よく読んで授業に臨むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

本授業は中学校及び高等学校の国語科教員をめざす者を対象とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国語科教師を目指す者としての自覚を持って授業に臨み、講義への質疑や模擬授業への参加を積極的に行い、実践的指導力の育成に努力してほしい。

## キーワード /Keywords

【国語科教育】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【授業分析】

# 教育心理学【昼】

担当者名 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。

本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。

講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

## 教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に随時情報を提供する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回オリエンテーション
- 2回教育心理学の理論と方法
- 3回子どもの「学力」(1)：関心・意欲
- 4回子どもの「学力」(2)：知識・理解
- 5回子どもの「学力」(3)：思考・判断
- 6回子どもの「学力」(4)：表現・技能
- 7回教育測定・評価(1)
- 8回教育測定・評価(2)
- 9回教師と授業づくり(1)
- 10回教師と授業づくり(2)
- 11回学習環境と教育方法(1)
- 12回学習環境と教育方法(2)
- 13回カリキュラムと学習材
- 14回発達障害
- 15回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%  
レポート...20%  
学期末試験...50%  
（ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育実習3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科  
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

## 教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「学習指導要領」「学習指導案集」等

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 第 1回 ; 実習校実習① 【教育実習指導】
  - 第 2回 ; 実習校実習② 【教育実習指導】
  - 第 3回 ; 実習校実習③ 【教育実習指導】
  - 第 4回 ; 実習校実習④ 【教育実習指導】
  - 第 5回 ; 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
  - 第 6回 ; 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
  - 第 7回 ; 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
  - 第 8回 ; 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
  - 第 9回 ; 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
  - 第 10回 ; 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
  - 第 11回 ; 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
  - 第 12回 ; 実習校実習⑫ 【教育実習指導】
  - 第 13回 ; 実習校実習⑬ 【教育実習指導】
  - 第 14回 ; 実習校実習⑭ 【教育実習指導】
  - 第 15回 ; 実習校実習⑮ 【教育実習指導】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 障害児の心理と指導【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考える。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①障害の基本的概念を理解し、障害理解と障害をもつ子どもたちの指導に必要となる基礎的な専門知識を身につける。
- ②人間の健康的な生活を実現するための社会実践の技法を修得する。
- ③人間や社会の関係に内在する障害の諸問題を的確に捉え、総合的な視点から考察することができる。
- ④人間と社会の関係を多角的に考えながら、人間の健康的な生活の実現に向けた行動ができる。
- ⑤人間と社会との関係に問題意識をもち、主体的に学習できる。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉症スペクトラム障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

### 概要

教育社会学の基礎的な概念や教育に関する諸事象についての社会的な視点からの分析を学ぶ。

### 目標

- ①教育社会学における基礎的な知識を習得する。
- ②教育に関する諸事象について、社会的な見方、考え方ができるようになる。

## 教科書 /Textbooks

プリント(講義レジュメ・資料)を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

配布プリントに提示する他、授業中、適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育社会学の対象と方法
- 2回 家族の諸形態と教育の機能
- 3回 子どもの社会化の課題
- 4回 学校・教室空間と教育過程
- 5回 教師文化と生徒文化の生成・葛藤
- 6回 若者と職業をめぐる課題
- 7回 学校と地域の歴史
- 8回 「地域の教育力」をめぐる課題
- 9回 生涯学習社会における学び
- 10回 友人関係における葛藤
- 11回 高度消費社会に生きる若者
- 12回 新たなメディアのなかの関係
- 13回 少年非行と教育・社会の課題】
- 14回 教育における格差
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 30% 最終課題(試験) 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

## 教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から1970年代までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説します。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新【木戸孝允】【大久保利通】【西郷隆盛】
- 第3回 明治憲法と自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【桂太郎】
- 第8回 憲政の常道【浜口雄幸】【田中義一】
- 第9回 満州事変【関東軍】
- 第10回 日中戦争【軍部】【近衛文麿】
- 第11回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第12回 敗戦と戦後改革【マッカーサー】【吉田茂】
- 第13回 55年体制と日米安保【吉田茂】【鳩山一郎】【岸信介】
- 第14回 高度経済成長【池田勇人】【佐藤栄作】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 人間と文化【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。

本講義は、A文化とB文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 家族は普遍的な概念か？

第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える

第4回 近代家族 / 伝統的家族？

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと文化

第7回 伝統について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間試験

第II部 文化と世界観

第10回 現代社会における儀礼の役割

第11回 不幸への対処と文化

第12回 宗教紛争と日常の中の宗教

第13回 中間試験の講評 / 呪術・占いとリスク社会① 呪術とは

第14回 呪術・占いとリスク社会② 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。

※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・ 中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

## キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

# ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

## 教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田直子訳、NHKブックス、1995年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション【成績評価およびテスト日程について】
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか(1)【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか(2)【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか(3)【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか(4)【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか(5)【啓蒙の逆説】
- 7回 中間のまとめ(確認テスト)
- 8回 生活世界論のはじまり(1)【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2)【フッサールの科学批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%  
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。初回の授業で確認テストの方法・日程に関する詳しい説明を実施するので、受講予定者は必ず出席すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験はいずれも難度の高いものであり、単位取得のためには相当な努力が求められる。

## キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

# メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

## 教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房  
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
  - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
  - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
  - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤労性と劣等感】
  - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
  - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】  
同一性の視点から ・遊びと人生  
配偶者の選択 ・病いと人生
  - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
  - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
  - 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法  
定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

- 1) 新聞を開けば、社会調査の結果が載っていない日はないかもしれない。我々は新聞やテレビやインターネットなどを通して、膨大な調査結果や統計データに日々、さらされている。社会調査から生み出されるこれらの情報や知見や現状分析(認識)などを批判的に読み込む力を培う。
  - 2) また、社会調査の方法を学ぶことは、社会科学の問題構築、仮説検討、現状分析などのよき入門(つまり、社会科学のよき入門)ともなる。
- 本講義では社会調査の基礎を学ぶが、上記の二つをねらった講義を計画している。

## 教科書 /Textbooks

谷富夫・山本努編『よくわかる質的社会調査(プロセス編)』ミネルヴァ書房

## 参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法—2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査のよい例、わるい例
- 2回 社会調査とは何か
- 3回 社会調査の種類
- 4回 量的(統計)調査の方法
- 5回 質問文の作り方
- 6回 量的(統計)調査の難点
- 7回 質的調査の方法
- 8回 質的調査のフィールドの実際
- 9回 質的調査の意義、量的(統計)調査との関係
- 10回 量的(統計的)社会調査の作品群の概要
- 11回 ミクロの量的(統計)分析の代表事例
- 12回 マクロの量的(統計)分析の代表事例
- 13回 ミクロの実験(統計)の代表事例
- 14回 質的・量的(統計)調査の作品の対比
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(あるいは定期試験の時に課題提出)・・・70%、  
 普段の授業への取り組み・・・30%  
 \* 授業出席不振の学生には単位は認定しません。  
 \* 成績評価の詳細は初回の授業でお話します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

普段から社会的な事象や問題に関心をもっておいて下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

社会調査、質的社会調査、量的社会調査、社会的世界



# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【夜】

基盤教育科目  
 教養教育科目  
 スキル科目  
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円  
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円  
田近英一著『地球環境46億年の大変動史』(化学同人), 1680円  
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめと演習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 90%, ミニレポート: 10%  
欠席の多い学生は減点する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

特になし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

## キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

# 思想と現代【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 9回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン】
- 11回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 12回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 13回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 14回 フェミニズムの思想(4)【クイア】
- 15回 全体総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末テスト... 50%  
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回に確認テスト(第3回~第6回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 文学を読む【夜】

担当者名  
/Instructor

馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科  
五月女 晴恵 / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科  
福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科  
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ 大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか?さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2013年のテーマ:「言葉の力」文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるのでしょうか。たとえば文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高いものです。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ生まれ変わることもあります。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で各国言語で書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- 1言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- 2「言葉」の意味の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- 3修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

## 教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に各教員が指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・言語芸術の可能性
  - 2回 岩本(文学部比較文化学科)
  - 3回 岩本
  - 4回 馬場(文学部比較文化学科)
  - 5回 馬場
  - 6回 田部井(文学部比較文化学科)
  - 7回 田部井
  - 8回 福島(文学部比較文化学科)
  - 9回 福島
  - 10回 伊藤(外国語学部英米学科)
  - 11回 伊藤
  - 12回 五月女(文学部比較文化学科)
  - 13回 五月女
  - 14回 木原(外国語学部英米学科)
  - 15回 木原
- (各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に関する問い合わせはコーディネーターの馬場まで

# 文学を読む【夜】

基盤教育科目  
教養教育科目  
テーマ科目

キーワード /Keywords

# 民主主義とは何か【夜】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

今年度は、「比較民主主義論」というテーマで講義を行います。

民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、まず、民主主義の理論の比較として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1938年と1968年における日独の青年の政治的位置の比較を行い、制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較します。そして、こうした比較を通じて見えてくる差異性（多様性）や共通性から、「新しい政治」について検討します。

## 教科書 /Textbooks

テキストはなし。  
基本的にレジュメを配布して講義します

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献としては、  
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、  
○J・リンズ他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、  
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、  
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）  
を挙げておきます。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。  
第1回 はじめに・・・民主主義の3レベルについて  
第2回 民主主義の理論の比較・・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論  
第3回 参加民主主義論、共生の民主主義論  
第4回 熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論  
第5回 民主主義理論の比較のまとめ  
第6回 まとめのグループ討論、グループ発表  
第7回 民主主義の運動（組織）の比較・・・1989年の東欧革命について  
第8回 1968年の「青年の反乱」の日独比較  
第9回 1938年の日独青少年交歓事業について  
第10回 民主主義の運動の比較についてのまとめ・・・1938、68、89年の日独青年の政治的位置の比較について（グループ討論、グループ発表）  
第11回 民主主義の制度の比較について・・・議院内閣制と大統領制  
第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について  
第13回 大統領制民主主義の諸問題について  
第14回 民主主義制度の比較のまとめ・・・首相公選制について  
第15回 全体のまとめ・・・「新しい政治」について

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。  
日常の授業への取り組み 20%  
小テスト 10%  
レポート 20%  
定期試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。

# 民主主義とは何か【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、講義のレジユメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらうという、「まとめ」を2回ほど行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

## キーワード /Keywords

講義を楽しむ

# 人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

### 目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

## 教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）  
必要な参考書は授業時に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：急増する在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト・ミニレポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心をもち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。



# 人権論【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁  
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を意識して授業に取り組んでほしい。

## キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

# ジェンダー論 【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）  
適宜、補足資料を配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）  
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）  
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー—戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学—村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー—映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ—アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー—家族を超えて—週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える—あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔—学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー—津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業—エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み—ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権—絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学—女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場—国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV—TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルを身につけておく。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

# 市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

## 教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
  - 2回 枠組みの設定
  - 3回 民衆行動の分析①
  - 4回 民衆行動の分析②
  - 5回 市民運動の分析
  - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
  - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
  - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
  - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
  - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
  - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
  - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
  - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
  - 14回 市民活動の現在
  - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、その後の日本は、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワン[日本の経営(温情主義的経営)]とも賞賛された。しかし、こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク=破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用 (=ライフタイム・コミットメントという英語の日本語訳、広義には職場共同体という感覚)・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液化して剥き出しの資本制経済の荒波(マーケット中心主義)にさらされている。日く、ワーキングプア(働いていても生活がいよいよ苦しい)・ネットカフェ難民(帰るべく家がない)・格差から貧困(経済的格差・貧困から意欲の格差が目される)・99%対1%、等々。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義(マーケット型資本主義)路線。すなわち「市場=マーケット」万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除(彼女/彼らはこれを退出という)された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである(例えば、退場をしたサッカー選手は、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない)。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される(社会統合機能)。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである(社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機)。

そうすると行き着くところ、社会(資本制経済あるいは資本家の生産社会)というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのように振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

## 教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。レジユメを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書(白波佐和子『生き方の不平等』2010(○)等の最新の文献、②『私たちは"99%"だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房(2009年)(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家の生産様式)。【社会認識】
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語。【資本主義】【市民社会】
- 3回 市場とは。買い物物を反省しよう。日常的に観察される買い物物すなわち商品流通から、ふたつの人間類型が見いだされる。→「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」[私達]と「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」[資本家]。私達と資本家は、商品流通レベルでは平等。【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】
- 4回 商品流通(商品交換)の次元における私達→私達は平等である(等価交換と市民法)。【商品流通(商品交換)】【平等・自由】
- 5回 商品流通の次元における私達は平等であるのに、何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか。【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出 = 本源的蓄積過程。商品流通 (C - M - C) の内実たる(M - C - M)での剰余価値の生産。資本家 と労働者。【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生。英国のケース。【本源的蓄積過程】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉【剰余価値】【賃労働関係】
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生【剰余価値】【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】
- 10回 戦後資本主義の特性=恐慌と危機。ケインズ政策の登場。【恐慌】【危機】【ケインズ政策】
- 11回 セーフティネット装置のビルトインされた国家=福祉国家(混合経済)の登場。【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機。市場回帰志向の新自由主義の台頭。【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食。システム統合危機から社会統合危機へ。【危機】【統合】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジユメだけにしがみつかない。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻繁に聞きます。就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも観察対象であることを常に意識してもらいたい。

## キーワード /Keywords

【商品流通】 【資本家】 【労働者】 【市民社会】 【資本制経済】 【市民法】 【本源的蓄積過程】 【剰余価値】 【賃労働関係】 【福祉国家】 【ケインズ政策】 【新自由主義】 【システム統合】 【社会統合】 【生活世界】

# 現代の国際情勢【夜】

担当者名  
/Instructor

下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 板谷 俊生 / 中国学科  
 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科  
 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科  
 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を政治・経済・思想などを中心に考察する。近年、国際関係分野において注目されている諸理論・現象を紹介しながら講義を進める。

## 教科書 /Textbooks

各担当教員が適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

各担当教員が適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は複数の教員が各自の専門と関心からアジアと国際関係を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

※授業では出席をとることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野寿子「グローバル化の中の中国」
- 第3回 " "
- 第4回 尹明憲「北東アジアの経済事情」
- 第5回 " "
- 第6回 鄧紅「日中関係の過去、現在と未来」
- 第7回 " "
- 第8回 総田芳憲「日本の安全保障」
- 第9回 " "
- 第10回 山本直「アジアとヨーロッパ」
- 第11回 " "
- 第12回 板谷俊生「中国のノーベル文学賞作家」
- 第13回 横山宏章「東アジアの安全保障」
- 第14回 篠崎香織「東南アジア：『周縁』で形成される文明の新たなかたち」
- 第15回 " "

※都合により、講義の順番は変わることがある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートで評価する(100%)。

レポートの本数・形式など詳細については初回のオリエンテーションで指示する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜参考文献などを紹介するので自主的に読むこと。

平素から新聞や関連する本を読んで、授業内容への理解を深める努力をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際紛争と国連【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類 (Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、Case Studyとしての事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

## 教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。  
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○  
その他の参考文献は、適宜、指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連を知る【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第3回 国際紛争を見る分析軸【DisputeとConflict】【紛争のPhase】
- 第4回 国連における紛争処理のメカニズム【国連憲章上の枠組み】
- 第5回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国【加盟国の地位の二重性】
- 第6回 国連による平和の創出【和平合意の形成】【勧告】【事務総長による周旋】
- 第7回 国連による平和の維持【国連平和維持活動(PKO)】
- 第8回 国連による平和の強制【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第9回 Case Study①：湾岸戦争と国連【多国籍軍】
- 第10回 Case Study②：ソマリア問題と国連【平和執行型PKO】
- 第11回 Case Study③：リビア問題と国連【保護する責任】
- 第12回 国連による持続的平和の定着【和解】【国家再建】【平和構築】
- 第13回 Case Study④：アフガニスタン問題と国連【平和構築】
- 第14回 Case Study⑤：PKOと日本の国際平和協力【PKO協力法】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。  
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、予習を前提とした講義を展開します。  
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。  
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

## 履修上の注意 /Remarks

成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。  
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。  
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

## キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】



# 開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国(ミャンマー、バングラデシュ、韓国、米国と日本が対象国)や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答を出してもらいます。

以上の概要を通して、ガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

## 教科書 /Textbooks

その都度指定

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『○○を知るための○章』のシリーズ(授業の該当国)、明石書店  
 (特に、米国、韓国、ミャンマーやバングラデシュ版)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「開発と統治」をはじめるとあたって 担当: 三宅
- 第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 担当: 伊野
- 第3回 民主化問題を考える視座(2) 担当: 伊野
- 第4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめくって 【ミャンマー】 担当: 伊野
- 第5回 もっと知りたいアジア-ソーシャルビジネスとユニクロ 【ソーシャルビジネス】  
 担当: チョウドリ・三宅
- 第6回 お祭り騒ぎ・内戦模様の今年の総選挙を通して見たバングラデシュの政治活動  
 【バングラデシュ】 担当: チョウドリ・三宅
- 第7回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】 担当: チョウドリ・三宅
- 第8回 NGOs活動としめ社会のガバナンスの変化 【BRAC】 担当: チョウドリ・三宅
- 第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当: 申
- 第10回 アメリカにおけるガバナンスと環境 【米国】 担当: 申
- 第11回 エネルギー問題にみるガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当: 申
- 第12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 担当: 三宅
- 第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当: 三宅
- 第14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク 【グループワーク】 担当: 三宅
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

様々な国々を対象とするので、参考書は読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各教員が対象国での研究や生活経験が長いので、現場に由来する非常に面白い事項を盛り込み授業を展開する予定。

## キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 米国 子供会 グループワーク

# 歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

## 教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師  
乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。  
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。  
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。  
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。  
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

## 教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）  
口述講義（山崎）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
  - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
  - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
  - 第4回 サッチャーと民営化政策
  - 第5回 サッチャーとNHS改革
  - 第6回 サッチャーとビッグバン
  - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
  - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
  - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
  - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
  - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
  - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
  - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
  - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
  - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

\* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

# 人物と時代の歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
  - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
  - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
  - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
  - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
  - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
  - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
  - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
  - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
  - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
  - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
  - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
  - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
  - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
  - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%  
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 東洋史【夜】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジアの特異性について明らかにし、更には、それを通じて東アジアの今後の在り方を自らで模索出来る能力を養うことを目指す。  
一般的に中国の歴史といえば、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の諸民族を吸収・同化しつつ、変容を繰り返しているのである。また、近隣諸民族もその影響を受けつつ、オリジナルな国家形成を行っているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのような関わりは相互に密接なものを有しているといえよう。  
よって、ここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐による世界帝国の形成・衰退までを、中国のみに止まることなく、東アジアという包括的な視座に置き、各時代の政治・経済・外交・思想・文化等の多角的な方面から理解することを掲げる。

## 教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

堀敏一『中国通史 - 問題史としてみる - 』(講談社学術文庫 2000年 1260円)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方遊牧騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と近隣諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱以降における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度...20%・定期試験...80%  
双方向の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。  
特に、講師及び他の学生の集中力を削ぐ行為(私語・音楽を聴く等)は授業妨害とみなし、これを強く禁止すると共に、違反する者には厳しい措置を取る。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習としては、参考書として紹介しているものをあらかじめ読んでおく。  
復習としては、講義中に配布するプリントを見直しておく。

## 履修上の注意 /Remarks

出来れば高校において世界史B及び日本史Bを履修していることが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

先入観に振り回されず、  
今後の世界に大きな影響を与えることが確実な中国の歴史について学ぶことは必要であると同時に大変有益です。

## キーワード /Keywords

東アジア 中国 朝鮮 日本

# 地誌学 【夜】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、ヨーロッパ地域の地誌をテーマとして扱う。ヨーロッパ地域は、古くから世界の政治・経済・文化の中心地であり続けてきた。20世紀後半以降、アメリカや日本・中国をはじめとする東アジア地域の台頭に伴い、その立場には変化が見られているものの、現在でもなお世界に大きな影響力を有している地域の一つであるといえる。ヨーロッパの経済のみならず、政治・文化や自然環境をも含めた総合的な地誌の理解に努めてもらいたい。

## 教科書 /Textbooks

加賀美雅弘 編(2011)『世界地誌シリーズ3 EU』朝倉書店

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) イントロダクション
- (2) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性① - 地形・気候
- (3) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性② - 人種・民族、産業
- (4) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性③ - 人口、交通、国家群
- (5) 総論-統合に向かうヨーロッパの地域特性 (テキスト1章)
- (6) 自然環境と伝統的農業 (テキスト2章)
- (7) 工業地域の形成と発展 (テキスト3章)
- (8) 都市の形成と再生 (テキスト4章)
- (9) 観光地域と観光客流動 (テキスト5章)
- (10) 移民と社会問題 (テキスト6章)
- (11) 地域主義と民族集団 (テキスト7章)
- (12) 東ヨーロッパの農村の変化と特色 (テキスト8章)
- (13) EU市民の暮らし (テキスト9章)
- (14) 統合するヨーロッパと国境地域 (テキスト10章)
- (15) 世界のなかのEU (テキスト11章)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ( 80% )、日常の授業の取り組み ( 20% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、教科書の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 再履 夜間主コー ス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,  
積極的な授業参加 ( タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む ) ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 ( キーボードで文字を入力する , マウス操作など ) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

## 履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

# データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群・再履・夜間主  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class コース

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

## 教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,  
積極的な授業参加 ( タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む ) ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 ( キーボードで文字を入力する , マウス操作など ) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

## 履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

# 情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力をみがきます。具体的には、以下のような項目を身につけることができます：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の吟味
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指します。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現(ガイダンス)
- 2回 データの収集(検索エンジン, 情報の信頼性)
- 3回 データの加工(表計算の復習, グラフ, チャート)
- 4回 データの表現(レイアウト, デザイン)
- 5回 論理的な思考法の基礎1(課題発見)
- 6回 論理的な思考法の基礎2(原因分析, 解決手段検討)
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してください。

## 履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に限りがありますので、受講者数調整を実施します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問してください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

## キーワード /Keywords

プレゼンテーション, ロジカルシンキング, マルチメディア

# 英語I ( 比人夜 1 年 ) 【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

**授業の概要 /Course Description**  
TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

**教科書 /Textbooks**  
生協の教科書リストを確認されたい。  
その他、適宜、プリントを用いる。

**参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )**  
なし

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**

1回	プレテスト
2回	リスニング ユニット1~5、リーディング ユニット1
3回	リスニング ユニット5~10、リーディング ユニット2
4回	リスニング ユニット11~13、リーディング ユニット3
5回	リスニング ユニット14~16、リーディング ユニット4
6回	リスニング ユニット17~19、リーディング ユニット5
7回	リスニング ユニット20~22、リーディング ユニット6
8回	リスニング ユニット23~25、リーディング ユニット7
9回	リスニング ユニット26~28、リーディング ユニット8
10回	リスニング ユニット29~31、リーディング ユニット9
11回	リスニング ユニット32~34、リーディング ユニット10
12回	リスニング ユニット35~37、リーディング ユニット11
13回	リスニング ユニット38~40、リーディング ユニット12
14回	ポストテスト
15回	まとめ

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
学期末試験・小テスト 80%  
課題 20%  
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 英語II ( 比人夜 1 年 ) 【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プレテスト
- 2回 リスニング ユニット 1~5、リーディング ユニット 1
- 3回 リスニング ユニット 5~10、リーディング ユニット 2
- 4回 リスニング ユニット 11~13、リーディング ユニット 3
- 5回 リスニング ユニット 14~16、リーディング ユニット 4
- 6回 リスニング ユニット 17~19、リーディング ユニット 5
- 7回 リスニング ユニット 20~22、リーディング ユニット 6
- 8回 リスニング ユニット 23~25、リーディング ユニット 7
- 9回 リスニング ユニット 26~28、リーディング ユニット 8
- 10回 リスニング ユニット 29~31、リーディング ユニット 9
- 11回 リスニング ユニット 32~34、リーディング ユニット 10
- 12回 リスニング ユニット 35~37、リーディング ユニット 11
- 13回 リスニング ユニット 38~40、リーディング ユニット 12
- 14回 ポストテスト
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語III ( 比人夜 1 年 ) 【夜】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese/English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course: Self introduction
- 第2回My favourite place in Japan
- 第3回My important friends
- 第4回The sports I enjoy to watch and play
- 第5回The places I want to visit
- 第6回The food I like and what I can make
- 第7回My favourite movies and actors/actresses
- 第8回Countries of the world
- 第9回What I would buy with 10 million yen
- 第10回My family
- 第11回The music I like
- 第12回What I want to have for my dinner
- 第13回What I do in the morning (routine)
- 第14回The season I like
- 第15回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

## キーワード /Keywords

# 英語Ⅳ ( 比人夜 1 年 ) 【夜】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

## 教科書 /Textbooks

No textbook

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Japanese/English dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer holiday
- 第2回The pets I like / the animals I hate
- 第3回Health and fitness
- 第4回The crossword puzzle
- 第5回The person I want to meet
- 第6回What I want to do over New Year
- 第7回My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回Sporting heroes
- 第9回The TV programmes I like to watch
- 第10回My skills
- 第11回My future dream
- 第12回How I get the news in my life
- 第13回My three most important possessions
- 第14回My biggest worry at the moment
- 第15回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

## キーワード /Keywords



# 英語V ( 比人夜 2 年 ) 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

## 教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 1 (Second Edition)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語VI ( 比人夜 2 年 ) 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

## 教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語VII ( 比人夜 2 年 ) 【夜】

担当者名 /Instructor                          ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 2年次                          単位        1単位                          学期        1学期                          授業形態        講義                          クラス        比人夜 2年  
/Year                          /Credits                          /Semester                          /Class Format                          /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

## 教科書 /Textbooks

『Conversations in class: new edition』 (2009) Richmond, S. and Vannieu, B., Alma Publishing ( アルマ出版 ) ¥2520

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語VIII ( 比人夜 2 年 ) 【夜】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 2年次  
 単位 /Credits: 1単位  
 学期 /Semester: 2学期  
 授業形態 /Class Format: 講義  
 クラス /Class: 比人夜 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

## 教科書 /Textbooks

『Longman English Interactive Online, Level 2/American English Student Access』(2008) Rost, M., Pearson Education, ¥ 3500

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course and online resources
- 2回 Registering in the online course
- 3回 Greetings, occupations
- 4回 Introducing other people
- 5回 Food and restaurants
- 6回 Talking about one's weekend
- 7回 Talking about technology
- 8回 Talking about illness and health
- 9回 Giving directions
- 10回 Making plans
- 11回 Talking about shopping
- 12回 Talking about household chores
- 13回 Giving advice
- 14回 Talking about apartments and houses
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 中国語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。  
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。  
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。  
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介(本文)
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京(本文)
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津(本文)
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海(本文)
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州(本文)
- 14回 前期のまとめ(1)
- 15回 前期のまとめ(2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。  
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。  
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。  
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

## 教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏(本文)
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽(本文)
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都(本文)
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明(本文)
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州(本文)
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連(本文)
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介(本文)
- 15回 後期のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

## 教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [ 総合編集のコピー配布 ]

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 中国語概説・単母音と声調
- 2 . 子音 1 と複母音 1
- 3 . 子音 2 と複母音 2 ・ 基本挨拶
- 4 . 鼻母音・音節と音便・教室用語
- 5 . 発音の復習とまとめ
- 6 . 「自己紹介」（判断文・疑問文 1 ・ 人称代名詞）
- 7 . 復習と実用練習
- 8 . 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文 2 ）
- 9 . 復習と実用練習
- 10 . 「両替」（願望表現・数字・場所）
- 11 . 復習と実用練習
- 12 . 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
- 13 . 復習と実用練習
- 14 . 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
- 15 . 復習と実用練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情



# 中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

## 教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [ 総合編集のコピー配布 ]

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

# 朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

教科書：『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、白水社）定価2,200円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考図書：辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 母音 ( 1 )
3. 子音 ( 1 )
4. 子音 ( 2 )
5. 子音 ( 3 )
6. 子音 ( 4 )
7. 子音 ( 5 )
8. 母音 ( 2 )
9. 終声 ( 1 )
10. 発音の変化 ( 1 )
11. 発音の変化 ( 2 )
12. 【指定詞の丁寧形】
13. 【指定詞の丁寧形・疑問】
14. 【指定詞の丁寧形・否定】
15. 【指定詞の丁寧形・否定の疑問】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%  
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%  
学期末試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語II 【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

## 教科書 /Textbooks

教科書：『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、白水社）定価2,200円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考図書：辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 前期のまとめ、
- 2 . 【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3 . 【動詞と形容詞の丁寧形・疑問】
- 4 . 【動詞と形容詞の丁寧形】
- 5 . 【漢数詞】【固有数詞】
- 6 . 【動詞と形容詞の丁寧形・否定】
- 7 . 【指定詞の打ちとけた丁寧形・疑問と否定】
- 8 . 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形】
- 9 . 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・変則活用】
- 10 . 【尊敬表現の丁寧形・疑問と否定】
- 11 . 【尊敬表現のうちとけた丁寧形・疑問と否定】
- 12 . 【動詞と形容詞の丁寧形・過去】
- 13 . 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・過去】
- 14 . 【意思・推量・婉曲表現】
- 15 . 【願望表現】【勧誘表現】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%  
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%  
学期末試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

教科書：『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考図書：辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 【基本母音と基本子音①】
2. 【基本子音と基本子音②】
3. 【激音と濃音】【合成母音字】
4. 【終声①】
5. 【終声②】
6. 発音のルール【連音化】【濃音化】
7. 発音のルール【激音化】【鼻音化】
8. その他の発音法則
9. 【指定詞の丁寧形】
10. 【指定詞の丁寧形・疑問と否定】
  - 1 1. 自己・物を紹介する時の表現（～といます）
  - 1 2. 【存在詞のうちとけた丁寧形】【場所をあらわす助詞】
  - 1 3. 【存在詞のうちとけた丁寧形・疑問】【時を表す単語および助詞】
  - 1 4. 【存在詞のうちとけた丁寧形・否定】【位置を表す単語および助詞】
  - 1 5. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%  
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%  
学期末試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

## 教科書 /Textbooks

教科書：『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考図書：辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 前期のまとめ
2. 【指示代名詞】【疑問代名詞】
3. 【指定詞の打ちとけた丁寧形・疑問と否定】
4. 【動詞のうちとけた丁寧形】【固有数詞】
5. 【漢数詞】
6. 【一週間の予定】
7. 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・疑問と否定】
8. 【目的表現】
9. 【動詞・形容詞の変則活用】
10. 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・過去】
11. 【願望表現】
12. 【接続表現】【確認表現】
13. 【意思表現】【推測表現】
14. 【進行や状態の継続表現】
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%  
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%  
学期末試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社  
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%  
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社  
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%  
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英比人夜 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社  
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%  
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社  
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%  
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

## 教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他  
(Deutsch macht Spaß!)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

## 教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他  
(Deutsch macht Spaß!)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

## 教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

## 教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語I 【夜】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 比人夜1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

最初の一步として、フランス語の基本文法を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書の引きかたはもちろん、簡単なフランス語の文章を読み解けるようになります。

## 教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版]フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 冠詞
- 3回 人称代名詞(1) : 主語
- 4回 動詞êtreとavoirの活用
- 5回 否定形
- 6回 形容詞
- 7回 第1群規則動詞
- 8回 疑問形
- 9回 指示形容詞
- 10回 所有形容詞
- 11回 動詞allerとvenirの活用
- 12回 近接未来と近接過去
- 13回 前置詞à、deと定冠詞の縮約
- 14回 疑問形容詞・疑問副詞
- 15回 疑問代名詞

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

## キーワード /Keywords

# フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

次の一歩として、フランス語の初級文法のほぼ全体を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書さえあれば、基本的なフランス語の文章を読み解けるようになります。

## 教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版] フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第2群規則動詞
- 2回 比較級と最上級
- 3回 命令法
- 4回 非人称表現
- 5回 人称代名詞(2) : 目的語、強勢形
- 6回 複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 指示代名詞
- 9回 代名動詞
- 10回 単純未来
- 11回 特殊な代名詞
- 12回 半過去
- 13回 受動態
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 条件法・接続法

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

## キーワード /Keywords



# フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現を学びます。フランス語Ⅳとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

## 教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [ DVD付 ]』(白水社、2500円)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 あいさつ(1) : 自己紹介
- 3回 持ちものをたずねる
- 4回 趣味をたずねる
- 5回 onを使った表現
- 6回 あいさつ(2) : お元気ですか?
- 7回 年齢の言い方
- 8回 名前を聞く
- 9回 好きな色を聞く
- 10回 飲み物を頼む
- 11回 時刻の表現
- 12回 あいさつ(3) : 人を紹介する
- 13回 デザートを頼む
- 14回 代名動詞を使った表現
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

## 履修上の注意 /Remarks

自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

## キーワード /Keywords

# フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現をさらに学んでいきます。フランス語Ⅲとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

## 教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [ DVD付 ] 』（白水社、2500円）

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 カフェで注文する
- 2回 曜日
- 3回 C'est + 形容詞の表現
- 4回 疑問代名詞のまとめ
- 5回 値段を聞く
- 6回 12ヶ月
- 7回 mondeを使った表現
- 8回 「～できる」という表現
- 9回 季節
- 10回 感嘆文
- 11回 依頼・願望の表現
- 12回 感情の表現
- 13回 義務の表現
- 14回 お礼のメールを出す
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

## 履修上の注意 /Remarks

自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

## キーワード /Keywords

# スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

## 教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。  
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。  
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書は必要です。授業にも辞書を持参すること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門の基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を採用いたします。また、ときどき、映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。  
 辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 人称代名詞、名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 規則動詞(1)、基本的表現
- 5回 動詞estar, ir を用いた表現
- 6回 動詞ser、形容詞・指示形容詞を用いた表現
- 7回 規則動詞(2) 基本的表現
- 8回 規則動詞(3) 基本的表現
- 9回 動詞(tener), 所有形容詞
- 10回 3つの規則動詞活用の復習
- 11回 動詞(estar, hay..)の基本用例
- 12回 動詞活用と基本表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠です。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。この入門編でスペイン語の基礎を学部こととなりますが、出だしが肝心です。意欲的に取り組んでください

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。  
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、人称代名詞(目的格)
- 3回 人称代名詞を用いた表現
- 4回 近接未来表現など天候表現、時刻表現
- 5回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞(その2)
- 6回 gustar(~が好きです)系の表現、間接目的格
- 7回 前置詞に導かれる人称代名詞
- 8回 復習：日常的表現
- 9回 再帰動詞(1)
- 10回 再帰動詞(2)
- 11回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 12回 比較級と最上級
- 13回 現在完了形
- 14回 現在進行形
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 消費社会論【夜】

専門教育科目  
選択科目  
比較文化(領域系)科目

担当者名  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、「消費社会」のあり方をおして、現代の資本主義社会の特徴を分析することが目的である。「消費化」が進展した社会においては、モノよりもむしろ、文化や人間関係が消費の対象となる。人々の欲望が文化や人間関係の消費へと向かったときに、どのような事態がおこるのかについて主に議論する。

また、この講義では、主に現代人の消費のなかでも最も特徴的であると思われる観光消費について追いつながら(半分程度)、現代の資本主義社会がどこに向かっているのかを考える。したがって、観光化の意味について興味を持っている学生の参加を歓迎する。

## 教科書 /Textbooks

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版、2008年、2500円

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』紀伊国屋書店  
小川伸彦、山泰幸【『現代文化の社会学入門』ミネルヴァ書房
- G・リッツァー『マクドナルド化の世界』早稲田大学出版部
- J・アーリ『場所を消費する』法政大学出版局

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 【消費社会】とは何か(消費社会のなかの行為論)
  - 2回 ジャン・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』紀伊国屋書店を読む
  - 3回 【記号の消費】・【人間関係の消費】と現代人のアイデンティティ
  - 4回 映画「下妻物語」と消費の美学
  - 5回 【お客様社会】と【感情労働の社会学】
  - 6回 消費の美学と労働(ジグムント・バウマン論)
  - 7回 観光の歴史から見る現代観光文化の特徴(労働の贈与交換と市場交換)
  - 8回 観光と「見せ物化」(観光の産業化)(少数民族の観光化)
  - 9回 「見せ物」を組織化する観光 テーマパーク論
  - 10回 【地域の観光化】の諸矛盾(観光と「場所」について)
  - 11回 「地域活動」を消費する・「環境保護」を消費する・「ボランティア」を消費することについて(オルタナティブ・ツーリズム論)
  - 12回 【バックパッカー】論・観光移住論(消費社会のなかの行為論として)
  - 13回 文化(「聖なるもの」と人を消費することについて(観光)
  - 14回 文化(「聖なるもの」と人を消費することについて(現代消費文化一般)
  - 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題40% 試験60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「文化社会学」「比較文化社会」の講義とセットで受講すると分かりやすいかも知れない。

## 履修上の注意 /Remarks

理論的な解説が主になるので、背景の社会学的知識が必要になる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This course will explore different corners of the world via readings and video excerpts. These explorations will lead into various writing and discussion exercises to improve general abilities in these skills.

## 教科書 /Textbooks

World Explorer. John S. Lander. Asahi Press. 2004

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction:
- 2 回 Canada
- 3 回 Cameroon
- 4 回 New Zealand
- 5 回 Nepal
- 6 回 England
- 7 回 France
- 8 回 Mid-term Test
- 9 回 U.S.A.
- 10 回 Brazil
- 11 回 Ireland
- 12 回 Switzerland
- 13 回 Australia
- 14 回 Scotland
- 15 回 Final Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40%  
Assignments 20%  
Mid-term Test 20%  
Final Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Have the homework assignments completed in time for class.  
Review the vocabulary from the previous week.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

This course will explore different corners of Asia via readings and listening excerpts. These explorations will lead into various writing and discussion exercises to improve general abilities in these skills.

## 教科書 /Textbooks

No Textbook.  
Handouts will be provided by the instructor.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Dictionary

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Introduction:
- 2 回 India
- 3 回Thailand
- 4 回Vietnam
- 5 回Malaysia
- 6 回Singapore
- 7 回Indonesia
- 8 回Mid-term Test
- 9 回The Philippines
- 1 0 回China
- 1 1 回Hong Kong
- 1 2 回Korea
- 1 3 回Russia
- 1 4 回Japan
- 1 5 回Final Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40%  
Assignments 20%  
Mid-term Test 20%  
Final Exam 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Have the homework assignments completed in time for class.  
Review the vocabulary from the previous week.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習B - 1 (日本) 【夜】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

各人がテーマを設定して日本文化研究を進め、その成果を論文にまとめる準備をする。

## 教科書 /Textbooks

授業中に随時プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論文のテーマ設定方法
- 2回 論文の書き方とルール①
- 3回 論文の書き方とルール②
- 4回 論文テーマ発表と討論①
- 5回 論文テーマ発表と討論②
- 6回 資料の収集法と利用法①
- 7回 中間報告会①
- 8回 中間報告会②
- 9回 資料の収集法と利用法②
- 10回 中間報告会③
- 11回 中間報告会④
- 12回 序論の書き方
- 13回 序論提出
- 14回 序論添削と討論
- 15回 1学期のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・報告・ 80%、序論・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習B - 1 ( 欧米 ) 【夜】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

各人がテーマを設定して欧米文化研究を進め、その成果を論文にまとめる準備をする。

## 教科書 /Textbooks

授業中に随時プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論文のテーマ設定方法
- 2回 論文の書き方とルール①
- 3回 論文の書き方とルール②
- 4回 論文テーマ発表と討論①
- 5回 論文テーマ発表と討論②
- 6回 資料の収集法と利用法①
- 7回 中間報告会①
- 8回 中間報告会②
- 9回 資料の収集法と利用法②
- 10回 中間報告会③
- 11回 中間報告会④
- 12回 序論の書き方
- 13回 序論提出
- 14回 序論添削と討論
- 15回 1学期のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発表・報告・ 80%、序論・ 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習B - 2 (日本) 【夜】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

各人の日本文化研究を、論文としてまとめる。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 執筆状況報告第一期①
- 2回 執筆状況報告第一期②
- 3回 論の構成について①
- 4回 資料の用い方について
- 5回 執筆状況報告第二期①
- 6回 執筆状況報告第二期②
- 7回 文体修正について
- 8回 論の構成について②
- 9回 執筆状況報告第三期①
- 10回 執筆状況報告第三期②
- 11回 註のチェックについて
- 12回 最終校報告①
- 13回 最終校報告②
- 14回 最終校チェック
- 15回 論文提出

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・ 20%、提出論文・ 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 演習B - 2 ( 欧米 ) 【夜】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

各人の欧米文化研究を、論文としてまとめる。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 執筆状況報告第一期①
- 2回 執筆状況報告第一期②
- 3回 論の構成について①
- 4回 資料の用い方について
- 5回 執筆状況報告第二期①
- 6回 執筆状況報告第二期②
- 7回 文体修正について
- 8回 論の構成について②
- 9回 執筆状況報告第三期①
- 10回 執筆状況報告第三期②
- 11回 註のチェックについて
- 12回 最終校報告①
- 13回 最終校報告②
- 14回 最終校チェック
- 15回 論文提出

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告・ 20%、提出論文・ 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 生涯学習学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。内容としては、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説します。

授業のねらいは、生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養うことにあります。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回生涯学習・社会教育の意義
- 第2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第3回社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第4回社会教育施設と生涯学習施設 -管理運営と連携-
- 第5回生涯学習関連施策の動向 -社会教育の歴史と発展-
- 第6回学習者の特性と学習の継続発展-学習相談、サービスの提供
- 第7回社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第8回社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
- 第9回社会教育施設-公民館
- 第10回社会教育施設-博物館
- 第11回社会教育施設-図書館
- 第12回大都市における公民館-北九州市 -自治体行財政制度と施策立案・推進-
- 第13回図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第14回成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第15回住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等に関する知識を習得し、教職についての理解を深め、教職について多角的に考察し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択について指導・助言を受ける。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

( 【】 内はキーワード )	
1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】 【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】 【教育】 【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】 【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と「生徒指導」	【教員の職務】 【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育	【職業選択の基礎理論】 【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】 【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の役割	【青少年の意識】 【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】 【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体の教育」と教員の役割	【健康管理】 【食教育】 【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】 【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】 【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】 【管理】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

### 課題

教育に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育における問題について学ぶ。

### 目標

- ①教育に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

## 教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に提示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。  
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

乳児期から老年期までの各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

同時に、発達の過程で生じる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①人間の発達について理解し、基礎的な専門知識を身につける。
- ②人間関係や発達に関する諸課題を的確に捉え、総合的な視点から考察することができる。
- ③人間と社会との関係に問題意識をもち、主体的に学習できる。

## 教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著  
『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本3)』  
ミネルヴァ書房

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児期①【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 乳児期②【発達のメカニズム】
- 第4回 乳児期③【人との関係のはじまり】
- 第5回 幼児期①【知能・認知の発達】
- 第6回 幼児期②【表象能力、心の理論】
- 第7回 幼児期③【自己の育ちと他者との関係】
- 第8回 児童期①【思考の深まり】
- 第9回 児童期②【友人とのかがりわりと社会性の発達】
- 第10回 青年期①【アイデンティティの形成】
- 第11回 青年期②【人間関係、青年期の問題行動】
- 第12回 成人期【家族形成、成熟】
- 第13回 老年期【人生の振り返り】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

### 概要

教育制度に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育制度における課題について学ぶ。

### 目標

- ①教育制度についての基礎的な知識を習得する。
- ②教育制度における課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に提示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則 教育制度とは 日本の教育法制
- 2回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 3回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育、学校体系等
- 4回 教員に関する制度 教員免許法制、公務員としての教師、教員の指導力と研修等
- 5回 教育行財政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校等
- 6回 生涯学習の制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携等
- 7回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価等
- 8回 教育課程の意義と編成(1) 学習指導要領、教科書・教材等
- 9回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 10回 学校における教育課程経営
- 11回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 12回 教育課程の評価
- 13回 教育課程の開発
- 14回 今日の課題と教育課程
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。  
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。  
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

## 教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房  
文部科学省 中学校学習指導要領 外国語

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。  
なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。  
SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂  
ONE WORLD English Course 1～3 教育出版  
"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂  
NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍  
TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校)の立て方
9. 評価について
10. DVD ( 師範授業 ) の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD ( 師範授業 ) の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業 ( 中学校 ) 【1年生】
14. モデル授業 ( 中学校 ) 【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 ( 75%程度 ) を中心として、提出物 ( 15%程度 ) 及び授業参加度 ( 10%程度 ) を考慮に入れ、総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語科教育法B【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義・演習  
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、高等学校の英語科教員としての技能を身につける。特に平成25年度より、高等学校では英語で授業を行うことが基本となったので、その点を配慮した指導案作成の達成を目指す。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考し、討論することができるようになることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房  
文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。  
ENGLISH NOW Revised Edition I・II 開隆堂 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社  
Vivid Reading MEW EDITION 第一学習社 Onstage English Course I・II 池田書店  
EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂 PROMINENCE English I・II 東京書籍  
"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂  
Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II" 開隆堂  
"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 ELEMENT English Course I・II 啓林館  
Voyager English Course NEW EDITION I・II 第一学習社  
"NEW EDITION UNICORN ENGLISH COURSE I・II" 文英堂  
Genius English Course Revised I・II 大修館書店 CROWN English Series New Edition I・II 三省堂

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2. 学習指導要領および4技能の統合
3. リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について (高等学校編)
6. 学習指導案 (高等学校) の立て方
7. モデル授業の準備
8. モデル授業 (高等学校) [「コミュニケーション英語I」1回目]
9. モデル授業 (高等学校) [「コミュニケーション英語I」2回目]
10. ALTに関わる英語論文を読む [論文前半]
11. ALTに関わる英語論文を読む [論文後半]
12. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む [論文前半]
13. 韓国の英語教育に関する英語論文を読む [論文後半]
14. リスニング・スピーキングに関する英語論文を読む
15. 復習と試験の準備

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 ( 75%程度 ) を中心として、提出物 ( 15%程度 ) 及び授業参加度 ( 10%程度 ) を考慮に入れ、総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・多少なりとも教員になるという意思をもって、履修すること。
- ・出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
- ・モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

# 英語科教育法B 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている「学校教育」（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における「道徳教育」の理念と具体的な実践方法について学習する。

## 教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 「道徳の時間」と道徳教育	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の指導過程	【指導方法】
7回 「道徳の時間」の指導技術	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】
14回 「道徳の時間」の「指導事例」	【指導技術】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【評価】
15回 まとめ	

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 特別活動の研究【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 子どもたちがお互いの生きづらさや葛藤を理解し、表現しあう中で、お互いを支え合える関係づくりを学級活動の中で築いていくための課題と実践方法を検討していくこと。
- ③ 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ④ 子どもたちの自己効力感、自己有用感を育み、自治の力を育む生徒会活動、学校行事のあり方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- ⑤ 上記の理念と実践を踏まえて、学級経営、学校行事の指導計画を学習すること

## 教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

中学校学習指導要領 及び高等学校学習指導要領 特別活動  
折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 参加者の現実の学校体験から、学級活動の課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1  
- 対立解決 ( conflict resolution ) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級集団指導の留意点
- 8回 学級経営の指導計画案について
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題と方法
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本的には教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

## キーワード /Keywords

学級づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

# 教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科を実際に指導する授業の場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、情報機器及び教材の活用を含んだ実践的な教育の方法の理論と技術を習得する。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「教育の方法」とは何か 【教育の方法の形態】【比喻・モデル】
- 2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
- 3回 「現代」の「教育の方法」 【連続と非連続】【現代化】
- 4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
- 5回 「情報機器」と「教材」の活用 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
- 6回 「情報化社会」における生徒の指導 【情報化社会】【インターネット】
- 7回 「学習遅滞」の指導 【学習遅滞】【SHELLモデル】
- 8回 教師と生徒の「コミュニケーション」 【話す】【聞く】
- 9回 「学習規律」を育てる指導方法 【出席と参加】【学習規律】
- 10回 各教科指導の「具体的システム」 【学習指導要領】【学習のシステム】
- 11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
- 12回 各教科指導の「学習指導案」 【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
- 13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」 【発問】【説明】【指示】【助言】
- 14回 各教科指導における「評価」 【授業評価】【自己評価】
- 15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて - 【実践的な指導】【各教科の授業】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円  
 高等学校学習指導要領 平成21年3月告示東山書房 588円  
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円  
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
  2. 授業と教育方法【教育方法】
  3. 授業と教育技術【教育技術】
  4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
  5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
  6. 授業実施の技術【授業技術】
  7. 授業の評価【授業評価】
  8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
  9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
  10. 学習指導案の作成【学習指導案】
  11. 教材研究【教育メディアとその活用】
  12. 模擬授業【模擬授業】
  13. テストと学習内容の評価【テスト】
  14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
  15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を習得する。

## 教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 生徒の人権と教育	【人権】 【自尊感情】
6回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
7回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
8回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【生徒理解】
9回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】 【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】 【学習指導案】
12回 模擬授業①(中学/高校:学習指導案)	【学習指導案】 【導入】
13回 模擬授業②(中学/高校:授業構成)	【授業構成】 【目標】
14回 模擬授業③(中学/高校:授業展開)	【授業展開】 【練習】 【応用】
15回 模擬授業④(中学/高校:指導技術)	【指導技術】 【発問】 【説明】 【指示・助言】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

## 教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「学習指導要領」「学習指導案集」等

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行う

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談)、学校教育の中での位置づけについての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談、カウンセリングの基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。
4. 子どもの「最善の利益」を一致点とした保護者との共同、関係諸機関との共同に向けての課題を明らかにしていくこと。

## 教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1~4章)を使用する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 伊藤美奈子・春日井敏之編 よくわかる教育相談 ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の意義と3つの領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談))
- 3回 学校カウンセリングの教育相談の基本的な理念について
- 4回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 7回 不登校の子どもに対する教育相談
- 8回 発達障害の子どもに対する教育相談
- 9回 子どもの問題をめぐる保護者との共同・連携の課題
- 10回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 11回 教育相談活動における連携について - スクールソーシャルワーカー等との連携
- 12回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 13回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 14回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 教育相談【夜】

## キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、いじめ問題、不登校問題

# 生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、生徒指導の目的、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導)の区別と関連などを検討していくこと
- ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。  
また、実際の生徒指導の場面を想定して、その場面での対応を考える力を養うこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を踏まえた進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。  
また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

## 教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 片山紀子 入門 生徒指導 - 「生徒指導提要」を踏まえた新しい生徒指導のありかた 学事出版
- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「キャリア教育のすすめ」
- 日本キャリア教育学会 キャリア教育概説 東洋館出版
- 見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 生徒・進路指導論の課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際
- 3回 生徒指導の基本 その1 生徒指導の三機能と、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導
- 4回 生徒指導の基本 その2 毅然たる指導、ゼロトランス他
- 5回 実際の生徒指導場面での紙上応答練習
- 6回 「我が子の非行と向き合う親たちの会」の方の講演
- 7回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(女子生徒の事例から)
- 8回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(男子生徒の事例から)
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高등학교の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介
- 14回 被虐待児に対する理解と援助の課題
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート20%、期末試験50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの5, 6章, 8章をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

# 生徒・進路指導論【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

## キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、激しい行動化を表出する生徒への指導、進路指導

# 教職実践演習 ( 中・高 ) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科  
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

### 授業のねらい

在学中に学んだ教職に関する知識と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

### 授業内容

教員としての使命感・責任感、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、教科の指導力に関する内容について、実際の教育場面を想定した課題を取り扱う。また、その際には、模擬授業などにおいて、中・高の現職教員の参加、協力も得ながら、授業を実施する。

### 授業形態

講義、グループ討論、プレゼンテーションなどを組み合わせて実施する。

## 教科書 /Textbooks

適宜、レジュメ、ワークシート、資料などを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業担当者が必要に応じて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーションと自己評価シートに基づく課題の整理
- 第2回 これからの教師に求められる資質とは
- 第3回 教師の使命感、責任感、教育的愛情とは(グループ討論)
- 第4回 教員に求められる対人関係能力について
- 第5回 生徒理解についての事例研究(グループ討論とプレゼンテーション)
- 第6回 教育実習等の体験を踏まえた学級経営案の作成
- 第7回 保護者との信頼関係づくりの課題
- 第8回 家庭・地域との連携・協力に向けての課題(グループ討論)
- 第9回 教科の授業のスキルアップその1(わかりやすい話し方、板書の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 第10回 教科の授業のスキルアップその2(生徒の意欲を引き出す発問や質問の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 第11回 教科の授業のスキルアップその3(わかりやすい資料提示、情報機器の活用の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 第12回 教科の授業のスキルアップその4(効果的な一斉指導、個別指導、グループ学習等の進め方(模擬授業及びグループ討論))
- 第13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に)
- 第14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育を中心に)
- 第15回 教員として必要な資質・能力の到達点と課題の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加状況 50%、期末レポート 50% で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力



# 教育心理学【夜】

担当者名 /Instructor 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。

本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。

講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

## 教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に随時情報を提供する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回オリエンテーション
- 2回教育心理学の理論と方法
- 3回子どもの「学力」(1)：関心・意欲
- 4回子どもの「学力」(2)：知識・理解
- 5回子どもの「学力」(3)：思考・判断
- 6回子どもの「学力」(4)：表現・技能
- 7回教育測定・評価(1)
- 8回教育測定・評価(2)
- 9回教師と授業づくり(1)
- 10回教師と授業づくり(2)
- 11回学習環境と教育方法(1)
- 12回学習環境と教育方法(2)
- 13回カリキュラムと学習材
- 14回発達障害
- 15回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%  
レポート...20%  
学期末試験...50%  
(ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回講義中に情報提供する参考書を読んでもらうと、理解がより深まると思われる。

(可能な限り、図書館利用可能な書籍を提示する)

自らの教授学習経験と重ね合わせながら、「自分だったらどうするだろうか」「どうしてほしいだろうか」という当事者意識を持って、積極的に受講してほしい。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育実習 3 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

## 教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「学習指導要領」「学習指導案集」等

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行う

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教育法規【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

### 概要

教育法規に関わる基礎的な知識を習得し、教育法規における諸課題について学ぶ。

### 目標

- ①教育法規に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育法規をめぐる課題について整理し、具体的な対応策を考えることができる。

## 教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に提示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規
- 2回 生徒の懲戒
- 3回 いじめ・不登校と教育指導
- 4回 組織としての学校における教員
- 5回 教員の指導力と研修
- 6回 教員の懲戒
- 7回 教育活動と著作権
- 8回 教育情報の取り扱い
- 9回 教育情報の発信
- 10回 子どもの健康と学校の安全
- 11回 中央教育行政と地方教育行政
- 12回 地方教育行政と学校
- 13回 保護者・地域と学校
- 14回 保護者・地域の教育参加・連携
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 50% 最終課題(試験) 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

## 教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords